

ハリマ

赤穂(森氏、二萬石)三日月(森氏、一萬五千石)三草丹羽氏、一萬石、山崎本多氏、一萬石、安志小笠原氏、一萬石、林田(建部氏、一萬石)小野(一柳氏、一萬石)の一〇藩あり、明治維新の際更に福本藩池田氏一萬石を置く、既にして皆廢して縣となし、更に合して姫路縣を置き、又改めて飾磨縣と稱し、明治九年廢して兵庫縣の管轄となし、以て今日に至れり。

【文籍】 播磨名所巡覽圖會(村上石田文化元)、播磨めぐり(抱玉軒、明和九)、播磨(平野庸修、四三)、麻生山(ハリマコフジ(播磨小富士)、麻生山)を

ハリマナダ(播磨灘) 播磨國の南なる海洋東に淡路島、西に小豆島の間に在り、水淺くして最も深き所も二〇尋内外に過ぎず、其南部は危險なれども、北部は家島群嶼及暗礁あり、此群嶼の周圍及間に深き水道あり、而して東部に鹿野の淺瀬、西部に室津の瀬あり、舟子の警戒する所なり。

ハリマラジ(播磨富士) 笠形山(カサガタ)を見よ。ハリミチ(針道) 【福島】岩代國安達郡の村山間の一小站にして、二本松町より伊達郡川俣町及磐城國原町に出づる道に當る、郵便局あり、六三三。

ハルウ

の長六淵半、幅三淵半、島の中央に近く、形を成せる二重の圓錐形、火山あり、高二九二二尺、北側に二箇の峰あり、東側に破綻あり、噴出物此より流下して海に達し、東角附近の低地を成す、島の北角に近き灣に砂濱あり、北西角には村落の跡あり、船を泊し得べく、淡水及深木あり、此島と温羅古丹島との間は春平古丹海峡にして、幅約六淵、島に今住民なし、水路誌に據る。

ハルウス(狼礁) 【北海】後志國小樽郡朝里村の大字、アイヌ名ハルウシ、食料の草ある所の義なり。

ハルエ(春江) 【福井】越前國坂井郡の村、合三三三。

ハルキ(春木) 【大阪】和泉國泉北郡南松尾村の大字、中世の地名なり、今、陸軍砲兵射場的あり。

ハルコ

村の大字、南北朝の頃千葉胤貞征西將軍、胤貞親王に從ひ西下し、小城に居りしが、其裔胤國晴氣の二流となり、晴氣は庶流にして此地に居れり、後、祇園山の嫡家と善からず、胤連の時遂に此所を逐れしが、胤國寺氏の援を得て此を復するを得たり、後、胤國寺氏の臣となる。

ハルコ(春木) 【愛知】尾張國愛知郡に在りし村、明治三十九年東郷村に入る。

ハルサト(春里) 【岐阜】美濃國可兒郡の村、合三三三。

ハルタ(晴田) 【佐賀】肥前國小城郡の村、合三三三。

ハルタ

ハルタ(春立) 【北海】日高國靜内郡靜内村の大字、布辻川を以て三石郡旗布村と界す、アイヌ名ハルタウシ、食料多き澤の義なり。

ハルチカ(春近) 【岐阜】美濃國山縣郡の村、合三三三。

ハルツル(原越) 【福岡】筑前國朝倉郡久喜宮村に在る古戰場、天正九年秋、月種眞の軍勢、筑後國生葉郡を侵略せしが、同國長岩城に問詰所鎮景ありて、大友氏を助くと雖も、容易に秋月を退くる能はず、因て更に大友氏より援兵を送りしかば、秋月氏乃ち此地に營を設け相戦ふ。

ハルトミ(春宮) 【愛知】尾張國海東郡に在りし村、明治三十九年春日寺村に入る。

ハルナ

此山は火口ありて、東方に開き、此方面に熔岩の流出するを見る、海拔四八〇八尺、湖面より高さ二八二八尺なり、烏帽子嶽は外輪山の北面を成し、柱状節理を呈せる富士岩より成り、湖南より望む時は烏帽子嶽を成すを以て此名あり、磐梯山は烏帽子嶽の西に在り、集塊岩より成り、形勢に似たり、現岩は磐梯山の西南に當り、柱状節理を呈せる富士岩より成り、形状を立てたるが如し、掃部ヶ岳は現岩の西南に在り、海拔四七一六尺、一に牙門嶽に作る、是より東南外輪山の南面は甚だしき高低なく、殆ど同高の堤防状を成し、氷室山は其一部の稱なり、摺鉢岩は外輪山の南東なる一石門にて、集塊岩より成る、相馬岳は榛名富士の東に時ち、英園輝石富士岩より成り、南西南と北東西とは爆發作用の爲に削去られ、險壁状を成し、攀ち難く、唯東側よりは鐵鎖により、四個火口内よりは徐々昇り得るに過ぎず、二ツカ岳は相馬岳の北に在りて完全なる圓錐形を成し、峰頭三に分る、男岳女岳孫岳といふ、但し之を伊香保方面より望むときは、男岳女岳のみを望むを以て此名あり、東南西の三面は高一千尺の峭壁を以て圍まれ、唯北方のみ平野に連る、此平野は北に赴くに從ひ稍高く、伊香保町の上に至り、屏風岩を成す、外輪山と二ツカ岳との間を地獄谷といふ、其底は直徑二三間の孔あり、噴氣孔の址ならんといふ、榛名湖の南に

ハルノ

鏡山あり、海拔三六二三尺、馬蹄形の火口あり、又伊香保町の東南淺間山は一の寄生火山にして、北西、南の三面は外輪山を以て繞る、榛名湖は伊香保沼ともいひ、南北に長き不規則なる圓錐形を成し、東西直徑一町(一説九町)、南北一七町(一説一町)、周圍一里、最も深き所十二尋ありといふ、餘水は北隅なる沼尾川の火口瀧より下る、三飛泉あり、辨天瀧最も壯觀なりとす、榛名神社は掃部ヶ岳の中腹に在り、郷社にして、彦由支命を祀る、もと、諸行大権現と稱し、往古は繁昌にして、三千百坊あり、管理者には座主快忠、快尊、探題中納言法印前大僧正頼印など稱するものあり、建保より貞治、應安の頃なりといふ、國中之比すべき社寺なかりしが、其後何時の事か、衆徒戰敗れ、鎌倉に遷れてより、眞言宗となり、慶長十九年一山衆評して、天海僧正に歸し、天台宗を奉じ、其別當を岩殿寺満行院と呼べり、維新後社寺分立す、登路は南麓室田村よりするを常とし、途に一ノ華表、二ノ華表あり、榛名山山村室田村に屬すを過ぎ、青銅華表、神門、御被褥三重塔、袖摺岩、神橋等を経て石階を登り、雙龍門を過ぎて社殿に達すべし。

ハルヒ

山川村の大字、佐賀、熊本間の街道に當る、肥後國界まで一里八町。

ハンカ

海岸に在り、鹿港の南方約一里、大空瀨口と西瀨瀨口との中間とす、港は西南に向ひ、鹿港より優れるを以て支那形船多く碇泊す、港は東西一〇町、東北五町、水深瀧一丈、千潮四尺、税關管署あり、合三三三。

中川郡上流山のアイヌ名。
パンケリヤウシ 【樺太】東里郡の舊稱。
ハンゴクサン(牛國山) 丹波國船井郡の南隅に在る山。播磨國に跨る。
パンサイ(板西) 【徳島】阿波國板野郡の町。明治四十一年町制を施す。其首邑を大龍にして、板東村の西に連る。其首邑を大寺といふ。郵便局あり。徳島を距る三里一二町。此より大坂山を越えて讃岐の引田に出づ。板西の名は中古郡名に在り。板野郡の西部を總稱せるものとす。大唐國寺は大字川端に在り。此地は蕃別百濟氏の舊居にて、此寺は其建立といふ。鹽産、祠宇志産祠あり。共に百濟氏なり。合三三三。
ハンサカ(半坂) 【奈良】大和國宇陀郡神戶村の大字。古の波津坂にて、元弘三年木本宗元護良親王の令旨を奉じ此に戦ふ。
ハンサキ(叶前) 【和歌山】紀伊國那賀郡小倉村の大字。古の地崎郷の遺稱なり。吐前王子祠及津田算長の居地あり。
ハンザワ(榛澤) 【埼玉】武蔵國大里郡の村。合三三三。
ハンザワケン(榛澤郡) 【埼玉】武蔵國に在りし郡。國の西北に在り。舊稱、舊男衾、舊那珂、兒玉諸郡の間に介在し、面積七方里六五二町十二村ありしが、明治二十九年廢して大里郡に合せらる。和名抄は波津佐波と註し、新居、榛澤、形藤、田餘戸の五郷を載す。後世舊稱郡の播羅、廣澤、霜見の諸郷をも合せたり。
ハンザン(番官) 【臺灣】臺南廳管下

赤山堡に在る鐵道驛。基隆より二〇三哩。三二鎮。蘇豆街への要路に當る。
パンシヨウカワ(番匠川) 豐後國南海部郡に在る川。水源、三國峠。大野南海部二郡に跨る。東流して中野村に至り久留須川を合せ、佐伯港に至り佐伯灣に入る。流域一五里。灌溉の利甚だ大なり。
パンシヨウサン(番城山) 磐城國刈田郡藏王火山の西南に在る山。高四八八尺。其基底は花園岩にして、西南より東北に走れる。一大裂罅に沿ふて噴出せる變朽富士岩より成る。
パンシヨウヨウガイ(番警署街) 【臺灣】阿緬廳管下。羅漢門里の一市街。下淡水溪の上流に在り。又羅漢門と稱す。風山地方より番地に至るの要路に當り、臺北より一七里。臺南より一里を隔つ。番警署支廳警署、郵便局等あり。此地は清の康熙十六年朱一貴が反旗を擧げし所として、其名高し。亂平の後、官火を放ちて悉く村落を燒き、人民を驅逐し、一時往來耕稼をも禁ぜしが、後漸く人民集まるを以て、訊兵三百を置きて之を守らしめ、雍正九年には臺海縣丞を此地に駐めたり。合六五七。
パンシロウヤマ(伴次郎山) 駿河國に在る雙鷹山の一峯。嶺嶽の異名。海拔四七九三尺。
パンシロウ(番神島) 越後國に在る岬刈羽郡下宿村に屬す。柏崎の西南に身出する。二二町。沖田川に寄泊せる船

往々此に風浪を避く。岬上に三十番神堂あり。僧日蓮佐渡の遠流救免あり。文永十一年此地に漂着し祀る所と稱し、近郷の尊信甚だ厚し。堂下は下宿の漁村なり。
ハンセイ(繁盛) 【兵庫】播磨國赤松郡の村。合三三三。
ハンセイ(萬世) 【山形】羽前國南置郡の村。合三三三。
ハンセイウラ(半城浦) 豊後島の西側に在る一狭澳。灣入二里。西南に渡良半島斗出して、郷之浦灣と相隔つ。灣内數澳あれど、北西の風浪を避くるに便ならず。
ハンセン(半輪) 【臺灣】彰化地方の舊稱。此地に居りし蕃人アツア社に宛てし譯字といふ。後、半輪堡とし、清の乾隆年中半輪東堡半輪西堡とし、今は之を線東堡線西堡と稱す。今の彰化街もも半輪街といへり。
ハンゾウカネ(半藏金) 【新潟】越後國古志郡の村。尾谷の西南隅に在り。鋸山の東麓なり。北魚沼郡と一嶺を隔つ。戊辰の役長岡城再び東軍の手に落つるや、栃尾方面の官兵は此山中に走りて之を保ちたり。合四九七。
ハンゾウモン(半藏門) 【東京】武蔵國、東京市麹町區を見よ。
ハンゾウ(半田) 【大阪】河内國南河内郡狹山村の大字。日本書紀に見えたる狹山、地田の地といふ。●【兵庫】播磨國揖保郡の村。大字半田は揖保川の西に臨み、臨瀧山と稱する丘あり。春夏の頃頗る美觀なり。

り。合三三七。●【愛知】尾張國知多郡の町。知多灣の西岸に在り。三河國大濱町と相對す。知多灣中最も繁昌なる地にして、郡役所、警察署、區裁判所、海務局、郵便局、農學校、高等女學校等あり。港は其口小なれども海底深く、横濱間には隔日に、其他近海には毎日汽船の往復あり。且つ武豊鐵道の車驛ありて交通自在なり。此地安政の頃より酒造業大に興り、亦其好の酢を産し、富豪甚だ多し。合六五三。●【福島】岩代國伊達郡の村。合四三三。●【半田銀山】をよ見よ。●【徳島】阿波國美馬郡の地名吉野川の南岸にして、貞光の西なる一山谷を占め、半田(合四三三)半田奥山の二村に分る。半田村の半田を其首邑とし、山分との實質を主とす。此に郵便局あり。産物に漆器あり。此業は元祿年間開始にして、三好郡山城谷産の生漆を用ひ、日川の食桶等を製す。嘉永四年初めて販路を江戸に開き、藩主殊に之を保護したり。明治十九年頃の調査に據れば此に従事するもの一八八月あり、三十四年の調査には一の製造所あり、資金七萬圓、職工三八七人を使用すといふ。
ハンタ(坂田) 【千葉】安房國安房郡四神村の大字。洲崎の東、館山灣に面す。
ハンタ(飯田) 【大分】豐後國玖珠郡の村。飯田は舊稱名なり。九重山の北の曠野にして、茅澤茂生し、千町、藤田の名あり。風土記に此地荒蕪の事を記す。近年移住民あり。開墾に従事す。又大字湯田に湯田

ハンタ(判田) 【大分】豐後國大分郡の村。合三三三。
ハンダイ(磐梯) 【福島】岩代國耶麻郡の村。磐梯山の西南麓にして、日橋川の岸なり。上ノ湯中ノ湯といふ。酸性温泉湧出す。鐵道岩越線の大寺驛あり。又郵便局あり。合三三三。
ハンダイサン(磐梯山) 岩代國猪苗代湖の北に聳ゆる火山。明治二十一年大爆發以來人の能く知る所なり。大磐梯、赤地、櫛ヶ峰、湯ヶ峰の諸峰より成れども、若松市より望めば富士に似たる一尖峰を成し、會津富士の稱あり。蓋し大磐梯、赤地は東西に並びて南に在り。櫛ヶ峰、小磐梯、破裂の爲め今は形を存せず。北方に坐し、火口壁を成し、其間懸崖を以て圍まれたる沼ノ平は舊火口なるべし。浸蝕作用及破裂の爲め外形を變じ、現状を呈せるなり。大磐梯山は最も高く、海拔六〇七二尺。諸峯の西南に在り。頂上は倒扇形を成し、山麓の傾斜は七度乃至五度なれども、頂上に至るに従ひ急にして三〇度以上あり。山の東北面は斷崖を成し、沼ノ平に臨み、熔岩及噴石五層の露出あり。櫛ヶ峰は大磐梯山の東北に峙ち、高五三三三尺。山背東南に延き、新野は東方長瀬川に及ぶ。其西側は懸崖を成し、爆裂口に臨む。湯ヶ峰は大磐梯山の北に在り。高五三三〇尺。餘脈西に延び丸森を起し、終に猫寛火山に連る。湯ヶ峰の北には上ノ湯

中ノ湯の二温泉あり。もとは中ノ湯の下に下ノ湯ありしが、今は噴出物の爲に掩はれ其址なし。是等の温泉は皆硫黄氣孔より噴出す。小磐梯山は大磐梯山の東北に在り。高相伯仲せしが、明治二十一年破裂の爲め山體全部飛散して其跡を止めず。沼ノ平は諸峰の間に在る凹所にして、險崖に圍まれ、東枇杷澤に向て開く。蓋し舊火口にして、往時は數多の池あり。硫黄を噴出し、其中央には小丘あり。硫黄を産せりといふ。今は全く破裂當時の噴出物を以て掩はる。沼ノ平の盡くる所に二ツ岩と呼ぶ絶壁あり。火口内の水流此に至り飛瀑を成す。其下に日陰と呼ぶ凹地あり。後期の噴火口址ならんといふ。磐梯山側の溪流は南、北兩方に流れ、北なるは山麓の諸湖に集まり、長瀬川によりて猪苗代湖に入り、南なるは直に同湖に注ぐ。磐梯山は一の層狀火山にして、爆裂火口の峭壁に於て熔岩層層の累層最もよく露はる。其傾斜より察するに沼ノ平を中心とし、四方に散じたる形跡ありて、沼ノ平は舊火口なるを證すべし。其熔岩は輝石富士岩にして、上部は淡灰色をなし、櫛ヶ峰附近によく露出し、下部をなすものは黝色にして、玄武岩の如き外觀をなす。二十一年七月十五日午前七時直雷の如き鳴動ありて、四十五分を経過する激動と共に小磐梯山破裂し、黒煙柱狀を成して昇騰し、山頂より二一二尺の高さに達し、熱灰砂石を降らし、

山體は破壊飛散し、其址に馬蹄狀の爆裂火口を残せり。其大東西約三九六〇尺、南北約四九五〇尺にして、櫛ヶ峰、湯ヶ峰の山脚に一六五〇尺の絶壁を作り、火口内には北二〇度西に走れる裂罅を生じ、今尙多少の蒸氣を噴出す。此破裂の爲め約七十餘平方、桿の地八十七の家屋埋没せられ、壓死するもの四百六十餘人、其害六里四方に及び、崩土は長瀬川二里餘を埋塞し、川流滞りて、檜原湖、小野川、湖秋元湖等を生ぜり。當時飛散したる火山灰は輝石富士岩の粉末にして、稀に玻璃を含有し、蒸氣を帯びたるを以て、山麓に在る萬物悉く灰色に變じ、尙岩片の爲に樹木は其枝葉を損じ、枯林の觀を呈せりといふ。此破裂は地下に層積せる水蒸氣の張力により、山體を破壊せしにて、絶えて熔岩の進流なく、其岩片灰砂も山體の破砕に過ぎず。但し山容は爲に大變化を來たせり。大日本地誌に據る。
【文籍】 磐梯山及沼尻山(東京地學協會會要)
ハンダイラヤマ(半平山) 【徳島】阿波國美馬郡の村。合三三三。
ハンタオクヤマ(半田奥山) 【徳島】阿波國美馬郡の村。合三三三。●【半田】をよ見よ。
ハンタカ(半高) 【愛知】三河國碧海郡に在りし村。明治三十九年依佐美村に入る。
ハンタキサン(半田銀山) 岩代國伊達郡半田村に在る銀山。福島市の北三里。桑折驛の西二九町なる半田山の東麓とす。

本山の發見は大同年間(在りし)に、長高治の間は盛に舉行せられ、相川生野と共に日本三銀山の稱あり。近年山崩あり、一時採掘を中止せることあり。明治四十一年、使用礦夫八八人、女工五人、採掘高五一、四七〇〇貫、製品金五四七四、四銀一七、七〇七八、夕夕價格合計五萬圓。(本邦礦業一斑)
ハンタゴウ(吐田郷) 【奈良】大和國南葛城郡葛上郡の村。古の大坂高宮の二郷にして、上古は尾張連の強族居住し、南北朝の頃は吐田といへり。金剛山の東麓にして、是より河内國に出づる水越峠あり。即ち古の大坂なり。緩靖天皇の高丘宮址は大字森脇に在り。一言主神社も亦同所に在り。縣社の一なり。俗に葛城明神と稱し、世俗小角山神を使役して岩橋を作らしめしに、早く成らざるを怒り之を呵せしに、此神容貌醜なるを以て、夜間にあらざれば出役し難しと對へれば、大に怒りて一言主神を咒縛せりと傳ふ。
ハンタコウサン(絶多嶺山) 大和國吉野郡十津川村に在る嶺山。安賀母尾を出す。
ハンタサカ(半川) 【樺太】幌内川の一支流。露國境に近し、川の附近に石炭の露出あり。又硫黄臭ある冷泉湧出す。
ハンタニ(伴谷) 【滋賀】近江國甲賀郡の村。合三三三。
ハンタノシヨウ(八田莊) 【大阪】和泉國泉北(舊大島)郡の村。古の藤田郷の地に在り。行基菩薩の誕生地とす。家原寺は行

基の故宅にして、僧叡尊(興正菩薩)中興の精舎なり。本尊は文殊菩薩、其白毫中に一寸八分の黄金像を納む。遼羅門僧正菩提那來朝の時齋らしたるものといふ。境内閑静にして、多寶塔、祖師堂、華嚴師堂、不動堂、清涼院等あり。白雲寺。

パンタンカイ(萬丹街) 【臺灣】阿緬廳管下、港西下里の一市街、東港溪に臨む。清國政府の時鳳山縣丞を置きし所なり。白雲寺。

パンチヨウ(番町) 【東京】武蔵國東京市麴町區の町名、宮城北丸の西に當る。徳川氏入國の翌年(文祿元年)開きて大番六組の諸士に賜はりし地なり。今二番町、三番町(上下)、三番町、土手三番町、四番町、五番町、六番町(上中下)に分る。されど其稱は組名より起りしものにて、町の順序によるにあらざれば、六番町を夾んで三番町二番町のある如く、相乖離錯雜し尋ね易からず。古來、番町に居て番町知らずの諺あり。明治二年招魂社(後靖國神社)を建つるに當り、四番町の大牛を以て之に充つ。東京市にも見ゆ。

バンドウ(坂東) 相模武藏安房上總下總常陸以上東海道上野下野以上東山道の八國の稱。蓋し坂東とは唯水峠足柄峠の東の謂にして、山東といへるに同じ。近古に至り關東と相混じて遂に關東を以て坂東に代へ、關八州の稱あるに至れり。關東とはもと受發、鈴鹿不破三關以外をいひ、北陸道七國、東海道十四國

(伊賀を除く)東山道七國近江を除くを指せるものにて、伊賀、近江以西五畿山陰山陽南海西海壹岐對馬三島を除くを稱して關西と稱せる事は、東鑑建仁三年の條に、關東二十八國關西三十八國の語あるを以て之を徵するに足る。乃ち鎌倉の盛時に在りて、關西は六波羅探題の分掌に屬し、關東は幕府の直轄たりしが、足利氏に至り關東に管領を置き、唯坂東八國と奥羽二國及執事上杉氏が鎮定せし伊豆、越後の二國合せて十二國を分轄せしめ、其他は悉く足利幕府の制度を受くることとなり、所謂關東の區域を縮小せると共に、坂東八州と混じ、終に關八州の稱を來たせるなりといふ。

バンドウ(坂東) 【徳島】阿波國板野郡の村、大麻山の南麓に當り、其首邑を坂東といふ。郵便局あり。坂東は中世郡名にして、今の板野郡の東部を呼べり。此地蓋し其首邑なり。大麻、比古神社は大字坂東に在り、福幣中社に列す。阿波の一宮にして、俗に大麻大明神といふ。祭神諸説あり。猿田彦命とも、天日鷲命とも、天日鷲命の子名津見命ともいふ。蓋し天日鷲命は穀麻を植ふ給へる功あれば、此神となす事正當なるべし。光勝寺は大字坂東に在り、南明山安國普陀寺ともいふ。夢窓國師の開基にして、細川氏の香華院なり。細川頼春の碑あり。六五二六。

バンドウジヤマ(飯道山) 近江國甲賀郡に在る山、甲賀谷と仙川の谷とを隔つ。ナニヤノ(般若野) 【富山】越中國東礪波郡の村、合口。

金勝山の南に並び、登路五十町と稱す。山中に飯道神社及飯道寺あり。飯道神社は和銅四年紀州熊野より勧請せるものにて、延喜式甲賀郡八社の一なり。祭神伊弉册尊、速玉男命、事解男命なり。飯道寺は飯道神社の別當なり。役小角の開基と號す。中世修驗道を學び、三寶院先達と稱し、毎年金峰山大峯に入る。岩木院、梅木院、古菴室、鳥居坊、水本坊の五院を建て、又之に屬する支院十七坊ありたり。織田信長松永久秀を攻めし時、此山の僧徒加勢して功あり。信長賞として二百石を給し、近年まで寺領たり。

バンドウタロウ(坂東太郎) 【利根川】を見よ。バンドウサン(坂東山) 甲斐國笹子嶺の一名。ハンニヤ(般若) 【富山】越中國東礪波郡の村、合口。ハンニヤサカ(般若坂) 【奈良】大和國に在る古戰場、奈良市の北、般若寺邊に在り。治承四年南都大衆此に據りて平軍を禦ぎし事、平家物語に在り。又延元三年桃井直常此に陣して北畠顯家を助ける事、太平記に見ゆ。ハンニヤタキ(般若滝) 下野國日光山中男體山の四谷に懸る滝。高四五丈、幅八九尺あり。方等瀧と相並び、中宮祠、登路劍峯より西北谷に見ゆ。ハンニヤノ(般若野) 【富山】越中國東礪波郡の村、合口。

ハンニヤノ(般若野) 大和國奈良市奈良坂の南に在る野、中世は利場にして、今も屠者類人の住所なり。般若寺あり。越中國東礪波郡、梅檀野を見よ。ハンノウ(飯能) 【埼玉】武蔵國入間郡の町、或は判乃に作る。名栗川入間川上流の岸に接り、山間の大邑なり。秩父郡大宮より東京へ來往する捷路に當り、警察分署郵便局あり。絹を名産とす。合口。ハンノウライハナ(番浦島) 讃岐國の極北角、觀音岬といふ。木田郡庵治村に屬し、小豆島の土庄崎、黒崎ともいふ。と相對す。其間は瀬戸内の常航路なり。岬端に大島、龍島、船本島、高島等散在し、海底險惡なり。ハンノキ(飯の木) 【岐阜】美濃國養老郡廣幡村の大字、古書に春木に作る。新羅美濃志は、櫻樹を土俗ハンノ木と呼べば、此邊もと櫻原なりしなるべしと説く。

パンバ(馬場) 【滋賀】近江國滋賀郡膳所町の字、大津市の南東にして、鐵道車庫あり。此より支線が琵琶湖岸に延長して大津の運送に便す。此地は享祿年中佐々木家の士が馬場を設け、騎射を行ひし所といふ。後遊廓を置けり。義仲寺あり。木曾義仲の墓及芭蕉塚あり。パンバ(番場) 【滋賀】近江國飯田郡南箕浦村の大字、磨針嶺の上に在り、中山道の一驛とす。鳥居本より一里、龍井まで一里、往古嶺上に關あり。當時番衛の人々の居りしより起れる名といふ。元弘三年

ヒ

ヒアイシマ(徳島島) 肥後國天草群島の一、柳瀬川の中央に在り。周圍一里、天草郡今津村に屬す。

ヒアリ(日在) 【千葉】上總國夷隅郡東海村の大字、有名の漁村なり。大原町、長者町の中間に當る。其前海は北に大東ヶ崎、南に八幡崎ありて之を擁し、日在灣と呼ばれ、地曳網を以て鰯を漁する事甚だ著名なり。但し中根といふ暗礁あり、漁夫舟子の恐るゝ所とす。西北丘上に城址あり。上總介廣常の一族之に居り、天正年中土岐氏の臣横山石見之を守りしといふ。城址の東端に二葉松三階松といふ名松あり。童謡の「二葉松は色よくて、三階松は上總山」といふは此なりといふ。

ヒイ(美瑛) 【北海】石狩國上川郡の村、旭川町の西南六里餘に在り。美瑛川上流の新聞地とす。東西四里一六町、南北四里二九町、面積一、七二八、一〇九、九坪、明

治三十二年神樂村より分立す。農牧場多あり。又第七師團演習所あり。美瑛停車場は旭川より約一五哩、合口。ヒイエカワ(美瑛川) 【北海】石狩國上川郡に在る川、水源、オプマテンケ山脈、東南に流れ西北に轉じ、更に北流して神居村に至り、忠別川に合して石狩川に入る。流域二二里、水色淡乳色を帯び、水質不真。沿岸は概ね肥沃の原野なり。支流にベマツ川あり。アイヌ語ヒイエは油の義なり。水源に硫黄山あり、水濁り脂の如し、故に名く。

ヒイカワ(樋井川) 【福岡】筑前國早良郡の村、合口。ヒイサキ(比井崎) 【和歌山】紀伊國日高郡の村、由良港の西南日御崎に至る諸浦の總稱にして、郵便局あり。又小湊數多あり。就中小湊は小なれども最も良港なり。産湯浦は應神天皇の湯浴をなし給ひし所と稱す。合口。ヒイツ(日出) 【京都】延喜式丹波國天田郡の驛名、今詳ならず。生野驛上六人部村ならんといふ説もあり。

ヒウ(比字) 【北海】日高國新羅郡の村、ワカ川厚別川の合流點なり。人口なし。ヒウ(日宇) 【長崎】肥前國東彼杵郡の村、佐世保市の東南に接し、石炭を出す。貸附大食附の二坑ありて、産額一年三〇〇噸、合口。ヒウ(龜生) 【新潟】越後國北魚沼郡の村

古志郡界に接し、信濃川畔、小千谷町の對岸とす。鐵道湧出、溫度八〇度、八二、八五。ヒワカ(美深) 【北海】天鹽國中川郡下名寄村の字、中川郡主要の市街にして、名寄市街を距る五里一九町、水路約七里、ヒワカ原野の中央に位し、天鹽川に近く、運輸の便あれば、附近農家の貨物集散地となれり。郵便局、驛邊所、戸長役場等あり。附近には中尾、近藤、兒島等の諸農場あり。産物は小麥、粟、蕎麥、小豆、大豆なり。需用品は白米、味噌を第一とし、織物、酒類之に次ぐ。全部落戸數七、四四三。

ヒワカ(日向) 【千葉】上總國山武郡武射郡の村、成東町の西に當り、武總鐵道の停車場あり。布田の薬師へ詣づる者此にて下車す。本所驛より四哩、四二、鏡子驛まで三〇哩、三五、鏡子驛。ヒワカ(日向湖) 若狹國に在る湖、三方湖の北に一頭地を以て相隔り、其水は外海に通ず。周圍一里五町。ヒワカミヤマ(日向神山) 筑後國に在る山、國內第一の奇勝にして、八女郡大津、矢部二村の間に在り。矢部川中間を貫流し、河南に黒岩、河北に不動、金剛湖、獅子口等の奇岩あり。又河中には男徳女徳馬蹄法螺貝、弓掛、破風鏡、天戸の諸岩あり。其東數町に鐵道正面あり、編組谷の南に屹立し、巨大なる岩數ありて、天を洞見す。正面岩は其傍に聳え、絶壁削るが如し。此山背を裏日向神といひ、大戸屋小戸屋、花立鳥嶋子等の奇岩あり。太古瓊

ヒウチ

南北二郡とし、二十九年宮崎、北那珂の二郡を合して宮崎郡と改め、同時に日向國南諸郡を廢し、之を大隅國嶺南郡に入る。又古國内八所に管廳を置きし事あり。之を八院といふ。即ち土持院、飯肥院、藤原院、新納院、藤原院、三股院、眞幸院、任院是なり。此事成務天皇の時に起れると傳ふれども確ならず。其地名より推測する時は蓋し中世の事なるべし。

【文籍】日州名所案内(日吉昇雲三)宮崎縣案内(若山甲藏)宮崎縣寫真帖(同縣廳)日向國土性圖及說明書(農商務省地質調査所)宮崎縣統計書。

ヒウチ、ガタケ(懸ヶ嶽) 岩代國に在る山。南會津郡に屬し、尾瀨沼の北、尾瀨嶺の西に峙つ。海拔三五六四尺。頂上まで一里餘。絶頂には四時雪あり。半腹以上は岩石重疊して草木を生ぜず。全山火山岩より成る。山麓檜枝岐村に懸岳神社あり。

ヒウチサキ(火打崎) 【奈良】大治元年白河法皇高野御幸に見ゆる地名。大和國大和川の南方廣瀨社に近しといふ。今評ならずとも南葛城郡の内なるべし。

ヒウチ、シヨウシ(懸城址) 【福井】越前國南條郡湯ノ尾村大字懸に在る城址。壽永二年四月源義仲の兵之に據り、日野川の水を堰きて平氏の兵を拒ぎしに、源氏方なる平泉寺の長吏齊明反心して源氏を逆襲しければ、源氏勢は退いて河上城に據る。

石川和賀郡より來り、僅に本郡を過ぎて亦北上川に注ぐ。北上川の沿岸は第四紀古層より成り、平坦にして肥沃なり。豐澤川の沿岸は温泉多く湧出す。道路は奥州街道北上川に沿つて通じ、花巻好地の二驛を過ぐ。鐵道東北本線之に沿つて走り、花巻石鳥谷二驛を置き、又釜石街道郡の東を過ぎ、大迫町之に當る。農産物は米(八萬石)麥(一萬五千石)大豆、蕎麥、馬鈴薯、蘿蔔(一四萬圓)、胡蘿蔔、牛蒡、粟、煙草、繭、五萬圓、牧畜、馬現在數千四百頭、林産物、九萬圓、礦産物は三ッ澤、鐵山の銅、瀧瀨山の硫黃、工業物は蠶絲(二三萬圓)、煉瓦、余等あり。本郡は弘安二年初めて藩廳郡として置く。是より先き、慶應元年紀に、香阿村に郡家を造る事あり。香阿は後の種貫郡香沼村(今其地を失す)なりといふ。和名抄は此郡を載せず。舊縣或は舊按、郡貫、神祇等に作る。元祿郷帳は種貫とす。今之に據る。

ヒエハラ(神原) 【鳥根】出雲國簸川郡の村。白元。

ヒエビ、シヨウシ(比叡尾城址) 【廣島】備後國雙三郡、八次村を見よ。

ヒオカ(永丘) 【兵庫】播磨國加古郡の村。加古川町の東北三〇町、加古川に沿ふ大野に在る丘に即ち永丘にして、丘上に禰尊神社あり。日岡神社は延喜式天伊佐々古神社なり。郷社にして、五瀨命を祭る。古來著名の大社にして、正一位日岡大明神と號す。社殿は明和九年の

ヒエハ

ヒウチ

ヒウチ、ナダ(懸瀨) 備後國の西南部にして、讃岐の箱崎と伊豫の大角鼻との間なる一大灣の稱。西北來島海峽を以て、安藝灘に通じ、北に三島の群島横はる。ヒウチモリ、ヤマ(火打森山) 土佐國高岡郡の西南隅に在る山。

ヒウチ、ヤマ(懸山) 越後國四頸城中頸城二郡に跨る焼山火山脈の一峯。高四八四四尺。地質學者は附近の赤倉山不動山等を總稱して火打火山彙と呼ぶ。谿水は西北流して能生川となる。山麓に樋口温泉あり。温度六〇度又大瀧あり。

ヒウチ、日浦 【廣島】安藝國安佐郡の村。可部町の西に當り、大田川の南岸に沿へる山村なり。郵便局あり。合三三三。ヒウチ、ユウサン(日嘉嶺山) 大和國吉野郡高見村に在る嶺山。銅を出す。ヒウチ、サキ(日浦山) 【北海】渡島國龜田郡戸井村の高角。高七一八尺。其北陸に日浦灣あり。東より來る帆船西強風に會する時は、皆之に泊して順風を待つ。因て此岬を掛待岬と呼ぶ。ヒウチ、ヤマ(日浦山) 美作國吉田郡に在る山。泉ヶ山の北に連る。ヒエ(日枝) 【滋賀】近江國愛知郡の村。合三三三。ヒエイ(美瑛) 【北海】石狩國、美瑛、を見よ。ヒエイ、カワ(美瑛川) 【北海】石狩國、美瑛川を見よ。ヒエイ、サン(比叡山) 京都市の東北に峙

再建に係るもとは大頭と稱する飲酒會。正月七日の忌など稱する祭事ありしが、今は廢せり。日岡、禰尊は日岡の上に在り。景行天皇、皇后の御陵なり。后宮田に於て崩御あり。遺骸印南川を渡らんとして大風の爲め舟覆没し、僅に匣と繒とを得て日岡に葬るもの是なり。合三三三。

ヒオキ(日置) 【京都】丹波國與郡の村。宮津灣の西岸にして、天橋立の西北に當り、郵便局あり。其北部の海岸を波見崎といふ。城址あり。日置氏の居といへども、始末詳ならず。金剛心院は成相寺に屬す。寺説に、後宇多天皇紀手姫の建立と稱す。其愛染堂、鎮守祠に門は古風の造作なりといふ。合三三三。【兵庫】丹波國多紀郡の村。村名は舊藤原の西なる日置郷に起因し、中世宗廟、藤原等と日置東郷と呼びしより、八上新村邊を今日置村と改む。淀川城址は大字北の北方に在り。元弘の頃、波々伯部爲光の居る所なり。子孫波多野氏に從ひ、明智氏の爲に滅ぼさる。波々伯部神社は宮ノ前に在り。天平五年播磨師東郡廣峰より、祇園社を京都八坂に移さる。時此地に休み、即ち其跡に社を建つ。依て里俗祇園社といふ。落東感神院舊記に據れば、波々伯部氏世々租税を司り、彼社の下司たりと。合三三三。【兵庫】但馬國城崎郡日高村の大字。和名抄氣多郡日置郷の遺稱とす。延喜式日置神社あり。土俗卷尾明神と呼ぶ。【愛知】尾張國愛知郡の舊庄名。今名古屋市の

つ名山。山城、近江二國に跨る。山中に日吉神社、延慶寺及之に屬する天台の諸寺院散在す。其山城に屬するものは四塔八瀨村、西坂本(修學院村)に在り。日吉神社は俗に山王と呼び、官幣大社にして、天智天皇七年の建營に係る。延慶寺は桓武天皇遷都の際、傳教大師(最澄)に勅して創建し、帝都の鎮護ならしめたるものにして、往時は盛大を極め、中古山門の僧徒事あれば、乃ち神輿を奉じて朝廷に逼る。織田氏其横暴を憎み、之を火き、一山の僧徒を盡せしが、豐臣氏之を再興す。觀山には凡そ三塔あり。東塔、四塔、横川といふ。別に無動寺は東塔の南谷を隔て、數町の外に在り。琵琶湖を下瞰し、眺望甚だ佳なり。東塔は止觀院と號し、無動寺の北に在り。西塔は寶幢院と號し、東塔の北に在り。横川は西塔の北に位す。山中名勝、古蹟甚だ多し。山の最高峰を四明峰といふ。高二七三三尺。晴天には遠く四國の諸山を望むべしといふ。山中は空氣清冷、殊に眺望に富めるを以て、夏季此に避暑する者頗る多し。

ヒエカラ(稱柄) 【茨城】常陸國稻敷郡河内郡關柴村の大字。牛久沼に臨む。ヒエカワ(比惠川) 筑前國に在る御笠川の一。合三三三。ヒエシマ(神島) 【大阪】播磨國西成郡の村。合三三三。ヒエシヨウ(比延庄) 【兵庫】播磨國多可郡の村。瀬野川の東岸に在り。丹波國水上

の西南部に在り。日置八幡宮あり。戰國の頃は織田丹波守此所に住せりといふ。【鳥取】因幡國氣高郡の村。合三三三。【鹿兒島】薩摩國日置郡の村。伊集院の西南なる海村なり。麻の産地にして、綯を製するもの多し。合三三三。

ヒオキ、クン(日置郡) 【鹿兒島】薩摩國七郡の一。四境、北は薩摩郡、東は鹿兒島郡、南は川邊郡、西は外洋に面す。東西一〇里、南北一里一二町。面積三三方里一六行政上、田布施阿多伊作、串木野東市、來、西市來、郡山日置、永吉、吉利、中伊集院、上伊集院、下伊集院の一三村に分ち、郡役所を中伊集院村に置く。戶數二四三、合三三三。地勢、本郡は國の西部を占め、東北南の三方は山岳相接し、河流皆西流して海に入る。山岳は北境に冠岳、御岳、中岳、東境に矢岳、花尾山等あり。河流は淡川、神野川、萬瀬川あり。海岸は一帯の砂濱にして、時に烈風砂を捲き、草木爲に其色を失ふ事あり。吹上濱と呼び、其名高し。嶺山亦多く、其多くは串木野村に在り。就中、野山、野金山を名高しとす。温泉は市來の湯田伊作の湯ノ浦に出づ。道路は國道鹿兒島より來るもの多し。市來を経て薩摩郡に入る。又伊集院より分れ、西海岸に沿つて南枕崎に通ずる縣道あり。農産物は米、一萬五千石、麥(五萬四千石)、大豆、粟、蕎麥、甘藷(三七三三萬貫、縣下第一)、薑(一〇萬貫)、蘿蔔、菜種、繭、四萬四千圓、茶、四萬圓、柿、菓、煙草、林産物

郡に赴く道路に當る。其驛を比延といふ。郵便局あり。加東郡社村を距る三里。丹波國界まで二里半。合三三三。ヒエタ(神田) 【福岡】豐前國京都郡の村。合三三三。ヒエタノ(藤田野) 【京都】丹波國南樂田郡の村。古の佐伯郡の一部にして、今、大字に佐伯あり。此村の首邑にして、郵便局あり。又延喜式、藤田野神社あり。此地に滿條あり。鐵道不定なれども、最厚郡は三尺内外あり。鐵道は淡を隔て、其西に連り。産額二年四萬八千貫。櫻天神社は大字。梅花に在り。合三三三。ヒエツ(日吉津) 【鳥取】伯耆國四伯郡の村。日野川口の東に沿ふ。神明宮あり。即ち伯耆國三野御厨の趾といふ。近世之を蚊屋島神社と稱す。合三三三。ヒエツクリ(神造) 【石川】能登國羽咋郡の村。合三三三。ヒエヌキ、クン(神貫郡) 【嚴手】陸中國十二郡の一。四境、北は岩手、紫波二郡、東は上閉伊郡、南より西は和賀郡に接す。東西一五里三二町、南北四里二四町。面積五二方里八六、行政上、花巻、花巻川口、大迫の三町及内川、目外川、龜ヶ森、新堀、八重、如矢、澤根、子太田、湯口、湯本、宮野、目八、幡好地の一三村に分ち、郡役所を花巻川口町に置く。戶數三三三、合三三三。地勢、本郡は哈と國の中央に在り。北上川郡の中部を貫流す。西なる水は豐澤川となり、東なる水は種貫川となり。北上川に接する。合三三三。

【五萬圓、礦産物、金、四萬圓、銀、二萬圓、瀧物、三萬圓、眞鍮、主とす。】工業産物は和紙、二萬圓、縣下第一、蠶絲、陶磁器、樟腦及樟腦油あり。日置は和名抄比於木と註し、合其納薩、富多の三郷を載す。明治二十九年阿多郡の地を合す。ヒオキ、タニ(日置谷) 【鳥取】因幡國氣高郡の村。合三三三。ヒガイ、タニ(日開谷) 【徳島】阿波國阿波郡に在る川。水源、讃岐國境の山中、南流して吉野川に入る。此川を以て川東、川西の界とす。沿岸の地を大俣村といふ。讃岐に出づる山路此に懸る。此邊石村を産す。ヒカゲ(日影) 【山梨】甲斐國東八代郡の村。八四七。ヒカゲ、チヨウトワリ(日陰町通) 【東京】武藏國、東京市芝區を見よ。ヒカサ(日笠) 【兵庫】播磨國日笠岡日笠浦などいふ。今其地詳ならず。明石川口の邊ならんといふ。萬葉集に、「印南野は行き過ぎぬらし天傳ふ、日笠の浦に波たて見る見ゆ。又推古天皇紀に、舍人姫王赤石に薨せるを以て、槍笠岡山に葬るとあり。ヒカサ(日笠) 【福井】若狹國遠敷郡三宅村の大字。小濱、敦賀間の一驛にして、近江路は此にて分れ、熊川に向ふ。安賀里驛まで一里半。【岡山】備前國和氣郡の

ヒオキ

ヒエカ

ヒエタ

【愛知】尾張國愛知郡の舊庄名。今名古屋市の

ヒオキ

ヒオキ

ヒカシシモクミ(東下組) 【新潟】越後國中魚沼郡に在りし村、明治三十四年下條村に入る。

ヒカシシヨウナイ(東庄内) 【大分】豊後國大分郡の村合三三。

ヒカシシラウラ(東白浦) 【樺太】豊原支廳榮濱出張管内の村落、東海岸オコツク海に面し、シラカ川の口なり。豊原名寄間の街道に當り、驛の設あり。豊原より二七里一六町。舊稱東白浦。又シラカカとは白子澤を界として、アイヌと露人との居住地分れしが、戦後露人悉く退去し、今は其跡に守備隊の分遣隊駐屯す。露人部落は西紀一八九七年の設置。周圍十數町歩の開墾地あり。

ヒカシシラカワ(東白河) 【岐阜】美濃國加茂郡の村合三〇。

ヒカシシラカワ(東白河郡) 【福島】磐城國十郡の一、國の南隅に在り。四境東は石城郡、北は石川郡、西は白河郡、南は下野郡、東は常陸國久慈郡、西は多賀郡に接す。東西八里一三町、南北七里二四町、面積四六方里〇五。行政上、棚倉町及高城豊里石非常豊原、鮫川、竹貫、宮本、本社川、高野、近津山岡の一、二村に分ち、郡役所を棚倉町に置く。面積九六、合三二、七九(舊四三)。地勢、本郡は鮫川の上流及常陸久慈川の上流の二豁谷より成り、群山起伏し平地なく、瘠薄の地なり。福島水戸間の街道久慈川の谷を通じ、棚倉町其衝に當る。農産物は米、五石、麥、二萬二千

石、大豆、馬鈴薯、蘿蔔、菊芋(五五萬貫、縣下第一)、柿、葉煙草、林産物四六萬圓、畜産は馬、販賣額六萬圓、工業は蠶絲(五萬圓)、酒、醬油等あり(舊四三)。本郡は地勢全く阿武隈川の谷なる白河郡の他の部と異なるを以て、和名抄の頃は高野郡の稱あり。蓋し其地は高野入野常世鹿田、依上の五郷より成りしが、何時の頃よりか復た白河郡に入る。獨り依上郷は中世常陸の佐竹氏に侵略せられてより、今も同國久慈郡に屬す。俗稱保内の地なり。明治十三年白河郡を東西に分ち、今尙之に據る。

ヒカシシトル(東知取) 【樺太】敷香支廳管内の村落、舊稱シトル。

ヒカシシワ(東志和) 【廣島】安藝國賀茂郡の村合五五。

ヒカシシンダチ(東信達) 【大阪】和泉國泉南郡の村合二五。

ヒカシシサ(東須佐) 【島根】出雲國飯石郡の村合三〇。

ヒカシセナイ(東瀬棚) 【北海】後志國瀬棚郡の村、利別川の下流、其支流真駒内川の流域及日川以西の地とを籠め、明治三十五年新立合三〇。

ヒカシセリ(東春振) 【佐賀】肥前國神埼郡の村合四三。

ヒカシセンドウ(東仙道) 【島根】石見國美濃郡の村合三三。

ヒカシソウヤ(東宗谷) 【樺太】敷香支廳元泊出張管内の村落、舊稱ソウヤ。

石、大豆、馬鈴薯、蘿蔔、菊芋(五五萬貫、縣下第一)、柿、葉煙草、林産物四六萬圓、畜産は馬、販賣額六萬圓、工業は蠶絲(五萬圓)、酒、醬油等あり(舊四三)。本郡は地勢全く阿武隈川の谷なる白河郡の他の部と異なるを以て、和名抄の頃は高野郡の稱あり。蓋し其地は高野入野常世鹿田、依上の五郷より成りしが、何時の頃よりか復た白河郡に入る。獨り依上郷は中世常陸の佐竹氏に侵略せられてより、今も同國久慈郡に屬す。俗稱保内の地なり。明治十三年白河郡を東西に分ち、今尙之に據る。

ヒカシシトル(東知取) 【樺太】敷香支廳管内の村落、舊稱シトル。

ヒカシシワ(東志和) 【廣島】安藝國賀茂郡の村合五五。

ヒカシシンダチ(東信達) 【大阪】和泉國泉南郡の村合二五。

ヒカシシサ(東須佐) 【島根】出雲國飯石郡の村合三〇。

ヒカシセナイ(東瀬棚) 【北海】後志國瀬棚郡の村、利別川の下流、其支流真駒内川の流域及日川以西の地とを籠め、明治三十五年新立合三〇。

ヒカシセリ(東春振) 【佐賀】肥前國神埼郡の村合四三。

ヒカシセンドウ(東仙道) 【島根】石見國美濃郡の村合三三。

ヒカシソウヤ(東宗谷) 【樺太】敷香支廳元泊出張管内の村落、舊稱ソウヤ。

郡の村九州鐵道唐津線の車庫あり、舊稱別府停車場合四七。

ヒカシタケ(東岳) 【日向】北諸縣郡の東方に在る山。

ヒカシタケサワ(東竹澤) 【新潟】越後國古志郡の村合三六。

ヒカシタケダ(東竹田) 【鳥取】伯耆國東伯郡の村、美作國に接せる僻村にして、其主邑を穴鴨といふ。郡便局あり。倉吉町を距る三里半、是より東向し人形山峠を経て美作國上齋原に出づ。合三六。

ヒカシタテカサ(東館火山) 【信濃】國下高井郡に在る火山。南は星川を隔て、志賀山と相對し、北は難魚川を以て岩菅山と限る。東は岩菅山麓に連り、西は傾斜漸く緩となりて、銀ノ峯との間に聖平をなす。一の消火山なれども、樹木繁茂して攀登するものなし。山の南脚に發熱温泉あり。山は灰色の輝輝石富士岩より成り、石英玻璃質にして、微品を浮散し、疵品として輝石、紫蘇輝石及斜長石あり。斜方輝石は單斜輝石に比して多量なり。橄欖石は甚だ稀なり。

ヒカシタニ(東谷) 【兵庫】攝津國川邊郡の村、能勢川、六ノ瀬川の會流する所なり。小童寺は大字西畦野に在り。淨土宗にして、忠孝山と號す。源賢僧都藤原仲光の十一子幸壽丸の爲に創建せるものなり。源賢初め美丈丸といふ。放逸なるを以て父

滿仲怒り、其臣仲光をして之を殺まし、仲光弟に美丈丸を假し、山に遁れし。幸壽丸を斬りて身代とす。後、美丈丸之を聞き感激し、學を修めて成業し、終に本寺を建つといふ。大字一庫に一庫鑛泉あり。土俗銀水といふ。温度を加へて入浴せしむ。合三五。

●【新潟】越後國古志郡の村合三六。●【富山】越中國中新川郡の村合三六。●【大分】豊前國下毛郡の村合三六。●【大分】豊前國下毛郡の村合三六。

ヒカシタニオク(東谷奥) 【石川】加賀國江沼郡の村合三三。

ヒカシタニクチ(東谷口) 【石川】加賀國江沼郡の村合三三。

ヒカシタマクン(東多摩郡) 【東京】武蔵國に在りし郡。明治二十九年廢して南豊島郡と合せ、豊多摩郡の新稱を立つ。東多摩は明治十三年多摩郡を四分せし時、中野高井戸附近より萩窪井草に至る地を籠めて置かれし名稱にして、面積約三方里、和名抄の新田郷に當るならんかとの説あり。

ヒカシタマノ(東玉野) 【福島】磐城國相馬郡玉野村の大字、福島中村間の街道に當り、山間の僻地なり。郵便局あり。

ヒカシタラ(東太良) 【鹿児島】薩摩國伊佐郡の村合三六。

ヒカシチクマクン(東筑摩郡) 【長野】信濃國十六郡の一、四境、東は小縣、諏訪の二郡、南は上伊那、西筑摩二郡、西は南北安曇郡、北は更級郡に接す。東西七里、南

ヒカシソトウミ(東外海) 【愛媛】伊豫國南宇和郡の村、舊稱東外海浦。明治十四年外海浦を東西に分ち、合三三。

ヒカシソオク(東嶺) 【鹿児島】大隅國に在りし郡、舊西嶺、肝屬及日向國、舊南諸縣、北諸縣の四郡間に介在し、恒吉、財部、末吉市成、岩川の五村ありしが、明治二十九年廢郡。日向國南諸縣郡を合せて嶺郡となる。嶺郡とも見よ。

ヒカシソノキクン(東彼杵郡) 【長崎】肥前國十四郡の一、四境、東は北高來郡、南は南高來郡、東北は藤津、杵島、西松浦の三郡、西北は北松浦郡に接し、西は大村灣を隔て、西彼杵郡と相對す。東西九里一二町、南北九里二四町、面積一五方里四〇。行政上、大村町及大鈴田、三浦、四大堂、瀬、竹松、福重、松原、千綿、彼杵、川棚、上波、佐見、下波、佐見、宮、廣田、折尾、瀬、早岐、江上、崎針尾、日守、佐世の二二村、佐世保は明治三十五年獨立して市となる。に分ち、郡役所を大村町に置く。面積一八、合八〇、合八〇。

地勢、本郡は大村灣北東岸の地にして、地勢偏長、藤津、杵島、西松浦の郡界は高山連立して自ら佐賀縣界を劃し、河流皆之より出で南下して大村灣に入る。其主なるものを早岐川、川棚川、彼杵川、千綿川及郡川とす。然れども皆短流にして、長きも六里に過ぎず。郡内支武岩及第三紀層より成れる土性最も多く、次に第四紀古層及新層なりとす。地味概して肥沃なれども、高燥にして畑地多し。日守、佐

世保附近は石炭を出し、又波佐見折尾瀬諸村は陶器(三河内燒)の産あり。其他大村灣の眞珠貝古來著名なり。道路は長崎街道北高來郡より來り、大村彼杵川棚早岐を経て佐世保に通じ、別に彼杵より分れて嶺野(佐賀縣)に出るものと、早岐より分れて有田町西松浦郡に出づるものとあり。鐵道は長崎より來るもの、大村松原彼杵川棚南風崎、早岐に停車場を置き、佐世保に達し、早岐より分岐して三河内に一驛を置き、佐賀に向ふ。農産物は米、八萬石、麥、四萬三千石、大豆、青芋、番薯、甘藷、一萬圓、蘿蔔、胡瓜、南瓜、西瓜、茄子、桑、種、蠶、干柿、蜜柑、柑、茶、等、林産物、九萬圓、漁獲物、五萬六千圓、製鹽九萬圓、工業物、煉瓦、灰、水、油、木、炭、和紙、麥粉、澱粉等あり。●【彼杵郡】をも見よ。

ヒカシソノヤマ(東鷺山) 【鹿児島】大隅國給良郡の村、鷺島山の南麓にして、安樂川の東岸なり。其首邑を大鷺といふ。濱之市驛より四里。郵便局あり。大字重久に止上神社あり、大隅總廟と稱す。大隅半人の祖神を祀れるならんといふ。又大字田ノ口に西鷺島神社あり。鷺島六社の一にして、俗に西御在所神と呼ぶ。往時は錫杖寺と呼ぶ。供僧坊ありたり。合三三。

ヒカシタカ(東多賀) 【宮城】陸前國名取郡の村合四六。

ヒカシタカツキ(東高月) 【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

北二里、面積五〇方里、行政上、里山邊、入山邊、本郷、岡田、島内、錦部、會田、五常、中川、本城、坂本、城、坂、坂、日向、生坂、東川手、中川手、上川手、島立、波多山形朝日、洗馬、和神、林、新、今、井、笹、賀、宗、賀、鹽尻、摩、地、片、丘、壽、中山、廣、丘、芳、川、松本の三七村、松本市は近年市となる。に分ち、郡役所を松本市に置く。面積三三、合三三。

●【宮城】陸前國名取郡の村合四六。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

●【岡山】備前國赤磐郡に在りし村、明治三十五年高陽村に入る。

ヒカシ

本郡は古の東間の温泉のある所にして、和名抄筑摩郡の地なり(西筑摩郡は舊美濃國惠那郡の一部なり)和名抄は豆加萬と註し、大井崇賀、真田山家、幸次、錦服の六郷を載す。後世更級郡、麻績郷の地を合せたり。筑摩は今訛りてチクマと呼ぶ蓋し千曲と混亂せるなり。

ヒガシチヨウ(東條) 【長野】信濃國埴科郡の村松代町の東なる山間なり。戦國の時頃東條氏あり、上杉氏に屬すといへり。此地にも和合院とて修験の道場あり、侍従坊といふ天狗を祭るといふ。八百六十六。

ヒガシツガルゲン(東津輕郡) 【青森】陸奥國九郡の一。四境、東は上北郡、南は南津輕郡、西は北津輕郡に接し、北は一帯海に面し、略中央に青森市を擁す。東西八里二八町、南北一六里五町、面積一八三万三九。行政上、大野、荒川、高田、油川、瀧内、新城、奥内、後湯、浅田、蟹田、平館、一本木、今別三、麻内、高井、遠道、原別、東嶽、野内、西平内、中平内、東平内の二三村に分ち、郡役所を青森市に置く。八百六十六。

ヒガシナカシマ(東中島) 【新潟】越後國南魚沼郡に在りし村。明治三十四年中之島村に入る。●【愛媛】伊豫國温泉郡の村八百六十九。

ヒガシナカシマ(東長島) 【薩摩】國出水郡の村八百七十七。

ヒガシナカサチ(東中筋) 【高知】土佐國幡多郡の村八百七十三。

ヒガシナカタ(東長田) 【鳥取】伯耆國四伯郡の村。法勝寺村の東南なる一山谷にして、日野郡の二郡谷に隣る。八百七十四。

ヒガシナスノ(東那須野) 【栃木】下野國那須郡の村。鐵道奥州線の停車場あり。東京上野驛より九五哩六四鎮。那須七湯の板室へ内里、黒羽町に至る。順路なり。里程二里八百六十九。

ヒガシナリゲン(東成郡) 【大阪】攝津國七郡の一。四境、東は河内國北河内、中河内、西は大阪市及西成郡の飛地に接し、一部大阪灣に臨み、南は大和川を以て和泉國泉北郡、北は淀川を以て西成郡に對す。東西二里三〇町、南北四里五町、面積四万二八。行政上、平野郷、安立の二町及天工寺、生野、鶴橋、中木、小路、南新開、北新開、榎本、鉢江、榎野、城北、古市、清水、北百濟、田邊、喜連、南百濟、長居、依羅、墨江、住吉、藤津の二二村に分ち、郡役所を大阪市南區に置く。八百六十八。

ヒガシナリゲン(東成郡) 【大阪】攝津國七郡の一。四境、東は河内國北河内、中河内、西は大阪市及西成郡の飛地に接し、一部大阪灣に臨み、南は大和川を以て和泉國泉北郡、北は淀川を以て西成郡に對す。東西二里三〇町、南北四里五町、面積四万二八。行政上、平野郷、安立の二町及天工寺、生野、鶴橋、中木、小路、南新開、北新開、榎本、鉢江、榎野、城北、古市、清水、北百濟、田邊、喜連、南百濟、長居、依羅、墨江、住吉、藤津の二二村に分ち、郡役所を大阪市南區に置く。八百六十八。

ヒガシナリゲン(東成郡) 【大阪】攝津國七郡の一。四境、東は河内國北河内、中河内、西は大阪市及西成郡の飛地に接し、一部大阪灣に臨み、南は大和川を以て和泉國泉北郡、北は淀川を以て西成郡に對す。東西二里三〇町、南北四里五町、面積四万二八。行政上、平野郷、安立の二町及天工寺、生野、鶴橋、中木、小路、南新開、北新開、榎本、鉢江、榎野、城北、古市、清水、北百濟、田邊、喜連、南百濟、長居、依羅、墨江、住吉、藤津の二二村に分ち、郡役所を大阪市南區に置く。八百六十八。

ヒカシ

ヒカシ

より來り、小湊、野内を経て青森市に達し、更に秋田街道となり、新城を経て南津輕郡に入る。又松前街道は青森より海濱に沿ひ、油川、蓬田、蟹田、今別を経て三厩に達し、是より海上十里半にして北海道福山町に渡るべし。鐵道は東北本線東より來り、狩場澤、小湊、凌、虫野、内浦町、青森の六驛を置き、更に陸羽西線を青森より起し、新城を経て南津輕郡に入る。農産物は米(一〇萬石)、大豆、蕎麥、馬鈴薯、蘿蔔、繭、林産物一〇萬圓、内、薪炭九萬圓、漁獲物六萬圓、主に真鱈、青鱈、工産物は薬製、品又清酒等なり。津輕郡をも見よ。

ヒガシツゲ(東栢植) 【三重】伊賀國阿山郡の村八百三十九。

ヒガシツツダ(東土田) 【石川】能登國羽咋郡の村八百三十二。

ヒガシツノ(東津野) 【高知】土佐國高岡郡の村八百九十九。

ヒガシテラサキ(東寺崎) 【土佐】室戸岬の村八百七十七。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒカシ

ヒカシ

ヒガシトリ(東鳥取) 【大阪】和泉國泉南(舊日根)郡の村古の菟紙の地にして、上古菟紙、川上宮、垂仁皇子印色入日子命の居あり。命の墓は大字自然田の東に在り。玉田山と稱す。八幡宮は大字石田に在り。即ち延喜式内の波多神社にして、鳥取連の祖角命を祀る。其供僧坊を神光寺と稱せり。八百六十五。雄山をも見よ。

ヒガシトナミゲン(東瀨波郡) 【富山】越中國八郡の一。四境、西は西瀨波郡、北は射水郡、東は婦負郡、南は飛騨國大野郡に接す。東西五里、南北一五里一〇町。行政上、井波、城端、福野、出町、中田の五町及北山田、山田、南山田、大鋸屋、北野、箕谷、平上、利賀、青島、東山見、雄神、梅檀山、梅檀野、般若、東般若、般若野、南般若、北般若、柳瀬、太田、中野、油田、庄下、南山見、井口、高瀬、山野、種田、南野、尻廣、塚野、尻廣、野尻、五虎屋の三四村に分ち、郡役所を井波町に置く。八百六十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒカシ

ヒカシ

町に停車場を置き、高岡市に達す。而して五箇山中に入るには上山口、下山口の二路あり、山中より飛騨に出づるには赤尾口、大助場口あり。皆險惡にして、車馬を通ぜざる所多し。農産物は米二六萬石、大豆、小豆、甘藷、蘿蔔、柿、葡萄、一八萬圓、林産物五萬圓、工産物は蠶絲一八萬圓、織物一〇三萬圓、内、第一石灰和紙賣藥、英産、蘆葦、酒、醬油等。但し有名なるは井波の絹布、落雁城端の漆器、陶器、福野の木桶、五箇山中の礪石、灰、瑪瑙とす。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒガシトウキ(東陶器) 【大阪】和泉國泉北郡の村八百七十五。

ヒカシ

ヒカシ

路に當るを以て、東京路(甲州街道といふ、
笹子峠を過ぐ、駿河東街道(石和黒駒二
驛を経て御坂嶺に懸る)郡を横断す、鐵道
は中央東線、東海道に沿ふて走り、石和に
車驛を置く、農産物は米二萬四千石、麥
(三萬石)大豆、蕎麥、玉蜀黍、甘藷、青芋、蘿
蔔、茄子、菜、葡萄、四萬圓、國內第一、繭六
八萬圓、林産物三萬圓、工産物は蠶絲七
〇萬圓、酒等あり、八代郡とも見よ。

ヒカシヤマ(東山) 【樺太】豊原支廳大谷
出張所管内の村落舊稱イリエンスコエ
●【新潟】越後國古志郡の村、合三三三
●【新潟】越後國西頸城郡に在りし村、明治
三十四年上早川村に入る。●【新潟】越
後國東蒲原郡東川村の大字、字中山とい
ふ地に以仁王の遺跡なりとて、車形の墓
石、月見御所、御所清水、嶺寒寺の高倉院
位牌等あり。●【奈良】大和國添上郡の
村、合三三三。●【愛知】尾張國愛知郡の村
明治廿九年田代、鍋屋上野二村を合せし
新稱、合三三三。●【静岡】遠江國小笠郡の
村、合三三三。●【福島】岩代國北會津郡の
村、合三三三。湯本とも見よ。●【福岡】筑
後國山門郡の村、明治四十年水上清水二
村を合せし新稱、合三三三。●【徳島】阿波
國麻植郡の村、川島町の南方山間に在り。
銅鑛を出す。合三三三。東山鑛山を見よ。
●【高知】土佐國幡多郡の村、合三三三。

ヒカシヤマ(東山) 山城國京都市の東方
諸山の總稱、北方如意岳に起り、南下して
稻荷山、峰に至る。概して三三三三と稱

ヒカシ

す、山勢温帯優美にして、四季の風光明媚
を極め、加茂川と相待て京都の風致を作
す。●越後國古志郡長岡町の東なる丘
陵、本郡重要な石油帯あり。東山石油
坑を見よ。

ヒカシヤマ(東山) 【静岡】遠江國
小笠郡の村、合三三三
ヒカシヤマ(東山) 【徳島】阿波國
麻植郡東山村に在る鑛山、徳島鐵道川島
停車場を距る南一里一五町なり。此山は
元禄二年の發見にして、當時領主蜂須賀
家の經營に係り、太郎鑛山と稱せられ、阿
波鐵道中の首位を占めしが、享保十八年
廢止せり。明治に至り尙興廢常ならずり
し、四十年以來引續き採掘す、四十一年
鑛區三四、八八三三坪、使用鑛夫二六二六
人、女工六一人、採掘高二四一、八五六四
貫、鑛石販賣高銅鑛八〇、三〇四八貫、價
一萬八千圓。

ヒカシヤマ(東山) 【佐賀】肥前國
西松浦郡の村、合三三三
ヒカシヤマ(東山) 【徳島】阿波國
古志郡山本町北谷、上北谷の四村に
互る石油坑、俗に長岡油田と稱す。浦瀬
比禮、加坪、桂澤の四區に分れ、長岡市の
東二里半に在り。寶田石油會社の經營に
係る。明治四十二年、鑛區二一、七八三

ヒカシ

七坪、使用鑛夫一五二二人、原油産出二
〇、六三〇〇石、製油産出高、燈油七、八五
二一石、重油四、七〇六石、價格合計一
〇二萬六千圓、本邦鑛業一産。

ヒカシヤマ(東山) 【山梨】
甲斐國九郡の一、四境、東は北都留郡、北
は武藏國秩父郡信濃國南佐久郡、西は四
山梨郡、南は東八代郡に接す、東西四里三
四町、南北七里二〇町、面積一、一方里九
七。行政上、勝沼町及三宮、松里、休息、小
佐手、山、鶴塚、等々力平等上萬力八幡
岩手、神倉、大藤、玉宮、鶴瀬、初鹿野、岡部、
春日居、中牧、西保、諏訪、七里、奥野、田
山、日下部、加納、若屋、敷、日川の二八村
に分ち、郡役所を日下部村に置く。●三
三、合七三三三。地勢、本郡は笛吹川上流
の山谷より成り、郡の北境に國師岳、甲武
信岳の大岳あり、其餘勢左右に延びて郡
の東西を劃し、山岳相連して平地少し。
但し郡の中央以南は笛吹川と日川、重川
等合流の地にして、稍平夷、葡萄の名産地
とす。道路は甲州街道郡の南邊を通過
し、勝沼等々力の諸驛を経て東八代郡の
石和驛に通ず。別に青梅街道笛吹川に沿
ふて湖り、大菩薩峠を経て北都留郡に入
り、小原上小田原の二驛あり。又秩父の
間道あり、小原にて青梅街道に分れ、雁坂峠
を経て、極めて險なり、鐵道は中央東線北都
留郡より來り、初鹿野、鶴山、日下部三驛
を置き、東八代郡に入る。農産物は米三
萬二千石、麥、四萬七千石、大豆、玉蜀黍、

一に千原善蔵と稱し、淺間と相通し、淺間
は即ち火山の謂にして、日金は又火ヶ峯
なれば、火山を記れるなりといふ説あり、
山徑の傍に、東光寺あり、今大に廢頓す。
ヒカシヤマ(東山) 【徳島】阿波國
山和郡の村、合三三三。仁徳天皇の
御歌に見ゆる坂名、今大和國南葛城郡葛
城村朝妻の上方山路に比介小坂あり、是
なり。

ヒカシ

甘藷、青芋、馬鈴薯、蘿蔔、葱、茄子、菜、大
蘿蔔(三萬圓)、繭(一九萬圓、國內第一)、
林産物六萬六千圓、工産物は蠶絲(一四五
萬圓、國內第一)、酒等あり。東山梨は明
治十年山梨郡の東部を劃して置かれし
ものにて、和名抄の於曾玉井山梨加美
大野の諸郷に當る。近世は北山、萬力二
筋を龍めたり。

ヒカシヤマ(東山) 【富山】越中國東
礪波郡の村、合三三三
ヒカシヤマ(東山) 【福島】岩代國伊達
郡の村、明治三十四年湯野村の大字獨立
して村となる。合三三三
ヒカシヤマ(東山) 【佐賀】肥後國佐賀
郡の村、合三三三

ヒカシヤマ(東山) 【大阪】和泉國
泉北郡に在りし村、明治三十六年西横山
村と合せし新稱、合三三三
ヒカシヤマ(東山) 【福岡】豊前國
築上郡の村、合三三三
ヒカシヤマ(東山) 【徳島】阿波國
古志郡の村、合三三三
ヒカシヤマ(東山) 【徳島】阿波國
古志郡の村、合三三三
ヒカシヤマ(東山) 【徳島】阿波國
古志郡の村、合三三三

ヒカシ

ヒカシレブン(東山) 【樺太】數香支廳
管内の村落舊稱イリエンスコエ
●【新潟】越後國古志郡の村、合三三三
●【新潟】越後國西頸城郡に在りし村、明治
三十四年上早川村に入る。●【新潟】越
後國東蒲原郡東川村の大字、字中山とい
ふ地に以仁王の遺跡なりとて、車形の墓
石、月見御所、御所清水、嶺寒寺の高倉院
位牌等あり。●【奈良】大和國添上郡の
村、合三三三。●【愛知】尾張國愛知郡の村
明治廿九年田代、鍋屋上野二村を合せし
新稱、合三三三。●【静岡】遠江國小笠郡の
村、合三三三。●【福島】岩代國北會津郡の
村、合三三三。湯本とも見よ。●【福岡】筑
後國山門郡の村、明治四十年水上清水二
村を合せし新稱、合三三三。●【徳島】阿波
國麻植郡の村、川島町の南方山間に在り。
銅鑛を出す。合三三三。東山鑛山を見よ。
●【高知】土佐國幡多郡の村、合三三三。

ヒカシ

年、中倍溜を排水開墾せし所なり。
ヒカシ(二日ヶ谷) 【京都】丹波國東郡
の村、合三三三
ヒカシ(八幡ノゴク) 【千葉】
下總國香取海上郡三郡に跨る耕地の
總稱、古は椿沼と名くる一大湖なりしが、
寛文中新堰(今の新川)を穿ち、外洋に
疏通し、耕田八千町歩を得たるもの、是な
り。今甘藷及落花生を産す。椿沼とも
見よ。

ヒカシ

ヒカシ(水鏡) 【長野】信濃國東郡の舊
郷名、今、登井、稻里二村に分属す。後世ヒ
カシと訛り、日箇野に作る事あり。稻里村
に氷鉋斗實神社あり、式内の古社にして、
穂高の神の妃を祭るといふ。
ヒカシ(日金山) 【伊豆】國田方郡に在
る山、熱海の北嶺にして、海拔二六三〇
尺、山頂より相模、武藏、上總、下總、安房、駿
河、遠江、信濃、甲斐、伊豆の十州を望見す
るを以て十國峠の稱あり。熱海より箱根
に至る山徑を通ず、鎌倉時代に箱根伊豆
山二所権現の參詣盛なりし頃、往來の
多かりし所と傳ふ。山上にはもと伊豆山
神社の火車須比の舊祠あり。火車須比は

ヒカシ

部の諸山と相接し、南部に岩屋山あり、河
流は二條、一は多紀郡の篠山川相原の南
に至り久下川といふ。佐治川と相合し、播
磨に入る。即ち加古川の主流なり。一は多
紀郡界より發し、黒井上田の東を流れ、北
流して天田郡に入る。即ち天田川の上流
なり。道路は播磨別路柏原町を起點とし、
和田を経て播磨の多可郡に入り、又柏原
より西北に向へば石見、佐治を経て但馬
に入り、山陰道の八名瀬驛に通ず。又鐵道
は阪鶴線播磨津國神崎より起るもの、伊丹、
三田、篠山等を経て本郡に入り、下瀬谷
川、柏原石生、黒井市、島竹田の七停車場
を置き、京都府下に入り、福知山に達す。
本郡は蠶業の盛なる地なり。農産物は米
(一〇萬七千石)、麥(四萬三千石)、大豆、蠶
豆、蘿蔔、甘藷、馬鈴薯、三椏、梅實、柿實、繭
(三四萬圓)、林産物一五萬圓、工産物は酒、
醬油、蠶絲及眞綿四九萬圓、織物五等あり。
本郡和名抄は前山、竹田、美和、春部、
船城、佐沼、伊中、賀茂、水上、石生、餘戸の一
郷に分ち、高山寺、本和名抄は栗作、栗田、
石見、船城、春部、美和、竹田、前山以上東
縣、佐治、伊中、賀茂、水上、石前、葛野、沼貫、
井原以上西縣の一六郷とす。
ヒカシ(光浦) 【石川】能登國鳳至郡
大屋村の大字、輪島岬の西なる海濱にて、
珊瑚石を出す。光浦の名蓋し是より出づ。
ヒカシ(光郷) 【愛知】尾張國中島郡
の村、明治三十四年光堂、四郷二村を合
せし新稱、三十九年更に明治村に入る。

ヒカリ

ヒカリドウ(光堂) 【愛知】尾張國中島郡に在りし村。明治三十四年四郷村と合して光郷村となる。往古莊嚴なる佛堂ありて光堂の稱ありしが、後廢頓して光堂橋とて宮田井筋に橋の名ありしが、村名となれるなり。

ヒカワ(氷川) 【東京】武蔵國四多摩郡の村。日原川の丹波川に合する所に在り。大字氷川は青梅地方より秩父甲斐に至る山路の分岐する所なれば一小驛を成し、郵便局あり。青梅より五里甲斐境の大菩薩嶺へ一〇里、仙元嶺を踰えて秩父の大宮へ八里を距つ。人口三三三。

ヒカワ(氷川) 【山梨】甲斐國東山梨郡の村。日川の北岸にして、其首邑を一町田中といふ。中學校郵便局あり。人口三三三。

ヒカワ(氷川) 【肥後】肥後國八代郡に在る川。源、栗木村。西流して種山村を過ぎ種山川の稱あり。河俣川・小浦川等を合せ、西流して宮原町と河原野津村との間を貫き、西北流して八代海に入る。流程九里一八町。宮原町より下流は沖積地より成り、河口には尙年々土砂を堆積しつゝあり。此川流域短けれども、灌溉の利甚だ大なりとす。一説、往古此附近に火村あり、即ち火國名の根源にして、此川も村名の轉せるならんといふ。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(日枝) 【長野】信濃國北安曇郡廣津村の大字。川川の西なる山麓に居り、東筑摩郡生坂村と相對す。其東北は更級郡に隣り、往古は更級郡内ならんといふ。延喜式更級郡、日置神社あり。此地は戦國の頃日岐領六箇郷といひ、仁科明神の二男盛慶の居りし所なり。其城址は丸山に在り。

ヒキ(日置) 【石川】能登國珠洲郡に在りし村。明治四十年西海村に入る。●【和歌山】紀伊國四半郡の村。日置川口にして、南に安宅崎岬出す。大字日置浦に郵便局あり。大字安宅は中世安宅といへる豪族の住せし處なり。人口三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキコ

見南吉見 西吉見 北吉見の二六村に分ち、郡役所を松山町に置く。●【和歌山】紀伊國四半郡の村。日置川口にして、南に安宅崎岬出す。大字日置浦に郵便局あり。大字安宅は中世安宅といへる豪族の住せし處なり。人口三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキタ

其北には瀬戸の辨天島あり。●【鳥取】因幡國八頭郡の村。奥田川の千代川に合流する所に在り。延喜式賀沼神社あり、俗に西日天王と呼ぶ。八上嶽を祀る。人口三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキ(比木) 【静岡】遠江國小笠郡の村。合三三三。

ヒキヤ

ヒキワ

ヒキマ

ヒキレ

島津島の諸山と地稱せらる。九州の名山なり。山勢四方に分れて、豊後、筑前に互り、國中諸郡の山脈此より起らざるはなし。三峰あり、中央を高千穂峰といふ。山中に官幣神社、彦山神社あり、天忍穂耳尊、伊弉諾尊、伊弉册尊を合祀す。又西南の一峯に、大南神社、玉屋神社、東北の一峰に高住神社あり。山中十谷四十九窟散在し、老杉林立、雲霧常に深し。彦山は古日子山に作る。天忍穂耳尊降臨ありしより出づといふ。享保九年、元法皇祈願あり、英の一字を加へ、英彦山と書せる額を賜ひ、エイヒコと唱ふべしとの勅諭ありしといふ。此山中世以來修験者の行場となり、其供僧坊を靈山寺といひ、盛に堂塔を興し、山伏を栖ましめ、其盛時に在つては三千八百坊、食地一萬石ありしといふ。戦國の際は大衆兵仗を蓄へ、一方に雄視し、宛然一諸侯の如し。天正四年、大友氏の將清田鎮忠の攻むる所となり、僧坊残らず焼失し、山伏の戦死するもの多し。同十四年、豊臣秀吉九州征伐の時、山僧隨に憑て之を拒みしが、終に力屈して降り、悉く寺領を失ふ。細川忠興、前を領するに及び、之を復興し、小笠原氏に至り三百石を附し、修験道天台宗本山派の別本山とし、鎮西山伏を管せしめたり。維新の際、政所、義俊の二坊を首謀とし、外十三坊合して勤王を唱へしが、終に果さず。維新後、座主復飾して高千穂氏を稱し、男爵を賜はる。

【文籍】彦山の裏道、手島、深泊、山岳、巻三、第一號。
【ヒコサンカワ】(彦山川) 豊前國田川郡に在る川。水源、彦山。郡中の水を集め、北流して筑前國鞍手郡に入る。即ち遠賀川の一支源なり。赤池川ともいふ。
【ヒコシ(日越)】(新海) 越後國三島郡の村。合五五。
【ヒコシマ(彦島)】(山口) 長門國豐浦郡の村。合六六。次條をも見よ。
【ヒコシマ(彦島)】 長門海峽の西口に横はる島。一に引島といふ。水路を大瀬戸、小瀬戸の二に分つ。東西一里。一町。南北一里。八町。周圍六里。一六町。合二五。合四六。合四六。長門國豐浦郡に屬し、六連島を合せて彦島村を成す。此島と下瀬の西端との間を小瀬戸とす。俗に音波道門ともいふ。西岸は怪岩壁立す。俗に千石岩と稱す。島の西南に福浦といふ小港あり。福浦の東南を田ノ首といひ、豊前の大里、柳カ浦に對す。其間を即ち大瀬戸にして、其海峽中に與次兵衛岩あり。近年島の老ノ山、日筋山及田ノ首崎等に砲臺を築き、長門海峽の警備をなす。田ノ首は俗に錠イラズノ濱といひ、好鋪地なりと西遊雜記に記す。與次兵衛岩は豐太閤征韓の時、舟人過て舟を此瀬に乗りあげ、既に覆らんとしたれば、船頭與次兵衛其過失によつて大里に於て首を削らる。浦人之を憐み碑を立てしより起れる名といふ。眼前不復見。紅翠唯見清波作四隣。花笑豈堪看。

者、驚啼今喜有聽人、數行樹望中、曉一片江山畫裡春、醉去尤宜曲肱臥、白沙柔軟好於茵、遊引喚、廣瀨旭莊、立浪の引島に住む海人だにも、又たひらかに有ける物を、(散木集)。
【文籍】硯海の樂土(真田新藏、四四三)。
【ヒコセ(龜起)】(群馬) 上野國佐波郡那波郡上陽村の大字。
【ヒコタケ(彦岳)】 豊後國南海部北海部二郡の境に在る山。高二四七尺。●肥後國鹿本郡の北部に在る山。靈岳と連る。又三岳と呼ぶ。古風土記の荒瓜山なりといふ。山上に彦岳権現社あり。上下二宮に祭る。俗説に此山蒲生山の不動岩と兄弟にして、或時首引するに其踏寄たる土堆く山となる。靈岳是なりと。
【ヒコナ(彦名)】(鳥取) 伯耆國西伯郡の村。弓ヶ濱の中央、米子町の西北一里に在り。もと粟島と稱せる海中の孤島にして、出雲國志都郡に屬し、寶曆の頃までは猶島なりしといふ。風土記に、此を以て少彦名命の故蹟となすにより村名となす。合三九三。
【ヒコナリ(彦成)】(埼玉) 武藏國北葛飾郡の村。二合半領の舊郷名なり。古利根川に隣り、埼玉郡八條村に對す。大字に彦を冠する名多し。合四九六。
【ヒコネ(彦根)】(滋賀) 近江國犬上郡の町。琵琶湖東なる一都會にして、井伊侯三十五萬石の城下たり。西に大湖北に琵琶湖あり。湖濱其東北に在りて、國道其隘所

を過ぐ、要害無双の地なれば、徳川氏依て東山北陸を扼せしめたり。廢藩後、精兵へたり。合三、四、六、郡役所、警察署、高等女學校、中學校、區裁判所、病院、郵便局等あり。鐵道は東海道鐵道の東を通過し、停車場を置く。近江鐵道此にて分れ、愛知川、八日市、日野等を経て、貴生川に至り、關西線に連絡す。又大津市を距る湖上一五里、日汽船の往復あり、交通至便なり。彦根の稱は天津彦根命、天上縣主の祖を記れる山名より出づといふ。此山後世觀音堂あり、金龜山と號し、天皇行幸の事あり。井伊氏築き、山下に移すといふ。彦根城址は井伊直勝の築く所に於て、慶長八年起工、二十年にして成る。徳川幕府伊賀、伊勢、尾張、美濃、飛騨、若狹、越前の七國に課し、其役を助けしめしといふ。其三層の天守閣は京極高次の大津城より、西城の三層櫓は淺井長政の小谷城より、天守櫓門は羽柴秀吉の長濱城より移せしものといふ。城郭周圍一里餘、維新後廢城となりしも、尙豈たれず。今に一壯觀なり。慶長五年、井伊直政初めて此地に封ぜらるるや、石田三成の佐和山城に居り、十八萬石を領せり。佐和山は規模狭少、水利惡しきを以て、八年、幕府其子直勝に命じて、今の地に改築せしむ。直勝病あり、其弟直孝事を攝して、頻りに功あり。幕府因て直孝をして家を嗣がしめ、累増して三十四萬石に至る。享保年中、豊田一萬石を加へ、三十五萬石となる。文久二年、直勝の時、其父

直躬の事を以て十萬石を削らる。清涼寺は佐和山に在り、井伊侯の香火院なり。龍潭寺も同所に在り。佐和山をも見よ。
【ヒコノクニ(肥後國)】(熊本) 九州島の中央に在る國。四境、東は豊後、日向の二國、南は日向薩摩の二國、北は豊後、筑後の二國に接し、西は海に臨み、東西三六里一六町、南北三二里一三町、面積四三三三平方里。六四。東經二二九度五九分一三三度一八分。北緯三二度七分一三三度一分。行政上、熊本市及鹿志守、土名、鹿本、菊池、阿蘇、上益城、下益城、八代、秦北、球磨、天草の一二郡に分ち、全國熊本縣所管とす。戶數三五三、六三三、九九七。
【地勢】九州の火山脈國の東隅に入りて阿蘇山を起し、一條の山脈西に分れて筑後の國境を成して海に盡く。本脈は南し、高山峻嶺重疊して、五家庄の諸山に連り、山勢益々延して、險峻を極め、國の南境を限る。而して支脈の四方に派出するもの多く、就中益城郡の東境より西に走るもの字士の大牛島を成し、終に天草群島を成す。故に北、東南の三方は地勢高くして、自ら分水界を成し、平坦の地漸次西方に開け、中央に富國重要な生産地なる肥田を作る。河水は皆西流して海に入る。
【山系】國の南部に蔓延するものは所謂九州南部山系にして、八代、下益城、上益城、宇土、天草の諸郡に互り、東北より西南なる驛越山脈を成し、雁俣山、藤山、洞獄、高橋山、丸目山等連り、東は馬見原の

南に及ぶ。緑川之に沿ふて流れ、自ら南北の二大區劃を成す。而して、此山脈南行するに從ひ、高山峻嶺相繼し、其日向に昇する所は九州第一の高嶺にして、此山陰に有名なる五箇庄を圍み、白岩嶽、三方山、國見山、白鳥嶽、片尾山、六二五〇尺、江代山、市房山、六一三八尺等の山連あり。支脈其西方に互るもの、仰烏帽子山、北ヶ岳、照野山、多良山となり、稍南なるものは白髮岳を起し、西に互りて薩摩の國境を成す。此二支脈の谷間を球磨郡とし、此所に入吉の平地あり。凡そ是等の諸山は主に秩父古生層より組成せられ、唯八代、下益城の郡界にして、八代灣に近き低地に接して、花崗岩の發達するあり。而して南部八代灣に瀕する地方は、地勢全く球磨と異り、幾多の山嶺東北より西南に走り、其山骨を海岸に露はし、數條の小山谷を作る。肥後、薩摩の濱街道此を通じ、所謂三太郎の險あり。緑川の北は孤峰群山所在に突起し、地勢頗る多岐にして、眞の山脈と稱すべきものなし。稍東に阿蘇火山あり。海拔四八六四尺。其南北兩側に二大窪地を作り、其外邊は鞍ヶ岳、二重峠、倭山、冠嶽、大矢山等環狀連山の圍繞する所となる。是れ即ち舊噴火口の外壁にして、其東北に祖母山、立山、山脚、豊後、日向の二國に跨る。阿蘇外輪山の北側は、即ち幽深なる小國谷にして、溪谷に煙草の産地あり。且つ今、植林の業盛なり。而して阿蘇の裾野は遠く有明海に達し、緑川、白

川、菊池川等此に灌漑して、廣潤なる肥沃の低地を造る。阿蘇山と此低地を隔て、熊本市の西方に、金峯山、粟あり。三ノ岳、二ノ岳、荒尾山等山頂相連りて、橢圓狀を成す。即ち舊火口壁にして、其北脚伸びて、菊池川畔に達す。菊池川の北には小代山、輪あり。花崗岩の基盤にして、海拔二二二二尺の高さを有し、西北より東南に走り、菊池川に横断せられて、片麻岩より構成せる木葉山、米野山、日平山等を藏し、餘波岩野山、石川山に斷續す。筑後の國境には山岳重疊すれども、他の方面に比すれば峻險ならず。筑後街道に接し、國境最高の三桶嶺も海拔六六三尺に過ぎず。是より南下する事數里にして、山腹に沿ひ、菊池山の麓の窪地あり。菊池川此を横断し、河畔に廣大なる米産地を作る。
【水系】河流の大なるもの四、菊池川、白川、緑川、球磨川はなり。菊池川は小野岳及深葉山の火山岩地に發し、追間川、合志川等を合せ、山鹿町附近に有名なる米産地を作り、玉名郡高瀬町近傍に廣潤肥沃の土地を構成し、海に入る。白川は阿蘇山に發し、外輪山壁の一部を破り、瀑布激流を成して平地に下り、第四紀古層の窪地を流れ、熊本市の南を貫き、百貫に至りて海に注ぐ。緑川は阿蘇郡の三方岳に發し、矢部郷の溪流を集め、甲佐町に至りて此所に沿道耕田の川水を分ち、曲折して加勢川を合せ、緩流に變じ、徐々に有明海に入る。此白川、緑川下流の間は其地

積せる十砂の爲に年々新地を構成し、五六百年以前に、緑川の河口たりし川尻の地は、今海濱を距る三里たるに至れり。此沖積地は肥後生産地の要部に於て、所謂肥後米の産地なり。球磨川は最南に在り、球磨地方を貫流し、八代に至り海に入る。人吉より下流一六里餘、舟楫の便あり。球磨地方の交通、生産は主として此川に依る。又其河口附近は泥砂堆積し、豐饒なる新地を作る。又人吉附近に僅なる沖積地あり。宇土半島より球磨河口に至る間は亦一帯の沖積地あり、數溪流ありて之を灌漑す。主なるものは水川、砂川とす。共に短流なれども、農業上益する所多し。臺北の谿谷には佐敷川、水俣川あり、共に其流域は谿谷に屬し、稻田灌漑の用をなす。僅に其河口に小廣葉の沖積地を成す。天草群島の水流に就いては別に記すべきものなり。
【海岸】國の西部は二個の内海に沿ふ。北なる有明海と、南なる八代海とす。此二海の中央に斗出して、之を隔つるを宇土半島とす。半島の端より漸次なるは、即ち天草群島にして、八代海の西岸を成す。有明海は著名の泥海にして、其沿岸は海上遠く泥砂堆積し、殆ど碇泊に適せず。八代海の北部沿岸も亦斥鹵の地にして、唯南部、秦北の沿岸は岬灣出入すれども、岬岩峙ち良港なし。乃ち明治十六年大に宇土半島の三角港を修め、之に鐵道を通じ、以て縣内の海運を掌らしめしが、近年

ヒサイ

久居の近村小月本新家の邊に桃樹多し。通稱久居桃林と呼び、花時遊覧する者多し。高茶屋驛より一里、合三六。

ヒサイチコウサン(日三市鎮山) 羽後國仙北郡中川村に在る鎮山。荒川鎮山の支山にして、其東南二里半を距つ。西東北の三面は日三市、外日三市諸山の圍む所となり、南は溪流に沿ふて多少の平野あり。荒川鎮山に達する一路あれども、僅に人馬を通ずるのみ。東南二里半に角館町あり、其間車馬の便あり。明治四十一年、使用鐵夫六四九人、女工九四人、採礦高一七、七、四、四一〇貫、製品、含銀銅一、一、三、七、五、二、九、九、銅三、二、二、〇、斤、價格合計三八萬圓(本邦銀業一斑)。

ヒサエタ(久枝) 【愛媛】伊豫國温泉郡の村。三津濱町に接す。河野氏の族久枝氏の居りし所なり。合三三。

ヒサオリ(藤折) 【埼玉】武蔵國北足立郡の村。大字藤折は川越街道の一宿なり。舊新座郡の中央に在り。東京より行程五里半とす。昔は脚籠といへる物を製し賣る。里人之をカツケと呼びしかば、道與准后此所を過ぎて、「商人はいかゞ立つらん藤折の市にかつけをうるにぞありける」の狂歌あり。合三三。

ヒサガシマ(久賀島) 【佐賀】肥前國南松浦郡の村。合三三。高次條をも見よ。

ヒサガシマ(久賀島) 肥前國五島列島の一。奈留島、福江島の間在り。北は奈留浦、南は田ノ浦、瀬戸を以て相隔つ。東西り成る。其山陰を今妻里村といふ。西麓に大瀨あり。●越後國北浦原南浦原二郡に跨る山。南は寶珠山、北は五頭山に連る。水原町の東南に登ゆ。

ヒシカリ(菱刈) 【鹿兒島】薩摩國伊佐郡の村。合三三。

ヒシカリ(菱刈) 【鹿兒島】大隅國の西北隅に在りし郡。國和名抄は比志加利と註し、羽野山野(亡野)に誤るものあり。大水、菱刈の四郷を載す。中世郡境紛亂し、其北部の地は薩摩に入り、牛屎院と呼び、後、北伊佐郡となり、本郡は僅に菱刈、太良の二村を有するに過ぎざり。明治二十九年廢郡、北伊佐郡と合して更に伊佐郡の新稱を立て、薩摩國に屬せしむ。

ヒシカリベツヤマ(下山) 【北海】後志國磯谷郡に在る山。

ヒシキ(比自岐) 【三重】伊賀國名賀郡の村。合三三。

ヒシサト(菱里) 【新潟】越後國東頸城郡の村。合三三。

ヒシダ(カワ) (菱田川) 大隅國嶺南郡に在る川。郡の西北の諸水を合せ南流して有明浦に注ぐ。流程八里二九町。其水域は方五里餘に亘る。地味瘠薄にして耕作に適せず。野方、恒吉、市成の三村は近年牧馬の業盛にして、良種を産し、其名著はる。

ヒシトマ(菱苜) 【樺太】真岡支那本出張所管内の村落。舊稱ベシトマナイ。

ヒシトル(菱取) 【樺太】大泊支那留多加出張所管内の村落。西能登呂半島の東海

ヒシカ

ヒサカ

約一里半、南北約二里。周圍五里。南松浦郡に屬し、久賀島村といふ。居民主に農業等に從事し、戸々牝牛を飼養す。郵便局あり。島の北側は深入して一長澳を成し、殆ど島體を二分す。之を久賀港といふ。港口狹隘なれども、内は極めて安全なる錨地にして、全く陸地に圍まる。

ヒサカタ(久方) 【群馬】上野國山田郡の地名。今、上下に分れ、上久方は梅田村、下久方は桐生町の大字となる。横瀬成繁を葬りし處、仙寺あり。

ヒサカタ(久堅) 【長野】信濃國下伊那郡の地名。天龍川を隔て、飯田と相對し、今、上下の二村に分る。下久堅に郵便局あり。上久堅には知久氏の神社、坂城址あり。

ヒサカツ(久勝) 【徳島】阿波國阿波郡の村。合三三。

ヒサキ(久木) 【島根】出雲國簸川郡の村。合三三。

ヒサキ(久木) 【島根】出雲國簸川郡の村。合三三。

ヒサキ(久木) 【島根】出雲國簸川郡の村。合三三。

ヒサキ(久木) 【島根】出雲國簸川郡の村。合三三。

ヒサキ(久木) 【島根】出雲國簸川郡の村。合三三。

ヒサキ(久木) 【島根】出雲國簸川郡の村。合三三。

ヒサキ(久木) 【島根】出雲國簸川郡の村。合三三。

ヒサキ(久木) 【島根】出雲國簸川郡の村。合三三。

ヒサキ(久木) 【島根】出雲國簸川郡の村。合三三。

ヒサキ(久木) 【島根】出雲國簸川郡の村。合三三。

ヒシネ

ヒサツ

西に在る小丘。日指山にも作る。天正十年小早川隆景此地に陣し、羽柴秀吉と決戦せんと待ちしに、秀吉俄に和を講じ退軍す。

ヒサツネ(久常) 【石川】加賀國能美郡の村。合三三。

ヒサト(日里) 【長野】信濃國上水内郡の村。合三三。

ヒサトメ(久留) 【熊本】肥後國天草郡の村。合三三。

ヒサノハマ(久ノ濱) 【福島】磐城國雙葉郡の町。明治三十四年町制を施す。陸前濱街道の一驛にして、郵便局及鐵道常磐線の停車場あり。東京上野車驛より一四一哩五七鎮。此邊海岸景色よく、夏季海水浴客集る。波立薬師へは停車場より約一五町。合三三。

ヒサミネ(久峰) 【日向國宮崎郡佐土原町の東方に在る山。眺望極めて佳にして、頂上に觀音の祠あり。

ヒサムネ(久宗) 【阿波國麻植郡川田及川田山の兩村に跨る鎮山。川田川の西岸に臨み、海拔四九二尺の山腹に在り。徳島街道の南を距る約一里。徳島街道及吉野川に於ける運輸の便あり。明治二十五年試掘せしに、良好の銅を出し、二十七年の製銅高三、〇七〇一斤。阿波風指の銅山となれり。地質は結晶片岩の下部より中部に至る邊に最も多く露出する。紅褐色片岩、綠泥角閃岩及石炭層、雲母片岩の交層より成り、主礦物たる含

して三層となる。或は三ノ瀧と呼ぶ。直流長きは一丈四尺餘あり。●土佐國長岡郡瓶岩村に在る瀧。二泉に分る。一は高十八丈、幅一間、字瀧山に在り。一は高八丈、幅三間、字瀧山に在り。長曾我部元親此瀧を遊覽せる時、蝮川親長、瀧の糸い結ばむと立よれば、空さへさえて雪ぞ降りける。

ヒシリ(久留) 【大和國吉野郡下市町に在る鎮山。銅を産す。

ヒシリ(久留) 【大和國吉野郡下市町に在る鎮山。銅を産す。

ヒシリ(久留) 【大和國吉野郡下市町に在る鎮山。銅を産す。

ヒシリ(久留) 【大和國吉野郡下市町に在る鎮山。銅を産す。

ヒシリ(久留) 【大和國吉野郡下市町に在る鎮山。銅を産す。

ヒシリ(久留) 【大和國吉野郡下市町に在る鎮山。銅を産す。

ヒシリ

ヒサヤ

銅礦鐵層は専ら綠泥角閃岩内に胚胎せらる。礦は上品なるもの百分中一六四五の銅を含めど、平均四分内外なり。

ヒサヤ(久安) 【石川】加賀國石川郡三馬村の大字。金澤市の西南に接す。富樫氏の支流久安氏の居りし所なり。長享年中まで相續す。御馬神社あり。延喜式内の古社にして、俗に御馬稻荷といふ。

ヒサワ(梅澤) 【茨城】常陸國那珂郡の村。合三三。

ヒシ(菱) 【栃木】下野國足利郡の村。合三三。

ヒシ(比志) 【山梨】甲斐國北巨摩郡増富村の字。金峰山の西麓、澗川の水源なる山中とす。此より北に黒森峠を踰れば、信州南佐久郡川上に出づ。

ヒシウラ(菱浦) 【島根】隱岐國海士郡、福井村を見よ。

ヒシカイ(菱海) 【山口】長門國大津郡の村。合三三。

ヒシガタ(菱形) 【熊本】肥後國鹿本郡の村。三岳の東北麓にして、飽託、玉名二郡の間に介在す。大字圓蓋寺に菱形八幡宮あり。往古は大社なりしが、今廢頓す。近傍に菱形池といふ小池あり、形菱に似たり。里俗八幡大神託宣出現の地と稱す。合三三。

ヒシガタ(菱ヶ岳) 越後國東頸城郡、信濃國下木内郡の境に在る山。海拔三七四一尺。保倉川の水源なり。全山火山岩より成る。其山陰を今妻里村といふ。西麓に大瀨あり。●越後國北浦原南浦原二郡に跨る山。南は寶珠山、北は五頭山に連る。水原町の東南に登ゆ。

ヒセ(比自岐) 【三重】伊賀國名賀郡の村。合三三。

ヒセ(比自岐) 【三重】伊賀國名賀郡の村。合三三。

ヒセ(比自岐) 【三重】伊賀國名賀郡の村。合三三。

ヒセ(比自岐) 【三重】伊賀國名賀郡の村。合三三。

ヒセ(比自岐) 【三重】伊賀國名賀郡の村。合三三。

ヒシメ

東するものは島原半島となり、西するものは西彼半島となる。西彼半島は更に南北に分れ、南は長崎半島となり野母崎に盡き、北は大村灣の西側を成して佐世保灣に至る。此南北二支の間に長崎灣あり、國の西北松浦灣に面せる地は左右に二大岬角を出して、其中央に伊萬里灣を抱く、其西角に接して平戸島あり、其脈斷續して西南に五島列島を起す。地勢大別して四とすべし。有明海域、彼半島來半島地、松浦地方及島地是なり。有明海域は佐賀、小城、杵島、藤津の四郡にして、筑後川域たる三養基神崎の二郡是に屬し、土地多くは沖積層より成り、平坦肥沃にして、所謂肥前米の産地たり。彼半島來半島地は東、西彼半島、南、北高來の四郡に屬し、多くは阿蘇噴火脈温泉支脈の通する所にて、地質概ね火山噴出物より成り、玄武岩、安山岩質の地多きを占む。松浦地方は西北海に面し、東西松浦二郡及北松浦の一部に屬し、地質多くは第三紀層より成り、石炭に富み、又中央に石英粗面岩の露出あり、有田陶器の材料を供す。島地は平戸、群島及五島列島にして、北松浦郡の一部及南松浦郡全部に屬す。其脈遠く加賀白山の火山脈を延き、地質概ね玄武岩より成る。

黒髮山等とす。概ね火山岩の噴出の爲に隆起せるものなり。佐賀、長崎兩縣界の連山、北は伊萬里灣の西に起り、國見岳、針山、山、虚空藏山、多良岳となり、諫早灣に盡く、是れ亦島原火山脈の餘脈とす。温泉、火山脈、島原の温泉岳に顯はれ、長崎附近に至りて稻佐山、岩屋岳、琴緒山等而起す。肥後阿蘇山脈の西支とす。西彼半島、連山、樫井島、島加岳等あり。島地の山系に就いては地勢の所に述べたるが如し。

水系 國內には筑後國界なる筑後川の外、大川と稱すべきものなく、長きも一〇里、短きは三里に過ぎず。是れ地勢狹隘にして、分水嶺と海岸との幅員廣からざるに因る。其稍大なるものは筑紫海に入るものを嘉瀬川、多久川、武雄川とし、皆松浦境界の連山に出づ。筑後川に入るものを秋光川、大木川、鏡部川、田手川とす。皆皆振山系の諸山に出づ。佐賀、長崎兩縣界の高山に出づ。西流し、大村灣に注ぐ。獨り本明川は南流し、諫早灣有明海の支灣に入る。松浦地方に在りて北流して松浦灣に入るものを、玉島川、松浦川、有田川、伊萬里川、志佐川とし、西流して平戸海峽の東南外海に入るものを、佐賀川、神浦川とす。皆郡界の分水嶺に出づ。

海岸 有明海の沿岸は多く斥原にして、港と稱すべきものなく、僅に島原半島に至りて島原口之津の兩港あり。島原半島と野母崎との間に千々石灘及大草灘に

して、海岸多くは險崖、真港なし。野母崎の東北に海水深く入りて有名なる長崎港あり。港外の西側は、一帯外洋に面し、風波荒らく、其盡くる所を佐世保灣とし、深く灣入して、四海無雙の要港を成し、鎮守府あり。此より岬灣出入して平戸海峽を過ぎ、松浦灣に至れば伊萬里唐津の二港あり。伊萬里は有田陶器の輸出地にして、唐津は石炭の輸出多し。其中間半島形を成せる尖端に、呼子名古屋の二港あり、共に壹岐に渡る要津にして、名古屋は豊太閣征韓の本營を置きし所とす。

氣候 概して温暖にして、夏暑けれど、冬寒からず。但し長崎地方に比すれば佐賀地方は概して低温なりとす。梅雨の候は雨多くして諸川暴漲する事屢あり。又例年八月の交に激烈なる暴風雨襲來するを常とす。

産業 此國は九州中肥後に亞ぐべき農産地にして、其質にして多額なる米一七二萬石を産す。佐賀、杵島、東松浦の諸郡産額一五萬石以上あり。其他、農産物には粟八六萬石、大豆二二萬五千石、小豆、豆、粟、蕎麥、甘藷二一萬圓、馬鈴薯、蘿蔔、南瓜、一二萬圓、胡瓜、西瓜、茄子、菜種、蜜柑、柿、梅、茶、藤、漆、の七萬圓最も多し。牧畜は牛約六萬八千頭、馬約四萬頭あり。南高來郡最も盛なりとす。林産物二二一萬圓。内薪材木炭一〇〇萬圓。東松浦郡八〇萬圓の産あり。水産物は其額九州第一に居り、鰹、鰯、鱈、各三〇萬

圓以上の漁獲あり。五島の鰹節、野母の鰯、子、鯖、島原の鰯、干鰯、大村灣の真珠、五島及島原の鰻、鮎等著名なり。鯨は五島近海及平戸附近にて捕獲せられ、年々數十頭に下らず。又食鹽三五萬圓あり。産額總計五九〇萬圓に及ぶ。石炭は國內産物の第一にして、高島を第一とし、唐津之に亞ぐ、共に支那地方への輸出多し。相知、芳谷、赤坂、口杵島、岸岳、柚木原の諸坑最も名あり。一年産出高合計五六五萬圓に達す。工業品は陶器、磁器を第一とす。唐津、有田、三河内、波佐見の諸村より出づ。産額一年一〇六萬圓に達す。其他、器機製、麥粉八七萬圓之に次ぎ、菜種油(各五〇萬圓)、蠶絲、繭、賣、セメントは各四〇萬圓以上、和紙、木炭(主産地島原半島)、織物各三〇萬圓以上、瓦石、磁石は各二〇萬圓以上、酒類、造高五三二萬圓あり。又長崎の煙草、麥粉、煉瓦、硝子、磁器、細工、漆器等著名なり。

交通 地形狹隘、山岳起伏し、平地少きを以て、交通の便充分ならず。鐵道の開通以來、稍便利を得るに至れり。道路は國道、筑後より來り、佐賀、牛津を経て武雄に至り二分し、本線は西南行して、鏡野を経て、彼半島に出で、大村、諫早を経て長崎に達す。武雄より分岐せる支線は、四行して有田に至り、早岐に出で、佐世保に通す。別に唐津より牛津に出づるもの、伊萬里より有田に至るもの、平戸より佐世保に出づるものあり。皆縣道とす。鐵道は筑後

より來り、國道は沿島嶺にて鹿兒島縣を分ち、佐賀、武雄、有田を経て、早岐に出で二分し、一は佐世保に通じ、一は大村、諫早を経て長崎に達す。別に唐津より起り、佐賀にて本線に連絡するもの、及伊萬里より起り有田に接續する二線あり。航路は長崎を起點とし、内地諸港は勿論、露領浦鹽、朝鮮諸港、支那諸港及臺灣に至るの便あり。但し島地の交通は全く船舶に依るを以て、冬期風浪激しき時は往來全く杜絶す。

沿革 肥前國はもと大國と稱し、肥後國と一國たり。但し其地相連接するにあらず。唯大海今の有明海を隔て、相對するに過ぎざれども、國郡制定の時、大海の西隣なるを以て、推して火前の號を付せり。日本書紀には、火前國松浦縣と載せ、和名抄は比乃三知乃久知と訓じ、基肆、養父、三根、神崎、佐嘉、小城、杵島、藤津、松浦、彼半島、高來の二郡を載す。明治十一年松浦を東西南北の四郡に、彼半島を東西二郡に、高來を南北二郡に分ち、合せて一六郡あり。二十九年基肆、養父、三根三郡を合せて三養基郡とし、今一四郡とす。古國府を佐嘉郡に置く。嘉祿以降少貳氏國事を管す。足利尊氏の反するや、少貳貞經之に屬す。肥後の菊池氏勤王の師を起すに及び、州の豪族有馬、大村の二氏之に屬し、千葉胤貞又征西將軍宮に從ひ來りて小城郡に在り。正平年中國內全く菊池氏に歸す。足利義滿今川大内の諸氏をして

東向せしむるに及ぶ。松浦藩の諸族之に附し、千葉大村諸氏亦降り、國內全く九州探題の治下となる。應永三年澁川滿頼探題となり、養父郡鏡部城に居る。文明年中其裔萬壽の幼なるに乘じ、少貳政資之を逐ひ鏡部城を奪ふ。明應六年政資大内氏に破られ、小城郡多々城に據り、終に自殺す。九年澁川教直の孫伊繁探題に補し、基肆郡勝尾城に居る。天文の初澁川義長基肆郡國郡城に居り、少貳資元と共に大内氏と戦ひ敗死す。是より先、千葉氏稍強大にして、小城、佐賀、杵島三郡を領す。後、二流となり相争ふ。永祿二年龍造寺隆信之に乗じて、東七郡を取り、勢甚だ盛なり。平戸の松浦隆信、岸岳の波多親等皆款を送る。獨り有馬義直西南四郡を領し、之に抗し、天正五年戰て大敗し、僅に南高來一郡を保つ。同十二年隆信島津氏と戰て敗死し、子政家不肖なり。其臣鍋島直茂代て事を視る。同十五年豐臣秀吉九州を平定し、政家に舊領七郡を賜ひ、有馬晴信、大村喜前波多親五島、純玄等舊封を安んずるを得たり。政家、尋て封を鍋島直茂に讓る。後、波多氏罪を得て封を失ひ、寺澤氏代て唐津に治す。關ヶ原役鍋島大村、松浦五島の諸氏皆款を東軍に納れ、舊封を保つ。元和の初有馬氏を日向に移し、松倉重政を島原に置く。正保年中唐津の寺澤氏國除せられ、數氏を経て小笠原長昌唐津に入る。徳川幕末國內に佐賀(鍋島氏、三十五萬七千石)、蓮池、鍋島支封五萬石、

小城同七萬三千石、鹿島同二萬石、唐津(小笠原氏)六萬石、大村、大村氏、二萬八千石、平戸(松浦氏)七萬石、福江(五島氏)一萬二千六百石、島原(松平氏)七萬石、九藩あり、別に嚴原宗氏(別封)及諫早(一萬石、鍋島氏の家宰諫早氏)あり。長崎は別に奉行を置きて之を統治せしむ。明治に至り長崎府を置き、四年府を廢し、長崎、伊萬里二縣を置き、五年伊萬里を廢して佐賀縣と改め、九年之を廢して長崎一縣に統一しが、十六年東部十郡を割きて佐賀縣を置き、以て今日に至れり。本國の内、松浦の地は西北に大海を受け、支那朝鮮往來の衝に當り、古來外國交通の事蹟多し。神功皇后の征韓出師皆此地に在り。弘安四年元寇覆没の遺蹟亦此地に在り。足利氏の時此國不逞の徒相黨して支那朝鮮の沿岸を掠む。八幡船と稱し、最も恐怖せらるる所たり。天文年間明の海賊亦松浦に依り、自國の邊海を侵し、五峯船主と呼べり。文祿年中豐太閣大に師を海外に出し、松浦の名古屋に其本營を置く。諸軍海陸并ひ會するもの五十萬人、以て朝鮮に入らしむ。凡そ我師の韓に在る七年慶長三年秀吉薨するに及び、遺令して徳川家康をして師を班さしむ。佐賀縣及長崎縣をも見よ。

ビゼン、クニ(備前國) 【岡山】山陽道中部の國、東は播磨國、西は備中國、北は美作國に界し、南は内海を隔て、讃岐諸島と相對す。東西一四里一七町、南北

一九里二六町、面積一八方里七五町。政上、岡山市及御津赤磐和氣邑久上道、兒島の六郡に分ち、全國岡山縣所管とす。面積八七五七六四三六九。

地勢 中國山脈の餘波を受け、國內一般に山多く、平地は僅に東大川、西大川の下流及上流の沿岸地方に過ぎず。海水東南より西に入りて一大灣を成し、之を隔てて兒島半島斗出す。近海亦島嶼の散布するもの多し。

山系 國內の山岳は概ね古生層花崗岩及流紋岩より成り、雜然として所謂山地の相を呈し、秀拔なる高峯なく、國の北部に在る最高峯も多くは五六百米の間に在り。中部及南部に至りては二三百米高の丘陵に過ぎず。東大川以東に在つては美作界の太平山(二四八五尺)、妙見山(高辻山、雨乞山、西河内山及八塔寺山(二一六五尺)、播磨の界なる太平山、石堂山及東大川に臨める天神山を稍高しとす。東大川及西大川間に於ては、美作界に太平山(二〇八九尺)、龍天山(一六五〇尺)、高峯山(二四八五尺)あり、東大川の岸に大王山(九二四尺)、稻崎山(二二五四尺)あり。此より以南は一般に低夷なる丘陵地にして、溪谷縱横し、其沿岸には稍廣き平野あり、田園開け鬱鬱稠密す。西大川以西に於ては、北部美作界に龍王山(二五八四尺)、備中境に太平山(二四〇二尺)、藤澤山(二四二五尺)、西大川の西岸に本宮山(一八〇五尺)あり。南部には國境に四平山(二四八

五尺、本陣山十二本木山、彌高山(一〇五六尺)、西大川に臨みて金山(一四五二尺)あり。兒島半島は嶺と岩より成れる山地にして、山の高き概して三四百米なり。其主なるものは、西に福南山(一〇七三尺)、仙道山(八五九尺)、中部に常山(一〇七六尺)、東部に金光山(二四二二尺)、八丈ヶ岩山(二〇九九尺)あり。

【平野】 岡山附近に在るものを大なりとし、東大川の支流々城及兒島灣西岸に互り延びて備中國に互る。國內に於て最も繁盛なる地にて、人口多く物産に富めり。

【赤瀬】 河流は北より南に流れ、瀬戸内海又は兒島灣に入る。其主なるものは、東大川及西大川是なり。東大川は美作の倉敷津山二川の合流にして、和氣、赤瀬の郡界を成し、吉井川を合せ、西南流して邑久、上道二郡を界し、海に入る。西大川は美作の高田川の支流にして、國內に入り、字甘川を合せ、岡山市の東を貫き、兒島灣に入る。一に朝日川といふ。此二川瀬瀬、運輸の利多し。但し西大川は下流に土砂を沈積する事多く、兒島灣の沿岸は次第に新田を生じつゝあり。

【海岸】 概して屈曲多く、東大川口以東は殊に出入多く、赤瀬灣、片上灣、尻灣、牛窓灣等あり。東大川以西は兒島灣の北岸にして、岡山平野の海に臨める所なれば低平なる砂濱なり。兒島半島の海岸は、兒島灣方面は著しき出入なげれども、瀬戸内海に面する所は港岬出入多く、概岡

秋幸して、國除す。慶長八年池田輝政の子忠勝を分封し、其弟忠雄に傳へ、寛永九年子光仲の時因幡に徙る。光仲の從兄光政代りて此國に封ぜられ、備中五郡の内を兼領し、岡山に治す。倉邑三十一萬五千二百石、王政維新改めて岡山縣を置き、此國之に隸し、今日に至る。

【文籍】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【ヒゼン】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【ヒゼン】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【ヒゼン】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【ヒゼン】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【ヒゼン】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【ヒゼン】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【ヒゼン】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【ヒゼン】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【ヒゼン】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【ヒゼン】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【ヒゼン】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【ヒゼン】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【ヒゼン】 備前國志、一六冊。和氣新大亮軒、岡山縣統計書。

【島嶼】 甚だ多し、是等は概して瀬戸内海陥没の際残りしものといふ。主なるものは赤瀬灣の西に鹿久居島あり。此島の南に鷓島頭島、四方に曾島、鴻島あり。井上灣の中央に梶島あり(以上流紋岩より成る)。鴻島の南に長島あり、古生層より成る。牛窓灣の前には前島、大島、黄島、黒島(花崗岩)あり。更に西南には大島群島あり、花崗岩石材の産地として知らる。兒島半島の東岸及南岸には花崗石より成れる數多の島嶼密集すれど、概して備前國に屬し、備前に屬するは井島の北西部のみ。

【氣象】 明治四十一年岡山に於て、氣温酷暑(八月)平均二六度三、最高三四度四、寒(二月)平均四度〇、最低零以下四度一。霜は十一月初旬より翌年四月初旬、雪は十二月中旬より翌年三月初旬に至る。

【産業】 生業の主なるものは農にして、工商之に次ぐ。農産物は米六五萬石、上道、御津、兒島三郡各一〇萬石以上を産す。麥(二三萬七千石、兒島郡最多)、大豆、甘藷、馬鈴薯、青芋、兒島郡最多、蘿蔔、瓜、干干、蒲荷、蘭、御津郡最多、甘蔗、柿、柿、柿、柿(二五萬圓)、林産物は銀銅約一萬圓、水産は漁獲物一四四萬圓(兒島郡其半を占む)、水産製造物一五萬圓、製鹽八五萬圓、内七七萬圓は兒島郡、一八萬圓は花蓮(六二萬圓)産表(三七萬圓)。此二品主として御津郡、織物三四七萬圓、内兒島郡二一九萬圓を占む。田ノ口鴻灘を中心とし、主として棉織物及雲霧、足袋五〇萬圓、主として兒島郡及岡山市、水油、和紙、陶磁器(所謂備前燒)等、計未詳(二〇萬圓)、兒島郡の特産、乾鹽純燒(五二六萬圓)、主として和氣郡、五、麥粉、酒約二二〇萬圓、醬油(約八一萬圓)、破酸、兒島郡、人造肥料八二萬圓、兒島郡、鹽、月四郡等とす。

【交通】 中國街道播磨より來り、三石、片上、藤井の諸驛を経て岡山に入り、備中に通ず。其間約一三三里、又因幡、伯耆街道は岡山市より起り、金川驛を経て美作に入り、其間八里、別に四國街道は岡山市より妹尾町下津井に至る。其間八里、二七町とす。鐵道三線あり、山陽線は播磨國より來り、三石、吉水、和氣、萬富、瀬戸、西大寺、岡山の七驛を経て備中に入る。其間約二七哩、中國線は岡山より起り、東北に赴くものは、法界院、玉柏野、口金川、建部の五驛を経て美作に入り、津山に達す。其間約一七哩、四するものは、三門、一宮、二宮を置き、備中國滿井に向ふ。其間約四哩、近年岡山より兒島郡津野に至る一線を布く、字津野といふ。其間二〇哩、四國に至る海路と連絡す。

【沿革】 此國は和名抄岐比乃美知乃久知と注す。古の吉備の域内にして、藤野縣、磐梨縣、大伯國、上道國、御野國等に分れ、國郡制定の時吉備の東部を以て、備前國を建てられ、和銅六年備前の北境六郡を割きて美作國を置かる。養老五年和氣郡

圓を占む。田ノ口鴻灘を中心とし、主として棉織物及雲霧、足袋五〇萬圓、主として兒島郡及岡山市、水油、和紙、陶磁器(所謂備前燒)等、計未詳(二〇萬圓)、兒島郡の特産、乾鹽純燒(五二六萬圓)、主として和氣郡、五、麥粉、酒約二二〇萬圓、醬油(約八一萬圓)、破酸、兒島郡、人造肥料八二萬圓、兒島郡、鹽、月四郡等とす。

【交通】 中國街道播磨より來り、三石、片上、藤井の諸驛を経て岡山に入り、備中に通ず。其間約一三三里、又因幡、伯耆街道は岡山市より起り、金川驛を経て美作に入り、其間八里、別に四國街道は岡山市より妹尾町下津井に至る。其間八里、二七町とす。鐵道三線あり、山陽線は播磨國より來り、三石、吉水、和氣、萬富、瀬戸、西大寺、岡山の七驛を経て備中に入る。其間約二七哩、中國線は岡山より起り、東北に赴くものは、法界院、玉柏野、口金川、建部の五驛を経て美作に入り、津山に達す。其間約一七哩、四するものは、三門、一宮、二宮を置き、備中國滿井に向ふ。其間約四哩、近年岡山より兒島郡津野に至る一線を布く、字津野といふ。其間二〇哩、四國に至る海路と連絡す。

【沿革】 此國は和名抄岐比乃美知乃久知と注す。古の吉備の域内にして、藤野縣、磐梨縣、大伯國、上道國、御野國等に分れ、國郡制定の時吉備の東部を以て、備前國を建てられ、和銅六年備前の北境六郡を割きて美作國を置かる。養老五年和氣郡

圓を占む。田ノ口鴻灘を中心とし、主として棉織物及雲霧、足袋五〇萬圓、主として兒島郡及岡山市、水油、和紙、陶磁器(所謂備前燒)等、計未詳(二〇萬圓)、兒島郡の特産、乾鹽純燒(五二六萬圓)、主として和氣郡、五、麥粉、酒約二二〇萬圓、醬油(約八一萬圓)、破酸、兒島郡、人造肥料八二萬圓、兒島郡、鹽、月四郡等とす。

【交通】 中國街道播磨より來り、三石、片上、藤井の諸驛を経て岡山に入り、備中に通ず。其間約一三三里、又因幡、伯耆街道は岡山市より起り、金川驛を経て美作に入り、其間八里、別に四國街道は岡山市より妹尾町下津井に至る。其間八里、二七町とす。鐵道三線あり、山陽線は播磨國より來り、三石、吉水、和氣、萬富、瀬戸、西大寺、岡山の七驛を経て備中に入る。其間約二七哩、中國線は岡山より起り、東北に赴くものは、法界院、玉柏野、口金川、建部の五驛を経て美作に入り、津山に達す。其間約一七哩、四するものは、三門、一宮、二宮を置き、備中國滿井に向ふ。其間約四哩、近年岡山より兒島郡津野に至る一線を布く、字津野といふ。其間二〇哩、四國に至る海路と連絡す。

【沿革】 此國は和名抄岐比乃美知乃久知と注す。古の吉備の域内にして、藤野縣、磐梨縣、大伯國、上道國、御野國等に分れ、國郡制定の時吉備の東部を以て、備前國を建てられ、和銅六年備前の北境六郡を割きて美作國を置かる。養老五年和氣郡

圓を占む。田ノ口鴻灘を中心とし、主として棉織物及雲霧、足袋五〇萬圓、主として兒島郡及岡山市、水油、和紙、陶磁器(所謂備前燒)等、計未詳(二〇萬圓)、兒島郡の特産、乾鹽純燒(五二六萬圓)、主として和氣郡、五、麥粉、酒約二二〇萬圓、醬油(約八一萬圓)、破酸、兒島郡、人造肥料八二萬圓、兒島郡、鹽、月四郡等とす。

【交通】 中國街道播磨より來り、三石、片上、藤井の諸驛を経て岡山に入り、備中に通ず。其間約一三三里、又因幡、伯耆街道は岡山市より起り、金川驛を経て美作に入り、其間八里、別に四國街道は岡山市より妹尾町下津井に至る。其間八里、二七町とす。鐵道三線あり、山陽線は播磨國より來り、三石、吉水、和氣、萬富、瀬戸、西大寺、岡山の七驛を経て備中に入る。其間約二七哩、中國線は岡山より起り、東北に赴くものは、法界院、玉柏野、口金川、建部の五驛を経て美作に入り、津山に達す。其間約一七哩、四するものは、三門、一宮、二宮を置き、備中國滿井に向ふ。其間約四哩、近年岡山より兒島郡津野に至る一線を布く、字津野といふ。其間二〇哩、四國に至る海路と連絡す。

【沿革】 此國は和名抄岐比乃美知乃久知と注す。古の吉備の域内にして、藤野縣、磐梨縣、大伯國、上道國、御野國等に分れ、國郡制定の時吉備の東部を以て、備前國を建てられ、和銅六年備前の北境六郡を割きて美作國を置かる。養老五年和氣郡

圓を占む。田ノ口鴻灘を中心とし、主として棉織物及雲霧、足袋五〇萬圓、主として兒島郡及岡山市、水油、和紙、陶磁器(所謂備前燒)等、計未詳(二〇萬圓)、兒島郡の特産、乾鹽純燒(五二六萬圓)、主として和氣郡、五、麥粉、酒約二二〇萬圓、醬油(約八一萬圓)、破酸、兒島郡、人造肥料八二萬圓、兒島郡、鹽、月四郡等とす。

【交通】 中國街道播磨より來り、三石、片上、藤井の諸驛を経て岡山に入り、備中に通ず。其間約一三三里、又因幡、伯耆街道は岡山市より起り、金川驛を経て美作に入り、其間八里、別に四國街道は岡山市より妹尾町下津井に至る。其間八里、二七町とす。鐵道三線あり、山陽線は播磨國より來り、三石、吉水、和氣、萬富、瀬戸、西大寺、岡山の七驛を経て備中に入る。其間約二七哩、中國線は岡山より起り、東北に赴くものは、法界院、玉柏野、口金川、建部の五驛を経て美作に入り、津山に達す。其間約一七哩、四するものは、三門、一宮、二宮を置き、備中國滿井に向ふ。其間約四哩、近年岡山より兒島郡津野に至る一線を布く、字津野といふ。其間二〇哩、四國に至る海路と連絡す。

【沿革】 此國は和名抄岐比乃美知乃久知と注す。古の吉備の域内にして、藤野縣、磐梨縣、大伯國、上道國、御野國等に分れ、國郡制定の時吉備の東部を以て、備前國を建てられ、和銅六年備前の北境六郡を割きて美作國を置かる。養老五年和氣郡

圓を占む。田ノ口鴻灘を中心とし、主として棉織物及雲霧、足袋五〇萬圓、主として兒島郡及岡山市、水油、和紙、陶磁器(所謂備前燒)等、計未詳(二〇萬圓)、兒島郡の特産、乾鹽純燒(五二六萬圓)、主として和氣郡、五、麥粉、酒約二二〇萬圓、醬油(約八一萬圓)、破酸、兒島郡、人造肥料八二萬圓、兒島郡、鹽、月四郡等とす。

【交通】 中國街道播磨より來り、三石、片上、藤井の諸驛を経て岡山に入り、備中に通ず。其間約一三三里、又因幡、伯耆街道は岡山市より起り、金川驛を経て美作に入り、其間八里、別に四國街道は岡山市より妹尾町下津井に至る。其間八里、二七町とす。鐵道三線あり、山陽線は播磨國より來り、三石、吉水、和氣、萬富、瀬戸、西大寺、岡山の七驛を経て備中に入る。其間約二七哩、中國線は岡山より起り、東北に赴くものは、法界院、玉柏野、口金川、建部の五驛を経て美作に入り、津山に達す。其間約一七哩、四するものは、三門、一宮、二宮を置き、備中國滿井に向ふ。其間約四哩、近年岡山より兒島郡津野に至る一線を布く、字津野といふ。其間二〇哩、四國に至る海路と連絡す。

【島根】 出雲國能登郡の地名。飯梨川の水源なる大山谷なり。中世は日田庄といへり。今比田、布部の二村となる。

【日田】 【大分】 豐後國日田郡の町郡内唯一の都會にして、三隈川、花月川の會流する所に在り。もと豆田、隈二町に分れしを、明治三十四年十一月合併改稱す。兩筑街道に當り、且つ舟運の便あるを以て、玖珠、日田二郡の貨物皆此地を過ぎ、商業繁盛なり。郡役所、警察署、小林区署、事務所、郵便局、區裁判所、農林學校、諸會社、銀行等あり。風俗朴直、土地の不便なるにも拘らず、百般の設備具はれり。輸入品は、吳服類、炭、輸出品は材木、紙等なり。白(一〇〇五)限、及豆田をも見よ。

【大分】 【大分】 豐前國下毛郡東城井村の大字。中津町より山國川畔を溯る事三里、日田郡に入る一驛にして、郵便局、客舎等あり。耶馬溪の勝地は此地以北數里の谷間に在り。

【北海】 【北海】 日高國三石郡に在る山。

【兵庫】 【兵庫】 但馬國城崎郡の村。古の氣多郡日置、高生二郡を合せたる地にして、城崎川の西岸に在り。此邊柳條を以て籠を造り、柳行李といふ。但馬の名産なり。六百三六。

【新瀨】 【新瀨】 越後國刈羽郡に在りし村。明治三十四年高田村に入る。

【英城】 【英城】 常陸國多賀郡の村。六百三六。

【伊豫國】 【伊豫國】 越後國越智郡の村。六百三六。

【日高川】 【日高川】 紀伊國日高郡に在る川。水源、龍神村の鉢ヶ岳。西南に向ひ、峽々屈曲し、御坊町の南に至り海に入る。流程四八里、下流七里舟楫の便あり。其上流は山路、川上の二莊に分れ、今、龍神、寒川、上山路、中山路、下山路、川上、船着、早蘇丹生の十村となる。激湍急流多し。是を日高の五瀧と稱し、鳴瀧、手早瀧、大瀧等あり。安井と柳瀧との間に檜皮瀧あり、五瀧の一にして、岸迫り、水荒れ、飛沫雪の如し。上流より木材を出すに大瀧に至りて之を通過するに至る。河口は西に長沙嘴あり、東に二、三の礁脈あるを以て、五百石以上の船を入る。事能はず、百石内外の和船のみ浜流して御坊町邊に入る。さしのぼるひだかの川もとけやからで、ほりをくたくさのたひ人(草根集正徹)。

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、南部の三町又衣奈白崎、由良、志賀、比井、崎、三尾、和田、東内原、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇丹生、藤田、船着川、上川、中山路、中山路、下山路、龍神、寒川、名田、稻原、眞妻、上南部、清川、高城、岩代、切目、切目川の三四村に分ち、郡役所を御坊町に置く。陸、空、海、六、四、六、地勢、郡内山岳連亘して地勢自ら三分す。日

【和歌山】 【和歌山】 紀伊國九郡の一。四境、北は有田郡、東は西牟婁郡、南は和歌山郡、西は津和野郡に接し、南西の二面は海洋を控ふ。東西一三三里、南北九二里、面積五一方里三四行政上、御坊、印南、

を東西二路に分つ。第三は八溝山脈といふ。常陸、磐城、下野三國の交界なる八溝山(三三三三三)より南向し、下野國境に白谷山、尺丈山、鷲子山(二四九八尺)となり、那珂川の谷を越えて南南西に、鶴尾山、國見山、佛頂山となり、其南吾國山(一九九〇尺)、愛宕山、加波山(二五四一尺)、赤穂山(二二九四尺)を起し、筑波山(二八三五尺)に至りて關東平野に盡く。

水系 河流の大なるものを久慈川國內流(二里)那珂川(同九里一八町)とす。前者は磐城に發し、後者は下野より來り、下流は哈と並行して外洋に入る。久慈川口には久慈港あり、那珂川口には那珂港あり、兩川共に舟楫の便あり、國內東北部運輸の便多く之に賴る。又其岸に沿ひ、良好なる道路(磐城道、白川道)開け、田圃よく耕さる。其他は懸瀧川、筑波川(共に六里)あり、筑波山、加波山を夾んで南流東折し、哈と並行して霞浦に注ぐ。此二川は噴産上重要なものならず、別に西部に鬼怒川、利根川あり、眞壁、筑波二郡を灌漑す。

湖沼 大なるものは霞浦にして、周圍三千里、國の四郡及下總の一部に圍繞せられ、三支瀨を出す。湖は魚介に富み、且つ運漕の利甚だ大なり。然れども沿岸時に水害を免れず。北浦は鹿島行方二郡の間に介在し、周圍八里半。又舟楫、魚介の利あり。共に下流は利根川に合す。其他は東茨城、鹿島郡界の濁沼、周圍四里、稻敷、筑波郡界の牛久沼、六里餘、眞壁郡の大沼

に之を大守と號せり。然れども遠任と稱して多くは京都に居りて、介若くは權介をして國事を執らしめたり。天慶年中藤原惟茂分たりし時、州人藤原玄明官物を闕貢し、讓に遭ひ、遁れて下總の平將門に倚る。將門任俠を宗とす、即ち兵を率ゐて來り、國府を圍み、惟茂を虜にす。天慶の亂實に是より起る。初め承平年中平國香大將となり、多く私田を貯へ、任事留置し、將門の爲に殺さる。其子貞盛將門を誅し、又大將となり、其田園を領し、姪維幹に與ふ。子孫豪富、因て大權を稱し、一族國內に蕃衍す。是より先寛治年中源義光州の介となり、多く田莊を占め、子孫佐竹氏を稱し、大權を握り、終に那珂以北を領す。治承年中源賴朝、介佐竹忠義を討て之を殺す。從子秀義奔陸奥に入り、賴朝の北伐せる時來歸し、因て故邑を復す。賴朝又筑波郡を八田知家に與ふ。知家小田城に居り、後小田氏を稱す。建久四年大權義幹の邑四郡を收め、之を其族資幹に與へ、新治郡府中城に治し、佐竹・小田二氏交々州介に任じ、國事を視せしむ。建武中興足利尊氏守護となり、其反するや、佐竹貞義之に應じ、大權高幹・小田治久は官軍に屬し、延元年中源親房關城に據り、義を唱へしむ。官軍遂に振はず。皆賊に降り、親房潰去る。足利氏の時佐竹大權小田の三氏國內を分有し、關東八館の班に居る。應永の末江戶通房大權氏を襲ひ、水戸城を取る。此時佐竹氏久慈多

沼(二里半)砂沼(一里餘)、東茨城郡の千波沼(一里半)眞崎浦(一里餘)、鹿島郡の神ノ池(一里餘)、稻敷郡の平須沼(一里餘)あり。海岸 下總國界利根川口より西北に向ひ、次第に北に傾きて、大洗岬に至る間は、一帯の砂濱長く連り、濱後には沙丘著しく發達す。大洗岬に近く磯濱、磯町等あり、那珂川口には那珂港あれども、長港にあらず。此より北に向ひ久慈川まで低平の沙濱連り、其以北は第三紀層の山岳海に逼り、沙濱の間往々岩壁あり、然れども出入極めて乏しく、概して單調なり。磐城國界に接して平瀨港あり、小舟を泊するに足るのみ。

氣候 概して温和なり。但し海岸に比し山地の寒冷なるは勿論とす。明治四十四年水戸市の氣温、最高極度攝氏三三度、八最低極度零下八度二、年平均一二度、三降水量は九月の二七〇を最多とし、三月より七月まで各一四〇を以上なり。例年六月十一日雷雨あり、又八九月の頃暴風雨西南より來り、往々大害を被らす。快晴は冬季に多く、夏季は多く曇天なり。風向は、夏季は南南東又は東風多く、冬季は北若くは北東風なり。

産業 生業の主なるものは農業にして、殆ど全數の七分を占め、價格三五〇〇萬圓に上る。工業七九〇萬圓之に亞ぎ、十分の二弱に當り、水産及林産を合せて幾十分一強を占む。各郡中最も産額多きは久慈、新治二郡にして、各約七百萬圓に達す。

し、東茨城郡那珂多賀、稻敷、筑波、眞壁六郡は殆ど相伯仲し、各五百萬圓内外なり。農産物は米一二五萬石、新治郡の一七萬石を最とし、東茨城郡那珂久慈鹿島稻敷、筑波眞壁の七郡各一〇萬石以上を産す。麥(一〇〇萬石以上)大豆(二一萬石)甘藷(七四萬圓)蕎麥(六五萬圓)久慈郡の特産(葉煙草)一二三萬圓、水戸煙草と稱し有名なり。蘭(二九五萬圓)其他一〇萬圓以上の産あるものは、小豆、粟、蕎麥、青芋、蘿蔔、胡蘿蔔、牛蒡、茄子、瓜類、葱、菜種、茶等とす。畜産は久慈多賀稻敷筑波眞壁五郡に市場あり、馬販賣頭數約一二〇〇頭、價格三萬圓なり。林産物は三六一萬圓、西茨城郡の一三九萬圓を最多額とし、同郡の花崗石材七〇萬圓を占む。木炭は久慈郡の一八萬圓を首とし、總計五四萬圓あり。用材は杉松楠を主とし、久慈郡の産最も多し。織産物は主に多賀郡より出で、金銀、銅、石炭等二〇三萬圓に達す。水産物は漁獲物二一〇萬圓、製造物九七萬圓、製鹽四萬圓あり。漁獲物は鱈(二四萬圓)鰈(九一萬圓)を主とし、東茨城郡多賀郡那珂三郡の海上最も盛なりとす。其他霞浦の鮪、公魚、那賀川久慈川の鮭著名なり。製造物は鹽(五八萬圓)を最とし、製鹽は主として多賀郡に行はる。工業物は蠶絲(一三五萬圓)清酒(二七六萬圓)石岡の産名あり。醬油(一六〇萬圓)其他一〇萬乃至三〇萬圓のもの織物陶磁

賀那珂茨城四郡を領し、小田氏、筑波、新治河内鹿島行方事、信太七郡五十三城を有せり。天正二年小田氏太田資正の爲に滅ぼされ、十八年佐竹義重江戶大權二氏を滅ぼし、悉く國內を併せ、子孫宣水戸に置き、北條氏と抗せしが、北條氏滅ぶに及び、歎を豐臣氏に送りて本州を安んず。關ヶ原役義宣西軍に通じ、徳川氏の爲に出羽秋田に移さる。家康第六子信吉を水戸に封じ、信吉天に及び、十一子賴宣之に代り、其體河に轉するに及び、第二子賴房を封す。之を水戸藩とす。封三十五萬石、其後國內に封を受くるもの、幕末に於て水戸(水戸支藩)一萬五千石、麻上、二萬石、土浦、土屋氏、九萬五千石、同末に於て水戸(水戸支藩)一萬五千石、麻下、下妻(井上氏)一萬石、谷田部細川氏、一萬六千石、九藩(一説若森を加へて十藩)あり。明治維新後、志筑本堂氏、松岡(中山氏)、松川松平氏の三藩を増し、凡べて十二藩にして皆改めて縣とし、又廢して新治茨城二縣とせしが、明治八年新治縣を廢し、茨城縣を存し、全國及下總六郡後合して三郡となるを管せしめ、以て今日に至れり。

文籍 常陸國志、六十三卷、中山信名、茨城縣統計書、ヒタチ(直根)【秋田】羽後國由利郡の村、白二五三、ヒタチノク(二飛驒國)【岐阜】東山道西

部に在る國、四境、北は越中國、東は信濃國、南は美濃國、西は加賀越前二國に界す。東西二〇里三町、南北二二里三町、面積五〇九方里一五。行政上、大野益田、吉城の三郡に分ち、全國岐阜縣所管とす。人口(一九三〇年)一三三、〇七七。

地勢 全國濃飛高原美濃北部の大平と越中、加賀越前、近江の一部に互る本邦第一の高地帯の最高部に位し、最も低き所も一千里を下らず、到る所高山大岳ありて、平地極めて乏しく、耕土は其百分三に過ぎず。交通不便、人口稀少、殊に吉城郡の東北は深山幽谷連り、東西一〇里、南北二〇里の間は人烟を見ず。國の中部最も高く、河水奔流して南北に向ふ。此國は所謂日本南嶺の裏面に屬し、東方直に富士帯に接し、地層の構造甚だ錯雜せり。最も廣大なるは石英斑岩にして、益田郡の殆ど全部及大野郡四半を蔽ひ、飛驒山脈の山脊亦是れより成る。火山岩此を破りて迸發し、御嶽火山、白山火山、管成等の四、五六川の溪谷に小露出を見る。古代岩中最も多きは角閃片麻岩にして、吉城郡の過半は之にて蔽はれ、頗る金屬礦床に富む。大野郡高山町より吉城郡古川町に至る間は地層最も錯雜し、吉城郡國府細江浦村の邊と、白川上流とには諸種の化石を出す。飛驒の震災の著明なるは、天正十三年三方崩の崩壊にして、山麓歸雲山城全く埋没し、數百人横死せり。又

器煉瓦、水油、和紙、那賀郡、麥粉、粉、蕎麥及凍菊、久慈郡あり。交通 陸路の主なるものは陸前濱街道にして、下總國北相馬郡より來り、國の中部を縱貫し、牛久土浦、石岡を経て水戸に達し、此より東北に向て海岸に出で、助川、高秋平湯を経て磐城國に入る。其他水戸を基點とし、棚倉道、白川道、宇都宮道、栃木道、銚子道、千葉道等あり。鐵道は小山水戸線、眞壁郡川島より始まり、下館、新治、岩瀬、原、稲田、空間、穴戸、友部、内原、赤塚、水戸の一線あり、其間約三五哩。田端、友部間(稻敷郡)の佐賀より初まり、牛久荒川沖土浦、神立、高濱、石岡、羽鳥岩間八驛を経て、友部にて小山水戸線に連絡す。其間約三三哩。水戸、岩瀬、水戸より起り、佐和石神、大樂、下孫助、川尻、高秋、磯原、關本九驛を置き、磐城國に入る。其間約四〇哩。水戸、太田、水戸より起り、青柳、下管谷、上管谷、額田、河合五驛を経て、久慈郡太田町に至る。其間約一二哩。餘、龍ヶ崎線(田端、友部線の佐賀より分れ、龍ヶ崎町に至る。其間約三哩)の五線あり。別に水戸、那珂川間に貨物線の設あり。水路は霞浦、久慈川、那珂川、鬼怒川等舟楫の便あり。就中久慈、那珂二川は實に北部運輸の賴る所なり。海路は那珂川口、久慈川口及北端に平瀨港あるの外、舟楫地なく、海運の利に乏し。

沿革 常陸は古事記に常道日本紀の天武紀及萬葉集に常土に作る。説に、此

部に在る國、四境、北は越中國、東は信濃國、南は美濃國、西は加賀越前二國に界す。東西二〇里三町、南北二二里三町、面積五〇九方里一五。行政上、大野益田、吉城の三郡に分ち、全國岐阜縣所管とす。人口(一九三〇年)一三三、〇七七。

國東海の極端に在り、日高見國(蝦夷)に入るの門戸なれば、日高路といひしを稱説せるなりといふ。成務天皇の時、新治、筑波(即ち那珂)久自(即ち久慈)高即(多賀)の五國あり、應神天皇の時更に茨城國を置き、各國造あり、大化革新悉く廢して郡とし、總括して常道國とす。大化五年那珂郡及下總海上郡を割きて香島郡を置き、神領とし、白雉四年筑波茨城を割きて信太郡を、茨城郡を割きて行方郡を、多賀郡を割きて石城郡を、新治郡を割きて白壁郡を、筑波郡を割きて河内郡を置き、後、石城郡を陸奥國に屬せしむ。後世郡界紛亂し、加ふるに私稱起りて頗る混雜を極め、新治郡の如きは全く其名を失ふに至れり。文祿檢地大に郡界を更定し、新治の稱を復せしむ。其地全く舊城と異り、且つ眞壁、茨城、那珂、久慈、多賀諸郡の交界亦大に古に異なるものあり。明治十三年茨城を東西に分ち、凡べて一二郡、二十九年内信太二郡を合して稻敷郡とし、又筑波、新治、河内、信太の郡界大牙出入し、極めて不整なるを以て、村落部治の異動あり。此國は東海の邊要に在るを以て、太古天孫族の深く心を用ひし地にして、經津主武甕槌二神の來征經營あり、終に留鎮す。所謂香取、鹿島の大社なり。日本武尊の東征亦途を此地に取り、國內を鎮撫する所あり。中世國府を茨城郡(今の新治郡石岡)に置き、天長三年上總上野の二國と共に親王の任國とし、特

に之を大守と號せり。然れども遠任と稱して多くは京都に居りて、介若くは權介をして國事を執らしめたり。天慶年中藤原惟茂分たりし時、州人藤原玄明官物を闕貢し、讓に遭ひ、遁れて下總の平將門に倚る。將門任俠を宗とす、即ち兵を率ゐて來り、國府を圍み、惟茂を虜にす。天慶の亂實に是より起る。初め承平年中平國香大將となり、多く私田を貯へ、任事留置し、將門の爲に殺さる。其子貞盛將門を誅し、又大將となり、其田園を領し、姪維幹に與ふ。子孫豪富、因て大權を稱し、一族國內に蕃衍す。是より先寛治年中源義光州の介となり、多く田莊を占め、子孫佐竹氏を稱し、大權を握り、終に那珂以北を領す。治承年中源賴朝、介佐竹忠義を討て之を殺す。從子秀義奔陸奥に入り、賴朝の北伐せる時來歸し、因て故邑を復す。賴朝又筑波郡を八田知家に與ふ。知家小田城に居り、後小田氏を稱す。建久四年大權義幹の邑四郡を收め、之を其族資幹に與へ、新治郡府中城に治し、佐竹・小田二氏交々州介に任じ、國事を視せしむ。建武中興足利尊氏守護となり、其反するや、佐竹貞義之に應じ、大權高幹・小田治久は官軍に屬し、延元年中源親房關城に據り、義を唱へしむ。官軍遂に振はず。皆賊に降り、親房潰去る。足利氏の時佐竹大權小田の三氏國內を分有し、關東八館の班に居る。應永の末江戶通房大權氏を襲ひ、水戸城を取る。此時佐竹氏久慈多

賀那珂茨城四郡を領し、小田氏、筑波、新治河内鹿島行方事、信太七郡五十三城を有せり。天正二年小田氏太田資正の爲に滅ぼされ、十八年佐竹義重江戶大權二氏を滅ぼし、悉く國內を併せ、子孫宣水戸に置き、北條氏と抗せしが、北條氏滅ぶに及び、歎を豐臣氏に送りて本州を安んず。關ヶ原役義宣西軍に通じ、徳川氏の爲に出羽秋田に移さる。家康第六子信吉を水戸に封じ、信吉天に及び、十一子賴宣之に代り、其體河に轉するに及び、第二子賴房を封す。之を水戸藩とす。封三十五萬石、其後國內に封を受くるもの、幕末に於て水戸(水戸支藩)一萬五千石、麻上、二萬石、土浦、土屋氏、九萬五千石、同末に於て水戸(水戸支藩)一萬五千石、麻下、下妻(井上氏)一萬石、谷田部細川氏、一萬六千石、九藩(一説若森を加へて十藩)あり。明治維新後、志筑本堂氏、松岡(中山氏)、松川松平氏の三藩を増し、凡べて十二藩にして皆改めて縣とし、又廢して新治茨城二縣とせしが、明治八年新治縣を廢し、茨城縣を存し、全國及下總六郡後合して三郡となるを管せしめ、以て今日に至れり。

部に在る國、四境、北は越中國、東は信濃國、南は美濃國、西は加賀越前二國に界す。東西二〇里三町、南北二二里三町、面積五〇九方里一五。行政上、大野益田、吉城の三郡に分ち、全國岐阜縣所管とす。人口(一九三〇年)一三三、〇七七。

安政五年地大に震ひ、震動四十餘回吉城郡小鷹利小島高原の三郷被害最も大にして、大野郡白川郷之に次ぎ、潰家七百餘死者二百人、傷者四十人、越中の通路全く杜塞し、慘狀を極めしといふ。

山系 三大山脈あり、飛騨山脈、白山山脈、赤谷山脈といふ。而して各山脈よりは又數多の支脈を出し、相續して東西に走り、中央分水嶺を成し、國内を南北の二部に分つ。飛騨山脈は信濃越中の國界を成せる大山脈にして、越後の親不知の險峻より起り、殆ど直線を成して南走し、國の東境に至り高峻を極め、北ノ俣岳中ノ俣岳、抜岳、嶺ヶ岳、二〇四尺、穂高岳、焼山、硫黄岳、六七五尺、阿房山、飛騨岳、(二〇四八尺)となり、野多峠に至り稍西南折して御嶽を起し、是より山勢漸く低く、終に美濃に入り、木曾川、飛騨川會流する所に至つて止む。此山脈は本邦無比の高山にして、秀峯聳立して絶壁の如く、嶺ヶ岳穂高岳飛騨岳御嶽の如きは皆標高一萬尺に超ゆ。支脈の重なるものは、中ノ俣岳より西に分れ、國の東北に於て鷲羽岳、九五五七尺、横岳を起し、越中の立山に連るものと、乗鞍岳より西走し、一は大野、吉城二郡の界を成し、高原川、宮川會流する所に至るものと、一は大野、益田二郡の界を成し、宮崎を経て位山に連るものとあり。飛騨山脈中に火山多し。御嶽、乗鞍、焼山、硫黄、嶺ヶ岳、飛騨、鷲羽、岳に其最も主なるものにして、越中の立

山藥師岳に連る。所謂御嶽火山脈にして其附近には温泉所々に湧出す。乗鞍岳麓の平湯、益田川畔の下呂温泉最も著なる平湯に近く平湯大瀧あり。赤谷山脈は飛騨山脈と並行し、國内を南北に走り、宮川白川の分水嶺を成す。此山脈は越中國界に於て白木峯金剛堂山となり、國内に入りて大野、吉城の郡界を成し、天生嶺、本谷山を起し、南向して龍ヶ峰となり、是より川上山位山の支脈を出し、本脈は美濃の界に至り、赤谷山となる。白山、脈は加賀越中の國境より起り、飛騨、赤谷兩山脈と並行して南走し、飛騨と加賀との境に至り、笠摺ヶ岳、妙法山、三方崩となり、白山の諸嶺、御前山、御前山に至り、最も高く、夫より、別山、三峰となり、美濃越前の境に入る。此山脈も亦本邦最高山脈の一にして、海拔八九千尺の間に在るもの少なからず。又脈中の諸山は概ね火山にして、遙に中國北部の火山脈に連り、白山火山脈の稱あり。此附近にも温泉所々に湧出す。白山東麓の地谷谷及湯小屋最も著る。白山の東麓に白水瀧あり。

水系 河流は國を東西に走れる山脈を分水嶺とし、南北に奔る。北流するものは高原川、宮川、白川にして、越中に入り日本海に注ぐ。南流するものは益田川にして、美濃に入り木曾川に合す。水勢皆急激にして、舟楫の便を缺けども、沿岸諸所に小沖積地を作り、國内の名邑皆此に在り。道路も亦之に沿ひ、湖水に乗鞍岳の北麓

に大丹生池(周圍二里、南麓に大池、周圍三里)あり。宮川は飛騨、赤谷兩山脈の間を流れ、高山町及古川町附近に沖積層の平地を作る。即ち國中最も耕地の開けし所なり。越中の境に至れば河幅俄に狭く、水流極めて急なり。川に沿ふて越中に通ずる西街道を通ず。高原川は流程一七里、飛騨山脈に發し、西北流して宮川に會す。船津町附近は沖積層の平地なり。白川の溪谷は險峻にして、國内最も僻遠の地なり。土地礫礫、耕地少く、沿岸は峭壁相望み、水流急にして、橋梁渡舟を設け難き所多く、籠渡を用ひて交通せしむ。益田川の沿岸は平地甚だ少し。美濃に通ずる要路此溪間に在り。益田街道といふ。其下呂驛より下原驛に至る七里の間は、絶景を以て稱せらる。中山七里と呼ぶ。

氣候 國中土地高きを以て寒氣烈し。明治四十一年高山町に於て、氣温一年平均攝氏一〇度八最高極度三四度三最低極度零下六度七。此を美濃の岐阜に比すれば、一年平均に於て三度、寒氣は九度の差あり。雨量は一年平均二千九百外に於て、美濃に比すれば稍少く、信濃に比すれば其二倍なりとす。國内に就ては中央分水嶺の南北に於て差異あり。北部は寒氣更に烈しく、降雪丈餘に達する事少からず。風向は北及北西最も多し。冬季は農耕全く停止し、路頭行人稀なり。高山町附近の住民は降雪の候を待て、櫓を使用し、薪炭其他の貨物を高山町に送る。

産業 生業は農を主とし、住民十分七は之に従事す。但し氣候寒冷、地味礫礫なるを以て、耕地極めて少く、唯宮川及其支流沿岸最も開けたり。但し米麥共に國內の需要を充たすに足らず。蠶業は盛にして、美濃と共に本邦内最も盛なる蠶業地の一なりとす。穀産の缺乏は之に賴て補ふ。農産物は米(一〇萬石)、麥(二萬三千石)、大豆、粟、稗、馬鈴薯、蘿蔔(八九萬圓)、林業、全國山林面積五十七萬町歩、内御料林十四萬町、國有林三四萬五千町あり。御嶽の南麓なる若樺、樺谷の二山は最も著名なる御料林なり。到る所扁柏、花柏、松、杉、樺、カツラ、ブナ、栗、樺の真材に富めるを以て、工匠の術夙に精妙に達し、飛騨工匠の名由來實に久し。公社寺私、林伐採額二八萬圓、工業、漆器三萬圓、春慶塗といふ和紙(一萬圓)あるのみ。機織は重に絹織にして、白及縞の二種あり。飛騨紬と稱し、其實の堅實なるを以て知らる。但し産額僅に一萬圓内外に過ぎず。陶器も價二千圓に滿たず。一細工は僅に名物として存するのみ。此諸品皆主として高山町の製出に係る。

交通 地勢高峻山岳多きを以て交通不便なり。河流は水勢急にして、舟筏を通ぜざれども、道路は皆之に沿ふて走る。仍て中央分水嶺以北は越中との交通多し。以南は美濃との往來便なり。鐵道は北陸線と中央線との連絡線國内を通ずるの計畫あり。陸路は幹線南北に通ずるもの高

山町を基點とし、南走して益田川に沿ひ、美濃金山町に出づるもの益田街道といひ、高山町より北向し、宮川の支流及高原川の支流を傳ひ、古川、船津の二町を経て、越中を通ずるを越中街道といふ。支線は下呂驛より分れ、美濃郡郡界に出づる中津街道、宮川に沿ふて越中に入り、本街道に合する西街道、高山町より東方信濃に通ずる信州街道、高山町より西南美濃の郡界に通ずる郡上街道あり。

沿革 飛騨は上古斐陀に作る。成務天皇の時、大八幡命斐陀國造たり。孝德天皇の時、國府を大野郡に置く。今の大名田村七日町是なり。後、荒城郡に移す。今の吉城郡國府村是なり。此事異説あり。國府村の條を見るべし。後、舊地に復す。建久年中、多好方荒城郡の地頭となり、弘安年中、藤原朝高飛騨の地頭たり。北條氏の末信濃の守護小笠原貞宗州事を兼知す。建武中、興輔小路高基國司に任じ、世々小島に居る。足利氏の反するや、貞宗之に應じ、子政長に至るまで、州事を兼管して國司と相抗す。國司傳ふる三世、尹綱に至り、應永年中、足利氏京極高員をして來り攻めしめ、尹綱敗死す。是を前國司とす。足利氏本州竹原郷を高員に給ひ、尹綱の從子師言を國司とす。三世、照綱に至り、小島時熙に試せらる。之を中國司とす。師言の姪、小路基綱國司となり、五世、宣政に至り、半丸重親の逐ふ所となる。之を後國司とす。是より先き高員の家臣三木則綱竹

原郷に居り、勢漸く大なり。孫重親、河城に移り、近郷を略し、其孫自綱に至り、國內の諸族を征服し、松倉城に居る。天正十三年、豐臣氏金森長近をして之を討たしむ。自綱敗れ出亡す。乃ち長近を封じて高山に治せしむ。六世、頼吉に至り、元祿年中、徳川氏之を羽州上ノ山に徙し、前田氏をして、成隊を高山に置かしめ、代官伊奈忠篤をして、國内を治せしむ。既にして成を罷め、城を毀ち、郡代を置きて、州事を統べしむ。明治維新改めて高山縣とし、後廢して、美濃縣より兼治す。筑摩縣廢せられ、岐阜縣に屬し、以て今日に至る。初めは郡役所を高山に置き、三郡を管せしが、明治三十年各郡に郡役所を置きて、分轄せしむ。

文籍 飛州志(長谷川忠崇、四四三)、斐太の路芝岐、阜縣山林會(四四三)、飛騨史(大綱、岡村利平、四四四)、飛騨山川圖(村利平、四四四)、
ヒタマオカ(永玉岡) 【福島】岩代國大沼郡の村。人口五五。
ヒタマトウケ(永玉嶺) 岩代國大沼南會津の郡界に在る下野街道の山路。福永嶺、關山嶺、大内嶺ともいふ。皆街道前後の驛名に採れるなり。
ヒタモリ(美守) 【新潟】越後國中頸城郡の村。保倉、飯田二川の間に在り。和名抄夷守郷の遺稱とす。而も夷を美に誤り、ヒナをヒタに訛る。人口三六。
ヒタヤマ・ジョウシ(比田山城址) 【廣島】備後國比婆郡久代村に在る城址。應永年

中宮利吉より七世此に居り、後西城町の太富山に移りしといふ。一説には出雲國比田より此に移りしを以て、比田山と稱すといふ。
ヒタラエンルム 【樺太】「小霜」及「美多」其の舊稱。
ヒタリ(日足) 【和歌山】紀伊國東牟婁郡三津村の大字。新宮、本宮間の山驛にして、熊野川に沿ふ、郵便局あり。
ヒタワタシ(ハマ) (長渡濱) 網地島を見よ。
ヒヂ(日出) 【大分】豊後國速見郡の町。別府灣の西北隅に在り。御倉崎其西を擁し、松ヶ鼻其東に斗出し、一小港を抱く。町は豐前街道に當り、九州鐵道大分線の停車場あり。大分驛へ一六哩。又陸路六里一七町。郡役所警察署郵便局稅務署小林區署、區裁判所出張所等あり。港は水深三尋。泥底にして碇泊に適す。中國、四國、九州諸港へ往復する汽船屢寄港するあり。商業盛なり。重なる輸入品は洋糖、食鹽にして、輸出品は米穀とす。日出城址は市街の南端に在り。青柳城、淨津城、鳴谷城等の稱あり。建武年中大神氏始めて此に城き、子孫此に據る。天正十四年、統氏の時、島津氏の陥る所となる。慶長六年、木下延俊掃部姫路より移封せられ、二萬五千石を食む。乃ち舊城を修めて居り、世襲して明治維新に至る。城址は北に深濶あり。

ヒチカイ(日近) 【岡山】備中國吉備郡の村。人口八五。
ヒチカタ(土方) 【静岡】遠江國小笠郡の村。人口三四。

ヒツチ

堀原景時守護たり。元弘年中高橋英光守護となり。松山城に居る。足利尊氏反するに及び、高師秀を守護とす。正平年中山名時氏歸順するや、國の豪族秋庭重明之に應じ、師秀を逐ひ、重明守護代となり。松山に居る。天授年中將軍足利義滿細川頼之を以て守護を兼ねしむ。應永年中其弟満之職を襲ぎ、子孫相承して勝久に至り。大に衰へ、莊元實は猿掛(小田郡)に、三村宗親は成羽に割據す。永正六年上野頼久秋庭氏に代りて守護代となり。松山に居る。同十二年將軍足利義種細川政春を守護に任じ、鴨方に治す。既にして大内、尼子二氏來侵し、尼子氏遂に西北諸郡を略す。天文二年莊爲實上野氏を滅し、松山に徙り、小田下道、上房三郡を併す。同二十二年三村宗親の子家親毛利氏に附し、猿掛の城主種田爲資を攻めて之を降し、川上小田二郡を取る。永祿三年家親毛利氏の援を乞ひ、莊高實を滅して松山に據る。同九年美作に入り、宇喜多氏の刺客に殺され、元親嗣ぐ。元龜元年宇喜多直家來侵し、鴨方に細川通政を殺し、松山に元親を圍む。毛利氏之を救ひ、直家を伐ち却く。天正二年織田氏元親を誘降す。明年毛利氏の兵松山を陥れ、元親を殺し、細川通直を降し、全國を併吞す。同十年羽柴秀吉大舉來伐て高松城を圍む。毛利氏遂に河邊川以東の地を割きて和を講す。後秀吉其地を宇喜多秀家に加賜す。關ヶ原役後徳川氏秀家の地を小早川秀秋に、川津連安

ヒツク

を庭瀨に、木下家定を足守に、時田廣定を淺尾に封す。秀秋卒し、小早川氏除封、小堀政次松山城に在りて政を視る。子正一に至り罷む。元和の初池田長幸を松山(後、板倉勝澄に伊東長實を岡田に封じ、寛文の末池田光政新懸田を其二子政吉、鴨方藩、輝藤生坂藩に分與す。元祿年中關長治を新見に封す。是に於て幕末に庭瀨板倉氏二萬石、足守木下氏二萬五千石、岡田伊東氏一萬三千石、松山板倉氏五萬石、新見(關氏)一萬八千石、鴨方(池田氏)二萬五千石、生坂(池田氏)一萬五千石、淺尾(藤田氏)一萬石の八藩あり。明治維新松山を改めて高松と稱し、成羽藩を立て、倉敷縣を置き、尋で皆廢して深津縣に併せ、更に改めて小田縣を置き、明治八年十月岡田縣の所管となり、以て今日に至る。

ヒツメ

ヒツメ(種瓜) 【京都】山城國乙訓郡漆村の大字。古は火瓜にも作る。宇治拾遺の火瓜條も此所なるべし。 【埼玉】武藏國北足立郡南平柳村の大字。二十九日にも作る種瓜の薬師堂は俗に岡ノ薬師と呼び、領家村光音寺、慈林村寶嚴院の薬師と合せて此邊の三薬師と呼ぶ。ヒツメ(日詰) 【巖手】陸中國紫波郡の町。奥州街道の一驛にして、もと郡山町といへり。盛岡を距る南四里半。附近に米田多く、米の産出は國內第一の稱あり。郡役所警察署郵便局等あり。鐵道東北本線の日詰停車場は町より二十八町を隔てたる赤石村北日詰に在り。比瓜館址は古の斯波城の址にして、後藤原秀衡の族比瓜五郎季衡の居りし所といふ。季衡は文治五年其族と共に頼朝に降る。後、斯波氏居る。斯波御所の稱あり。天正年中詮森の時南部信直攻めて之を陥る。合二五七。ヒツメ(廿九日) 【石川】能登國鹿島郡島屋村の大字。日終の義なり。ヒツラオカ(南面岡) 【羽後國南秋田郡面湯村大字。眞坂に在る丘陵。俗に三倉鼻又袖々浦と稱し、八郎湯の眺望第一と稱す。明治十四年車駕東巡の際此名を賜はる。ヒツレ(日連) 【神奈川】相模國津久井郡の村。合三三八。ヒデサカトウケ(日出坂) 【攝津國有馬郡より丹波國多紀郡油井に出る山路。此より篠山へ一里半。ヒデア(日出谷) 【新潟】越後國東蒲原郡

ヒトア

の村。阿賀野川の右岸にして、草倉銅山に近し。會津領の時鹿瀬組の一部なり。山嶺を以て北蒲原郡と限る。郵便局あり。合三三七。 【埼玉】武藏國北足立郡桶川町の大字。ヒトアナ(人穴) 【静岡】駿河國富士郡上井出村の大字。甲斐本柄湖より右左口に通ずる山道に當り、一小驛を成す。大宮町より北約四里。此所に人穴と呼ぶ洞穴あり。洞口稍半圓狀を成し、洞約二間。口より約十間を過ぐれば中央石柱あり、之を須彌山の柱と呼ぶ。其奥に行臺あり、即ち行者の參籠する所にして、是より奥は石を累れて通路を絶つ。洞中辨天岩角行富士講の開祖ノ腰掛岩等あり。洞外には角行の墓及富士講先達の壽碑數多あり。此洞穴は大噴火の際溶岩の流動に當り、岩體の急激なる冷却によりて凝結して空洞を生じたるものにて、火山に於て屢見する所の顯象なり。富士の北麓には胎内澤あり、亦同様なりとす。ヒトイチ(一日市) 【秋田】羽後國南秋田郡の村。陸羽街道の一驛なり。秋田より五里二三町。五城目停車場は此地に在り。五城目町まで一里。郵便局あり。合三三三。ヒトウガイ(埤頭街) 【臺灣】鳳山街の舊稱。ヒトウカク(鼻頭角) 【臺灣】臺灣島の北東角。北斗にも作る。三貂角の北西北七哩。高四〇〇尺の半島を成し、遠望恰も孤島の如し。此島の西傍に小舟港及漁村あり。

り。角上に燈臺あり。第四回回轉白光明弧は南八九度東より北一度西まで二五八度間に於て、三〇秒毎に一光輝を發す。燈高海面上二二一尺。晴天光達二二哩。位置は東經一二一度五五分、北緯二五度八分。岬頭に鼻頭灣あり。二に石炭港といふ。基隆港の南東約七哩。ヒトエ(一重) 【長崎】對馬國上縣郡に在りし村。明治四十一年琴村に合す。ヒトエヤマ(一重山) 山城國相樂郡の南端に在る山。木津町及加茂村に屬し、大和國添上郡に界す。 ●信濃國埴科郡屋代町の東嶺。名寄歌枕に、花はなほ名のみなりけりひとへやま、八重にかさなる峰の白雲と詠める名所なり。ヒトカツワン(單冠灣) 【北海道】千島國擇捉島の東岸に在る灣。灣内廣瀨にして東南に面し、水深深からず。東南風の外は避泊に適す。北に單冠山聳え、落葉松樹松繁茂す。ヒトカヤ(仁谷) 【新潟】越後國東蒲原郡四川村の字。永享年間會津の名族新宮氏兄弟此地にて自殺す。其首を眞名家に傳へんとせしに崇ありしかば、仍ち此所に葬り、眞首宮と呼ぶといふ。或は此を以て高倉宮以仁王の事とす。以仁王の遺跡と稱するもの東山(東川村)に在り。ヒトクニヤマ(人國山) 紀伊國西牟婁郡萬呂村に在る名所。秋津の東に當る。常ならぬ人國山の秋津野の、かきつばたをよ夢に見しかも萬葉集。

ヒトク

ヒトクラオンセン(庫温泉) 【兵庫】攝津國川邊郡東谷村大字。一庫に在る温泉。一に上畑温泉といふ。鹽類泉にして、無色透明無臭無味なり。肥肝病充血多血逆上。飲めば里等に効ありといふ。ヒトコウベ(八首) 【巖手】陸中國江刺郡來里村の字。もと南部領の境なれば、仙臺の番所ありて之を守れり。仙臺の士沼邊越後の采邑たりき。ヒトコウベ(八首嶺山) 陸中國江刺郡栗木嶺山を見よ。ヒトコト(一言) 【静岡】遠江國磐田郡井通村の大字。天龍川と見附の小天龍川との間に在り。此所に一言坂とて本多忠勝の戦功を顯はせし所あり。元龜三年十月武田信玄兵三萬五千を以て、來りて濱松を壓す。徳川家康乃ち大久保忠世本多忠勝・内藤信成等に四千餘人を率ゐて偵察せしむ。此時忠勝歳二十五。黒糸織の鐵に、鹿の角打たる兜を着、蜻蛉切の鎧を提げ、單騎敵陣近く乗入、燒草に火を放つ。甲州勢は敵一人も過ぎざり、此坂下まで尾撃するを、忠勝敵味方の間を縱横に乗り、割りて味方一騎も失はず。濱松に歸城す。家康大に賞して八幡大菩薩の權化なりといひ、甲州勢は「家康に過ぎたるものか二つあり、からの頭に本多平八」といへる歌を書きて之を頌せり。ヒトコトノマ(一沼) 【北海道】千島國擇捉島の在る沼。周圍三里。ヒトサカトウケ(八坂峠) 因幡美作二國

ヒトツ

に跨る山路。一に志戸坂峠に作る。因幡に在る山路を駒蹄といふ。因て駒蹄坂とも稱す。鳥取姫路間の要路なり。ヒトツキ(二本) 【東京】武藏國「東京市」赤坂區を見よ。 ●「愛知」三河國碧海郡に在りし村。明治三十九年富士松村に入る。 ●「石川」加賀國石川郡の村。合三三三。ヒトツクリ(一壘) 【宮城】陸前國玉造郡の村。岩手山町の北に接す。壘址あり。戰國の頃大崎氏の臣一栗兵部の居りし所といふ。合三三九。ヒトツツムリヤマ(二頭山) 佐渡國に在る東教山の一名。ヒトツツシ(二ツ橋) 【東京】武藏國、東京市「麴町區」を見よ。ヒトツツマ(二葉藻) 日向國宮崎郡の勝地宮崎町より東方一里。日向灘に沿へる沙濱とす。老松は孤葉のもの多きを以て此名ありといふ。稻荷社あり。其南數町に鱧泉浴場あり。ヒトツツマツ(二松) 【千葉】上總國長生郡(舊長柄郡)の村。一ノ宮町の北に當れる大村にして中古一ノ莊と呼び、寛永年中分れて二十二村となりしが、後復た一村となる。一松神社あり。もと第六天神又諏訪明神と呼べり。合三三三。ヒトツツナギ(一柳) 【愛知】尾張國愛知郡に在りし村。明治廿九年荒子村に合す。ヒトト(一背) 【石川】能登國鹿島郡島屋

ヒトネ

村の大字。舊庄名にして、俗にツトと呼べど誤なりといふ。一背島といふ島の名より假りし名と傳ふ。ヒトネカワ(比刀川) 上野國に在る廣瀬川の古名なりといふ。勢多郡箱崎村にて利根川に分れ、新田郡手塚村にて復た合す。夫木集に、都よりかへりくるまの里人は、ひとね川をや渡らざるらん。難語考には、利根川の外に別に比刀川なると説けり。ヒトノセ(飛瀨瀨) 【廣島】安藝國佐伯郡の村。能美島の内に在りて、安藝郡江田島との地頭に當る。其地頭を堀越又は船越といひ、往古は潮水南北に通ぜしが、後世埋塞して能美・江田の二島を連接するに至れりといふ。飛瀨瀨とは當時海水淺くして、飛渡るべきばかりなる故名くといへど、後世其字を充てしならんとの説なり。合三三六。ヒトマツ(人舞) 【北海道】十勝國上川郡の地名。郡の南半を占む。帯廣市街へ約九里。ヒトミ(人見) 【埼玉】武藏國大里郡藤澤村の大字。深谷驛の南半里。人見山と呼ぶ孤丘あり。丘上に淺間社あるより淺間山ともいふ。此邊中世人見氏の領せし所なり。康正二年上杉性順父子武州人見へ打出て深谷へ城を取立つ。是に於て成氏(古河公方)來り攻め、上杉敗軍せる事鎌倉大草紙に見ゆ。 ●「千葉」上總國君津(舊周准)郡周西村の大字。小糸川の口に

接す。愛宕山戸崎山の脈長く西に延びて此に至り、海に盡くる所を人見山といふ。東京灣を航するもの、目標なり。磴階二百五十餘級、其巔に妙見祠あり。又人見社あり。此地又古家多し、中に内裏塚といふは、瓦磚を疊みて築き、丘上小祠あり、祠下に石舟あり。蓋し上古の墳墓なり。

ヒトミ(二箕) 【福島】岩代國北會津郡の村。村に源義家凱旋の時營みし八幡宮あり。當時從卒及役夫に土一箕づゝを運ばしめ遺營ありしより、其地を一箕山と稱せしと傳ふ。今ヒトミと呼ぶ。合三三六。

ヒトミ(八人見原) 武藏國北多摩郡多摩村の原。多摩川の岸なり。觀應三年(正平七年)閏二月二十日新田義宗足利尊氏之軍を此地に撃つ。利あらず、退いて入間川を保ち、二十八日に至り、小手差原に再戦す。此時義宗の別軍義興義治は關戸に在り、三浦等の降兵を率ゑ、急に鎌倉を襲ひ、二十三日之を取る。

ヒトモシヤマ(火燈山) 越前國坂井郡丸岡町の東に時つ山、加賀國に跨る。高三一三八尺。火山岩より成る。天正三年織田信長加賀の一向宗徒を討ちたる時、僧徒還れて此邊に來り、坊を營めるもの多く、山腹に堂屋敷と呼ぶ所あり。當時越前の兒童此坊に來り、字を習ふもの長に來たり夕に歸り、山路常に燈を用ひしかば、火燈山と名けしといふ。

ヒトヨシ(人吉) 【熊本】肥後國球磨郡の町。郡の首邑にして、球磨川に跨り、城山

を負ひ、山水秀麗、市街清潔にして、風景最も佳なり。郡役所、警察署、區裁判所、郵便局等あり。合三三三。此地は山間に僻在し、從前各地との交通極めて不便なり。北は山岳重疊して、五木谷五箇庄より遠く、矢部地方に連り、人跡の到らざる所多く、此地方には川邊川の流に沿ふて至る。之を五木越道といふ。是より少く西に萬江川を溯りて、松球磨(八代郡)地方に至る。徑路あり。又南は一帶の山嶺連り、飯野越、加久藤越、吉田越、田野越等ありて薩摩に通じ、東は皆越、櫻木越、米長越等ありて日向に至る。而して西佐敷に至る行程一二里、距離最も近し之を人吉の本道とす。又西北球磨川に沿ひ、八代町に至るの山道あれども、皆險峻を極め、往來容易ならず。唯球磨川の急流に乘じ、輕舟を以てすれば、半日にして八代町に達すといふ。其間一六里とす。今鐵道開通し、交通の便前日の比にあらず。停車場は隣村大村に在り。人吉城址は相長長頼の創築といふ。相長氏は二階堂爲憲より出づ。爲憲六代孫周頼遠州相長に住し、相長氏を冒す。其曾孫長頼建久九年初めて肥後に下向し、此に居る。十代孫爲頼の時、八代郡古麓城主相和氏と戦ひ、八代郡を侵略し、古麓城に移る。是より八代、兼北、球磨三郡を領せしが、爲憲六世孫孫義陽益城郡響原に甲斐宗運と戦ひ敗死す。其子忠房幼弱なるを以て、人吉城に歸る。其弟長每

を以て、山水秀麗、市街清潔にして、風景最も佳なり。郡役所、警察署、區裁判所、郵便局等あり。合三三三。此地は山間に僻在し、從前各地との交通極めて不便なり。北は山岳重疊して、五木谷五箇庄より遠く、矢部地方に連り、人跡の到らざる所多く、此地方には川邊川の流に沿ふて至る。之を五木越道といふ。是より少く西に萬江川を溯りて、松球磨(八代郡)地方に至る。徑路あり。又南は一帶の山嶺連り、飯野越、加久藤越、吉田越、田野越等ありて薩摩に通じ、東は皆越、櫻木越、米長越等ありて日向に至る。而して西佐敷に至る行程一二里、距離最も近し之を人吉の本道とす。又西北球磨川に沿ひ、八代町に至るの山道あれども、皆險峻を極め、往來容易ならず。唯球磨川の急流に乘じ、輕舟を以てすれば、半日にして八代町に達すといふ。其間一六里とす。今鐵道開通し、交通の便前日の比にあらず。停車場は隣村大村に在り。人吉城址は相長長頼の創築といふ。相長氏は二階堂爲憲より出づ。爲憲六代孫周頼遠州相長に住し、相長氏を冒す。其曾孫長頼建久九年初めて肥後に下向し、此に居る。十代孫爲頼の時、八代郡古麓城主相和氏と戦ひ、八代郡を侵略し、古麓城に移る。是より八代、兼北、球磨三郡を領せしが、爲憲六世孫孫義陽益城郡響原に甲斐宗運と戦ひ敗死す。其子忠房幼弱なるを以て、人吉城に歸る。其弟長每

天正十五年豊臣氏西征の時、本領安堵五百町を賜はる。關ヶ原役西軍に與みしたれども、救され舊より球磨四十一村、二萬二千石を賜はり、世襲して明治維新に至る。明治十年薩軍一擧して熊本を抜かんとして敗れ、矢部地方より遁れて此地に入り、四郷、桐野、村田の徒皆來り會し。此地の險に據り、兵備を整へ、將に他を襲はんとす。官軍乃ち別働第二旅團を以て中堅とし、山田少將山地中佐等之を指揮し、六月一日此地に入り、城下に逼る。城址に據り、拒戦甚だ力む。官軍劇戰連捷して遂に之を陥る。此地は鹿兒島方面と豐後方面との中央に位し、戰略上極めて重要なを以て、賊の恃んで根據となせし所なるが、之を失ふに及び兵氣沮喪する事甚だし。青井神社は郡中北部の鎮守にして、阿蘇氏の一族此を鎮せし時、平城天皇の大岡二年阿蘇三社を勧請せるものといふ。社内青井と呼ぶ名水あり。社司亦青井を氏とす。阿蘇家の裔にして、相長家賓客を以て之を遇し、社領千石を附せり。但し、球磨で名所は青井の御門、前は蓮池樓馬場とす。

【文籍】人吉善昌記花外樓主人書言。ヒトリサワ(水取澤) 【神奈川】武藏國久良岐郡日下村の大字。横濱なる大岡川の水源地にして、一嶺を以て相模の鎌倉郡と隔つ。眞宗の古刹寶壽寺あり。ヒトリミ(獨見) 延喜式の古驛名。後世其名其址共に亡びたり。古今六帖紀實之の

に今の多々、村ならんと説く。萬葉集に相送驛使到夷守驛とあるに、志賀ノ濱邊とあれば、海邊ならんといふより、此説出づ。【宮崎】景行天皇の行幸ありし日向國の遺跡、亦延喜式の日向の驛名なり。其地今、西諸縣郡小林村大字細野に當るといふ。西に霧島山の別峯夷守岳峙つ。其麓に夷守神社あり。

ヒナンガイ(卑南街) 【臺灣】臺灣本島東海岸の南部、卑南溪口に在る一市街。卑南街、舊卑南大社、馬關街(舊馬關)、新街、舊卑南街の三より成り、臺東廳警察署、郵便局、官立醫院、守備隊屯所、測候所、税關、官立公學校等あり。毎月四回沿岸定期汽船寄港す。三街を合せて合七三。居民多く農業を營み、麻、胡椒の産あり。漁業は四、五、六月の間最も盛なり。供給品は米、粟、甘藷、牛肉、鶏卵等あり。井水は夏期不足を告ぐる事あり。天候は四月より九月の間は降雨多く、氣温は華氏八〇乃至九〇度。十月より翌年三月までの間は降雨少く、強風多し。氣温は七〇乃至八〇度。暴風は舊曆四、五、七八月に多く來るといふ。此附近の沿岸は長瀟激しく一も着舟の地なく、河口三角洲の北東端は長瀟稍弱く、唯一の上陸地なれども、尙端艇を行る能はず。練熟の支那小船を以て濤勢を利用し、濱上に乗り上げるのみ。故に此地に到らんとするものは南灣、黑岩灣又は蘇澳灣に在て、平穩の天候を待たざるべからず。此地は明治七

歌に、「筑紫なる大渡川大方は、我獨のみ渡る浮世か」とある。「獨のみ」の詞は獨見驛にかけたものとすれば、大渡川は即ち瀟海なれば、此附近に當るものゝ如し。ヒドロ(干泥) 【福島】磐城國東白河郡原村大字瀟岐の字。瀟泉湧出す。温度華氏八二度。ヒトワズレズヤマ(人不忘山) 磐城國白河町の東約二里なる峰なりといふ。古歌に、「陸奥の邊隈川のあなたにて、人不忘の山はさかしき」。

ヒナイケン(肥内郡) 【嚴手】古の陸奥の郡。東鑑には比内郡に作る。五十四郡考は、今の二月郡是なりといふ。東鑑に、藤原泰衡敗れて肥内郡管轄に至り、其臣の爲に賦せらる。此管は即ち二月にして、二月は即ち第二の閉伊の謂なりといふ。一説肥内は出羽の山本郡なり。此郡に上檜内、下檜内二村あり。永慶軍記に、永祿天正の際出羽比内郡あり、秋田城介の族實泰此に居り、比内を以て氏とす。

ヒナガ(日永) 【三重】伊勢國三重郡の村。東海道に當り、宇道分は參宮街道の分るる所にして、驛舎あり。日永は神風抄の所謂日永御關、岡本御厨に當り、鴨長明が「行ひひめい、濱村に立よらん、朝明すきては日永なりけり」と詠みし地なり。多く團扇を製す。俗に日永團扇といふ。日永城址は平氏の族日永權三郎の居りし所なり。元久元年亂を成し敗死す。又トマツ山といふ梅林あり。四日市、民の遊

年我征養の役ありてより、清國政府の專南應を置きし所にして、光緒十四年に至り改めて臺東直隸州とし、知州衙門を置けり。明治二十八年我領臺の時約五百の兵此地に屯在せしが、清國は此地の地方官及兵隊を召還せずして、其まゝ我國に引渡せしが、交通不便なれば、此地の者は之を知らず、糧食の輸送絶えし爲め、之を生蕃に徴發せしかば、端なく生蕃と戦端を開き、終に我兵の派遣により之を鎮定するを得たり。

ヒナケイ(卑南溪) 【臺灣】臺灣東部の南に在る川。水源、中央山脈の關山。東流して新武路溪といふ。新開關に至り南折し、北勢瀟溪を合せ、東南流して卑南街に至り海に入る。

ヒヌキ(日貫) 【島根】石見國邑智郡の村。郵便局あり。合三三〇。

ヒヌマ(潤沼) 常陸國東茨城鹿島二郡に跨る沼。東西二里一二町、南北一二町より二十四五町に至る。潤沼川の水を受け、餘水は川又にて那珂川に合じ海に入る。鯉、鱒、鯉、白小魚を産し、又雁、鴨等水禽多し。潮汐出入し、舟楫の便あり。常野の運輸上重要な所なり。此湖舊名を阿多可名湖といひ、俗に日沼に作る。常陸國誌は森間湖を正しとすといへり。將門記に森間之江邊に貞盛の妻を捕ふる事を記すも是なり。

ヒヌマカワ(潤沼川) 常陸國東茨城郡に在る川。水源、朝房山の西、東南流して潤

ヒナガ(日長) 【愛知】尾張國知多郡に在りし村。明治三十九年金澤村と合し、旭村となる。伊勢海に面し、砂嘴長く海中に出づ。熱田港より望むに顯著なり。日永崎といふ。

ヒナグ(日奈久) 【熊本】肥後國葦北郡の町。郡の北端なる海岸に沿ひ、熊本、鹿兒島間の國道に當る。有名なる温泉あり。土地魚介に富み、舟楫の便あるを以て來浴者甚だ多し。郵便局あり。熊本を距る南一四里とす。温泉は今、本湯、西湯、新湯、築地湯等の共川温泉あり。文久以來到る所に温泉を穿ち、客舎皆浴室を設く。本湯は明治二年藩侯命じて浴室を築かしむ。明治三十二年一大浴室を造る。西湯はもと湯湯と稱し、文久二年初めて之を穿ち、明治十三年今の浴室を建つ。新湯は文久二年の創設。明治二十一年の改築。築地湯は最近の穿鑿にして、浴室は明治五年の改築とす。諸泉皆炭酸泉にして、神經系病、皮膚病等に効ありといふ。客舎四十戸あり。合三三三。

ヒナクラヤマ(日名倉山) 播磨國赤松郡美作國英田郡に跨る山。一に離倉に作る。ヒナゴ(羅五) 【愛知】尾張國東春日井郡に在りし村。明治三十九年一部は篠木村、一部は高藏寺村に入る。内津川の玉野川に合流する所なり。

ヒナシ(日生) 【岡山】備前國和氣郡の町。明治三十九年町制を施く。ヒナセとも呼

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナデ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナモリ(夷守) 【福岡】延喜式に見えたる筑前の古驛名。今、糟屋郡仲原村大字阿寒の日守といふ地なるべしといふ。一説

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

ヒナツ(日撫) 【滋賀】近江國阪田郡の村。合三三三。

ヒナツ(日夏) 【滋賀】近江國犬上郡の村。愛知郡界に接し、もと庄名なり。上古日撫氏の舊邑なりとの説あり。合三三〇。

沼に注ぎ、復た出で、川又に至り那珂川に合し、海に入る。

ヒネイチ(日根市) 【大阪】河内國中河内(舊河内)郡の村。和名抄大戸及大宅二郷の地にして、上古の草香は即ち此邊なりといふ。今、日下の大字あり。亦大相に通ずる善根寺越は即ち上古の孔舎衛坂なり(孔舎衛往々孔舎衛に誤るべし)。

ヒネグン(日根郡) 【大阪】和泉國に在りし郡。國の南端に在り、南は紀伊國那賀、舊名草、舊海部の三郡、東は舊南郡、西北一帯海に面す。東西七里二六町、南北四里三町、面積一一方里三四。北近義、南近義、熊取、北中通佐野、日根野、長瀬、上之郷、南中通大土、田尻、新家、東信達、北信達、西信達、鳴瀬、樽井、雄信達、尾崎、東鳥取、西鳥取、下莊、淡輪、深日、孝子、多奈川の二〇村を有せり。明治二十九年廢郡、南郡と合して泉南郡となる。日根の名は既に日本書紀、允恭天皇の條に見ゆ。和名抄は比爾と註し、鳥取、呼、啖、美、近義の四郷に分つ。

ヒネノ(日根野) 【大阪】和泉國泉南郡舊日根郡の村。中世日根野庄といへり。上古茅渟宮のありし時の遊獵場にして、大井關川の北に在り。日根神社は、此地の生土神にして、大井堰大明神と稱す。日根造の祖、德新宮使王を祭る。古は泉州五大社の一なりしが、今は僅に郷社たり。其多寶塔金堂は八百年前のものといふ。比賣神社は日根神社の南に在り。瀧口大明神と稱す。交通要を記るといふ。茅渟宮址と相

近きを以て或は然らん。日根行宮、址も亦此に在り。延暦二十三年桓武天皇行幸行宮を置き給ひし地なり。白元三。

ヒノ(日野) 【東京】武蔵國南多摩郡の町。甲州街道の一驛にして、鐵道中央東線の停車場たり。王子町の東一里二六町府中より二里八町。毎月六十の市を開き、生絲、繭米穀等の賣買をなす。此地多摩川の岸を距る二〇町に過ぎざれば、夏季都人士來りて香魚を漁し、或は漁せしめて賞味するもの多し。郵便局あり。八五三三。 【京都】山城國宇治郡醍醐村の大字。醍醐寺の南に在り。日野家世々の所領にして、文永の頃は近衛基平の山莊あり。後醍醐後深草二院の御幸ありし事、増鏡に見ゆ。法界寺は日野の中央に在り。俗に日野薬師と稱す。永承年中日野實業諸堂を中興し、文庫を置く。本堂は天正年中燒失し、今、阿彌陀堂を以て之に充つ。文庫は亡びたれど、法界寺文庫の印ある古冊々々世に發見すといふ。本尊の薬師は女子の乳汁に乏しき者祈願すれば靈現ありとて、參詣する者多し。阿彌陀堂は今特別保護を加へらる。 【兵庫】播磨國多可郡の村。古の那珂郷の地なり。大字大木に、天目、神社あり。合三六。 【群馬】上野國多野郡舊多胡郡の村。御宿山陰、結川の水源なる山地にして、舊緑野、甘樂二郡の間に介在し、六、七里に亘る。古來絹の産出を以て有名にして、和訓栞三才圖會共に日野絹の事を載す。延喜式

となり、三の諸水あり、因て、菅野神光寺川を以て水道を通じ、菱根等六村を置くといふ。一説には、此川の東轉は慶長以前ならんと、いふ。何となれば、建長康永の頃既に高岡、稻岡、常松等(舊流址)に出来たる新地名の名古文書中に見え、又中古古菱根池の名稱あればなり。或は建長頃より東流せる支脈を生じ、東西二方に分流せるならんと、いふ。支流の水源は概ね砂礫を産するを以て、採集の際土砂を流す事多く、河床漸く高くなり、農灌水の害あり。然れども沿岸の地に灌漑の利を興ふる事頗る大なり。舟楫の便は、木次、三刀屋の邊に至りて止む。兩岸堤上に榎樹を植ゑ、生蠶を收穫する所あり。

ヒノカワゲン(鏡川郡) 【島根】出雲國六郡の一。國の西北部を占む。四境、東は八東郡に接し、其中央に尖道湖を控へ、東南は大原飯石の二郡、西南は石見國安藝郡に連り、西北一帯日本海に面す。東西七里一五町、南北九里三三町、面積三三三、方里七四。行政上、平田、杵築、今市の三町、津原、出西、伊波野、直江、久木、出東、灘分、國富、壽樂、鵜瀬、西田、北濱、久多美、佐香、檜山、東、窪田、山口、乙立、田儀、田岐、江南、西濱、神西、知井、宮、布智、古志、高松、園、荒木、杵築、日御崎、輪、瀧、高濱、四瀬、川、跡、大津、鹽冶、朝山、神原、上津、久、荒茅の四四村に分ち、郡役所を今市町に置く。戶數二五、五、合三、八、七、地勢、本郡は神門、斐伊二川の下流に沿ひ、左に

貫絲の内に、上野國絶三百拾疋、同種物交易の内に其絶五十疋とあるは是なりといふ。近年まで舊緑野郡に屬せり。白元二。 【山梨】甲斐國北巨摩郡日野春村の字。八ヶ岳の裾野にして、釜無川に沿ふ。空野あり。日野原と呼び、東西一里二〇町、南北一里四一町、面積三三六〇町。水利稍便なるを以て、維新後開墾を試み、桑、茶、葡萄等を栽培し、一時は移住者ありしが、土地瘠薄にして、寒氣甚だしく、肥料運搬不便なるを以て、久しからずして廢絶せり。日野春停車場を置く。 【滋賀】近江國蒲生郡の町。蒲生川の上游なる一市街にして、蒲生氏が城せるより開けたりといふ。警察分署、郵便局等あり。八幡町の東南六里、水口驛と一嶺を隔て、約二里とす。近江鐵道の日野車驛は隣村北比都佐村に在り。水口驛まで三哩七八鎮とす。居民商業を主とし、四方に行銷し、家を興す者多し。所謂日野商人といひ、近江商人の最とす。蒲生城址は、今、西大路村に屬す。將軍千晴の裔俊賢、源頼朝に仕へ、蒲生郡を領し、其子俊信、蒲生氏を稱す。子孫相傳へりて賢秀に至る。賢秀は佐々木義賢の部下なりしが、佐々木氏滅び織田氏に屬す。其子を兵衛といふ。信長女を以て之に妻す。天正十年信長試せらるゝや、賢秀信長夫人を初め、安土の男女悉皆を以て此城に避く。秀吉賊を平定するに及び、兵衛信雄に從て京師に至る。秀吉其功を賞して、五千石を封封す。後、伊勢の松坂に

徒り、後又會津に移り、百萬石を領す。日野大宮は延喜式の馬見岡神社にして、もと綿向山上に在りしを移せるなりといふ。天徳日命を祀る。蒲生氏の尊崇せる祠なり。正徳寺は本派眞宗に屬す。若衆法黨等の學僧出たり。佐々木高吉高綱の四男の開創と稱す。天台宗、興仙寺はもと昇仙峯に在り。高階氏(聖德太子妃族)修道の古跡といふ。寛正年中蒲生貞秀の臣稻田助宗、惠燈大師に歸依し、再建す。今の本堂は天明元年再建といふ。八五三三。 【岐阜】美濃國稻葉郡の村。合三六。 【長野】信濃國上高井郡の村。合三九。 【長野】信濃國下高井郡の村。合三九。 【ヒノノヅラ(日ノ浦)】肥前國北松浦郡南田平村大字小手田に屬する浦。陸地より平戸島に通ずる渡津なり。小手田に郵便局あり。

ヒノエマダ(檜枝岐) 【福島】岩代國南會津郡の村。國の西南隅に在りて、下野上野越後の三國に三方を圍まれ、僅に北方に開く。高山峻嶺峙り、朝夕日光を隠し、雪早く降る。土地瘠薄にして、麥だに熟せず。蕎麥を以て糧食に充つ。生業は小羽板を割き、又は之より曲物を製し、諸方に輸出す。上野國片品川の谷奥より此地に至る山道あり。尾瀬峠といふ。溪水は集りて檜枝岐川となり、北流す。伊南川の水源地とす。此村より約六里、只見川の水源地保年中銀を出せる傳坑あり。白元四。 【ヒノオカシ(ヒノシ)】ミササキ(檜尾)郡の村。山陰道に當り、其間驛を橋爪といふ。郵便局あり。街道は此にて、鏡部、生野の兩路に分れ、福知山に至り再び合す。龍、福寺は大字井尻に在り。曹洞宗を奉ず。開基不詳。本尊大日如來。享保三年越前松岡の獨輪和尚の再建といふ。關部町より四里一〇町。合四三。

の村。山陰道に當り、其間驛を橋爪といふ。郵便局あり。街道は此にて、鏡部、生野の兩路に分れ、福知山に至り再び合す。龍、福寺は大字井尻に在り。曹洞宗を奉ず。開基不詳。本尊大日如來。享保三年越前松岡の獨輪和尚の再建といふ。關部町より四里一〇町。合四三。

ヒノクチ(樋ノ口) 【埼玉】武蔵國秩父郡の村。合三三。 【ヒノクマカワ(檜前川)】大和國高市郡に在る川。水源、高取山、眞弓岡の東を過ぎ、久米寺の西を経て重坂川に入る。眞弓川、相川、又久米川ともいふ。流程約三里。 【ヒノクマシヨウシ(日隈城址)】【大分】豊後國日田郡日田町に在る城址。文祿三年豊臣氏宮木長次郎を日田郡の代官に任ぜし時築きしものにて、慶長五年毛利高政の築搦となる。關ヶ原の役毛利氏及大友氏の遺臣此城に據り、西軍に應ず。黒田氏の將栗山利安來り平らぐ。寛永年中廢城となる。

ヒノクマノアコヤマノミササキ(檜隈安古山陵) 【奈良】大和國高市郡坂合村大字栗原に在る陵。文武天皇の御陵なり。一に檜前ノ安古ノ岡ノ陵といふ。 【ヒノクマノオウウチノミササキ(檜隈大内陵)】 【奈良】大和國高市郡高市村大字野口に在る陵。文武天皇の御陵なり。俗に丸山と呼ぶ。 【ヒノクマノサカアイノミササキ(檜隈坂合陵)】 【奈良】大和國高市郡坂合村大字

寺陵一 【大阪】河内國南河内郡川上村。心寺内に在る陵。後村上天皇の御陵なり。 【ヒノカワ(樋川)】 【石川】能登國羽咋郡の村。合二七。

ヒノカワ(日野川) 近江國に在る仁保川の一名。越前國に在る川。水源、南條郡夜叉池、西北流し、今庄にて孫谷川、歸川を合せ、北流して武生の東に沿ひ、丹生、今立二郡を分界し、吉野瀬川、天王川、淺水川を合せ、終に足羽川と合す。流程一八里三町。 【伯耆國第一の大川】水源、日野郡多里村、印賀、小原、石見の諸川を合せ、郡の中央を東流する事八里餘、根雨に至り、根雨川を容れ、西北流して二部川に會し、西伯郡に入り、尻焼川を合せ、北流して海に入る。流程二〇里。上流の諸村盛に鐵砂を洗ふを以て、河口遠く砂洲を生ぜり。

ヒノカワ(斐伊川) 出雲國第一の大川。鏡川又は肥川に作り、又出雲大川の稱あり。水源、仁多郡船通山西流して、仁多郡の諸水を集め、北折して大原飯石の郡界を成し、三刀屋川及赤川を合せ、鏡川郡の東部を繞り、數派に分れて尖道湖に注ぐ。流程二一里二六町。其一派に新川あり。天保二年松平氏の開墾したるものなり。下流は往古武志より西折して杵築海に注ぎしが、寛永十二年の洪水溢溢し、東に潰決して七條に分れ、尖道湖に入る。當時國主京極若狹守入部の際にして、翌年其堤防を築き、東折の水流を一筋に導けり。今に其堤を若狹土手といふ。時に神門郡砂濱

に在るより此名ありといふ。水尊は阿彌陀如来境内樹多し。合四卷。

ヒミクン(水見郡) 越中国八郡の一。四境、南は射水西福波の二郡西より北は能登國羽咋鹿島の二郡に接し、東は富山灣に面す。東西五里一八町、南北八里一二町。行政上、水見町及太田・宮田・佛生寺・布勢神代十二町、加納・上庄・無速川・久目・阿尾・蔵田・余川・稻積・碓氷八代・宇波・女良の二〇村に分ち、郡役所を水見町に置く。面積二〇、六五七。地勢、郡の北西、南の三方山岳連なり。能登國界は即ち寶達山脈にして、城峰・白ヶ峰・碓氷山・高坂山等あり。射水西福波の界は其支脈二上山に連り、澁谷の岩崎に至り海に盡く。是等諸山の餘勢東に向て海に迫り、平地少く、道路險難なり。河川は上ノ莊川・阿尾川あれども、皆細流にして舟楫の利なく、僅に澁間の灌漑に資するに過ぎず。道路は伏木より水見に至り、是より海岸に沿ふものと、荒山越及志雄越を經由するものと、三線あり。皆能登に入る。農産物は米八萬石、大豆小豆甘藷一三三萬貫、國內第一。馬鈴薯・蘿蔔・草蓴・林産物五萬圓、漁獲物四七萬圓(鮭三七萬圓を主とす)。工産物は疊表・真産・蘆葦・硝石・メント・酒精油等なり。水見はもと射水郡の一部にして、和名抄の字納、阿努布西古江の四郡の地なり。中世以降水見、庄又は水見郡内など稱へし。明治二十九年分立す。水

見はもと水見に作りしが、火に因るを忌みて改むといふ。蓋し古烽火臺を置き、肅慎人又は越後・陸奥の蝦夷に備へしなり。近年熊無村附近に多く尙遺病患者を發見し、醫界に著名となれり。

ヒミツカタク(秘岩岳) 周防國玖珂郡の西北部に在る山。一に馬薮ヶ岳といふ。高三八九四尺。山麓廣村より二里二八町、西麓は都濃郡に跨る。

ヒミトウケ(日見峠) 肥前國西彼杵郡に在る山路。長崎より諫早・大村地方に出づる要衝にして、直立一三二〇尺。坂路險峻なり。近年崖を載り、道を閉きたれども、傾斜急なるを以て車を通じ難し。山下に日見・矢上の二村あり。

ヒムロ(水室) 大坂(大阪)河内國北河内郡の村。合三九。●(板木)下野國安蘇郡の村。合五五。●(水室山)をも見よ。

ヒムロガタク(水室岳) 周防國玖珂郡の南部に在る山。高二〇三〇尺。山麓伊陸村より一八町。

ヒムロヤマ(水室山) 山城國愛宕郡大宮村に在る山。●下野國安蘇郡の北偏に在る山。海拔四七〇〇尺。山中水室神社あり。火難擁護の神として崇信せらる。其山村を水室村といひ、溪水は秋山川となる。

ヒメガイケ(姫ヶ池) 山城國京都市上京區岡崎町に在る池。

ヒメガマルヤマ(姫ヶ丸山) 出雲國大原郡に在る山。高二、四〇尺。

ヒメカワ(姫川) 越後國西頸城郡に在る

見はもと水見に作りしが、火に因るを忌みて改むといふ。蓋し古烽火臺を置き、肅慎人又は越後・陸奥の蝦夷に備へしなり。近年熊無村附近に多く尙遺病患者を發見し、醫界に著名となれり。

ヒミツカタク(秘岩岳) 周防國玖珂郡の西北部に在る山。一に馬薮ヶ岳といふ。高三八九四尺。山麓廣村より二里二八町、西麓は都濃郡に跨る。

ヒミトウケ(日見峠) 肥前國西彼杵郡に在る山路。長崎より諫早・大村地方に出づる要衝にして、直立一三二〇尺。坂路險峻なり。近年崖を載り、道を閉きたれども、傾斜急なるを以て車を通じ難し。山下に日見・矢上の二村あり。

ヒムロ(水室) 大坂(大阪)河内國北河内郡の村。合三九。●(板木)下野國安蘇郡の村。合五五。●(水室山)をも見よ。

ヒムロガタク(水室岳) 周防國玖珂郡の南部に在る山。高二〇三〇尺。山麓伊陸村より一八町。

ヒムロヤマ(水室山) 山城國愛宕郡大宮村に在る山。●下野國安蘇郡の北偏に在る山。海拔四七〇〇尺。山中水室神社あり。火難擁護の神として崇信せらる。其山村を水室村といひ、溪水は秋山川となる。

ヒメガイケ(姫ヶ池) 山城國京都市上京區岡崎町に在る池。

ヒメガマルヤマ(姫ヶ丸山) 出雲國大原郡に在る山。高二、四〇尺。

ヒメカワ(姫川) 越後國西頸城郡に在る

ヒメカワ(姫川) 越後國西頸城郡に在る

ヒメカワ(姫川) 越後國西頸城郡に在る

川。水源、信濃國北安曇郡白馬岳。北流して松川・平川を合せ、本郡に入りて大所川・小瀧川・根知川を合せ、北流して糸魚川町の四より海に入る。流程一七里。西頸城郡内を流る。事六里。急流にして、下流屢水害を被る。糸魚川町より此川に沿ふて信濃國大町に達する縣道を通ず。

ヒメゴセヤマ(姫御前山) 播磨國飾磨郡「八木」村を見よ。●筑後國八女郡に在る山。八女津媛の遺跡即ち古の八女園にして、郡名の出でし所なり。

ヒメサキ(姫崎) 佐渡國の東海岸に斗出せる岬。一に糟木崎といふ。夷灣の南角を成す。前佐渡山脈の東北端とす。燈臺あり。鐵道六角形白塗。第五等不動白色。晴天光達一〇哩。燈臺の下に龍王島と呼ぶ岩礁あり。高六六尺。

ヒメシマ(緩島) 古の灘波川尻八十島の一。今、播磨國西成郡神島村の地なり。

ヒメシマ(姫島) 「大物浦」を見よ。●三河國渥美灣の東南に在る島。一小島なれども灣内の好目標なり。島頂は高二〇一尺の尖峯を成し、立馬崎に於て船中より望むに、島の右對岸なる衣笠山と二島相連ぶが如く見ゆ。●土佐國幡豆郡の

移す。本多忠政之に代り、十五萬石を領す。寛永十六年松平忠明・慶安元年松平直基・慶安二年松平忠次・又柳原政房・寛文七年松平直矩・天和四年本多政武・寶永元年柳原政邦・寛保三年松平明矩等數次更替あり。寛延二年酒井忠恭十五萬石を以て此に封ぜられ、世襲して明治維新に至る。

射楯(兵主)神社は城郭内の東南に在り。風土記に所謂伊太代之神にして、中世以來國府惣社と混同し、軍八頭惣社伊和大明神といふ。今、縣社にして、大己貴命五十猛命を祭る。例祭は十一月十五日にして、もと二十年毎に臨時大祭あり。之を修羅踊と稱し、殺伐を極めしといふ。長壁神社はもと城郭内に在りしが、今は惣社の正面なる神橋内に在り。祭神は姫路刑部大神なり。此祭神に就いては古來異説多く、刑部親王の女宮姫なりといひ、木華咲耶姫なりといひ、伏見天皇の寵姫刑部局といひ、或は老狐なりといひ、不思議なる靈徳ありて姫路城の最高所に在り。之を守護せる神なりと信ぜられ、姫路神社は舊藩主酒井氏の祖正親を祀り、明治十二年の創立にして、今縣社なり。例祭は九月十七日なり。此他市内及附近なる神社二十四を選びて、二十四社と稱し、巡拜するもの多し。本徳寺は地内町に在り。東本願寺派に屬す。明應三年蓮如上人が飾磨郡英賀村に創立せるものを移せるにて、今の本堂は享保三年僧海澄の建立に係る。海澄手栽の松は今龜居松と稱し、其

西南海上に在る島沖之島村の屬島なり。周圍一里。島峰鋭尖、四周斷崖にして、島の北方一里二鐘間は諸岩散布す。其大なるを水島といふ。●肥前國南松浦郡福江島北西角の北々東に位する一小島。周圍一里一四町。成宿村に屬す。其北西側は險崖峭壁なれども、他側は總べて樹木多し。且つ所々に田圃あり。●筑前國糸島郡芥屋村の海上三津に在る島。松浦灣の北界にして、唐津灣の屏障を成す。周圍二七町。東西八町。南北二町。人家あり。今芥屋村に屬す。姫大明神の社あるを以て姫島といふ。古歌に詠める。恰土島即ち是なり。●豊後國東國東郡伊美村の海上三里五町に在る島。周防灘・碓氷灘の交界に當る。周圍四里二町。今、姫島村を成す。居民概ね漁業・製鹽に従事す。此島豊後より周防灘に入る船の常航路に當り、古來其名著はる。萬葉集に、妹が名は千代に流れん姫島の、小松かくれに昔のむすまで、島の東南に矢筈山あり。其の西に達磨峰時。其間白沙青松連り、風景頗る佳なり。矢筈山麓に比賣許會神社あり。境内石垣外の石壁より鐵酸泉を噴出す。人傍に在りて拍手すれば其響の緩急に應ずといふ。俗に拍子水と呼び、島内七奇の一とす。北岸に三尊洞といふ岩穴あり。洞穴に一石柱あり、双口に分ち、内部は白石玲瓏清絶、柱後に無數の牡蠣附着し、其狀三佛像に似たり。故に名くといふ。

名高し。景福寺は船場川の西に在り。曹洞宗なり。正平十九年攝州六瀬の領主平尾章勝の創建。通和尙の開基とす。寺背の山は即ち船丘なり。正明寺は五軒屋敷に在り。天台宗なり。近衛天皇康治二年道遠和尙の開基にて、元城山の上に在りしを移せりといふ。姫路第一の舊寺なり。慶雲寺は野里に在り。曹洞宗にて、池田氏の歸依ありし寺なり。願入寺は阪田町に在り。本尊は子安地藏とて名高し。藥師山は景福寺の西なり。名子といふ。藥師堂あり。近年山を開き公園となしたり。頂上に御岩と呼ぶ神石あり。群鶴山は嵐山とも増位山ともいふ。一時隨願寺の此に在りし事あり。長彦山は姫山の西に在り。妹背山とも男山ともいふ。今、八幡神社あり。箕丘は今秩父山といふ。長彦山の西に在り。近年水尾大社を建つ。射楯兵主社はもと此に在り。物産は酒(三二萬圓)・醬油・綿織物(二三萬圓)・莫大小綿物漆器・足袋下駄革細工等あり。

文籍 姫路名勝誌・矢田正夫(明三) 姫路誌一(同市役所) 豐後 姫路市統計書。

ヒメツ(姫津) 【新鴻】佐渡國佐渡郡金泉村の大字。相川町の北なる海村なり。慶長年中石見國の漁民を移し、元和年中更に越前の民を移し、漁鹽の利を島民に傳へしめし地といふ。

ヒメト(姫戸) 【熊木】肥後國天草郡の村。合四七。

西南海上に在る島沖之島村の屬島なり。周圍一里。島峰鋭尖、四周斷崖にして、島の北方一里二鐘間は諸岩散布す。其大なるを水島といふ。●肥前國南松浦郡福江島北西角の北々東に位する一小島。周圍一里一四町。成宿村に屬す。其北西側は險崖峭壁なれども、他側は總べて樹木多し。且つ所々に田圃あり。●筑前國糸島郡芥屋村の海上三津に在る島。松浦灣の北界にして、唐津灣の屏障を成す。周圍二七町。東西八町。南北二町。人家あり。今芥屋村に屬す。姫大明神の社あるを以て姫島といふ。古歌に詠める。恰土島即ち是なり。●豊後國東國東郡伊美村の海上三里五町に在る島。周防灘・碓氷灘の交界に當る。周圍四里二町。今、姫島村を成す。居民概ね漁業・製鹽に従事す。此島豊後より周防灘に入る船の常航路に當り、古來其名著はる。萬葉集に、妹が名は千代に流れん姫島の、小松かくれに昔のむすまで、島の東南に矢筈山あり。其の西に達磨峰時。其間白沙青松連り、風景頗る佳なり。矢筈山麓に比賣許會神社あり。境内石垣外の石壁より鐵酸泉を噴出す。人傍に在りて拍手すれば其響の緩急に應ずといふ。俗に拍子水と呼び、島内七奇の一とす。北岸に三尊洞といふ岩穴あり。洞穴に一石柱あり、双口に分ち、内部は白石玲瓏清絶、柱後に無數の牡蠣附着し、其狀三佛像に似たり。故に名くといふ。

名高し。景福寺は船場川の西に在り。曹洞宗なり。正平十九年攝州六瀬の領主平尾章勝の創建。通和尙の開基とす。寺背の山は即ち船丘なり。正明寺は五軒屋敷に在り。天台宗なり。近衛天皇康治二年道遠和尙の開基にて、元城山の上に在りしを移せりといふ。姫路第一の舊寺なり。慶雲寺は野里に在り。曹洞宗にて、池田氏の歸依ありし寺なり。願入寺は阪田町に在り。本尊は子安地藏とて名高し。藥師山は景福寺の西なり。名子といふ。藥師堂あり。近年山を開き公園となしたり。頂上に御岩と呼ぶ神石あり。群鶴山は嵐山とも増位山ともいふ。一時隨願寺の此に在りし事あり。長彦山は姫山の西に在り。妹背山とも男山ともいふ。今、八幡神社あり。箕丘は今秩父山といふ。長彦山の西に在り。近年水尾大社を建つ。射楯兵主社はもと此に在り。物産は酒(三二萬圓)・醬油・綿織物(二三萬圓)・莫大小綿物漆器・足袋下駄革細工等あり。

文籍 姫路名勝誌・矢田正夫(明三) 姫路誌一(同市役所) 豐後 姫路市統計書。

ヒメツ(姫津) 【新鴻】佐渡國佐渡郡金泉村の大字。相川町の北なる海村なり。慶長年中石見國の漁民を移し、元和年中更に越前の民を移し、漁鹽の利を島民に傳へしめし地といふ。

ヒメト(姫戸) 【熊木】肥後國天草郡の村。合四七。

ヒメタカワ(姫田川) 越後國北蒲原郡に在る川。王子山の南麓の水流の集りにして、加治川の一支流なり。

ヒメタケ(姫懸) 豐後國北蒲原郡白杵町の南に峙つ山。鎮南山・岩磐岳等と連る。高二七〇尺。一に紫雲岳と呼ぶ。永享年間大友親綱、將軍足利義教の命を奉ぜざるを以て、河野通久來り討つ。大友氏の兵姫岳に據り之を拒ぎ、通久敗死す。

ヒメヂ(姫治) 【岐阜】美濃國可兒郡の村。合五五。

ヒメヂシ(姫路市) 【兵庫】播磨國の市。國內第一の都會にして、中國の要路に當り、北は生野・豊岡に出づべく、西北は因幡・伯耆出雲美作に至るべく、四通八達要の地なり。鐵道山陽線之を通過し、播但線此所にて分る。兵庫を距る三四哩。岡山を距る五五哩。戶數七、四〇九。市街は平野に在り。城郭を抱いて、民家四周に集り、西に船場川流れ、東南の二面は塚壘を以て限る。停車場は南方郊外に在り。東西約三二町、南北約二八町。大別して、神谷野里・船場・内町の四區となし、更に之を九十六町五村に分ち。其最も繁華なるは國分寺町・大黒町・元鹽町・堅町・二階町・依町・福中町にして、船場の柿山伏・泉福寺前・内町の五軒屋敷・下寺町裏・光源寺前・野里の坊主町等は一般に士族邸なり。市内建物の主なるものは、地方裁判所・區裁判所は直養に、警察署は京口に、郵便局は二階町に、市役所は中魚町筋に、電燈會社は

富田町に、商業旅館の二銀行は福中町通に、其他師範部役所・監獄署・中學校高等女學校・市立商業學校等あり。姫路城は市街の中央を占め、東西各一〇町、南一一町、北七町。其以内を内郭とし、更に姫山に倚り塚壘を起し、太閤丸・九丸等の外郭あり。太閤丸に天守閣あり、五重八棟の制にして、第五層の廣さは八十疊といふ。閣は白壁を以て塗り、世に白鷺城といふ。城内第十師團司令部、歩兵第八旅團第十聯隊、第二十旅團第三十九聯隊、騎兵第十聯隊、砲兵第十大隊の營所あり。此城もと姫路山といひ、貞和年間赤松貞範の初めて築く所なり。文明年間赤松政則の本州を復するや、小寺豐職をして之に居らしむ。天正年中城主小寺宗國、其子孝隆(後黒田孝高)と號を織田氏に通じ、遂に羽柴秀吉を迎へ、山陽山陰二道を経略す。天正八年秀吉姫山に三重の天守を掲げ、城郭を修め、後弟秀長に與へ、又木下家定を以て鎮守とす。慶長五年徳川氏池田輝政を本州に封ず。食祿五十二萬石。同八年更に備前三十二萬石を加へ、同十五年淡路六萬石を増す。此に於て總べて九十萬石仍て五重の天守を起し、城の内外を修め、城下の規模全く成る。同十八年播磨を長子利隆に、備前を次子忠繼に、淡路を三子忠雄に分ち、元和元年に至り利隆、赤栗六萬石を四弟輝澄に、佐用五萬石を五弟政綱に、赤穂五萬石を六弟輝興に分ち、同三年利隆の子光政封を因幡鳥取に

富田町に、商業旅館の二銀行は福中町通に、其他師範部役所・監獄署・中學校高等女學校・市立商業學校等あり。姫路城は市街の中央を占め、東西各一〇町、南一一町、北七町。其以内を内郭とし、更に姫山に倚り塚壘を起し、太閤丸・九丸等の外郭あり。太閤丸に天守閣あり、五重八棟の制にして、第五層の廣さは八十疊といふ。閣は白壁を以て塗り、世に白鷺城といふ。城内第十師團司令部、歩兵第八旅團第十聯隊、第二十旅團第三十九聯隊、騎兵第十聯隊、砲兵第十大隊の營所あり。此城もと姫路山といひ、貞和年間赤松貞範の初めて築く所なり。文明年間赤松政則の本州を復するや、小寺豐職をして之に居らしむ。天正年中城主小寺宗國、其子孝隆(後黒田孝高)と號を織田氏に通じ、遂に羽柴秀吉を迎へ、山陽山陰二道を経略す。天正八年秀吉姫山に三重の天守を掲げ、城郭を修め、後弟秀長に與へ、又木下家定を以て鎮守とす。慶長五年徳川氏池田輝政を本州に封ず。食祿五十二萬石。同八年更に備前三十二萬石を加へ、同十五年淡路六萬石を増す。此に於て總べて九十萬石仍て五重の天守を起し、城の内外を修め、城下の規模全く成る。同十八年播磨を長子利隆に、備前を次子忠繼に、淡路を三子忠雄に分ち、元和元年に至り利隆、赤栗六萬石を四弟輝澄に、佐用五萬石を五弟政綱に、赤穂五萬石を六弟輝興に分ち、同三年利隆の子光政封を因幡鳥取に

富田町に、商業旅館の二銀行は福中町通に、其他師範部役所・監獄署・中學校高等女學校・市立商業學校等あり。姫路城は市街の中央を占め、東西各一〇町、南一一町、北七町。其以内を内郭とし、更に姫山に倚り塚壘を起し、太閤丸・九丸等の外郭あり。太閤丸に天守閣あり、五重八棟の制にして、第五層の廣さは八十疊といふ。閣は白壁を以て塗り、世に白鷺城といふ。城内第十師團司令部、歩兵第八旅團第十聯隊、第二十旅團第三十九聯隊、騎兵第十聯隊、砲兵第十大隊の營所あり。此城もと姫路山といひ、貞和年間赤松貞範の初めて築く所なり。文明年間赤松政則の本州を復するや、小寺豐職をして之に居らしむ。天正年中城主小寺宗國、其子孝隆(後黒田孝高)と號を織田氏に通じ、遂に羽柴秀吉を迎へ、山陽山陰二道を経略す。天正八年秀吉姫山に三重の天守を掲げ、城郭を修め、後弟秀長に與へ、又木下家定を以て鎮守とす。慶長五年徳川氏池田輝政を本州に封ず。食祿五十二萬石。同八年更に備前三十二萬石を加へ、同十五年淡路六萬石を増す。此に於て總べて九十萬石仍て五重の天守を起し、城の内外を修め、城下の規模全く成る。同十八年播磨を長子利隆に、備前を次子忠繼に、淡路を三子忠雄に分ち、元和元年に至り利隆、赤栗六萬石を四弟輝澄に、佐用五萬石を五弟政綱に、赤穂五萬石を六弟輝興に分ち、同三年利隆の子光政封を因幡鳥取に

富田町に、商業旅館の二銀行は福中町通に、其他師範部役所・監獄署・中學校高等女學校・市立商業學校等あり。姫路城は市街の中央を占め、東西各一〇町、南一一町、北七町。其以内を内郭とし、更に姫山に倚り塚壘を起し、太閤丸・九丸等の外郭あり。太閤丸に天守閣あり、五重八棟の制にして、第五層の廣さは八十疊といふ。閣は白壁を以て塗り、世に白鷺城といふ。城内第十師團司令部、歩兵第八旅團第十聯隊、第二十旅團第三十九聯隊、騎兵第十聯隊、砲兵第十大隊の營所あり。此城もと姫路山といひ、貞和年間赤松貞範の初めて築く所なり。文明年間赤松政則の本州を復するや、小寺豐職をして之に居らしむ。天正年中城主小寺宗國、其子孝隆(後黒田孝高)と號を織田氏に通じ、遂に羽柴秀吉を迎へ、山陽山陰二道を経略す。天正八年秀吉姫山に三重の天守を掲げ、城郭を修め、後弟秀長に與へ、又木下家定を以て鎮守とす。慶長五年徳川氏池田輝政を本州に封ず。食祿五十二萬石。同八年更に備前三十二萬石を加へ、同十五年淡路六萬石を増す。此に於て總べて九十萬石仍て五重の天守を起し、城の内外を修め、城下の規模全く成る。同十八年播磨を長子利隆に、備前を次子忠繼に、淡路を三子忠雄に分ち、元和元年に至り利隆、赤栗六萬石を四弟輝澄に、佐用五萬石を五弟政綱に、赤穂五萬石を六弟輝興に分ち、同三年利隆の子光政封を因幡鳥取に

富田町に、商業旅館の二銀行は福中町通に、其他師範部役所・監獄署・中學校高等女學校・市立商業學校等あり。姫路城は市街の中央を占め、東西各一〇町、南一一町、北七町。其以内を内郭とし、更に姫山に倚り塚壘を起し、太閤丸・九丸等の外郭あり。太閤丸に天守閣あり、五重八棟の制にして、第五層の廣さは八十疊といふ。閣は白壁を以て塗り、世に白鷺城といふ。城内第十師團司令部、歩兵第八旅團第十聯隊、第二十旅團第三十九聯隊、騎兵第十聯隊、砲兵第十大隊の營所あり。此城もと姫路山といひ、貞和年間赤松貞範の初めて築く所なり。文明年間赤松政則の本州を復するや、小寺豐職をして之に居らしむ。天正年中城主小寺宗國、其子孝隆(後黒田孝高)と號を織田氏に通じ、遂に羽柴秀吉を迎へ、山陽山陰二道を経略す。天正八年秀吉姫山に三重の天守を掲げ、城郭を修め、後弟秀長に與へ、又木下家定を以て鎮守とす。慶長五年徳川氏池田輝政を本州に封ず。食祿五十二萬石。同八年更に備前三十二萬石を加へ、同十五年淡路六萬石を増す。此に於て總べて九十萬石仍て五重の天守を起し、城の内外を修め、城下の規模全く成る。同十八年播磨を長子利隆に、備前を次子忠繼に、淡路を三子忠雄に分ち、元和元年に至り利隆、赤栗六萬石を四弟輝澄に、佐用五萬石を五弟政綱に、赤穂五萬石を六弟輝興に分ち、同三年利隆の子光政封を因幡鳥取に

ヒメハ

ヒメハル(姫治) 【福岡】筑後國浮羽郡の村。白雲寺。

ヒメマツ(姫松) 【宮城】陸前國栗原郡の村。白雲寺。

ヒモサシ(組差) 【長崎】肥前國北松浦郡の村。平戸島の東側に在り。平戸海峡の西岸とす。海水風曲り入して一澳を作る。郵便局あり。此村より無色白色或は赤褐色の珊瑚を出す。六百八十五。

ヒモノシヨウ(檜物庄) 【滋賀】近江國蒲生郡日野町附近の村。甲賀郡石部附近を檜物下庄。蒲生郡なるを檜物上庄と稱す。としい。へり。上古は里人挽物を造り、四方に販賣す。日野挽と稱し。今も日野の産物なり。

ヒモナヤ(碑文谷) 【東京】武蔵國住原郡碑文谷の大字。昔此地に梵字を刻める碑あり。歴代をなせしかば、之を埋めしより其名起るといふ。昔忠孝といふ法師大卒塔婆に碑文を書きて、此地に埋めしより村名起るといふ。法師寺は弘安年中日蓮の中老日蓮建立の古刹なりしが、十四代日蓮は不受不施の禁を犯し、配流せられたり。十八代日附は女犯の罪により、遠流せられたり。以後は天台宗に轉せり。此寺の仁王は快慶の作にして、靈現ありとて信者多し。

ヒヤ(美谷) 【北海】後志國虻田郡歌葉村の大字。美谷岬此より出で、壽都灣の東北角を成す。アイヌ語ヤは石岡の義とす。百人を此所に置き、大風雨の

ヒヤク

ヒヤクカンシマ(百貫島) 【伊豫國越前郡】号創島の東北なる小嶽島。三原瀬戸の東口なる布刈瀬戸の入口に在り。燈臺あり。北緯三四度一分、東經一三三度一分。に位し。第五等回轉白色晴天光達一六六。ヒヤクカンシマト(百貫港) 【佐賀】肥前國杵島郡龍王村に屬する港。有明海に面せる一小港とす。 【熊本】肥後國鹿野郡。小島町を見よ。

ヒヤクケンタキ(百間瀧) 【紀伊國西牟婁郡】豊原村大字熊野に在る瀧。高六〇丈。幅二間。其下流一里に雨乞瀧あり。

ヒヤクシユ(百首) 【千葉】上總國君津郡「竹ヶ岡」を見よ。

ヒヤクダ(百田) 【山梨】甲斐國中巨摩郡の村。御勅使川の南なる一小驛にして、鐵道より信州諏訪に出づる往還に當る。郵便局あり。六百三十二。

ヒヤクツカ(百塚) 【富山】越中國婦負郡の村。四方町の南に接す。富山藩祖利次越中十萬石を分與せられたり。此地に築城を企てしが、終に成らず。富山の舊城を修め移ししが、此村にては牛頭天王の祭日舊曆八月十六日を以て壯丁角力するの例あり。牛頭相撲と呼ぶ。六百三六。

ヒヤクドウマツバラ(百道松原) 【筑前國】紅葉原を見よ。

ヒヤクニハマ(百人濱) 【北海】日高國虻田郡の東海岸なる砂濱。磯岬を距る北二里。寛文年間沖貝沙汰の亂に當る。百人を此所に置き、大風雨の

ヒヤシ

時破船あり。水夫百餘人此所に死せりと。磯泉の土人十勝の土人と戦ひたる死屍を埋めしともいふ。石塔あり。

ヒヤシリサン(一山) 【北海】北見國紋別郡及天鹽國上川中川の二郡に跨る火山。脈中の一高峯標高三三六六尺。

ヒヤマ(楡山) 【茨城】常陸國東茨城郡伊勢島村の大字。下野國芳賀郡に續ける山中なり。芳賀の楡山とも一村なり。といふ。深谷ありて楡樹多きより出でし名なり。 【秋田】羽後國山本郡の町。露山といふ。舊國道に當る一市街にして、今も楡樹の間の間道を通す。中世安東氏此に居る。後多賀谷氏之に館し。佐竹氏に至り。小島式部を置きしと云ふ。納豆を名産とす。楡山は中世秋田氏が今の山本郡を正せし時山本と改む。但し和名抄の山本郡は今の仙北郡と改む。但し和名抄の山本郡は今の仙北郡と改む。六百三十三。

ヒヤマクン(楡山郡) 【北海】渡島國六郡の一。古の所謂上ノ國なり。四境、西北は爾志郡、東は龜田郡、南は松前郡に接し、西方一帯海に向ふ。廣一〇里九町、表一三三、四町、沿海線一三二、二町、面積七〇方里餘。行政上、江差町及泊上ノ國、厚澤邊の三村に分ち、楡山支廳の所管とす。 【醫大】六百三十五。

ヒヤミツタケ(冷水岳) 【渡島國爾志郡】志願久遠郡に跨る山。高三三四〇尺。

ヒヤリカワ(樋道川) 【埼玉】武蔵國北埼玉郡の村。古利根川の西岸とす。昔は昔ノ雪といへる里なりとす。村内に穴塚塚といふ古墳ありて、古鏡、古劍、陶器の類を出せり。又御室社あり。上野國道の祖御諸別王の因縁あるやに説く者あれども詳ならず。六百三十七。

ヒヤンサシマ(平安座島) 【琉球國沖繩島】金武灣の東南に横はる島。中頭郡與那城村に屬す。周圍一里二五町。

ヒヤンナサキ(平安名岬) 【琉球國宮古島】の北西角。一長舌形を成す。

ヒヨウゴ(兵庫) 【兵庫】播磨國神戸市の地名。古の務古ノ水門。輪田泊なり。 【奈良】大和國山邊郡和村の大字。官幣

ヒヤイ

神山あり。河流は厚澤郡川矢野川、石崎川あり。驛路は函館より来るもの。中山越を経て江差に至り、別に木古内より稻穂嶺を経て向濱に出で、海岸に沿ふて江差に至るものあり。生業は農を主とし、海岸の民は漁業を營む。物産は米(八萬圓)、大豆馬鈴薯(各五萬圓)、神(二萬五千圓)、蘿蔔、蕎麥(各一萬圓)、馬現在數二、七三頭、牛四一六頭、木炭四萬圓、水産物八萬圓、鱈三萬五千圓、柔魚二萬五千圓あり。此地往古扁柏繁茂し、森林を成せるを以て此郡名あり。

ヒヤマシヨウ(火山城址) 【廣島】安藝國山縣郡。新庄村を見よ。

ヒヤミツタケ(冷水岳) 【渡島國爾志郡】志願久遠郡に跨る山。高三三四〇尺。

ヒヤリカワ(樋道川) 【埼玉】武蔵國北埼玉郡の村。古利根川の西岸とす。昔は昔ノ雪といへる里なりとす。村内に穴塚塚といふ古墳ありて、古鏡、古劍、陶器の類を出せり。又御室社あり。上野國道の祖御諸別王の因縁あるやに説く者あれども詳ならず。六百三十七。

ヒヤンサシマ(平安座島) 【琉球國沖繩島】金武灣の東南に横はる島。中頭郡與那城村に屬す。周圍一里二五町。

ヒヤンナサキ(平安名岬) 【琉球國宮古島】の北西角。一長舌形を成す。

ヒヨウゴ(兵庫) 【兵庫】播磨國神戸市の地名。古の務古ノ水門。輪田泊なり。 【奈良】大和國山邊郡和村の大字。官幣

和を得れども、其山頂は積雪を覺ゆ。但馬丹波は夏秋の候霧深く、嚴寒の頃は積雪人家を埋むる所あり。明治四十五年最高氣温神戸市南部沿海攝氏三十五度八、尖栗郡山崎町(南西部山地)三十七度五、水上郡柏原町(南西部山地)三十七度五、城崎郡城崎町(北部沿海)三十四度、最低神戸市零下三度、山崎町零下五度、柏原町零下六度、城崎町零下四度なり。

産業 農業最も廣く行はれ、就中搦保郡農産の富饒第一とす。尙工業は神戸市醫業は城崎養父二郡を最も盛なりとし、製鹽は赤穂郡を主とし、印南飾磨二郡之に次ぐ。鑛業は有名なる生野鑛山あり。牧畜は但馬の牛著名なり。農産物は米(二三九萬石)、麥八四萬石、他甘藷、蘿蔔、各七〇一八〇萬圓、柿五六萬圓、大豆四〇萬圓、蠶豆三極各二〇一三〇萬圓、小豆、苜蓿、芋、馬鈴薯、菜種、柘、梅、實、茶、葉、煙草(各一〇一〇萬圓)、繭は二〇三萬圓に上り、總計四七八九萬圓、畜産物は牛(但馬牛)を主とし、其販賣數約三萬頭、價格一九二萬圓、林産物五三三萬圓、松、五〇萬圓、杉、三六萬圓、扁柏、二七萬圓の用材を主とし、薪炭材九二萬圓あり。城崎郡(一一一萬圓)最も多し。妙見山の杉材は有名なり。鑛産物は一六萬圓、内、金一六萬圓、銀二四萬圓、銅七六萬圓あり。生野鑛山の産其九分を占む。水産物は漁獲物二五〇萬圓、津名三原明石古古城崎五郡を主とし、鱈三九萬圓、鯛二七萬

大社大和神社の北に接す。此社は武器を納めたる舊社なれば、其兵庫の地ならんといふ。 【福井】越前國坂井郡の村。合(五合) 【佐賀】肥前國佐賀郡の村。佐賀市の東北郊とす。此地は慶長年中佐賀藩の臣成富兵衛(茂安)の開墾せるにより村名を立つ。六百五十五。

部日本海に面する部分は山勢自ら峻険にして、農地少く、河流は中國山系(北山)の支流にして北流し、南方即ち播磨(但馬國)に在ては南流す。淡路國は中央に先山の山脈あり、地勢を南北二部に分ち、北部は小岡所々に起伏し、南部は輪籠の山脈南海岸に連れども、三原洲本兩河の沿岸は地勢平夷にして、稍廣潤なる農地あり。山岳の主なるものは、播津に靈藏、武庫中、丹波に三嶽、八ヶ尾三國不動、播磨に三草、書寫、笠形、廣峰、雪彦、黒尾、但馬に水ノ久斗、朝米、三間床尾、妙見、來日、淡路に柏原、常陸寺、先輪、鷲羽の諸山あり。河流は播津に武庫、神崎、播磨に加古市、揖保、千種、但但に圓山、矢田、丹波に大津、淡路に三原、洲本の諸川あり。池堤は其數甚だ多し。是れ播磨東麓地を構成せる第三紀層及第四紀古層は水利に乏しく、灌漑用水は盡く池堤に仰かざるべからざるを以てなり。又淡路の北部に於ては水利悪しく、天然の地形により池堤を築造し、天水或は貯流を蓄へて灌漑の用に供す。海岸は内海に瀕する所、屈曲多く、港灣に乏しからず。播津には神戸、兵庫、西ノ宮、尼ヶ崎等あり。播磨に明石、高砂、室津、阪越の諸港あり。但馬の海岸は風濤烈しく、斷崖時ち僅に津居山、丹生、濱坂の諸港あれども、陸運に不便なるを以て盛ならず。淡路の東海岸は港灣少からず、洲本、最も名あり。西海岸は風波常に穢ならず、地質、花崗岩は

稍廣大にして、農土として利用せらるゝもの少しとす。播津の六甲山脈及其周圍の地盤播磨の野尻山附近、但馬の北海岸及其東北隅に露出、淡路は殆ど全島を占む。石英斑岩地之に次ぎ、播津國川邊有馬郡、丹波國多紀郡水上郡、播磨國多可郡加東郡に跨る。但し北部は高山峻谷の中に在り。南部は稍平夷なるを以て農土とせる所多し。片麻岩は淡路國鹽田浦、結晶片岩地は沼島全部を構成するに過ぎず。蛇紋岩は但馬國八木川南岸に露出す。閃綠岩は播磨大なり。播磨國の中央部及東北部に露出す。武武岩は但馬國の西北及但馬國の各所に露はる。石英粗面岩は淡路播津を除くの外露出せざる所なし。中生紀層は播磨の佐用、尖栗、飾磨三郡多く、但馬國養父郡にも散見す。但し淡路國の南部に露はるものは、和泉岩層に屬す。第三紀層は但馬國美方、城崎二郡に露はれ、第三紀新層は播磨國の東麓地及播津國有馬郡の過半に及ぶ。第四紀古層は播磨國の東南部及加古川、市川、揖保川、夙前川の沿岸に接して臺地を成し、第四紀新層は千種川、揖保川、市田川、加古川、明石川の沿岸及播津西南部に在りて沖積地を成す。

氣象 播津播磨の沿海及淡路は寒暖中

驛を美袋といふ。郵便局あり。岡山を距る八里三五町。高梁町へ約三里。合三三三。ヒヨドリユエ(鶴越) 攝津國兵庫福原より播磨國美濃郡に通ずる山路。今、神戸市夢野より西北に走り、山田村を経て淡河村三木町等に至るをいふ。源義經七十餘騎を以て此を下り、一ノ谷の平軍を破りし事人の知る所なり。

ヒラ(比良) 【愛知】尾張國西春日井郡に在りし村。明治三十九年山田村に入る。●【滋賀】近江國滋賀郡の舊庄名。今二分して南部は木戸村に、北部は小松村に入る。其琵琶湖に面する所を比良ノ浦といひ、西に比良岳峙つ。北比良の字宮島は齊明天皇行幸の地といふ。

ヒライ(平井) 【東京】武蔵國西多摩郡の村。五日市の東北一里半。大久能川平井川ともいふ。岸に在り。字鹽澤の寶光寺に鹿ノ湯と呼ぶ温泉出づ。温度低けれども、文化の頃まで酌みて江戸に送りし事數百載なりといふ。今も浴舎數あり。合三三三。●【東京】武蔵國南葛飾郡の村。中川の東岸にして、逆井の北に接し、渡船場あり。平井渡といふ。總武鐵道の停車場を置く。本所驛より二哩三〇〇。鎮燈明寺に聖天祠あり。參詣者多し。合三三三。●【兵庫】攝津國川邊郡長尾村の大字。藤原保昌の故郷なり。保昌勇武を以て甥頼信と其の名を等ふ。此地より北五町にして西明寺遺蹟あり。其條を見よ。岩洞の奇偉なるもの多し。合三三三。●【兵庫】播磨

國攝津郡の村。合三三三。●【新潟】越後國刈羽郡に在りし村。明治三十四年田尻村に入る。●【群馬】上野國多野郡野野村の村。大字に東西平井あり。鮎川の東南岸なる崖地とす。城址あり。戦國頃の頃上杉(山内)家の居城なり。廢城考云、應仁元年上杉氏の老臣長尾景隆等、上杉顯定を越後より迎へて平井城を築き、櫓籠り、足利成氏と合戦する事度々なり。其後顯定鎌倉に入りて山内に住す。是より後上杉氏の家族相繼いで此城に居る。後、北條氏に奪はる。天文二十一年上杉輝虎兵を當國に發して此城を攻落す。上野志云、永祿二年輝虎近衛關白殿下を供奉して關東征伐の時平井は地理不宜、厩橋に移る。是より平井廢城すと云ふ。合三三三。●【愛知】三河國四加茂郡に在りし村。明治三十九年高橋村に入る。●【愛知】三河國南設樂郡に在りし村。明治三十九年東郷村に入る。●【山梨】甲斐國東八代郡英村の大字。石和村の東南に當り。逸見の一族平井氏の居りし所なり。源平盛衰記に平井冠者義直、承久記に平井三郎同五郎あり。●【福井】越前國丹生郡吉川村の大字。へいとも呼ぶ。日野川の西岸とす。日蓮宗平等寺あり。弘仁年中創建の古刹なり。●【岡山】備前國上道郡の村。合三三三。●【香川】讃岐國木田郡の村。高松及琴平より阿波に通ずる要路に當り。郡役所警察署郵便局等あり。合三三三。●【熊本】肥後國玉名郡の村。合三三三。

嘉祥寺等の總稱にして、義經堂の如きも此に屬す。仁明天皇の時慈覺大師の開基といふ。藤原清衡父子御堂を修め、當時塔四十、禪坊五百餘ありしが、今は常行法華二堂の外は唯唯石の礎石中に横はるを見るのみ。大泉池、鶴池共に其形を失ひ、小阿彌陀堂後に前鎮守府將軍基衛宗安信宗任女墓と刻せる古碑一基あり。佛人芭蕉此地に遊び記して云、「三代の榮耀一睡の中に、大門の跡は一里こなたにあり、秀衡が跡は田野になりて、金鶴川のみ形を残す。先高館に上れば、北上川は南部より流る。大河なり。衣川は和泉が城をめぐりて高館の下にて大河に落入る。泰衡等が舊蹟に衣か關を隔て、南部口をさしかため、夷をふせくと見えたり。さて、義直すくつて此城にこもり、功名一時の叢となる。國破れて山河あり、城春にして草青みたりと、笠打敷て時のうつるまで泪を落し侍りぬ。夏草や兵どつるの跡。附近に東稻山、衣川、櫛形、衣ノ關址等の名所あり。

【文籍】奥州高館往古之圖。平泉志高平真藤(三)。平泉舊蹟(相原友直)。平泉名勝誌(志羅山順順野弘明)。奥州高館沿革志(寺崎清賢(四))。

ヒライデ(平出) 【長野】信濃國上伊那郡朝日村の大字。天龍川の左岸に居り。伊奈街道の一驛とす。郵便局あり。延喜式に平井出ノ牧とあるは此所なりといふ。

ヒライト(平糸) 【北海】根室國野付郡別

國攝津郡の村。合三三三。●【新潟】越後國刈羽郡に在りし村。明治三十四年田尻村に入る。●【群馬】上野國多野郡野野村の村。大字に東西平井あり。鮎川の東南岸なる崖地とす。城址あり。戦國頃の頃上杉(山内)家の居城なり。廢城考云、應仁元年上杉氏の老臣長尾景隆等、上杉顯定を越後より迎へて平井城を築き、櫓籠り、足利成氏と合戦する事度々なり。其後顯定鎌倉に入りて山内に住す。是より後上杉氏の家族相繼いで此城に居る。後、北條氏に奪はる。天文二十一年上杉輝虎兵を當國に發して此城を攻落す。上野志云、永祿二年輝虎近衛關白殿下を供奉して關東征伐の時平井は地理不宜、厩橋に移る。是より平井廢城すと云ふ。合三三三。●【愛知】三河國四加茂郡に在りし村。明治三十九年高橋村に入る。●【愛知】三河國南設樂郡に在りし村。明治三十九年東郷村に入る。●【山梨】甲斐國東八代郡英村の大字。石和村の東南に當り。逸見の一族平井氏の居りし所なり。源平盛衰記に平井冠者義直、承久記に平井三郎同五郎あり。●【福井】越前國丹生郡吉川村の大字。へいとも呼ぶ。日野川の西岸とす。日蓮宗平等寺あり。弘仁年中創建の古刹なり。●【岡山】備前國上道郡の村。合三三三。●【香川】讃岐國木田郡の村。高松及琴平より阿波に通ずる要路に當り。郡役所警察署郵便局等あり。合三三三。●【熊本】肥後國玉名郡の村。合三三三。

ヒライ(日真屋) 【山口】周防國大島郡の村。合三三三。●【愛媛】伊豫國ヒライカワラ(平井河原) 【愛媛】伊豫國温泉郡小野村の字。鐵道停車場あり。松山市外側まで二里。松山より中山越を経て四條に通ずる驛路に當る。

ヒライシ(平石) 【大阪】河内國南河内郡石川郡白木村の大字。平石城址あり。元弘元年平石茂直之に據り、南朝に屬し、鎌倉勢を防ぎし事あり。又正平十四年南朝の橋本正高等之に在りて島山國清の軍を拒み、今川範氏等の陷るゝ所となれり。高貴寺は眞言律宗にして、初め香華寺といへり。弘法大師此に在りて修行し、高貴徳王菩薩の像を刻み、名を高貴寺と改む。金堂に五大尊を安置し、其左に後鳥羽院の塔あり。院は熊野行幸の時、特に駕を遇らして詣でられ、御製あり、「我國はみのりの道のひろければ、鳥も唱ふる佛法僧かな。山中佛法僧と稱する鳥棲む。弘法大師も詩あり、「閑林獨坐草堂曉。三寶之聲聞一鳥。一鳥有聲人有心。聲心雲水俱了々。善成寺はもと此地に在り。弘仁年間の草創にして、弘法大師の開基なり。建武年中北軍の爲に焼かれ、僅に本尊地藏尊のみ今の地藏院に残る。●【栃木】下野國河内郡の村。合三三三。●【福島】岩代國信夫郡平田村の大字。古治ノ宮は義經記に記せる金寶吉次兄弟を祭るといふ。吉次の父藤太が金を掘りたる所といふもあり。

海村の北なる海村

ヒライワ(平河原) 【平野】伊豫國四文字郡四ツ濱村に在る鎮山。三崎半島を西南に走る山脈の中央南側に當り、八幡濱より八里餘。明治四十一年、鎮區三一〇五四一坪、使用鎮夫五三人、女工一六八人、採礦高七〇、五八六五貫。鎮石販賣高銅鐵一、二〇八五三貫。硫磺鐵礦四、九一八〇貫。價格合計三萬八千圓。(本邦礦業一斑)

ヒラエ(平得) 【沖繩】琉球國八重山郡八重山村の字。石垣島の南に在り。もと大濱間切の一村なり。人口多かりしが、其繁華は四個に移り、今は寒村なり。

ヒラオ(平尾) 【大阪】河内國南河内(舊丹南)郡の村。和名抄菅生郷の地にして、大字に菅生の名存し、菅生神社あり。弘和二年初木正儀、山名氏清と此地に戦ひ敗走す。合三三三。●【岐阜】美濃國不破郡府中村の大字。青野原の西北なる山麓にして、願證寺と呼ぶ眞宗の大刹あり。俗に平尾御坊と呼び、大谷派五寺院の一なり。親鸞の遺骨を藏し、毎年十二月三日より七日間の佛事には、老若群集す。

ヒラオ(平尾) 【長野】信濃國下高井郡の村。合三三三。●【長野】信濃國下高井郡の村。合三三三。

ヒラオ(平生) 【山口】周防國熊毛郡の町。明治三十六年町制を施す。麻郷灣頭に在る大邑にして、海水深く、舟入し、斥圃の地廣く、鹽田あり。郵便局あり。

ヒラオカ(平岡) 【京都】山城國葛野郡梅

ヒライソ(平磯) 【茨城】常陸國那珂郡の町。那珂川口の北一里なる海岸に在り。漁業地なれども近年海水浴場を開き、夏季來遊者多し。酒樓客舎數あり。水戸停車場より四里一〇町にして、淡町に至り、此より一里にして、達すべし。郵便局あり。町の四方なる高原は眺望甚だ佳なるを以て、徳川齊昭碑を建て、觀瀾所と題せり。酒列神社は今國幣神社に列す。大己貴命少彦名命を祀る。延喜式名神大社に列する。元和年中國守佐竹氏深く崇敬し、社殿を修むといふ。合三三三。

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

ヒライツミ(平泉) 【新潟】佐渡國佐渡郡に在りし村。明治三十四年金澤村に入る。●【鹿手】陸中國西勢井郡の村。今は陸羽街道に沿へる一寒村なれども、藤原清衡以下三世の居りし所にして、盛時は京都に擬し、結構壯麗を極めたりといふ。一關町を距る北方二里。鐵道東北本線の車驛あり。東京上野驛より二七八哩二六六。合三三三。中尊寺は藤原清衡が堀河天皇の勅命を奉じ建立せるものにして、當時堂塔四十餘。僧坊三百餘あり。隆盛を極めしが、建武四年野火の爲に焼失し、今は僅に金色堂經藏の二字を存す。金色堂は里人光堂と稱し、方三間、外部四面悉く鹿布を張り、黒漆を塗り、金箔を貼し、内部は鍍柱、彫梁悉く螺鈿・珠玉を飾り、壇下に佛像十一軀を飾り、壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏す。正應年中鎌倉將軍惟康親王其願を成し、金堂を建て、之を觀し、

り、其東を湯ノ洞と呼びしが、後世崩れ、湯泉埋没して、今は温泉絶えたり。岡上平坦なる所に、もと平鹽寺ありて、碓治より永仁初まで夢窓國師居りしといふ。今は廢寺となれり。此寺の本尊をツマ薬師と呼び、寺の衰微せる頃一條の一蓮寺に實却せしかば、今も傳説に、妻がほしくば一條にござれ一條薬師はつま薬師とす。民家は後、皆廣川の岸に移る。今の市川大門町是なり。

ヒラシマ(平等) 【山梨】甲斐國東山梨郡の村。白土、五ヶ所、落合をいふ。

ヒラシマ(平島) 【長崎】肥前國西彼杵郡の村。白土、平島を見よ。 【岡山】備前國上道郡の村。白土、平島を見よ。

波瀾那賀郡の村。那賀川の左岸なる海濱にして、中島といふ一小港あり。大字古津に平島館あり、即ち阿波公方の居りし所とす。將軍足利義隆の養子義冬天文三年此地に下向し、平島に居る。其子義榮上洛して將軍に任ぜられしが、幾もなくして織田信長京に入り、別に義昭を擁立せしかば、義榮阿波に歸り、暴に卒す。其兄義親の裔天正年中蜂須賀氏に歸し、千九百九十石を受けしが、文化二年故ありて此地を去る。六百七十七。

ヒラシマ(比樂島) 【石川】加賀國石川郡の村。美川町の東に接し、國道之に通ず。其縣を水島と稱す。此地は延喜式の比樂郡のありし所といふ。但し比樂川(即ち手取川)河濱變移の爲め、地形舊を失ひ、

今之を詳にし難し。白土、五ヶ所、落合をいふ。 【肥前國西彼杵郡】 遠江國小笠原郡の村。白土、五ヶ所、落合をいふ。 【高知】土佐國幡豆郡の村。白土、五ヶ所、落合をいふ。 【島根】出雲國簸川郡の町。美濃湖の西畔に在り。東西二町、南北三町、木桶の市場を以て名あり。船川市を貫流して湖水に通じ、常に松江と舟楫の便あり。松江市より七里三町、今市町より二里一〇町、郵便局、警察分署あり。六百三十三。

○里元明の書に平鹽飛騨とあるものなり。今、平島町及中野、細津、吉志、依藤、子津、真平、平六村に分たる。生月の山、大島度等の島あり。島岸は一般に斷崖にして、諸山樹木多し。島の最高峰を安岳岳といふ。西北海邊白崎の東に聳立す。高一七九〇尺。其脈全島に亘り、白岳有僧都屏風志々岐の諸山を起す。皆消火山なり。東北岸に平島、田助の二港、西部に江袋、海香の二灣、西南部に志々岐浦あり。平島は舊城下なれども、船舶の出入不便なるを爲め、他方より平島に至るものは皆田助港に寄るを常とす。平島の前面は一狹水道を隔て、日ノ浦と對す。其間僅に六町許潮流甚だ急なり。一に雷瀬戸と稱し、航海の要路とす。

【愛知】尾張國西春日井郡に在りし村。明治三十九年山田村に入る。 【静岡】遠江國小笠原郡の村。白土、五ヶ所、落合をいふ。 【高知】土佐國幡豆郡の村。白土、五ヶ所、落合をいふ。 【島根】出雲國簸川郡の町。美濃湖の西畔に在り。東西二町、南北三町、木桶の市場を以て名あり。船川市を貫流して湖水に通じ、常に松江と舟楫の便あり。松江市より七里三町、今市町より二里一〇町、郵便局、警察分署あり。六百三十三。

【長野】信濃國下高井郡の村。白土、五ヶ所、落合をいふ。 【山形】羽前國西置賜郡の村。白土、五ヶ所、落合をいふ。 【愛媛】伊豫國喜多郡の村。明治三十二年西宇和郡より編入。六百三十三。

此地船舶の出入不便なるを爲め、他方より平島に至るものは皆田助港に寄るを常とす。平島の前面は一狹水道を隔て、日ノ浦と對す。其間僅に六町許潮流甚だ急なり。一に雷瀬戸と稱し、航海の要路とす。

ヒラト(平取) 【北海】日高國沙流郡の村。佐瑠太より沙流川を湖る事五里に在り。アイヌの舊都と稱す。字ハインソウウシに源義經の古蹟と稱する所あり。義經高館を去り此地に來り、城壁を築きて四方に君臨したりといふ。義經神社は川の岩頭に在り。百年以前までは甲冑を着たる木像ありしが、寛政の頃沙流の會所に移し、其後烏有に歸せりといふ。境内風景甚だ佳なり。六百三十三。

【長野】信濃國下高井郡の村。白土、五ヶ所、落合をいふ。 【山形】羽前國西置賜郡の村。白土、五ヶ所、落合をいふ。 【愛媛】伊豫國喜多郡の村。明治三十二年西宇和郡より編入。六百三十三。

【長野】信濃國下高井郡の村。白土、五ヶ所、落合をいふ。 【山形】羽前國西置賜郡の村。白土、五ヶ所、落合をいふ。 【愛媛】伊豫國喜多郡の村。明治三十二年西宇和郡より編入。六百三十三。

【長野】信濃國下高井郡の村。白土、五ヶ所、落合をいふ。 【山形】羽前國西置賜郡の村。白土、五ヶ所、落合をいふ。 【愛媛】伊豫國喜多郡の村。明治三十二年西宇和郡より編入。六百三十三。

多し。其他イサハは堅田以北、積深き所に産し、蝦は沿岸の砂地に棲息す。漁者は滋賀郡堅田、蒲生郡沖之島、飯田郡磯に多く、殊に堅田は古來其名高し。琵琶湖は地學者の所謂越前より九州筑紫海に至る地溝帯、即ち一大裂罅の一部分に水の滯溜して成れるものといふ。湖中竹生島、多景島、白石沖之島等の岩礁あり。湖中最深の所は高島郡石田川より東方一里の沖にて七〇尋二説、一一二尋あり。湖の東岸は大抵遠淺なれども、姉川の吐口の沖は深くして、竹生島の東方に於て二〇尋、西方は五〇尋あり。堅田以南湖の狹窄せる所は、三尋乃至五尋を以て最深とし、深部は西岸に接近す。明治十八年此湖水を引き、京都市に通せしめ、九年を経て成る。大津市の西北なる三保崎に開門を設け、水は三井寺の麓を繞り、長等山、藤道長三千四百四十間を経て山城に出で、愛宕葛野宇治、紀伊四郡を灌漑し、京都市に各種の電力を給し、又京都大津間の運輸の便を興へ、其利極めて大なり。費す所百三十九萬圓といふ。此湖水は嘗て元祿年中供御ノ瀬、鹿跳を開設して排水をなすの計畫ありしといひ、又享保年中北岸なる鹽津を穿ちて、水を越前敦賀に通せんとせし事あり。又近年此湖水を利用して大阪、敦賀間の運河となさん事を計るものありといふ。

琵琶湖(前田末廣、四時、琵琶湖深度圖)

ヒワサ(日和佐)【徳島】阿波國海部郡の町。明治三十八年町制を施し、海部灘に面し、郡役所警察署郵便局等あり。徳島を距る一五里四町とす。港は幅一里二里、入七艘、南東に面し水深五、六乃至十五、六尋、沙泥底にして、偏南偏東風の外は碇泊に適す。灣頭は沙濱にして、南端に一川あり、川口に近く立島あり。此港より南西約二里半の間は沿海中最も險絶の懸崖なり。薬王寺は大字奥河内に在り。眞言宗にして、醫王山無量壽院と號し、四國靈場二十三番の札所にして、行基菩薩の開基と稱す。弘法大師四十二歳の時、厄除の薬師を刻み、此に安置す。因て大師を中興の祖とす。後鳥羽天皇の時大に修理を加へられ、大道場となりしが、寛永十六年焼失す。蜂須賀侯之を惜み再建す。場内は景色頗る佳なり。此寺より西六〇町に玉厨子山あり、奥ノ院と稱す。六國六寺。

琵琶湖(前田末廣、四時、琵琶湖深度圖)

ヒワタ(日和佐)【徳島】阿波國海部郡の町。明治三十八年町制を施し、海部灘に面し、郡役所警察署郵便局等あり。徳島を距る一五里四町とす。港は幅一里二里、入七艘、南東に面し水深五、六乃至十五、六尋、沙泥底にして、偏南偏東風の外は碇泊に適す。灣頭は沙濱にして、南端に一川あり、川口に近く立島あり。此港より南西約二里半の間は沿海中最も險絶の懸崖なり。薬王寺は大字奥河内に在り。眞言宗にして、醫王山無量壽院と號し、四國靈場二十三番の札所にして、行基菩薩の開基と稱す。弘法大師四十二歳の時、厄除の薬師を刻み、此に安置す。因て大師を中興の祖とす。後鳥羽天皇の時大に修理を加へられ、大道場となりしが、寛永十六年焼失す。蜂須賀侯之を惜み再建す。場内は景色頗る佳なり。此寺より西六〇町に玉厨子山あり、奥ノ院と稱す。六國六寺。

琵琶湖(前田末廣、四時、琵琶湖深度圖)

ヒワタ(日和佐)【徳島】阿波國海部郡の町。明治三十八年町制を施し、海部灘に面し、郡役所警察署郵便局等あり。徳島を距る一五里四町とす。港は幅一里二里、入七艘、南東に面し水深五、六乃至十五、六尋、沙泥底にして、偏南偏東風の外は碇泊に適す。灣頭は沙濱にして、南端に一川あり、川口に近く立島あり。此港より南西約二里半の間は沿海中最も險絶の懸崖なり。薬王寺は大字奥河内に在り。眞言宗にして、醫王山無量壽院と號し、四國靈場二十三番の札所にして、行基菩薩の開基と稱す。弘法大師四十二歳の時、厄除の薬師を刻み、此に安置す。因て大師を中興の祖とす。後鳥羽天皇の時大に修理を加へられ、大道場となりしが、寛永十六年焼失す。蜂須賀侯之を惜み再建す。場内は景色頗る佳なり。此寺より西六〇町に玉厨子山あり、奥ノ院と稱す。六國六寺。

琵琶湖(前田末廣、四時、琵琶湖深度圖)

ヒンゴノクニ(備後國)【廣島】山陽道に在る國。四境、東は備中國、西は安藝國、北は伯耆出雲二國、西北の一隅石見國に接し、南は海に臨み、群島相連りて伊豫國に至る。東西一七三〇町、南北二一里三三町、面積二五一方里一。行政上、尾道市及御調、世羅、沼隈、深安、蘆品、神石、甲奴、雙三、比婆の九郡に分ち、廣島縣所管とす。【人口】二二、三六、八三九(一九〇〇)。

大豆(二五萬圓)小豆(一四萬圓)粟(一三萬圓)蕎麥(六九萬圓)苧蓆芋(一一萬圓)蘿蔔(二六萬圓)牛蒡實(棉葉藍)大麻(沼隈郡)二郡(二六萬圓)林産物(二九萬圓)杉材を主とし、水産(沼隈物六七萬圓)沼隈郡三八萬圓(御調郡二八萬圓)占む。鰯(黒鰯)鮮魚を主とし、工産物は織物(二五六萬圓)深安郡(一一〇萬圓)蠶絲(三五萬圓)深安郡の二一萬圓を第一とし、英産(二六萬圓)深安郡(七二萬圓)御調(深安二郡)輸出向莞蓬(三八萬圓)沼隈郡(酒)二六萬圓(醬油)三九萬圓、沼隈郡最多、和紙、木材製品(一〇萬圓)指物、建具、桶等(金屬製品)二五萬圓、織物、綿、船釘等(製鐵等あり)あり。

交通 國內山多きを以て、道路一般に平坦ならず。國道(中國街道)は備中國より入り、神邊永越、津尾、尾道三原を経て安藝國に入り、雲州街道は尾道より起り、市村(山)吉舎三、坂三、水原、西城を経て、出雲國多里郡に達す。別に神邊より小畑、油木、東城を経て西城に達するものと、神邊より府中、上下、稻草を経て庄原に達するもの(共に雲伯街道)あり。鐵道は山陽線備中國笠岡驛より來り、大門、福山、松永、尾道、糸崎、三原の六驛を置き、安藝國本郷驛に走る。海路は平穩にして各地に通じ、大阪より多度津を経て尾道に寄港し、英字品より下關に達するものも主航路とす。

沿革 此國は古の吉備の域内にして、天武天皇十二年初めて分置せらる。和名抄は吉備乃美知乃之利と註す。近年まで十四郡ありしが、明治三十一年廢合あり、深津、安那を合して深安郡を、品地、蘆田を合して蘆品郡を、三輪、三次を合して三輪郡を、三上、葛原、奴可を合して比婆郡を置き、今九郡となれり。古國府を蘆田郡に置き、鎌倉幕府土肥實平梶原景時を守護とす。建武年間足利尊氏に反して九州に走るや、朝廷淺山倭就を以て守護とし、神邊に治す。既にして尊氏東上し、國の豪族宮三吉の諸氏悉く之に應ず。正平四年尊氏其庶子直冬をして頼に居らしめ、中國探題とす。後、吉野に歸順して京師に入り、兵敗れて石見に走る。同十七年山名時氏國內を略定し、終に足利義隆に降り、子氏清謀死し、備中の守護細川滿之其子基之相繼いで守護を兼ね、嘉吉年中山名時豐守護となり、子は豐を神邊に置き、文明年間宗家山名政豐の次子俊豐代て守護となり、傳へて氏政に至り、天文七年大内義隆に滅ぼさる。時に尼子經久亦北境を蠶食し、安藝の毛利氏、大内氏に附し、宮三吉、杉原諸氏を降す。大内氏滅び、全國毛利氏に屬せしが、關ヶ原役後徳川氏毛利氏の地を削り、此國を擧げて福島正則に賜ふ。元和の初正則除封、國の八郡を割きて淺野長晟に賜ひ、又福山に水野勝成を封ず。寛永九年長晟其子長治に分封す。元禄年中水野氏封封松平忠輝之に代り、寶

永年中桑名に徙り、阿部正邦之に代る。即ち幕末に於て今の尾道市、御調、世羅、三比婆郡及甲奴郡の一部は廣島藩淺野氏の所領にして、沼隈、深安、蘆品三郡及神石郡の一部は福山藩(阿部氏、十一萬石)に屬したり。明治維新福山縣を置き、尋で深津縣と改め、又之を廢して小田廣島二縣より分治し、明治九年悉く廣島縣の所管となる。

文籍 藝藩通志、二五九冊(賴惟柔等)藝備國郡志、黒川道祐、廣島縣統計書、備後安藝二國土性圖及說明書(農商務省地質調査所刊)。

ビンゴヤマ(備後山) 大和國吉野郡の東南隅に在る山、高四二九〇尺、下北山村大字大瀨の東に峙つ。其脈東に延びて紀伊國北牟婁郡に互り、更に北折して大瀨ヶ原山に連接す。

ビンナクルシヨシヨ(諸嶽) 〔藝備〕尖閣列島の條を見よ。

ビンネリタケ(嶽) 〔北海〕日高國樺皮郡の海岸一里半に峙つ山、標高三三三三尺、北は日高山脈に連り、南は海に迫りて、海岸は有名なる模倣の險路となる。

ビンネチセネリタケ(岳) 〔北海〕石狩國濱益郡、天鹽國増毛郡に跨る山、高四〇一六尺。

ビンマンジ(敏萬寺) 〔滋賀〕近江國犬上郡多賀村の大字、もと敏萬寺と呼ぶ大刹ありしが、長政の爲に焼かれ、今は唯地名に其名殘る。

フウキ(富貴) 〔愛知〕尾張國知多郡の村、百三十五、富貴をも見よ。

フウキカク(富貴角) 〔臺灣〕臺灣本島の極北角、淡水港より海岸に沿ひ、北行五里海岸は漸次高まり、内部數哩間甚だ平坦にして、淡水山脈に達す。角上に燈臺あり、第二等不動白色明弧は北七〇度より北八七度四まで、二〇三度間とし、燈高海上六一尺、晴天光達一九哩、此燈臺には壓搾空氣霧笛の設あり、冥濛なる天候には一分を隔て、之を吹鳴す。平穩なる天候には其音約四哩に達す。

フウギサン(風儀山) 肥後國菊池郡の北に峙つ山、豐後國日田郡に跨る、高三四〇六尺、山中に大智禪師の開基なる聖護院の址あり。

フウキビハントウ(風儀尾半島) 〔臺灣〕澎湖島の西南なる半島、崑崙灣の在る所なり。

フウウシヨウ(風儀庄) 〔臺灣〕阿緬廳管下善餘里の庄、東に里龍の山を負ひ、西は海に面し、風儀溪の河口に在り、恒春への要路に當り、牡丹社を経て八瑤灣に出づる山路を通ず。河口は淺小なれども、支那形船來泊す。但し此邊は山下風來ること多く、風浪常に強盛なり、村の周圍は總べて山に包まれ、樹木茂生す(百二八)。

フウデンサン(風傳山) 紀伊國南牟婁郡の西南に在る山。

フウヒトウ(風埤頭) 〔臺灣〕臺灣本島の西南岸なる打狗東港兩港の間なる砂嘴。

フウラノ(富良野) 〔北海〕石狩國空知郡の地名、上中下の三村に分る。各鐵道停車場あり、又下富良野に郵便局あり。

フウレツ(風連別) 〔北海〕天鹽國苫前郡初山別村の字、苫前岬の北約一六哩、此地と羽幌との間に沙金を産す。植民地の區劃あり、郵便局あり。

フウレツ(振別) 〔北海〕千島國振別郡(樺提島)の村、オコック海に臨み、昔は會所を置き、明治十九年まで郡役所ありたり。鑛地は水深三尋乃至八尋、但し狹隘なり(百六)。

フウレツカワ(風連別川) 〔北海〕天鹽國上川郡に在る川、水源、イトイ山脈、名寄にて天鹽川に入る。沿岸は上川平野の一部なり、流程二里一四町。

フウレツケン(振別郡) 〔北海〕千島國九郡の一、樺提島の南部にして、根室支廳の所管なり。振別老門の二村あり。居民漁業を營む。鮭、鱒、鱈の漁獲額二萬五千圓(百五、百四)。

フウレツタケ(振別岳) 釧路國阿寒郡に在る山、高四三四〇尺。

フウレン(風連) 〔北海〕天鹽國上川郡名寄村の部落、明治三十五年の新聞にして、鐵道驛あり、名寄驛へ五哩、士別驛へ九哩。

フウレンカワ(風連川) 〔北海〕根室國根室郡に在る川、水源、釧路國境、東流して、低地に入り、風連湖を成す。流程、四里七町、川幅七〇間、沿岸濕地多し。

フウレンケンヤ(風連原野) 〔北海〕根室國根室郡別村に屬する原野、西は根室釧路の國境を以て、別原野に隣し、面積一二七〇萬坪あり。風連川原野の北西部を流れ、風連湖に注ぐ。地勢概ね丘陵にして、平地は僅に風連湖畔の濕地なりとす。其幅凡そ八〇〇間乃至一五〇〇間、氣候は初霜九月下旬、終霜翌年五月中旬、初雪は十一月月上旬なれども、年内に積雪すること稀にして、翌年一二月の頃一尺乃至一尺五寸に達す。夏季は海上より來る濃霧あり、湿度高からず、地質は表層黒色壤土にして、其中に薄層の火山灰を挿入する所あり、次層は砂質壤土、其下は粘土なり。又風連湖畔には泥炭を出す所あり、諸川の水質は清冷、飲用に適し、又灌溉に便なり。交通は風連川大形の帆船を通ずるを以て、之に依り水路釧路に通ずるを得。陸路は根室厚岸間の舊道あり、日用品は悉く根室町に仰ぐ。

フウレンユ(風連湖) 〔北海〕根室國根室郡に在る湖、周囲一六里三〇町、根室町の西四里、根室半島の頭部に起り、北、野付郡の境に至り、殆ど根室郡海岸の七分を掩有す。北海岸に特有なる海岸湖にして、一條の砂洲を以て海を隔ち、遠太トローイの二所に於て海に通ず。湖畔一帶卑濕なる蘆原にして、所々林藪を成す。嚴冬中

は湖水凍結して、海釣氷上に眠るといふ。湖中鮭鱒を産す。

フウンスキ(武運岬) 大隅國大島の北隅に斗出せる岬角、笠利岬と名瀬港との間に在り、險崖にして、附近に立神岩あり。

フエカワ(笛川) 伊勢國多氣郡大滝村の西なる細流、在原平が響宮に通ひし時、笛を吹き信とせし地と言傳ふ。九條内大臣の歌に、「音にたちて根みやせまじ、笛川の瀬による竹のをのかうきふし」。

フエキ(笛吹) 〔長崎〕肥前國北松浦郡の村(百四)。

フエキカワ(笛吹川) 甲斐國東部に在る幹川、水源、東山梨郡奥仙丈ヶ嶽の東南流して、小松田中の邊に至り、重川、日川を合せ、西折して、荒川を容れ、市川、大門町に至り、釜無川、蘆川と合して、富士川となる。流程一四里、幅最も廣き所百二十間、水甚だ急ならざるを以て、石和より市川まで四里間舟楫の利あり、是より富士川の漕運に連絡すべし。此川一に子西川、一に音取川(作る)といふ、子の方位より西の方位に流るゝを以てなりと。上流に二瀑あり、一ノ瀧、二ノ瀧といふ。

フエキノイケ(笛吹池) 大和國、南葛城郡忍海村笛吹の北、梅室に在る池、古歌に詠じ、名高し。「笛吹の池の堤はとほくとも、ちかくとひなはわすれさらん」(古今六帖)。「笛吹の社の神は音にきく、遊の岡やゆきかへらん」(藻鹽草)。

フエキヤマ(笛吹山) 大和國南葛城郡

忍海村に在る山、大和志に「巨樹蔚茂、風雨毎に之を撼かし、室蓋の如し」と其名の因て起る所なるが、山中火雷神社あり。二座は火神を祭り、一座は笛吹連の祖を祭る。

フエマツ(笛舞) 〔北海〕日高國樺皮郡饒泉村の大字、近呼饒泉の中間なり。

フカ(富家) 〔岡山〕備中國川上郡の村、台元見。

フカイ(深井) 〔大阪〕和泉國泉北郡の村、台元見。●〔埼玉〕武藏國北足立郡鴻巣ノ集町邊の舊庄名、後、村名に殘りしが、今は中丸村の大字となる。長尾景春、上州白井の城主の孫、景春、天文年中此に生れ、深井を稱し、其子孫主著せりと傳ふ。

フカイサワ(深井澤) 〔三重〕伊勢國鈴鹿郡の村(百三)。

フカウラ(深浦) 〔青森〕陸奥國四津輕郡の村、大字、深浦は能代街道に當り、日本海に面し、一港を抱く。昔は津輕四港の一に數へられ、河口は北西に面し、海の内、外暗礁多く、鑛地甚だ狭し。然れども此沿岸數十里間、他に鑛地なきを以て、喫水淺き船若くは和船の遡風に遇ひし時の假泊地となる。燈臺あり。木造四角形、白塗にして、燈は白色、晴天光達九哩。圓覺寺は古刹にして、康正永正頃遺營の古文書を藏すといふ。本尊は觀音にして、殿堂壯麗、國內稀に見る所なり。郵便局あり。

フカエ(深江) 〔大阪〕攝津國東成郡南新開村の大字、河内國中河内郡高井田村に

に近き小市街にして、舊名を土呂土羅に
も作ると呼べり。毎月敷次市場を開き、山
地の薪炭、海邊の魚類、近郷の木綿等を交
易す。郵便局あり。白三、●【愛知】三河
國海美郡に在りし村。明治三十九年高師
村に合す。●【山梨】甲斐國中巨摩郡の
村。八八七。●【岐阜】美濃國惠那郡の村
合。●【宮城】磐城國刈田郡の村。合
五三三。●【巖手】陸奥國二戸郡の町。奥州
街道の一驛にして、郡の首邑なり。郡役
所、警察署、區裁判所、中學校、郵便局等あ
り。蠶絲、縮緬を産す。一月町より二里一
三町、金田一驛へ一里五町、福岡停車場は
二十餘町を隔てたる石切所村に在り。
宮城野城址は安倍貞任の族白鳥三郎高
任の城きしものと傳ふ。天正年中南部氏
の族九戸左近將監政實此に居り、其本家
を撤ぐこと能はざるを恨み、反を謀り終
に蒲生淺野井伊堀尾諸將の兵を引受
け、合戦し、力竭きて滅ぶといふ。其址今
詳ならず。六三三。●【巖手】陸奥國江刺
郡の村。合。●【石川】加賀國石川郡
河内村の大字。昔結城宗俊の據りし城址
あり。●【富山】越中國四國郡の町。北
陸街道石動高岡間の一市街にして、高岡
より二里一九町、石動より一里三四町、又
富山市より八里一町とす。鐵道北陸線の
車驛及郵便局警察分署等あり。産物に菅
笠あり。八〇六。●【岡山】美作國久米郡
の村。津山町の南にして、津山川を以て相
隔。大字。舊名。其最高峰を前山とす。

所といふ。寛永二年此を津山城下に移し、
吹屋町といふ。荒神山城址あり。白三三
●【荒神山】を山見。●【岡山】備前國兒島
郡に在りし村。明治廿九年編入村に入る。
福南山の北麓なり。●【愛媛】伊豫國周
桑郡の村。郡の北に位し、郡役所警察署
郵便局等あり。大字。丹原の地にも今井
池田順連寺に屬せる原野なりしが、正保
元年松山城主久松氏の開墾せる所とい
ふ。福岡八幡は大字今井に在り。社に古面
三箇あり。又門の二神像も頗る古代のも
のといふ。久妙寺は大字久妙寺に在り。
京都仁和寺の支院にして、行基の創建と
いふ。堂塔多くは廢壞し、今十二所。現堂
荒神堂、石像の大地蔵僅に存す。空海此
寺に居住せしにより、又弘法院と號す。寺
内樹木多く、花時遊客少からず。白三三
●【フクオカケン】福岡縣 九州の北端に在
る縣。四境、東南は二分縣、西南は熊本縣
に接し、西南の一端有明海に臨み、西は
佐賀縣に連り、北は支那海、東北は周防灘
に面す。西經八度三六分一、九度四分、北
緯三二度五九分一三、三度五八分、東西二
七、三〇町、南北三〇里〇五町、面積二
三、八方里五二、行政上、福岡市及糟屋宗
像、遠賀、鞍手、嘉穂、朝倉、筑紫、糸島、早
良以上筑前國、久留米市及浮羽、三井、三
浦、八女、山門、三池以上筑後國、門司小
倉の二市及金敷、田川、京都、築上、以上豐
前國の四市、一九郡に分ち、縣廳を福岡
市に置き、官廳を福岡市に在る。白三三

【地勢】管下を大別して支那洋城、遠賀川
城、筑後川城及周防灘城の四とす。べし。
遠賀川城は筑前國遠賀鞍手嘉穂の三郡
及豐前國田川郡にして、所謂筑豊炭田の
主部を成し、香春、弓削田、大隅、飯塚直
方、植木、蘆屋の諸名邑皆區域に在り。其
埠頭を若松港とす。此諸邑は概れ石炭業
と共に發達せるものなり。支那洋城に屬
せるものは筑前國宗像、糟屋、筑紫、早良
糸島の五郡にして、町村は概れ海濱に接
し、津屋崎、古賀、西新町、姪濱、前原、深江
の諸邑あり。其中央に在るを福岡市とす。
即ち此區域の貨物集散地なり。福岡市の
南那珂川に沿ひ筑後地方に通ずる一條
の谷あり。太宰府町、難波等のある所と
す。筑後川城は筑後全圖及筑前國朝倉郡
之に屬し、西南有明海に低下せる一區を
成す。東南隅の外は土地平野肥沃にして、
産物に富み、運輸の便あれども、水害甚だ
多し。此區域に在るを久留米市御井田
多し。此區域に在るを久留米市御井田
主丸吉井、大川、柳河、高島、大田田の
諸邑とし、其貨物運送は主として有明海
に依り、其集散地を久留米市とす。有名
なる三池炭山亦此に在り。其石炭は大平
田港を経て口津津港に送る。周防灘城は
即ち豐前國全圖、京都、築上三郡の地に
して、西に山を以て東面す。是れ又近年
炭業と共に發達せる地にして、其埠頭
を門司市とす。小倉市及行橋、椎田、八屋
の諸邑此に屬す。山系は凡そ九脈に分つ
べし。筑前國の間に在るを前山とす。

脈とし、十坊岳、浮岳、獅子、舞岳、雷山、酒盛
山、九千部山等連り、東、城ノ山に盡く。其
支峯に油山、飯盛山、高祖山等あり。糸島
筑紫郡の南部に蜿蜒す。二、志摩半島
を東西に連するを志摩山脈といふ。天
ヶ岳、野北山、可也山(山頭支武岩より成
るを其高山とす。三三四)春振山脈と那
賀川の谷を隔て、遠賀川との間に蟠る
ものを三郡山脈、孔大寺山脈とす。三郡
山脈は糟屋と鞍手、嘉穂二郡との界を
成し、鷲野、犬鳴、立石の諸山あり。多
くは高六七〇米(一九八〇—二二一〇
尺)にして、三郡山は三〇九六尺あり。孔
大寺山脈は宗像、遠賀二郡界の海蔵寺山
に起り、孔大寺、萬ヶ岳、金剛山等あり。
高二三〇尺以下とす。(五)遠賀川の東
筑前國の界を成すものを福智山脈と
す。帆柱山、尺岳、猿平山等あり。(六)其東
北に一の谷を隔て、企救半島を構成す
るものを企救山脈といふ。鳳頭山、桐ヶ谷
山、足立山等あり。(七)豐前、筑後、筑前三
國の交界に近く、幾ゆるものを、有名なる
彦山山脈とす。山勢雄大、其脈四方に延
び、福岡市に於て最高三三度九、最低零下四
度、福岡市に於て最高三三度九、最低零下
三度七、椎田(豐前國)に於て最高三五度、
最低零下六度なり。

す。其脈左右に分れ、右脈は筑後川の南岸
を成して八女、浮羽の二郡を界す。即ち屏
風山是なり。左するものは筑後肥後の國
界を成して有明海に盡く。馬鞍山、南嶺
嶺、鷲山、床山、三池山等其脈中に在り。
水系は支那海に注ぐもの六條あり。瑞梅
寺川、室見川、那珂川、比惠川、多々良川、
脇川といふ。其最大なるを那珂川とす。
流程八里餘、脇川の外は皆福岡灣に入る。
此灣に注ぐ五川は多量の渣滓、泥土を運
び來りて河口に沖積し、次第に灣内を埋
塞す。蓋し上流山林の荒廢せるによるな
り。筑前の東部に在るを遠賀川とす。山
谷廣大、豐前の田川郡及筑前の嘉穂、鞍
手、遠賀の三郡其流域に屬し、運輸、灌溉
の利甚だ大なり。流程一五里。以上の諸
川皆北流す。周防灘城は土地狹隘なるを
以て、諸川流域長からず。其積大なるを
長峽川、今川、祓川、山國川とす。皆東流し
て周防灘に入る。就中長峽、今川、祓川は
皆一所に集注するを以て、漸く土砂を堆
積し、次第に巽島に向て近づきつゝあり。
筑後川は九州第一の大川にして、筑前の
朝倉郡、筑後の浮羽、三井、三浦の三郡其
沿岸に在り。管内を流ること二十二里
餘、有明海に注ぐ。沿岸は田野開け舟運
灌溉の利多しと雖も、洪水の患あるを免
れず。筑後川の南に在りて、同じく有明海
に入るものを矢部川といふ。下流は筑後
川と水脈交錯し、殆ど一域を成す。海岸は
本縣の面する海四、支那海、濠洲、周防灘

及筑紫灘有明海とす。其沿岸は多くは
平夷の砂濱にして、周防灘、筑紫灘に面す
る所は殆ど一の岬角を見ず。豐前の企救
半島、洞海、北の半島、宗像郡の一部及
糸島郡の沿岸は險崖にして、所謂陸岸多
く、部名古屋岬、妙見岬、鐘岬、西浦岬、碓
石岬、大戸岬、野部岬、鹿家岬等斗出。筑
前の中央稍西に當りて深く陸地に穿入
するを福岡灣とす。灣の北東隅なる奈多
濱より、一條の砂嘴を西に斗出し、志賀
島に連り、支那海の風浪を屏障す。其灣頭
に博多福岡の二港あり。但し水淺くして
碇泊に便ならず。是より東は或は砂濱或
は險崖交錯し、響灘の東に至りて一の内
海を成す。洞ノ海といふ。其灣口に若松
港あり。灣内は水淺くして舟行に適せず。
此より東は砂灘多き港あり。小倉といふ。
其東は海岸愈高きとして斷崖多く、門司近
傍は殊に然りとす。門司の前面は即ち下
關海峡にして、朝鮮海峡より日本内海に
入る唯一の海門にして、交通及國防上極
めて重要な地なり。兩岸相逼り、其最も狹
き所僅に一、九八〇尺。大潮漲は速率一時
間七里乃至八里。小潮漲は三乃至五里
四里を下らず。島嶼は多く支那海及濠洲
に在り。兩海の間に在るを大島、地島、勝
島とし、支那海に相島、志賀島、支那島、鹿
島あり。殘島は福岡灣口に在り。沖ノ島は
鐘岬より四哩を隔つ。響灘に在るを雄白
島、雄白島とす。諸島の中最大なるを大島
とし、周圍三里餘。

筑前國田川、遠賀、鞍手、嘉穂、田川の四郡
に跨り、又分ちて企救、宗像、糟屋、筑紫、
那珂の五郡に現はる。蓋し上古に發育せ
し數種の別岩及中世代の岩礫は、之を貫
き噴出せし花崗岩、閃岩、珩岩等の火成
岩と共に北東より南西に伸び、豐前及筑
前に於ける高峻の地を形成せしが、其後
地變力の爲め、北西より南東に向て數條
の龜裂を生じ、其間に沈渣累積せし砂礫
及埋木を雜へし泥土の固結せるものは、
即ち石炭を包蔵せる第三系の地層にし
て、其地勢高峻ならず、主要炭層の多くは
地盤稍卑き所に露はれ、開採の地は皆水
準以下の位置に在り。而して遠賀區域の
炭質は善真ならざれども、不燃質の炭質
硅化木を雜へざる特色あり。其他は多く
瀝青質の上炭を出せども、其火山岩に接
するものは、蒸焼せられて、往々骸炭様の
灰分多き燧石に化成することあり。糟屋
郡の北には船底狀の向斜層を成して、其
内に三尺乃至五尺の炭層を藏し、其南に
位するものは、二尺乃至三尺に互れる個
個の炭層を現出せり。又煤田の豐前に在
るものは、小倉市の南に向斜層を成す五
尺の炭層と、遠賀川の一支流なる彦山川
に緣れる八尺及四尺の岩層にして、其
一部時に變體するものあり。今各郡に就
き、其産額を比較すれば、嘉穂郡の二、五
萬噸最も多く、鞍手郡二、七萬噸、田川郡
二、〇九萬噸、遠賀郡八、七萬噸、糟屋郡三、三
萬噸之に次ぐ。獨り三池は全く別層を

成す。
【氣候】概れ溫帯なり。但し概して暑は筑
後に強くして、寒は豐前に甚だしく。筑前
は其中間に在り。明治四十二年久留米市
に於て、氣温最高攝氏三五度、最低零下四
度、福岡市に於て最高三三度九、最低零下
三度七、椎田(豐前國)に於て最高三五度、
最低零下六度なり。
【産業】生業の主なるものは農業にして、
工業、鑛業此に次ぎ、水産業又之に亞ぐ。
農産物は米二、五八萬石、麥七七萬石、其
他百萬圓以上は菜種、蘿蔔、糖芋、八〇萬
圓以上は青芋、七十萬圓内外は粟、甘藷
五十萬圓内外は大豆、三十萬圓内外は茄
子、葡萄、二十萬圓内外は豇豆、南瓜、牛蒡、
精皮、柿、茶、十萬圓以上は小豆、蕎麥、馬鈴
薯、漬菜、筍、蓮根、胡瓜、菜菔、蜜柑等とす。
米は宗像、早良、三池三郡の外は皆十萬石
以上の産あり。林産物總計二、九八萬圓。内
用材一、〇〇萬圓。薪炭材四、八萬圓。竹材
八萬圓。雜産物一、三〇萬圓あり。礦産物に
は有名の石炭あり。一年採掘高九、六五
萬噸(四〇七八萬圓)。日本全國産額の六
割を占め、二年千萬斤以上を産する炭坑
八十三、就中三池炭山の如きは規模宏大、
東洋第一の稱あり。販賣額六〇〇萬圓に
達し、炭は大牟田より口津津に送り、又
は肥後の三角港より輸送せらる。其他
糟屋、遠賀、鞍手、嘉穂、田川諸郡の産は若
松、門司の二港より各地に輸出す。水産物
は總額二、三六萬圓。漁獲物一、四七萬

フクセ

丹波の青鬼といへり。合三三三。●【奈良】大和國山邊郡の村。永祿年中此地の郷士山田道安、東大寺大佛の修補をなす。又郡介の水室ありき。文明以降は福住氏あり。此所に割據し、終に筒井氏の爲に征服せらる。合三三二。

フクセ(福瀬) 【大阪】和泉國泉北郡泉郡東横山村の大字。檜尾山の北麓にして、池田川の上流に沿ふ。島地獄あり。南面利湯といふ。池中絶えず瓦斯を湧出し、鳥類之中れば忽ち死す。天保年中浴場を開けり。又岩障より湖の湧く所あり。湖谷と稱す。

フクダ(福田) 【兵庫】播磨國加東郡の村。古の福田庄にして、東條川に瀕す。合三三三。●【長崎】肥前國西彼杵郡の村。稻佐岳の南麓にして外洋に面す。元祿年中南蠻船來りて交易せる事あり。合三七七。●【千葉】下總國東葛飾郡の村。合三三七。●【埼玉】武藏國比企郡の村。大里郡に接せる丘陵に居る。大字福田に冷泉湧出す。温度攝氏一度五。皮膚病に効ありといふ。藥師湯と呼ぶ。合三三二。●【愛知】尾張國海東郡に在りし村。明治三十九年南陽村に入る。近年尾張伊勢間の公道此に懸る。●【福島】磐城國相馬郡の村。合三七〇。●【福島】岩代國伊達郡の村。合三七〇。●【石川】加賀國江沼郡の村。合三三六。●【富山】越中國西礪波郡の村。合三三三。●【岡山】備前國邑久郡の村。合三三三。●【岡山】備前國邑久郡の村。明治三十九年。

フクナガ(福永) 【福島】岩代國大沼郡水玉岡村の字。下野街道に當り。一嶺を以て南會津郡と界す。其山路を福永峠といふ。もと火玉村ともいひしを、加藤氏領主の時忌みて改稱すといふ。●【廣島】備後國神石郡の村。甲奴郡に近き山村にして、郵便局あり。合三三三。フクナ(福生) 【鳥取】伯耆國西伯郡の村。日野川口の西に沿ひ弓ヶ濱の東界なり。天正年中の開墾といふ。合三二九。フクナリ(福成) 【鳥取】伯耆國日野郡の村。合三三三。●【福岡】筑前國朝倉郡の村。合三三三。フクナンサン(福南山) 備前國兒島郡の西部に聳ゆる山高一〇七三尺。山上に福南神社あり。フクノ(福野) 【富山】越中國礪波郡の町。礪波平野の中央に在る一市街にして、城端、井波、出町、津澤、福光五街の中央に在り。福光へ西南一里、三四町、出町へ東北一里、四町、福布、木綿、綿等の製出盛なり。中越鐵道停車場、郵便局等あり。合三三八。フクノカタ(福野郷) 能登國羽咋郡中甘田村に在りし潟湖。もと三里餘ありしが、近年埋塞して漸く田畝となり。今は蘆葦の叢をなすあるのみ。フクハマ(福濱) 【岡山】備前國御津郡の村。合三三三。フクハラ(福原) 【埼玉】武藏國入間郡の村。合三三三。●【茨城】常陸國西茨城郡西

フクダ

十七年福田新田呼松二村の合稱。合三三六。●【岡山】備前國都窪郡の村。明治三十五年山田大福二村の合稱。合三七九。●【香川】讃岐國小豆郡の村。小豆島の東北端に在り。東北播磨灘に面し、西南は大部村安田村に接す。居民農漁、漁及礫石業を營む。石村は花園石にして、其實良好なれば宮城の御用石を徴せられたり。福田灣は東面金崎と辨天島とを以て港門とす。灣の中央は水深九尋乃至十二尋。北東風の外諸風を避くべし。錨地は高二〇尺の岩を、辨天島の西端と一線に望み、水深一〇尋の所を最好とす。(水路誌) 其田神社は小豆島五社の一にて、應神天皇を祀る。田中、綾、藤、あり。綾は但馬出石の人。文久二年勤王の同志と伏見の寺田屋に會し事を謀らんとし、薩藩の爲に護送せらるるの途、播州沖にて害せられ、其男嘉猷の屍と共に此地に漂着せり。近年父子の墓表を建つ。品川子爵參詣して詠みて曰く、播磨津あらしき波間にすてられし、君が屍の香くはしきかな。合三三六。●【福岡】筑前國朝倉郡の村。合三七七。●【熊本】肥後國上益城郡の村。合三七七。フクダ(福多) 【新潟】越後國南蒲原郡に在りし村。明治三十四年福島村に入る。フクダシデン(福田新田) 【岡山】備前國兒島郡に在りし村。明治三十七年福田村に入る。フクタニ(福谷) 【岡山】備前國吉備郡の

村。足守川の水源なる山谷にして、備前國境に接す。大字東山内に郵便局、西山内に炭酸冷泉あり。合三三七。フクチ(福地) 【山梨】甲斐國南都留郡の村。合三三六。●【岐阜】美濃國加茂郡の村。合三七六。●【秋田】羽後國平鹿郡の村。合三七六。●【福岡】筑前國鞍手郡の村。豐前國に接し、彦山川に跨る。東南隅に福地山あり。福地山の西を鷹取山といふ。城址あり。天正年中大友氏の臣毛利鎮實の守れる所にして、黒田氏に至り、其臣手塚水雪を置く。もと此地より鷹取焼といへる瓷器を出せり。黒田長政征韓の役に浮屠とせし韓人に造らしめしものにして、茶道の名物なり。染川、横岳、秋ノ夜等いへる茶入は最も賞美せらる。此業慶長末年に至り廢絶したれども、後世筑前所々に其名を稱するものあり。合三三六。フクチ(福池) 【佐賀】肥前國杵島郡の村。合三七七。フクチカワ(福知川) 丹波國に在る音無瀬川の一。フクチヤマ(福知山) 【京都】丹波國天田郡の町。國中第一の都會にして、俗に丹波の京といふ。音無瀬川(福知川)の左岸なる平野に在り。市街は東西七町、南北一五町。郡役所、警察署、區長裁判所、郵便局等あり。此地音無瀬川に舟楫の便ありて、丹波國由良津に達し、且つ阪越鐵道の停車場を設け、大阪を距る七哩。舞鶴へ一六哩。運輸の便あり。又舞鶴往復の要路に

當るを以て、市中頗る繁華にして、丹後、但馬の商品は此地より輸送するもの多し。明治四十年大水害を蒙り、砂傷少からざりき。京都より二三里二町、龜岡より一六里二町、丹後宮津より一五里五町、城址は天文の頃荒木義村の居城にして、明智光秀の陥る所となる。天正十二年豊臣秀吉羽柴秀勝を此に封じ、大に城を修め、橋原家次専ら事に當る。文祿元年秀勝卒し、小野木公綱三萬石を以て此に封ぜらる。慶長五年公綱敗死し、有馬豊氏之に代る。元和七年岡部長森寛永元年稻葉紀通慶安二年松平忠房を経て寛文九年朽木植昌三萬二千石を以て之に居り、世襲して明治維新に至る。城址には今步兵第二十聯隊工兵第十大隊の兵營あり。舞鶴に近く、山陰の要鎮なり。合三三六。文籍 福知山名所山口加米之期町三三。フクチヤマ(福智山) 筑前國鞍手郡及豐前國田川、企救二郡に跨る山。高二七〇〇尺。山勢急峻、北は尺岳、西は鷹取山、南は薄霧岳に連る。日本武尊登臨ありし所といふ。山中に権現祠あり。祭神は彦山に同じとも、又保食神ともいふ。祠より六七町奥に白糸瀧あり。高十二間、幅六間。フクツカ(福束) 【岐阜】美濃國安八郡の村。揖斐川の左岸なり。關ヶ原の役丸茂三郎兵衛此地に據りて西軍に應ぜしが、徳永壽昌に攻められ陥る。大字鹽崎に、藤森伏魔堂あり。安永年中大垣藩士伊藤傳右衛門の設計になり、大垣輪中牧輪中の内

フクチ

宮神社あり。此社の事、(羽川谷)の條に記す。フクマ(福間) 【福井】越前國今立郡の村。合三三五。フクマ(福萬) 【鳥取】伯耆國西伯郡の大字。大神山神社はもと此地に在りしといふ。今、大高村に移る。フクマ(福間) 【福岡】筑前國宗像郡下四郷村の字。津屋崎町の南なる一市街にして、郵便局及鐵道九州線の車庫あり。フクマイケ(福萬池) 備前國赤松郡周匝村福田に在る池。面積二四〇〇歩。フクマチ(福町) 【大阪】和泉國泉北郡東陶器村大字福田の字。河内國大草村と相對し、高野街道に當る。此邊古の陶器山の遺跡といふ。フクミツ(福光) 【富山】越中國西礪波郡の町。石動に亞げる名色にして、商工業の盛なる地なり。郡の南部小矢部川の上流に沿ふ。西、高窪越を經、七里にして加賀國金澤に出づべし。又中越鐵道の停車場あり。城端、高岡、富山、伏木の各地に通ず。郵便局、警察分署等あり。産物には生絲、蚊帳、吳那丸布、干柿等あり。殊に生絲は近年海外輸出の途開けしより盛大となり。數十の製絲場あり。日々工女千五百人を使役し、輸出額常に七百萬斤を下らずといふ。元暦の頃美濃の曾代より製絲業を傳習せしに起り、越中曾代絲の名從來世に知られたり。又吳那丸布はもと石動町附近に出でしも、今は獨り此地の

山内村の大字。鐵道小山永戸線の車庫あり。又郡部より八町、四鎮、郵便局あり。●【栃木】下野國那須郡の舊郷名。今は佐久山町の大字に其名殘る。福原氏累代の城地なり。福原氏の祖を久隆といひ、那須實隆の四男(餘一宗隆の兄なり)。初めて此に居り、福原三郎と稱す。應永年中那須資之、資重兄弟にて所領を二分するに及び、資之は福原に居り、上那須を領し、資重は島山に居り、下那須を領せり。後、上那須斷絶し、下那須の資房統一せしが、資晴に至り、小田原北條氏に與みし。豊原氏の爲に除封。僅に千石を給して此に置かれ。祀を存せしが、徳川氏の時那須氏復興して島山二萬石を領するに至れり。貞享年中家督争の爲め除封。元祿年中徳川幕府族資郡に千石を給し、此地に居らしめ、交代寄合に列し、傳へて明治維新に至る。●【愛知】三河國西加茂郡に在りし村。明治三十九年小原村に入る。●【山形】羽前國北村山郡の村。合三三三。●【廣島】安藝國高田郡高原村の大字。毛利家の大夫福原越後の祖先の出でし所にして、福原廣俊貞俊等の墓あり。●【徳島】阿波國勝浦郡の村。勝浦川の水源地にして、南は那賀郡の木頭谷と山峯を隔つ。大字生實は杉、檜の木材に富む。大字福原に郵便局あり。合三三六。フクベタケ(福部岳) 美濃國郡上、武儀二郡に跨る山。又狐岳に作る。晴天には山上より伊勢海を望むべしといふ。山麓に星

當るを以て、市中頗る繁華にして、丹後、但馬の商品は此地より輸送するもの多し。明治四十年大水害を蒙り、砂傷少からざりき。京都より二三里二町、龜岡より一六里二町、丹後宮津より一五里五町、城址は天文の頃荒木義村の居城にして、明智光秀の陥る所となる。天正十二年豊臣秀吉羽柴秀勝を此に封じ、大に城を修め、橋原家次専ら事に當る。文祿元年秀勝卒し、小野木公綱三萬石を以て此に封ぜらる。慶長五年公綱敗死し、有馬豊氏之に代る。元和七年岡部長森寛永元年稻葉紀通慶安二年松平忠房を経て寛文九年朽木植昌三萬二千石を以て之に居り、世襲して明治維新に至る。城址には今步兵第二十聯隊工兵第十大隊の兵營あり。舞鶴に近く、山陰の要鎮なり。合三三六。文籍 福知山名所山口加米之期町三三。フクチヤマ(福智山) 筑前國鞍手郡及豐前國田川、企救二郡に跨る山。高二七〇〇尺。山勢急峻、北は尺岳、西は鷹取山、南は薄霧岳に連る。日本武尊登臨ありし所といふ。山中に権現祠あり。祭神は彦山に同じとも、又保食神ともいふ。祠より六七町奥に白糸瀧あり。高十二間、幅六間。フクツカ(福束) 【岐阜】美濃國安八郡の村。揖斐川の左岸なり。關ヶ原の役丸茂三郎兵衛此地に據りて西軍に應ぜしが、徳永壽昌に攻められ陥る。大字鹽崎に、藤森伏魔堂あり。安永年中大垣藩士伊藤傳右衛門の設計になり、大垣輪中牧輪中の内

フクチ

當るを以て、市中頗る繁華にして、丹後、但馬の商品は此地より輸送するもの多し。明治四十年大水害を蒙り、砂傷少からざりき。京都より二三里二町、龜岡より一六里二町、丹後宮津より一五里五町、城址は天文の頃荒木義村の居城にして、明智光秀の陥る所となる。天正十二年豊臣秀吉羽柴秀勝を此に封じ、大に城を修め、橋原家次専ら事に當る。文祿元年秀勝卒し、小野木公綱三萬石を以て此に封ぜらる。慶長五年公綱敗死し、有馬豊氏之に代る。元和七年岡部長森寛永元年稻葉紀通慶安二年松平忠房を経て寛文九年朽木植昌三萬二千石を以て之に居り、世襲して明治維新に至る。城址には今步兵第二十聯隊工兵第十大隊の兵營あり。舞鶴に近く、山陰の要鎮なり。合三三六。文籍 福知山名所山口加米之期町三三。フクチヤマ(福智山) 筑前國鞍手郡及豐前國田川、企救二郡に跨る山。高二七〇〇尺。山勢急峻、北は尺岳、西は鷹取山、南は薄霧岳に連る。日本武尊登臨ありし所といふ。山中に権現祠あり。祭神は彦山に同じとも、又保食神ともいふ。祠より六七町奥に白糸瀧あり。高十二間、幅六間。フクツカ(福束) 【岐阜】美濃國安八郡の村。揖斐川の左岸なり。關ヶ原の役丸茂三郎兵衛此地に據りて西軍に應ぜしが、徳永壽昌に攻められ陥る。大字鹽崎に、藤森伏魔堂あり。安永年中大垣藩士伊藤傳右衛門の設計になり、大垣輪中牧輪中の内

當るを以て、市中頗る繁華にして、丹後、但馬の商品は此地より輸送するもの多し。明治四十年大水害を蒙り、砂傷少からざりき。京都より二三里二町、龜岡より一六里二町、丹後宮津より一五里五町、城址は天文の頃荒木義村の居城にして、明智光秀の陥る所となる。天正十二年豊臣秀吉羽柴秀勝を此に封じ、大に城を修め、橋原家次専ら事に當る。文祿元年秀勝卒し、小野木公綱三萬石を以て此に封ぜらる。慶長五年公綱敗死し、有馬豊氏之に代る。元和七年岡部長森寛永元年稻葉紀通慶安二年松平忠房を経て寛文九年朽木植昌三萬二千石を以て之に居り、世襲して明治維新に至る。城址には今步兵第二十聯隊工兵第十大隊の兵營あり。舞鶴に近く、山陰の要鎮なり。合三三六。文籍 福知山名所山口加米之期町三三。フクチヤマ(福智山) 筑前國鞍手郡及豐前國田川、企救二郡に跨る山。高二七〇〇尺。山勢急峻、北は尺岳、西は鷹取山、南は薄霧岳に連る。日本武尊登臨ありし所といふ。山中に権現祠あり。祭神は彦山に同じとも、又保食神ともいふ。祠より六七町奥に白糸瀧あり。高十二間、幅六間。フクツカ(福束) 【岐阜】美濃國安八郡の村。揖斐川の左岸なり。關ヶ原の役丸茂三郎兵衛此地に據りて西軍に應ぜしが、徳永壽昌に攻められ陥る。大字鹽崎に、藤森伏魔堂あり。安永年中大垣藩士伊藤傳右衛門の設計になり、大垣輪中牧輪中の内

當るを以て、市中頗る繁華にして、丹後、但馬の商品は此地より輸送するもの多し。明治四十年大水害を蒙り、砂傷少からざりき。京都より二三里二町、龜岡より一六里二町、丹後宮津より一五里五町、城址は天文の頃荒木義村の居城にして、明智光秀の陥る所となる。天正十二年豊臣秀吉羽柴秀勝を此に封じ、大に城を修め、橋原家次専ら事に當る。文祿元年秀勝卒し、小野木公綱三萬石を以て此に封ぜらる。慶長五年公綱敗死し、有馬豊氏之に代る。元和七年岡部長森寛永元年稻葉紀通慶安二年松平忠房を経て寛文九年朽木植昌三萬二千石を以て之に居り、世襲して明治維新に至る。城址には今步兵第二十聯隊工兵第十大隊の兵營あり。舞鶴に近く、山陰の要鎮なり。合三三六。文籍 福知山名所山口加米之期町三三。フクチヤマ(福智山) 筑前國鞍手郡及豐前國田川、企救二郡に跨る山。高二七〇〇尺。山勢急峻、北は尺岳、西は鷹取山、南は薄霧岳に連る。日本武尊登臨ありし所といふ。山中に権現祠あり。祭神は彦山に同じとも、又保食神ともいふ。祠より六七町奥に白糸瀧あり。高十二間、幅六間。フクツカ(福束) 【岐阜】美濃國安八郡の村。揖斐川の左岸なり。關ヶ原の役丸茂三郎兵衛此地に據りて西軍に應ぜしが、徳永壽昌に攻められ陥る。大字鹽崎に、藤森伏魔堂あり。安永年中大垣藩士伊藤傳右衛門の設計になり、大垣輪中牧輪中の内

フクテ

九町村に及ぶ。合三七七。フクテ(福田) 【群馬】遠江國磐田郡福島村の大字。太田川の日なる泊舟地とす。水淺くして碇繋に便ならざれども、寶永年中震災の爲め横須賀港塞せるにより、此に避泊するもの少からず。郵便局あり。フクト(福戸) 【新潟】越後國古志郡の村。合三三三。フクトマリ(福泊) 【兵庫】播磨國印南郡的形村の大字。古は韓泊と稱し、室生、魚住間の海驛なりき。崖際に在りて地勢孤島に似たり。八家地蔵堂あり。正安四年築港の時安東蓮性木庭より移し、大永三年赤松の臣之に斬り露現ありしと稱す。此像石を好むとて、奇石、小石等を奉り、願をかゝること夥し。西に燈籠山あり。安東氏築港の際此山に燈火を置きしといふ。安東氏の此舉兵庫の築港に譲らず。當時大買集り、船舶多く寄港せしが、加古川尻の砂波浪の爲に寄せられ埋塞して次第に衰微せりといふ。フクトミ(福富) 【鳥取】因幡國氣高郡の村。合三三三。●【福岡】筑後國浮羽郡の村。合三七七。●【佐賀】肥前國杵島郡の村。六角川の筑紫海に注ぐ所にして、往古此邊は淤泥寄洲の場たりしが、天和以降漸く之を填め、良田を得る事千六百八十一町。白石新地の稱あり。合三七七。フクトミ(福富) 【福宮】美作國久米郡久米村に在る鑛山。銅を出す。フクトメ(福留) 【石川】加賀國石川郡の

フクナ

フクナガ(福永) 【福島】岩代國大沼郡水玉岡村の字。下野街道に當り。一嶺を以て南會津郡と界す。其山路を福永峠といふ。もと火玉村ともいひしを、加藤氏領主の時忌みて改稱すといふ。●【廣島】備後國神石郡の村。甲奴郡に近き山村にして、郵便局あり。合三三三。フクナ(福生) 【鳥取】伯耆國西伯郡の村。日野川口の西に沿ひ弓ヶ濱の東界なり。天正年中の開墾といふ。合三二九。フクナリ(福成) 【鳥取】伯耆國日野郡の村。合三三三。●【福岡】筑前國朝倉郡の村。合三三三。フクナンサン(福南山) 備前國兒島郡の西部に聳ゆる山高一〇七三尺。山上に福南神社あり。フクノ(福野) 【富山】越中國礪波郡の町。礪波平野の中央に在る一市街にして、城端、井波、出町、津澤、福光五街の中央に在り。福光へ西南一里、三四町、出町へ東北一里、四町、福布、木綿、綿等の製出盛なり。中越鐵道停車場、郵便局等あり。合三三八。フクノカタ(福野郷) 能登國羽咋郡中甘田村に在りし潟湖。もと三里餘ありしが、近年埋塞して漸く田畝となり。今は蘆葦の叢をなすあるのみ。フクハマ(福濱) 【岡山】備前國御津郡の村。合三三三。フクハラ(福原) 【埼玉】武藏國入間郡の村。合三三三。●【茨城】常陸國西茨城郡西

フクハ

山内村の大字。鐵道小山永戸線の車庫あり。又郡部より八町、四鎮、郵便局あり。●【栃木】下野國那須郡の舊郷名。今は佐久山町の大字に其名殘る。福原氏累代の城地なり。福原氏の祖を久隆といひ、那須實隆の四男(餘一宗隆の兄なり)。初めて此に居り、福原三郎と稱す。應永年中那須資之、資重兄弟にて所領を二分するに及び、資之は福原に居り、上那須を領し、資重は島山に居り、下那須を領せり。後、上那須斷絶し、下那須の資房統一せしが、資晴に至り、小田原北條氏に與みし。豊原氏の爲に除封。僅に千石を給して此に置かれ。祀を存せしが、徳川氏の時那須氏復興して島山二萬石を領するに至れり。貞享年中家督争の爲め除封。元祿年中徳川幕府族資郡に千石を給し、此地に居らしめ、交代寄合に列し、傳へて明治維新に至る。●【愛知】三河國西加茂郡に在りし村。明治三十九年小原村に入る。●【山形】羽前國北村山郡の村。合三三三。●【廣島】安藝國高田郡高原村の大字。毛利家の大夫福原越後の祖先の出でし所にして、福原廣俊貞俊等の墓あり。●【徳島】阿波國勝浦郡の村。勝浦川の水源地にして、南は那賀郡の木頭谷と山峯を隔つ。大字生實は杉、檜の木材に富む。大字福原に郵便局あり。合三三六。フクベタケ(福部岳) 美濃國郡上、武儀二郡に跨る山。又狐岳に作る。晴天には山上より伊勢海を望むべしといふ。山麓に星

フクマ

當るを以て、市中頗る繁華にして、丹後、但馬の商品は此地より輸送するもの多し。明治四十年大水害を蒙り、砂傷少からざりき。京都より二三里二町、龜岡より一六里二町、丹後宮津より一五里五町、城址は天文の頃荒木義村の居城にして、明智光秀の陥る所となる。天正十二年豊臣秀吉羽柴秀勝を此に封じ、大に城を修め、橋原家次専ら事に當る。文祿元年秀勝卒し、小野木公綱三萬石を以て此に封ぜらる。慶長五年公綱敗死し、有馬豊氏之に代る。元和七年岡部長森寛永元年稻葉紀通慶安二年松平忠房を経て寛文九年朽木植昌三萬二千石を以て之に居り、世襲して明治維新に至る。城址には今步兵第二十聯隊工兵第十大隊の兵營あり。舞鶴に近く、山陰の要鎮なり。合三三六。文籍 福知山名所山口加米之期町三三。フクチヤマ(福智山) 筑前國鞍手郡及豐前國田川、企救二郡に跨る山。高二七〇〇尺。山勢急峻、北は尺岳、西は鷹取山、南は薄霧岳に連る。日本武尊登臨ありし所といふ。山中に権現祠あり。祭神は彦山に同じとも、又保食神ともいふ。祠より六七町奥に白糸瀧あり。高十二間、幅六間。フクツカ(福束) 【岐阜】美濃國安八郡の村。揖斐川の左岸なり。關ヶ原の役丸茂三郎兵衛此地に據りて西軍に應ぜしが、徳永壽昌に攻められ陥る。大字鹽崎に、藤森伏魔堂あり。安永年中大垣藩士伊藤傳右衛門の設計になり、大垣輪中牧輪中の内

る奇石突起す。富士崎の名此に因る。丹崖
翠壁相映し、風景絶佳なり。紀ノ川十五里
の流程、此間を以て第一の勝景とす。

フジサト(富士里) 【長野】信濃國上水内
郡の村、合三三三。

フジサン(富士山) 駿河甲斐二國に跨る
山、本邦第一の名山にして、越後西部より

伊豆七島に互りて本邦を横断する一大
火山脈の中央に在る活火山なり。西は毛
無山脈を以て限り、北は御飯山脈に接し、
東は足柄山脈を界とし、南は愛鷹山を擁
して駿河灣に臨む。形状端正、四望其觀を
等うし、絶頂常に雪を敷く。盤周約四〇
里、海拔三七七八米(二四六七尺)。十
三國より望むを得べし。山形は倒懸せる
扇の如く、山頂稍坦にして、漸く四方に傾
斜す。頂邊に在つては傾斜三〇乃至三五
度なれども、麓に至るに従ひ漸く緩にし
て五度乃至一〇度となり、山側は彎曲し
て曲線を畫す。山腹以上は岩石嶮々とし
て草木生ぜざれども、山麓は樹木多く、其
材に富り、舊野は廣大にして、數里に互
る。絶頂には噴火坑あり、内院と呼ぶ。形
は不規則の卵形を呈し、長徑五町、短徑四
町半にして、南部に廣く、周圍約半里に達
し、深き頂上(表口拜所)より約四四八尺
なり。絶壁殆ど四周し、僅に南方の一隅よ
り坑底に降るを得。坑底は火山礫及岩塊
充滿し、稍平坦にして、恰も播盆底の如
し。此噴火口の北西雷岩割石間に、小内
院といふ、少し、陥落する所あり、亦噴火

口址なりといふ。大噴火口の東邊には絶
えず水蒸氣を發する所あり、亦金明水、銀
明水と呼び、頂邊なる水雪の溶解溜溜す
るものあり、絶頂より望めば岩石所々に
隆起し、寄生火山を成すを見る。其主な
るを寶永山、小富士及小御嶽の三とす。寶
永山は中央火口の東南に位し、須山四
合(村山)五合(兩登山道)の間に起り、海拔
七八一七尺なり。是れ寶永四年に湧出せ
しものとす。小富士は中央火口の東に位
し、海拔六二九〇尺、小御嶽は其北陸に尖
突し、七五九〇尺なり。山頂より四出する
湖、數十條あり、俗に之を石瀧といふ。其
最大なるを大澤と稱し、噴火口の西部に
在り、深六六尺あり、又噴出せる溶岩の河
敷流あり、其著明なるもの三、一は火口の
東北に流れ、吉田登山道の方位に従ひ桂
川に沿ひ甲州街道橋に達せしもの、一は
火口より西に向ひ、大澤の石瀧に沿ひ、
精進川を降り富士川に及べるもの、一は
火口の東に流れ、喜淵川に降り、沼津の近
傍に至り止まる。此三流中最も長きは猿
橋に至りしものにて、長八、九里に及ぶ。是
れ延暦十九年噴火の際、流せしものと
傳ふ。富士山は現今殆ど活動を止め、唯
火口の東邊に水蒸氣の昇上するあるのみ
なれども、往昔は猛烈なる噴火ありし事
天應元年より安政元年に至る千七十三
年間に十三回に及べり、即ち天應元年延
暦十九年同二十一年、貞觀六年(二回)、承
平七年、長元五年、永保五年、元弘元年、寛

永四年、元祿十三年、寶永四年、安政元年
とす。山を構成する岩石は、時々進出せし
岩液岩塊、火山礫等の凝結せしものにし
て、其石質二種あり、玄武岩及輝石安山岩
とす。玄武岩は其實質なるあり、有孔質
なるあり。堅實なるは燒岩一層の中部に
多く、有孔質なるは其上下に在り。又山麓
に火穴胎内穴等の洞穴あり、是れ皆燒石
の流出に際し、生ぜしものにて、多くは黒
色若くは暗黒色を帯びたり。火口邊の玄
武岩を鏡査すれば、僅少の玻璃石基中に
斜長石輝石橄欖石及磁鐵の散するを見
るべし。斜長石は幅廣き板子状を呈し、輝
石磁鐵及玻璃の含包物に富めるものと、
小晶體にして包含物少く、時に單一の雙
形を呈するものと二種あり。吉田登山道
五合及八合より採取せし玄武岩は、黒色
堅實にして不規則の橄欖石を含む晶體
の周邊磁鐵を以て圍繞す。輝石安山岩は
暗灰若くは暗褐色の石基中に、白色の長
石を散點す。石基玻璃質を帯び、斜長石輝
石及磁鐵を其中に撒開し、其實大に玄武
岩に類す。山麓に湖沼多し。甲斐の川口、
山中、西木橋、精進、西尾連、明見の七湖及
駿河の須戸湖を合せて富士の八湖といふ。
又南麓に浮島沼あり。登口四あり。須
走口村山口大宮口(以上駿河)吉田口甲
斐とす。但し須走口は八合目に至り吉
田道と合し、村山道は大宮道に合す。富
士は不靈不布、富士宮等と併り、或は
山頂に八峯あり、八峯の蓮華狀を成す

により芙蓉峯の稱あり。フジの意義に就
いては古來數説あり。現今樺太に用ふる
アイヌ語のフチは火の意なりと言へば、
之に因れるならんとの説信に近し。仙
客來遊雲外嶺、神龍栖老洞、淵雪如執素
煙如稱、白扇倒懸東海天(石川丈山)元
日のみるものにせんふしの山(宗鑑)

フジヤカ(富士岳) 加賀國江沼
郡の南に在る山、形狀富士山に似たり。高
三五〇〇尺、一に不地釋岳に作る、火山岩
より成る。

フジヤ(富士山) 【長野】信濃國小縣郡
の村、合三三三。

フジヤ(富士山) 【長野】信濃國小縣郡
の村、合三三三。

結核亦從ひて、管中を在り、時に河津結核
の二孤結核、時致下藤を繋ぎて之を研り
父の體を報す。頼朝の營址は富士郡白糸
村大字野宿なりといふ。二孤の墓は靈岡
村大字久澤に在り。
フジノトウケ(富士野峰) 播磨國赤松郡
三方村より但馬國養父郡大屋に至る山
路。
フジハシ(富士橋) 【和歌山】紀伊國四半
妻郡の村、合三三三。
フシハラ(節原) 【福岡】筑後國三井郡の
村、合三三三。
フジマツ(富士松) 【愛知】三河國碧海郡
の村、明治三十九年逢見、東境境一ツ木
四村を合せる新稱、合三三三。
フシシ(伏見) 【京都】山城國紀伊郡の町
郡の東南部に在り、山城第二の都會なり。
京都市より殆ど一條の市街を通じて相
接續し、其間二里一八町、南に淀川を帶
び、西に高瀬川あり、舟楫の便極めて宜し
く、東西約一四町、南北一里餘、郡役所警
察署區裁判所郵便局、税務署、伏見分營
(工兵第四大隊を置く)等あり。産物に關
し、羊羹、酒等あり。此地もと深草野と稱
せる原野なりしが、豊臣秀吉城を此に築
き、天下に號令せしより、俄然大都邑とな
り、徳川氏に至り、城を毀ち、奉行を置け
り。此地元來水利の便ありて、大阪と交通
の要路に當れるを以て、往來多く、頗る繁
盛なりしが、汽車開通以後、亦昔日の如く
ならず。但し電氣鐵道、奈良鐵道の施設以

東漸く回復に向へり。伏見城址は町の東
方伏見山に在り、初め水瀧大和守榮吉所
の小城に在りしが、文祿三年豊臣秀吉
大に此に城を居り、慶長四年城中に饑す
秀頼大阪に移るに及び、徳川家康此に在
りて橋に國事を視る。五年關ヶ原役起る
に及び、家康の將島居元忠兵二千を以て
之を守り、西軍兵四萬を以て之を攻む。元
忠以下奮闘して死し、城陥る。事定まるに
及び、家康大に之を修め、子秀康を置き、京
畿を鎮む。秀康卒するに及び、松平定勝代
り居る。豐臣氏滅び、元和六年徳川幕府命
じて、本城を毀ち、其舊材を京都寺社に與
へ、又淀城増築の料となす。觀月橋は町の
東南隅に於て、奈良街道に架し、淀川に跨
り、もと桂橋又は豊後橋といへり。月夜
眺望住なるにより、今の名を得たり。又橋
北の東岸二町餘の間を指月といひ、古よ
り觀月第一の地に屬す。御香宮は御諸
神社と稱す。伏見山の西約三町に在り。
神功皇后を祀る。天正年間一度大龜谷
八科嶺に移せしが、慶長八年舊地に復せ
り。古此所に清泉湧出し、香四方に薰じ、
病者服すれば、忽ち癒ゆ故に御香宮と稱
すといふ。境内伏見義民碑あり。天明年間
奉行小堀政方の虐政を訴へ、終に之を罷
めしめたる文殊九助等の事を表す。白三
元(伏見山)をも見よ。●(奈良)大和
國生駒(舊赤上)郡の村、古の菅原の内な
りしが、菅原は反つて大字となりて存す。
元享釋書に、此地に臥身の翁あり、三年起

きたり、又言はす、行其靈門前菩提を誦へ
て、菅原寺に歸りし時、三人歡喜奉其、其
臥せる所を伏見と言ふとあれども、信ず
べからず。但し此地名歴古歌に見ゆ。菅
原やふし見のくれに見渡せば、かすみに
まかふおはつせの山、菅原伏見、西陵、安
天皇御陵は、大字寶來に、菅原伏見、東陵
(垂仁天皇御陵)は、大字平松に在り。四大
寺は、大字西大寺に在り。合三三三。●(岐
阜)美濃國可兒郡の村、中山道の一驛に
して、御嵩今渡の間とす。木曾路圖會に
は、是より西太田まで二里、左右に松並樹
ありと記す。玄旨法師嘗て此にて、「同じ
名の伏見の里の草枕、夢に都をたつこ
ちして」八百三三。●(福岡)延喜式筑前國
の驛名、今詳ならず、恐くは嘉穂郡上穂波
村邊なるべし。豊前の田川郡を經由する
京街道に當たり。

フジミ(富士見) 【神奈川】相模國鎌倉郡
の村、合三三三。●(群馬)上野國勢多郡の
村、合三三三。●(山梨)甲斐國東八代郡の
村、合三三三。●(長野)信濃國諏訪郡の村、
合三三三。
フジミ(不二見) 【静岡】駿河國安倍郡の
村、三保崎の根に在り、此所に不二見橋と
て、富士眺望の名所あるより、村名となる
といふ。久能山の東麓にして、有名なる龍
華寺、鐵舟寺あり。合三三三。
フジミカ(富士見ヶ原) 駿河國安倍
郡、下島を見よ。
フジミサワ(伏見澤) 淀澤を見よ。

フジミヤ(伏見屋) 【愛知】三河國碧海郡
に在りし村、明治三十九年旭村に入る。
フジミヤ(伏見山) 山城國紀伊郡に在
る山。今、堀内村といふ。東は木幡山に連
り、西に伏見町あり。舊伏見城のありし所
にして、南は宇治川、巨椋池に臨み、最高
所を桃山といふ。城郭毀壞後、多く桃樹を
植ふしを以て、此名あり。又梅樹に富み、殊
に梅溪と稱する地に多し。又宇治見臺は
山の南端に在りて、眺望頗る佳く、京都、
山崎八幡、淀宇治川より、遙に南山城を
見渡すべく、春時、桃梅の候遊入甚だ多し。
桓武、光明、崇光、三天皇の御陵及龍雲寺、
清涼菴、桃山停車場は皆此山に在り。
フジモト(富士根) 【静岡】駿河國富士郡
の村、合三三三。
フジヤマ(富士山) 【長野】信濃國小縣郡
の村、合三三三。
フシヨ(ホウ) (布嶺堡) 【臺灣】嘉義廳管下

フスタ

の一堡西螺海豐二堡の間に在り。舊稱布
嶼東堡。
フスタキ 〔樺太〕川上の舊稱。
フスマ(姿) 〔東京〕武蔵國佐原郡西谷村
の大字。世田谷の南一里とす。東光寺はも
と東岡に在り。貞治四年世田谷館主吉良
氏の建立にして、同家の墓數多あり。近世
寺領三十石。

フセ(布施) 〔大阪〕河内國中河内郡の村
白三三三。
〔兵庫〕播磨國揖保郡の村古
の布勢郷の地に在り。風土記に日下部里
といふもの是なり。延喜式に布勢郷とあ
るは本市驛より今の龍田の邊を指し、大
字小畑、土師の邊を驛とす。如
し(白三三) 〔群馬〕上野國利根郡久賀
村の大字。越後路(三國峠)の一驛なり。
郵便局あり。温泉湧出す。鹽類泉にして、
温度攝氏六二度五湯川原湯といふ。沼
田町より四里七町。
〔千葉〕下總國東
葛飾郡富勢村の大字。有名なる辨天廟の
ある所とす。鐵道常磐線の柏驛より三八
町我孫子驛より約八町今の辨天堂は享
保の初秀調法師の建立と傳へ、利根川畔
の小丘に在り。關東三辨天の一なり。其前
面を曙山と呼び、酒樓あり。
〔千葉〕上
總國夷隅郡の村。上總介平廣常の館あり
し地にして、其址を殿臺といふ。廣常壽永
二年源賴朝に殺さる。後賴朝之を悔ひ、
此地を法會の布施料に賜ひしより此名
出づといふ(白三三) 〔山梨〕甲斐國中
原郡小井川村の大字。甲斐より市川縣

界を成す。其東に藏持山脈あり。田川郡
を包む。藏持山脈の北には陣子岳の一嶺
あり。一谿水を隔て、更に福智山脈を起
し、筑前を限る。英彦山の東には岩岳山あ
り。周防灘に向て無數の山谷を放散す。其
谿谷の主なるものを城井谷、耶馬溪、龍王
谷とす。耶馬溪は英彦山の上古噴火せる
時に吐出せる泥灰の岩石と混ぜるもの
より成り、風雨の作用により蝕侵せられ
て、自ら怪岩奇石を現じ、有名の勝區をな
す。而して岩岳山の脈は延いて海岸に迫
り、築上郡を舊築城、上毛に二分す。即ち
城井谷の南嶺とす。耶馬溪の北に犬ヶ岳、
雁股山、檜原あり。城井谷との間に岩屋の
一谿を作る。耶馬溪の東に八面山、鹿嵐山
等連り、西南人見嶺に延きて又東折し、難
戸山、御許山となりて豊後を限る。其間は
即ち龍王谷なり。而して國の東北端なる
半島地には、別に一帯の山脈あり、足立山、
桐谷山等峙つ之を全救山脈とす。

〔水系〕 河流は概ね英彦山麓より出づ。田
川郡に在るを彦山川といひ、北流して筑
前の遠賀川に入り、豊灘に注ぐ。周防灘に
入るを長峽川、今川、祓川(此三川日一所
に集る。城井川、岩岳川、山國川とす。而し
て水源を異にするものは、北に紫川あり、
福智山に發し、小倉市に至り豊灘に入る。
南に驛館川あり、豊後國境の由布岳、伏見
岳等に發し、北流して周防灘に入る。諸川
皆甚だ大ならず。山國川流程一三三餘里、
館川一里餘、其他は皆一〇里に満たず。

フセ

澤に至る道路に當る。
〔長野〕信濃國
北佐久郡の村。白三三三。
〔島根〕石見國邑
智郡の村。白三三三。
〔島根〕隱岐國海士
郡に在りし村。明治三十七年海士村に合
す。
〔島根〕隱岐國周吉郡の村。大満寺
峯の東北麓なる海岸なり。郵便局あり。其
西に葛尾山あり。布施より飯美、元屋の二
村を経て中村に至る。此間一里半。白三三三。
フセ(布施) 〔富山〕越中國水見郡の村。十
二町。湯の南に當る。古は此湯廣大にして、
此村に接せしかば、布勢湖の稱ありしが、
漸次埋没して今は稍離る。延喜式の布勢
驛のありし地にして、大伴家持越中國守
となり此に住し、其址は丸山に在りとい
ふ。丘上の御蔭神社は家持を祀ると言
傳ふ。延喜式布勢郷も同所に在り。白三
三三。
〔島根〕出雲國仁多郡の村。和名抄
布勢郷の遺稱。大原郡に接し、其主色を八
代とす。佐白に郵便局あり。共に備後街道
の驛次なり。又佐白に八頭坂あり。素盞鳴
尊が八岐蛇を斫り給ひし所といふ。白三
三三。
〔鳥取〕因幡國氣高郡松保村の大字。
湖山池の畔にして、和名抄高草郡布
勢郷の遺稱とす。後湖水にして形勝の
地なり。山名屋形の城址あり。山名左衛門
佐勝、豐文正元年巨濃郡より此地に轉住
し、中務太輔豊國まで八代の間開墾さ
移せしより發端となれり。
フセ(布施) 〔千葉〕下總國東葛飾郡の村

海岸 企救半島の沿岸崖崖にして所謂
陸岸を成せども、其他は概ね片崖にして、
一帯の砂岸を成し、更に其港と稱すべき
ものなし。唯企救半島の北に門司港あり、
下關と相對して瀬戸内海の咽喉を扼し、
南に筑豊炭田を控へ、鐵道九州線の基點
をなし、無双の形勝を占む。小倉に泊り地
あれども、其好にあらず。

〔氣候〕 概して溫和なれども、田川郡の彦
山附近は頗る寒冷なり。明治四十一年田
川郡香春町に於て氣温最高攝氏三三度、
最低零下四度五、年平均一七度四、小倉
に於て最高三三度九、最低零下三度一年
平均一七度七なり。

〔産業〕 生業の主なるものは農業にして、
字佐下毛、築上、京都の四郡の海岸に近
き所は多く沖積地より成り、土地豊饒に
して、其米を出す。豊前米と稱し、聲價あり。
殊に山國川下流の沿岸を然りとす。田川
全部及企救郡の小倉市に接せる地は、筑
豊炭田の一部にして、石炭の産多し。工業
は一般に發達せず。往時は小倉織あり、其
質素堅牢なるを以て有名なりしが、今は
衰微して僅に其名を存するのみ。其他下
毛及宇佐二郡の生蠶、門司、野崎、池尻、
又英彦山の杉、山國谷の榿、檜等良材の名
高し。農産物は米七五五千石、各郡皆十
萬石以上の産あり。麥(二六萬石)、大豆、小
豆、粟、甘藷、蘿蔔、薑、薑、二、三萬圓、宇佐
郡一八萬圓を占む。林産物は宇佐郡山國
谷三六萬圓あり、田川郡の英彦山の杉、松

フセイ

白三三三。布施とも見ゆ。
フセイ(武節) 〔愛知〕三河國北設樂郡の
村。信州飯田街道に當る山村にして、武
田氏が兵を三河に出せる頃、合戦あり
し地なり。大字御所具津には伊兵親王の
廟あり。親王應永三十一年信州飯田より
三河に出でんとし、駒場大野を過ぎ給ふ
に、野武士襲來し、士卒皆討たれしかば、
信州伊那郡浪合の民家に入りて自殺し
給ふといへり。親王嘗て此地に在り、眞
弓山の月を見て、「ほのく」と明けゆく
空をながむれば、月ひとりすすむ西の山
陰」と詠み給ひしに因み、此所に祀れる
ならんといふ(白三三三)。

フセ(布施) 〔岐阜〕美濃國羽島郡上羽
栗村の大字。永祿年中織田信長、此地
に築き、羽柴秀吉をして此を守らしむ。秀
吉、須賀小六等をして、渡人を防がしめ、
頻りに近色を侮ふ。信長、岐阜に徙るの後、
伏屋重兵衛をして之を守らしむ。
フセ(布施) 〔和歌山〕紀伊國海草郡
和佐村の大字。紀ノ川の南岸に在り。紀
和鐵道の車驛あり。和歌山驛より四哩四
九鎮。此地安閑天皇の時、屯倉を置かれた
る。舊稱の地なりといふ。

材四〇萬圓に及ぶ。産物、石炭九一三萬
圓(給田川郡のみ)、水産、漁獲物四八萬
圓、工業物は酒、砂糖(二八〇萬圓)、企救郡、
紙七六萬圓、主に企救郡の西洋紙、製鐵
(二五萬圓)、醬油(一〇萬圓)、麥粉(一六
萬圓)、内葉上郡(二〇萬圓)、蜜製品(二〇萬
圓)、蠶絲、練瓦(二〇萬圓)、田川等。

〔交通〕 陸路は九州街道門司市に起り、下
關海峡に沿ひ西行し、大里より小倉を経
て筑前國黒崎に通じ、福岡に赴く。又豊後
街道は、小倉より東南向して周防灘の海
岸に出で、之に沿ふて南行し、箱田、行橋、
椎田、八屋中津、四日市、宇佐を経て豊後
の立石に入り、大分に通ず。別に行橋にて
九州街道に分れ、西向して香春を経、筑前
の秋月に出づるもの、小倉より南派して
香春に於て此線に會するもの、中津より
山國川に沿ひ、耶馬溪に沿ひ、豊後の日田
に出づるものあり。鐵道は九州幹線門司
より起り、小倉を経て筑前に入り、博多に
通じ、別に豊州支線小倉より分れ、城野、
曾根、刈田、行橋、中津、津、四日市、宇佐を
經て豊後國大分に至る。又豊州別線は行
橋驛にて交叉し、左するものは新田原、椎
田、松江、宇ノ島に通じ、右するものは豊
津、津、油、須原、香春、伊田、後藤寺、池尻、
川崎に至る。又香春より分れて夏吉に通
じ、後藤寺より宮床に分岐する二線あり。
此支線主として田川石炭の輸送に便す。
〔沿革〕 豊前はもと豊後と一域にして、豊
國といへり。文武天皇の時、豊前豊後に分

フセヤ

フセヤ(伏屋) 〔伏屋里〕 〔長野〕信濃國
下伊那郡、園原村を見よ。
フセ(布施) 〔豊前國〕 〔福岡大分〕九
州の東北端に位する國。四境、西は筑前
國南より東南にかけ、豊後國に接し、東は
周防灘に面し、北は下關海峡を隔て、長
門國に對す。東西約二〇里、南北約八里、
面積一〇八方里〇九。行政上、小倉門司
の二市及企救田川、京都、築上、下毛、宇佐
の六郡に分ち、下毛、宇佐は大部分、其餘
は福岡縣所管とす(白三三三)。

〔地勢〕 國內英彦山脈によつて自ら三大
區に分たる。田川郡、英彦山の東北部及
東南部是なり。田川郡は英彦山の北部に
して、其水北流して遠賀川に入り、地勢全
く筑前國に屬す。英彦山の東北部は企救
京都及築上の一帯にして、東北に向て半
島を出し、北に下關海峡、東に周防灘を控
え、祓川、今川、長峽川中央に集合して海
に入る。此部及田川郡は即ち、筑豊煤田の
一帯部を成し、貨物の集散は一に門司に
依る。英彦山の東南部は宇佐、下毛の二郡
及築上郡の内、舊上毛郡の地にして、英彦
山脈を以て東北部と相隔てられ、山國川
及驛館川の流域此に屬す。唯舊上毛郡の
地は地勢全く下毛郡と一域を成す。此を
築城郡に合して築上郡とせしむ。頗る不
當なりといふ説あり。

〔山系〕 英彦山國の西部に聳え、四方に脈
を派して、筑前、筑後に及ぶ。其豐前に連互
するものは、西北に全山脈、東に筑前

る。但し豊國の舊城は主に豊前の西部を
指し、其東部今の宇佐、下毛、舊上毛に宇
佐國の稱ありき。和名抄は止與久爾乃美
知乃久知と訓し、企救、津、京都、築城、上
毛、田河、下毛、宇佐の八郡を載せたり。明
治二十九年、津、京都を廢して京都郡に、築
城、上毛、二郡を合せて築上郡と改む。景
行天皇此國に行幸あり、土城、蜘蛛を征
討せられ、後神功皇后駐蹕せられし事あ
り。保元二年、平康盛當國の守護となり、企
救郡長野に居り、子孫長野を氏とし、七世
を傳ふ。文治元年、源賴朝宇都宮信房を以
て當國の守護とし、建武年中、宇都宮公綱
足利氏に應じ、更に守護に任ぜらる。正平
年間、菊池武光田川郡戸代山城に據り、新
田義基中津郡馬岳城に在り。文中の初大
内義弘當國の守護を兼ね、其將をして松
山城を守らしめしが、應永五年、大友氏松
山城を奪ふ。是より二氏相争ひ、久しく兵
を構ふ。天文に至り、大内氏滅び、此より大
友毛利二氏の争となる。當時、向宇都宮氏
の城井谷に割據するあり。天正十五年、豊
臣氏九州を平定するに及び、企救、田川の
二郡を毛利勝信に、其他を黒田孝高に與
ふ。孝高謀りて宇都宮氏を滅ぼし、領内を
統す。慶長五年、徳川氏細川忠興を當國
及豊後二郡に封じ、三十七萬石を付せし
が、寛永九年、忠利の時、肥後に移り、小笠原
忠真、企救、田川、京都、舊築城、舊上毛、舊仲
津、六郡十七萬石を以て小倉に治し、忠真
の姪長次八萬石を以て中津に在りて之

フセ

海軍 企救半島の沿岸崖崖にして所謂
陸岸を成せども、其他は概ね片崖にして、
一帯の砂岸を成し、更に其港と稱すべき
ものなし。唯企救半島の北に門司港あり、
下關と相對して瀬戸内海の咽喉を扼し、
南に筑豊炭田を控へ、鐵道九州線の基點
をなし、無双の形勝を占む。小倉に泊り地
あれども、其好にあらず。

フセ

〔氣候〕 概して溫和なれども、田川郡の彦
山附近は頗る寒冷なり。明治四十一年田
川郡香春町に於て氣温最高攝氏三三度、
最低零下四度五、年平均一七度四、小倉
に於て最高三三度九、最低零下三度一年
平均一七度七なり。

フセ

〔交通〕 陸路は九州街道門司市に起り、下
關海峡に沿ひ西行し、大里より小倉を経
て筑前國黒崎に通じ、福岡に赴く。又豊後
街道は、小倉より東南向して周防灘の海
岸に出で、之に沿ふて南行し、箱田、行橋、
椎田、八屋中津、四日市、宇佐を経て豊後
の立石に入り、大分に通ず。別に行橋にて
九州街道に分れ、西向して香春を経、筑前
の秋月に出づるもの、小倉より南派して
香春に於て此線に會するもの、中津より
山國川に沿ひ、耶馬溪に沿ひ、豊後の日田
に出づるものあり。鐵道は九州幹線門司
より起り、小倉を経て筑前に入り、博多に
通じ、別に豊州支線小倉より分れ、城野、
曾根、刈田、行橋、中津、津、四日市、宇佐を
經て豊後國大分に至る。又豊州別線は行
橋驛にて交叉し、左するものは新田原、椎
田、松江、宇ノ島に通じ、右するものは豊
津、津、油、須原、香春、伊田、後藤寺、池尻、
川崎に至る。又香春より分れて夏吉に通
じ、後藤寺より宮床に分岐する二線あり。
此支線主として田川石炭の輸送に便す。

フセ

〔地勢〕 國內英彦山脈によつて自ら三大
區に分たる。田川郡、英彦山の東北部及
東南部是なり。田川郡は英彦山の北部に
して、其水北流して遠賀川に入り、地勢全
く筑前國に屬す。英彦山の東北部は企救
京都及築上の一帯にして、東北に向て半
島を出し、北に下關海峡、東に周防灘を控
え、祓川、今川、長峽川中央に集合して海
に入る。此部及田川郡は即ち、筑豊煤田の
一帯部を成し、貨物の集散は一に門司に
依る。英彦山の東南部は宇佐、下毛の二郡
及築上郡の内、舊上毛郡の地にして、英彦
山脈を以て東北部と相隔てられ、山國川
及驛館川の流域此に屬す。唯舊上毛郡の
地は地勢全く下毛郡と一域を成す。此を
築城郡に合して築上郡とせしむ。頗る不
當なりといふ説あり。

を扶翼せしが、中津は後、退轉し、享保二年奥平昌春十萬石を以て之に代り、小倉は後一萬石を割きて千束に支分を置き、維新の際に豊前に香春(即ち小倉藩)千束中津の三藩あり、宇佐郡には幕領島原領等を混ぜしが、明治四年廢藩置縣を置きて豊前一國を管せしめしが、九年廢藩置縣の所管となり、同年八月下毛字佐の二郡を以て大分縣に分隸せしめ、以て今日に至り。

【文籍】豊前國志、寫本、四卷(高田吉近) 豊前志、渡邊重春(四三三)

フソウ(扶桑) 【愛知】尾張國丹羽郡の村、明治三十九年山名豊國高嶺三村及相森村の一部を合せし新稱、合六三三。

フソウ(富盛) 【鳥取】因幡國若美郡の村、合五三三。

フソキ(富會) 【新潟】越後國古志郡の村、合六三三。

フソコタケ(富祖古岳) 琉球國島尻郡其志川村字上江洲に在る山、一、白瀬岳といふ、海拔一八〇尺、大源川の水源なり。

フタ(布田) 【東京】武藏國北多摩郡調布町の大字、甲州街道に當り、上下石原、上下布田及國領を合せて布田五宿といへり、古のタツクリの布を製せし所なりといふより調布町と改む、上布田に布田天神の社あり、郵便局あり。 ●【千葉】上總國山武(舊山邊)郡源村の地名、上下二大字に分る、上布田に藥王寺あり、其藥師佛は、聖徳太子の御影と傳へ、信者甚多、恙

者、療養所あり、又寺よりは布田の目録と稱する點眼藥を發賣す。

フタ(札) 【茨城】常陸國鹿島郡白鳥村の大字、北浦に瀕し、行方郡の山田と相望む、中世大徳氏の族札氏此に居る、郵便局あり。

フタイ(二居) 【新潟】越後國南魚沼郡三國村の大字、清津川の上流に沿ひ、所謂三國三宿の一とす、郵便局あり、淺貝(二里、三股)へ三里。

フタイ(晋代) 【巖手】陸中國下閉伊郡の村、東海岸の一村なり、一水此に至り海に入るを晋代川といふ、郵便局あり、合三三三。

フタイシマ(蓋井島) 長門國豊浦郡豊四村の海上三津に在る島、豊西村に屬す、東西二町、南北二町、周圍二里一七町、地勢中分し、遠望すれば恰も二島の如し、蓋井は二所の義ならんといふ、島の四周は險峻にして、西岸最も甚し、北岸に磯井灣あり、島の南西に金比羅山あり、村落は山の東麓海岸に在り、前方に小舟繋泊の防波堤を築けり。

フタイワ(双岩) 【愛媛】伊豫國四宇和郡の村、合三三三。

フタウラトウケ(二浦味) 大和國吉野郡の西南部に在る山、行前ヶ岳の西北に連り、十津川村大字大谷の北方に峙つ。

フタエ(二江) 【熊本】肥後國天草郡の村、天草下島の北端に在り、早崎瀬戸の南岸なり、其前面に通潮島と稱す、孤洲あり、此邊潮流急にして、一時間六里に達し、天草

族、上兵庫但馬より來り、居城、後に新井の道行城を築き之に居り、此城には番兵を置き守らしめしが、永祿年中、中山名豊次の爲に滅ぼされ、此城亦廢す。

フタカワ(二川) 【神奈川】相模國足柄下郡に在りし村、明治四十一年足柄下郡に入る。 ●【千葉】上總國山武郡の村、合三三三。

●【千葉】下總國葛飾郡の村、關宿町の南に接せる地にして、利根川、江戸川に挟まる、煙草を産す、其耕地別七十八町歩、産額三萬六千圓に上る、八豆、豆、●【愛知】尾張國丹羽郡に在りし村、明治三十九年丹陽村に入る。 ●【愛知】三河國渥美郡の町、舊東海道の二川驛と其附近とを合併せる新稱なり、一時大川町と呼ばしが、明治三十九年谷川、細谷、小澤三村を合せて今の名に改む、鐵道東海道の二川停車場あれども、今は旅客少なく、居民多くは農業に従事す、大字二川はもと東海道五十三驛の一にして、近年は生絲製造を以て其名著はる、夫木集西行の歌に、「流れてはいつれの世にかとるべき、なみたをわくる二川の關、合三三三。

●【山梨】甲斐國中巨摩郡の村、合三三三。

●【福島】岩代國南會津郡の村、合三三三。

●【島根】石見國美濃郡の村、合三三三。

●【岡山】美作國真庭郡の村、高田川の西岸なる山村にして、大字藤森に郵便局あり、又小童谷に舊銅坑あり、合三三三。 ●【廣島】安藝國安藝郡に在りし町、明治三十五年吉浦村の大字川原石、兩城を二川町と改

第一の險所といふ、合四三三。

フタエトウケ(二重峠) 肥後國菊池郡より阿蘇郡に入り豊後に通する要路、甚だ高からざれども、道路の險惡なるを以て知らる、明治十年の役薩軍を築きて之を固守し、以て阿蘇地方の官軍を拒みし事あり、此山は阿蘇火山外輪郭の一階凹なり、地質學者は往時阿蘇火山が一層高峻なりし頃存在せる蝕谷の痕跡ならんといふ、土俗の説に、往古阿蘇明神南北二郷の地に滿へたる水を潤さんとして、此山を獻るに二重にして崩れざりしが、明神更に須臾ノ山を獻破り、山中の沼湖はより潤れたりと言傳ふ。

フタエボリ(二重堀) 【愛知】尾張國東春日井郡味味村の大字、小牧町の東に接し、小牧山の東二十町とす、天正十二年羽柴秀吉小牧山に對して此所に營を築き、日根野弘就等を置き守らしめたり、秀吉敗軍して退きし時、木村常陸介神子田半左衛門等此營を守りて殿せりといふ。

フタカタカワ(二方川) 但馬國美方郡に在る岸田川の一、

フタカタゲン(二方郡) 【兵庫】但馬國に在りし郡、明治二十九年七美郡と合せ美方郡と改む、濱坂川の流域にして、東は舊七美、舊美合、西は因幡國美法、美郡、南の一部は舊八東郡に連り、北は日本海に面し、東西五里三町、南北五里一町、濱坂町及温泉、照米、八田、大庭、西濱の五村を有せり。

稱し同年災町(今、市)に編入。 ●【和歌山】紀伊國四半郡の村、合三三三。 ●【福岡】筑後國三池郡の村、合三三三。 ●【福岡】筑後國八女郡に在りし村、明治四十四一年水田村に合す。

フタカワ(兩川) 【新潟】越後國中蒲原郡の村、合三三三。 ●【大分】豊前國宇佐郡の村、驛館川の上流、津房、惠良の二川の會合する所なるを以て此名あり、其首邑を香下と稱す、郵便局あり、又大字廣瀬より北に導く用水渠あり、元來宇佐郡は旱損の患多きを以て、南一郡平なる者自費を以て廣瀬水路及高森新水路の開通を企て、慶應元年起工、明治六年に至りて成り、沿村灌溉の利甚だ大なり、合三三三。

フタキカワ(布富川) 山城國相樂郡に在る川、一名和東川、水源、湯船山中、瓶原村に至り、泉川、木津川に合す。

フタクチ(二口) 【富山】越中國射水郡の村、合三三三。

フタクチコエ(二口越) 陸前國仙臺市より名取川の谷に沿ひ、秋保、馬場、野尻等を經、清水嶺を越えて、羽前國山形地方に出づる山路。

フタゴ(二子) 【神奈川】武藏國桶川郡高津村の大字、大山街道沿ひ、日に接す、二子塚といへる二つの古塚あるより出でし名とす、東京市日本橋より約五里、此所に多摩川の船渡あり。 ●【巖手】陸中國和賀郡の村、合三三三。 ●【島根】出雲國八束郡の村、合三三三。

フタカミ(二上) 【富山】越中國射水郡の村、合三三三。

フタカミカサン(二上火山) 大和、河内二國の境に跨る火山、高田町の西約一三二〇〇尺に峙ち、海拔一八九八尺、大師山、春日山等の火山群中最も高大なる圓錐狀火山にして、山頂は雄嶽、雌嶽と呼ぶ二個の圓錐山に分れ、箱根火山の二子山に似て、其名も亦二子山とも呼ばる、雌嶽は雄嶽より稍低し、共に讃岐熔岩より成り、裾野は北側に十分に發達し、南は葛城山脈の爲めに發達充分ならず、放射谷は規模甚だ小なれども、四池ノ谷及當麻ノ谷に於て見るべく、此兩谷の分水嶺を成せる山脊東西の兩側は、外觀火口瀨に似たれども、谷頂を成せる讃岐熔岩の特性によりて此瀨斗狀を成せるならんといふ、山頂には噴火口を見す、亦外輪山爆裂口をも認めず、但し雌雄兩嶽は最近の噴火管の頭部が、讃岐熔岩の爲に閉塞せられたるに外ならず、殊に妙なるは、圓錐體內火山灰及火山粉砕物の層なく、全山盡く異なる所の熔岩流より形成せらるる事なり、熔岩中最も古きは松石熔岩流にして、片麻岩上直接に流下す、之に次いで含栂石雲母岩の噴出あり、次で含紫蘇輝石古銅石富士岩又は斜方輝石富士岩の溶流あり、蓋し二子山の概形は此時に大體形成せられたるならんといふ、思ふに此火山は所謂阿蘇火山脈に屬し、四國の北岸を横さり、東西に走る一大地帯

構造線沿線の東端なる大和川階地地區の上に立てるものなり、龍谷及西瀨の二谷より栂石を出す、殊に後者は年額二萬圓の産ありといふ、附近の大師山は二上火山の寄生山の如き觀あれども、正片麻岩上に立てる一の獨立塊狀火山なり、(震災豫防調査會報告第七二號)。

フタカミ(二上山) 越中國射水、水見二郡に跨る山、蓋し上山にも作り、古の守山(森山とも)是なり、東峰を二上ノ御前と稱し、西峰を獅子方面又は袴腰と呼ぶ、山脈西に連りて寶達山に至る、此山甚だ高からざれども、形狀秀麗、古來有名の勝地にして、萬葉集に大伴家持の二上山賦あり、又西行法師の歌に、「時鳥あかすもあるかな玉くしけ、二上山の夜半の一聲、山上にも二上神社あり、今國體神社に列し、高岡城址に移さる、山下を今、二上村といふ、但し往時の二上庄は伏木守山の邊より高岡牧野邊へ互れる名なり。

フタカミシマ(二神島) 伊豫國温泉郡の海上に在る島、忽那七島の二にして、怒和津和地諸島と合して神和村を成す、周圍二里一六町、地形狹長、島の東部より南東方へ横島中島、小市島の三小嶼連る、又島の南方に鴨背島あり、二小嶼より成る、フタカミシマ(二上山) 因幡國若美郡新庄村に屬する休火山、一に立岩山といふ、ふ山上に城址あり、又岩常城といひ、文和年中、山名時氏の草創なり、熊貴の後暫く城主を缺きしが、天文年間、山名氏氏

族、上兵庫但馬より來り、居城、後に新井の道行城を築き之に居り、此城には番兵を置き守らしめしが、永祿年中、中山名豊次の爲に滅ぼされ、此城亦廢す。

●【千葉】上總國山武郡の村、合三三三。

●【千葉】下總國葛飾郡の村、關宿町の南に接せる地にして、利根川、江戸川に挟まる、煙草を産す、其耕地別七十八町歩、産額三萬六千圓に上る、八豆、豆、●【愛知】尾張國丹羽郡に在りし村、明治三十九年丹陽村に入る。 ●【愛知】三河國渥美郡の町、舊東海道の二川驛と其附近とを合併せる新稱なり、一時大川町と呼ばしが、明治三十九年谷川、細谷、小澤三村を合せて今の名に改む、鐵道東海道の二川停車場あれども、今は旅客少なく、居民多くは農業に従事す、大字二川はもと東海道五十三驛の一にして、近年は生絲製造を以て其名著はる、夫木集西行の歌に、「流れてはいつれの世にかとるべき、なみたをわくる二川の關、合三三三。

●【山梨】甲斐國中巨摩郡の村、合三三三。

●【福島】岩代國南會津郡の村、合三三三。

●【岡山】美作國真庭郡の村、高田川の西岸なる山村にして、大字藤森に郵便局あり、又小童谷に舊銅坑あり、合三三三。 ●【廣島】安藝國安藝郡に在りし町、明治三十五年吉浦村の大字川原石、兩城を二川町と改

第一の險所といふ、合四三三。

フタエトウケ(二重峠) 肥後國菊池郡より阿蘇郡に入り豊後に通する要路、甚だ高からざれども、道路の險惡なるを以て知らる、明治十年の役薩軍を築きて之を固守し、以て阿蘇地方の官軍を拒みし事あり、此山は阿蘇火山外輪郭の一階凹なり、地質學者は往時阿蘇火山が一層高峻なりし頃存在せる蝕谷の痕跡ならんといふ、土俗の説に、往古阿蘇明神南北二郷の地に滿へたる水を潤さんとして、此山を獻るに二重にして崩れざりしが、明神更に須臾ノ山を獻破り、山中の沼湖はより潤れたりと言傳ふ。

フタエボリ(二重堀) 【愛知】尾張國東春日井郡味味村の大字、小牧町の東に接し、小牧山の東二十町とす、天正十二年羽柴秀吉小牧山に對して此所に營を築き、日根野弘就等を置き守らしめたり、秀吉敗軍して退きし時、木村常陸介神子田半左衛門等此營を守りて殿せりといふ。

フタカタカワ(二方川) 但馬國美方郡に在る岸田川の一、

フタカタゲン(二方郡) 【兵庫】但馬國に在りし郡、明治二十九年七美郡と合せ美方郡と改む、濱坂川の流域にして、東は舊七美、舊美合、西は因幡國美法、美郡、南の一部は舊八東郡に連り、北は日本海に面し、東西五里三町、南北五里一町、濱坂町及温泉、照米、八田、大庭、西濱の五村を有せり。

稱し同年災町(今、市)に編入。 ●【和歌山】紀伊國四半郡の村、合三三三。 ●【福岡】筑後國三池郡の村、合三三三。 ●【福岡】筑後國八女郡に在りし村、明治四十四一年水田村に合す。

フタカワ(兩川) 【新潟】越後國中蒲原郡の村、合三三三。 ●【大分】豊前國宇佐郡の村、驛館川の上流、津房、惠良の二川の會合する所なるを以て此名あり、其首邑を香下と稱す、郵便局あり、又大字廣瀬より北に導く用水渠あり、元來宇佐郡は旱損の患多きを以て、南一郡平なる者自費を以て廣瀬水路及高森新水路の開通を企て、慶應元年起工、明治六年に至りて成り、沿村灌溉の利甚だ大なり、合三三三。

フタキカワ(布富川) 山城國相樂郡に在る川、一名和東川、水源、湯船山中、瓶原村に至り、泉川、木津川に合す。

フタクチ(二口) 【富山】越中國射水郡の村、合三三三。

フタクチコエ(二口越) 陸前國仙臺市より名取川の谷に沿ひ、秋保、馬場、野尻等を經、清水嶺を越えて、羽前國山形地方に出づる山路。

フタゴ(二子) 【神奈川】武藏國桶川郡高津村の大字、大山街道沿ひ、日に接す、二子塚といへる二つの古塚あるより出でし名とす、東京市日本橋より約五里、此所に多摩川の船渡あり。 ●【巖手】陸中國和賀郡の村、合三三三。 ●【島根】出雲國八束郡の村、合三三三。

フタカミ(二上) 【富山】越中國射水郡の村、合三三三。

フタカミカサン(二上火山) 大和、河内二國の境に跨る火山、高田町の西約一三二〇〇尺に峙ち、海拔一八九八尺、大師山、春日山等の火山群中最も高大なる圓錐狀火山にして、山頂は雄嶽、雌嶽と呼ぶ二個の圓錐山に分れ、箱根火山の二子山に似て、其名も亦二子山とも呼ばる、雌嶽は雄嶽より稍低し、共に讃岐熔岩より成り、裾野は北側に十分に發達し、南は葛城山脈の爲めに發達充分ならず、放射谷は規模甚だ小なれども、四池ノ谷及當麻ノ谷に於て見るべく、此兩谷の分水嶺を成せる山脊東西の兩側は、外觀火口瀨に似たれども、谷頂を成せる讃岐熔岩の特性によりて此瀨斗狀を成せるならんといふ、山頂には噴火口を見す、亦外輪山爆裂口をも認めず、但し雌雄兩嶽は最近の噴火管の頭部が、讃岐熔岩の爲に閉塞せられたるに外ならず、殊に妙なるは、圓錐體內火山灰及火山粉砕物の層なく、全山盡く異なる所の熔岩流より形成せらるる事なり、熔岩中最も古きは松石熔岩流にして、片麻岩上直接に流下す、之に次いで含栂石雲母岩の噴出あり、次で含紫蘇輝石古銅石富士岩又は斜方輝石富士岩の溶流あり、蓋し二子山の概形は此時に大體形成せられたるならんといふ、思ふに此火山は所謂阿蘇火山脈に屬し、四國の北岸を横さり、東西に走る一大地帯

フタカミ(二上) 【富山】越中國射水郡の村、合三三三。

フタカミカサン(二上火山) 大和、河内二國の境に跨る火山、高田町の西約一三二〇〇尺に峙ち、海拔一八九八尺、大師山、春日山等の火山群中最も高大なる圓錐狀火山にして、山頂は雄嶽、雌嶽と呼ぶ二個の圓錐山に分れ、箱根火山の二子山に似て、其名も亦二子山とも呼ばる、雌嶽は雄嶽より稍低し、共に讃岐熔岩より成り、裾野は北側に十分に發達し、南は葛城山脈の爲めに發達充分ならず、放射谷は規模甚だ小なれども、四池ノ谷及當麻ノ谷に於て見るべく、此兩谷の分水嶺を成せる山脊東西の兩側は、外觀火口瀨に似たれども、谷頂を成せる讃岐熔岩の特性によりて此瀨斗狀を成せるならんといふ、山頂には噴火口を見す、亦外輪山爆裂口をも認めず、但し雌雄兩嶽は最近の噴火管の頭部が、讃岐熔岩の爲に閉塞せられたるに外ならず、殊に妙なるは、圓錐體內火山灰及火山粉砕物の層なく、全山盡く異なる所の熔岩流より形成せらるる事なり、熔岩中最も古きは松石熔岩流にして、片麻岩上直接に流下す、之に次いで含栂石雲母岩の噴出あり、次で含紫蘇輝石古銅石富士岩又は斜方輝石富士岩の溶流あり、蓋し二子山の概形は此時に大體形成せられたるならんといふ、思ふに此火山は所謂阿蘇火山脈に屬し、四國の北岸を横さり、東西に走る一大地帯

中央なる火口丘の一、一上、上下の雙峯相併ぶ、因て此名あり、海拔三四七五尺、詳細は「箱根山」の條に收む。 ●【上野下野】國界に在る山、上野にては大袈裟山、小袈裟山と呼ぶ、海拔五二八〇尺。 ●【能登國】鳳至郡に在る山、七尾北海大日瀨戸の北に峙ち、其頂富士山に似たるを以て能登小富士の稱あり、内海を航するもの、望標とす。 ●【美作國】龍王山を見よ。

フタゴ(二子山) 豐後國國東半島の中央に在る山、東西國東郡の境界を限り、阿蘇火山脈に屬する消火山の一にして、許多の支峰を出す、直立二、三五〇尺、山峰東西二個に分岐す、故に此名あり、兩峰共に斷崖絶壁にして、樹木繁茂す、山腹に兩子寺あり、一に總持院といふ、養老二年僧仁開の草創にして、有名の古刹とす、寶曆年間三浦安貞此山に籠居し、天象を研究して地動説を立てしといふ。

フタシマ(二島) 【大阪】河内國北河内郡の村、合三三三。 ●【福岡】筑前國遠賀郡洞北村に在る鐵道九州線の一驛。

フタセ(二瀬) 【福島】磐城國田村郡の村、合三三三。 ●【福岡】筑前國嘉穂郡の村、合三三三。

フタセタンコウ(二瀬炭礦) 筑前國嘉穂郡二瀬村外一町三村に跨る炭礦、附近に飯塚幸袋の二停車場あり、今、農商務省製鐵所に屬す、明治四十一年、鐵道二八九、一七八七坪、使用鐵夫二、〇二七人、女

工五九五人。産出額三六〇六三四佛囉
價格一三二萬圓(本邦銀業一庭)
【新邊】越後國刈羽郡の村
石油の湧出甚だ盛なる地にして、長嶺の
如きは一井一日數十石を得るといふ。此
に二田神社あり、地方の名前にして、近世
社額五十石、式内三島郡物部社ならんと
の説あり(同前)。

【フタタビサン(再度山)】 攝津國神戸市の
北方に在る山、弘法大師入唐の前、後二回
登山せしを以て此名あり。初め摩尼山及
多々部山といへり。高約一五五尺、諏
訪山より坂路三〇町にして絶頂に達す。
山上に大龍寺と稱する古刹あり。古義眞
言宗にして、又大師堂あり、弘法大師の像
を安置し、毎月二十一日賽者群集す。山中に
多々部城址あり。正平十七年赤松光範之
に據る、又龍屋義助之に據りし事あり。

【フタツイ(二ツ井)】 【秋田】 羽後國山本郡
の町、明治三十五年町制を施す。鐵道陸羽
西線の車驛あり。能代驛より一〇哩四〇
鎮、警察分署、郵便局等あり。此地は阿仁
川沿岸貨物の集散地なり。殊に三十八年
此所より阿仁沿岸の道を修むること、
せるより、交通の便開け、次第に繁昌に赴
きつゝあり(同前)。

【フタツカ(二塚)】 【石川】 加賀國石川郡の
村、犀川の下流に沿ひたる一部落なり。大
字南笹塚に三輪塚、北笹塚にサマル塚あ
り。共に有名なるに、村名起るに、
【フタツカ(二塚)】 紀伊國北牟婁郡
島勝半島(桂城村)の岬角、郡の中部に斗
出し、岬頭東北に向ひ二支に分れ、其東一
麓半に二股島あり。

【フタマタサキ(二股岬)】 紀伊國北牟婁郡
桂城村に屬する島、所謂島勝半島の岬端
より三町に在る二個の岩岬にして、南な
るは長四〇間、幅三〇間、周圍一五〇間、
北なるは長三四間、幅三〇間、周圍一二〇
間、兩島相距る一二間とす。低潮には二嶼
殆ど連接す。

【フタマタセ(二俣瀬)】 【山口】 長門國厚狹
郡の村、中國街道(山陽道)に當り、其驛を
山中といふ。嘉川驛(周防國佐波郡)を距
る二里、北に鷹子山、南に霜降峯時つ、大
字木田に二俣瀬郵便局あり(同前)。
【フタマタヤマ(二岐山)】 岩代國南會津岩
瀬二郡に跨る山、一に二股岳に作る、二峯
あり。東峯は岩瀬郡に、北峯は會津郡に屬
す。山北に會津須賀川間を通ずる山路あ
り。山麓に二股温泉出づ。

今古を葬る。夫高名死して今古其墓側を
去らず、貞節の旗を表せる事、三代實録に
見ゆ。三輪塚又琵琶塚といふは、大神高名
を葬る。高六尺、周圍約一町、台三三三。
【富山】 越中國射水郡の村。高岡市の南に
當り、中越鐵道の車驛あり。字星丸に城址
あり。土俗館、城址と呼ぶ。元弘三年越中
の守護者越時有等此に陣し、放生津の敵
と對し、擧族慘死せる事、太平記に見ゆ。
台四三三。

【フタツカメシマ(二龜島)】 佐渡國の最北
限にして、鷲崎の西なる岩嶼。
【フタツマルヤマ(二ツ丸山)】 阿波國名四
麻植三郡に跨る山、南は焼山寺山に連る。
【フタツヤ(二ツ屋)】 【福井】 越前國南條郡
鹿森村の大字。木ノ芽嶺の北麓とす。福
井、敦賀間の街道此に懸る。應永年中飛鳥
井雅縁此を過ぎて、「行かへる道はかは
らぬ二屋に春のひよの月を忘れぬ」
【フタトウゲヤマ(二峰山)】 伊豫國東宇和
郡に在る山高五三〇〇尺。

【フタナ(二名)】 【愛媛】 伊豫國宇摩郡の村。
台三三六。【愛媛】 伊豫國北宇和郡の村。
宇和島町と一嶺を隔てたる山村なり。大
字土居、其條を見よ。土居清良の居りし
城址あり(同前)。
【フタナ(二名)】 【福島】 磐城國十郡
の一。四境、北は相馬郡、西は岩代國安達
郡、東は東三郡、南は石城郡に接し、東は外洋
に面す。東西三、四里あり。里南北三、
里八町、面積六、七、行政上、富岡

【フタミ(二見)】 【兵庫】 播磨國加古郡の村。
明石郡に接せる海濱にして、もと二見浦
といへり。伊勢に同名あるを以て、厩混紛
す。「玉くしけ二見の浦の郭公明方に、こ
そ鳴渡りけり」名寄。此地漁舟多く、鱈魚
を採ること盛なり。之を海藤花といひ、名
品なり。又牡蠣を産す。今、東二見に防波
堤を築き、泊舟に便す。明石、高砂間の
一港とす。此地に天満宮、觀音寺、瑞應寺、
徳源寺、長徳寺、假懸岡等あり。台四四四。
【新邊】 佐渡國佐波郡の村、相川町の南
に斗出せる岬角の地にして、眞野野の
北角を成す。灣に面せる所に端地あり。南
端に小波止場を設け、然れども南風又は
西風強き時は安全ならず(同前)。
【奈
真】 大和國宇智郡五條町の大字。二見神
社あり。延喜式に列す。二見城址は吉野川
に臨み、慶長年中松倉重政の築く所なり。
【三重】 伊勢國度會郡の町、明治四十
一年東二見、西二見二村を合せる稱。八、九、
六、二見浦、をも見よ。【熊木】 肥後國
茶北郡の村、日奈久町の南に接せる海村
なり。村の南嶺を赤松太郎嶺といふ。上下
一里、大字洲口に鳥賊淵瀬、大字赤松には
鼓淵あり。共に鹿兒島街道より望むを得、
風景甚だ佳なり(同前)。

【フタミ(二見)】 【廣島】 備後國九郡
の一。四境、東は比婆甲奴の二郡、西は安
藝國高田郡石見國邑智郡、南は世羅郡、
北は出雲國飯石郡に接す。東西三里、二〇

【フタハ(二渡)】 三町及大久、廣野、木戸、龍
田、上岡、川内、能町、大野、新山、長塚、請戸、
幾世橋、太堀、菊野、津島、葛尾の十六村に
分ち、郡役所を富岡町に置く。戸數八、六、
四、二、〇、〇。地勢、西は阿武隈山脈、東は
外洋に至る。西部は山野交錯し、荒蕪の地
多く、東部は較平夷なれども、水利悪しく
して、田畝少く、海岸も碇泊に其からず。唯
木材、石炭に富む。海岸の民は漁業に従事
す。道路は濱街道海濱に沿ひ、鐵道常磐線
亦之に沿ひて走り、久ノ濱、廣野、木戸、長
塚、浪江の五驛を置く。農産物は米、七、萬
七、千、石、麥(一、萬、五、千、石)、大豆、甘藷、馬鈴
薯、蘿蔔、糖下(第一、四、〇、〇、萬、圓)、林産
物、二、〇、〇、〇、圓、流産物、三、三、〇、〇、圓、主として
鹽、鹽産物は石炭七、七、〇、〇、圓、工産物は蠶絲
(二、四、〇、〇、圓)、陶磁器、酒等あり(同前)。
本郡
は明治二十九年標葉、標葉二郡を合併せ
る新稱なり。

【フタハ(二渡)】 【大分】 豊後國南海部郡
西上浦村の大字、佐伯灣の北西岸にして、
大入島其前面に横はる。郵便局あり。
【フタバヤマ(二葉山)】 山城國愛宕郡の西
南部に在る山、岩屋山の東南に峙立す。
【フタマタ(二股)】 【北海】 膽振國山越郡に
在る鐵道驛、長万部川チライ川の會合點
なり。長万部驛へ五哩。【静岡】 遠江國
磐田郡の町、山香の入口に當り、天龍川其
南西を曲流す。濱松を距る五哩二〇町市
街は東西約二町、南北約九町。警察分署、
郵便局等あり。北部山里(即ち山香)貨物

町、南北二、二里、面積五、七、方、里、二、三、行政
上、三次町及板木川地、酒河、八、次、河内、君
田、布野、作木、原、杉、杉、川、西、田、幸、三、長、坂、
吉、舎、八、幡、萩、原、和、田、の、一、七、村、に分ち、郡
役所を三次町に置く。戸數三、五、六、六、六、六、六、
(同前)。
【地勢】 郡の南北は高峻にして、中
央の一部低きを以て、三次川、門田川、櫃田
川、及安藝の吉田川四方より此に會合し
て、一巨流となり、石見に入り、江川と稱す。
山岳は南部に富士山、岡田山、北部に冠
山、嶺城山あり。其他國三、三、三、三、三、三、
等に鐵道あり。河流は前記の外、木村川
あり。道路は石見街道世羅郡より來り、吉
舎、三、長、坂、三次、布、野、を経て、横谷峠を踰
え、石見國に入る。本郡は土地高峻なるを
以て、氣候寒冷、霜雪深、梅花は春分の
節初めて咲き、尋いで百花一時に開く。
農産物は米、八、萬、五、千、石、麥、二、萬、九、千、石、
大豆、粟、蘿蔔、大、麻、繭、林、産、物、三、萬、八、千、圓、
工、産、物、は、蠶、絲、酒、(一、一、萬、圓、等、(同前)。
本郡は舊三次、三、三、三、三、三、三、三、
十一年合して新稱を立つ。

【フタミ(二見)】 【伊勢】 伊勢國度會郡
の勝地、二見町の海上にして、東は志摩國
伊氣浦と相連り、前に駿信尾參の翠巒
を望み、二見山の尾海に入る所、双岩時
ち、周圍に噴霧あり。双岩は俗に夫婦岩と
いふ。北の方の大なるは高二丈九尺、周二
十二間、南の方の小なるは高一丈二尺、周
五間、兩岩相距る三間餘、何時の頃よりか
此岩に注連繩を張りて、興玉の神の拜所

供給の衝に當る。二俣城址は今川氏の一
門二俣氏の築く所といへり。其後松井信
藩宗信居りしが、永祿十一年徳川氏の有
藩をして守らしむ。天正三年徳川氏の兵
之を圍み、信藩を論し降し、大久保忠世入
りて之を守る。天正七年岡崎三郎信康武
田氏に通謀するの嫌疑により、大久保に
預けられ、終に此に自殺す。時に年二十
二、其墳墓は清龍寺に在り(同前)。
【宮城】 陸前國桃生郡の村、台元四。

【フタマ(二俣)】 【東京】 武藏國西多
摩郡三田村の大字、青梅町の西一里、多
摩川を栽培す。甲州鐵道此に至り分岐し、
一は甲州大菩薩嶺に至り、一は秩父郡大
宮に至る。因て此稱あり。幸城は天文年
中三田綱秀の居城なり。綱秀上杉輝虎に
屬し、關東の諸士概ね北條氏に屬する中
に、獨り此城に據り抗せしかば、永祿六年
氏康之を攻む。綱秀支ふる能はず、城を棄
て、岩槻に赴き、終に自殺すといふ。海禪
寺は曹洞宗にして、寛正年中僧益芝創始。
長勝寺と呼び、後、三田綱秀に計り再興
し、寺號を改むといふ。天正年中寺領十五
石を給せらる。萬代橋は此地より御嶽村
に跨り、多摩川の上流に架し、御嶽神社の
賽路に當る。橋下激湍岩を嘯み、兩岸削る
が如く、風景奇絶なり。

【フタマ(二俣)】 【神奈川】 武藏國
郡、其郡の村、相模國鎌倉郡に近き、中な
り。元久二年六月二十二日、島田次郎重忠

とす。寒宮の客多く來遊し、毎年一月一日
の如きは旭日を拜せんとて庶人群集す。
近年海水浴場を設けたり。●但馬國
崎川(豐岡川)の末、内川村の流をいふ。殊
に大字、上山の邊を二見と呼び、古來歌枕
に其名高し。古今和歌集云、但馬の湯へま
かりける時に二見の浦といふ所にとま
りて、夕さりのかえりひたうべけるに、と
もにありける人々歌よみけるついでに
よめる。「夕月夜おほつかなきを玉くし
け二見の浦は明てこそ見ぬ」藤原兼輔。
宗祇法師諸國物語云、文月末但州二見の
浦を見にまかりける。伊勢に同じ名所あ
り。過、し春は勢州の其浦をみしに、秋の
今は引かへて又此國の爰にたると。能因
の「都の霞白川の秋風」とよみしにはや
う響りけりと、併諧して過ぐ。「花を東月
かげ西に二見かな、澤菴和尚響搜集に、
「時ならば舟さしよせん玉手箱、二見の
清水冬そかいなき、但馬考云、按に此名
所家々の説あり、榮雅抄にも二見浦は但
馬播磨にもありとのみ云て、何れも定か
ならず、されど頼阿の非蛙抄にも兼輔の
歌を引て、詞書に但馬の湯へまかりける
時に、二見の浦にとまりてとありとかき
おかれしは、此國に定めたるなり。漢々が
花月六百韻とか云ものに、「柳こり二見
の浦の湯いり舟」と云しこそ、所からよ
くかなへれ。

【フタミ(二見)】 【小笠原】 小笠原島の嶺中
交島列島を見よ。

フタミ

フタミヤマ(二見山) 伊勢國度會郡二見浦に臨める丘陵、江海圍繞して島狀を成す。山頂五分せるにより五峰山とも呼ぶ。又御懸山の稱あり。金葉集に、「玉くしけ二見の山のこの間より、いつれは明る夏夜の月、山上にもと安養寺あり、西行の住みし所と傳ふ。

フタムラ(二村) 【愛知】尾張國愛知郡の舊郷名。往古の官道は伊勢の模撫驛より、尾張の馬津、新津及兩村驛を経て三州島捕驛に至れり。今、香掛村は其驛址なりといふ。香掛の後山を二村山と呼ぶ。宗祇の句に、「露しくれ二村山のもみちかな」フタラヤパーチ 【樺太】二ノ澤の舊稱。フチ(淵) 【樺太】大泊支廳留多加出張所管内の村落舊稱アリ。フチ(布智) 【島根】出雲國松江郡の村。合

フヂイ(藤井) 【新潟】越後國北蒲原郡に在りし村。明治三十九年大字藤寄に聖籠村に其餘は木崎村に入る。【新潟】越後國刈羽郡に在りし村。明治三十四年北越石村に入る。【新潟】越後國刈羽郡北越石村の大字城址あり。元和二年稻垣長茂二萬石を以て入部せる時一時居城とし、六年三條に移り、後廢城となる。【茨城】常陸國東茨城郡飯富村の大字。中世佐竹氏の一族に居り、藤井氏となる。【愛知】三河國碧海郡三川村の大字。十八松平の一なる藤井松平氏の居りし所とす。此家は長親の五男長良の流

の江山全葉を二峰に集む。國分寺の遺蹟は國分に小堂あり。成相寺に屬す。【兵庫】但馬國崎部郡國府村の大字。豐岡街道の驛路にして、郵便局あり。中世は此邊を庄中莊といへり。【千葉】安房國安房郡國府村の大字。平久里川(湊川)の左岸に沿ふ。古國府のありし所とす。【三重】伊賀國阿山郡の村。和植川に跨り、古國府のありし所なり。後府中郷と稱せり。又國分寺ありしが、後廢絶し、享保年中樂音寺の樂師堂を以て、新國分寺の稱を建つ。又大字一宮には、敢國神社あり。【静岡】駿河國静岡市

の舊稱。【岐阜】美濃國不破郡の村。垂井町の北にして、古國府の在りし所とす。其址を今に御館と呼ぶ。其西に國府宮あり。南宮ノ旅所と呼び、毎月五月の祭に南宮の神輿此に臨む。蓋し古の惣社の遺跡ならんといふ。此地にもと民安寺と呼ぶ。律院あり。文和の頃後光嚴天皇京師の兵亂を避けて垂井に在ませし時、臨幸ありしといふ。【福井】若狹國遠敷郡今富村の大字。古國府のありし所なり。【廣島】安藝國安藝郡の村。廣島市の東一里に在り。上古國府を置かれし地にして、今も總社存す。其神職を田所氏といひ、推古天皇以來の舊家なりといふ。又多家神社あり。今、三ノ宮といふ。神武天皇の埃宮の古跡なりと稱す。一説には多氣はオホノミと訓み、古事記の多氣宮即ち埃宮にあらず。宮址は松原八幡宮の地

フチウ

フチイ

リと傳ふ。【石川】能登國鹿島郡御祖村の大字。准后道興此に宿して、「浦ちかき宿をししめて春ならぬ、藤井の里も波になれつゝ」と詠めり。浦近きとは邑知湯を望みてなり。【岡山】備前國邑久郡大宮村の大字。鹿忍の西に接する山村にして、中世鹿忍庄の下司藤井孫次郎惟景此に居りしといふ。【岡山】備前國上道郡古郡村の大字。岡山市の東北三里半、中國街道の一驛なり。

フヂイ(藤井寺) 【大阪】河内國南河内郡丹南郡の町。古は志紀郡に屬し、長野郷といへり。新町村制定の際一度長野村と號せしが、郡内別に長野村あるにより改稱す。仁賢天皇の地生坂本、陵は大字野中に在り。池壩を廻らす字をホケヤマといふ。天皇の諱德計の訛ならんといふ。仲哀天皇の患、長野、長野は大字岡に在り。大字藤井寺は百濟長孫王の裔葛井氏の居邑にして、葛井寺あり。四國三十三所第五番の札所とす。剛琳寺と號す。眞言宗にして、聖武天皇の御願行基僧正の開基阿保親王の再建といふ。一説には永長元年藤井安基なる者修造せるより、藤井寺と號すといふ。木尊は手製音なり。此地は正平二年楠木正行細川顯氏に軍と戦ひ、大に之を敗れる所なり。世に之を藤井寺合戦といふ。【五九】

フチウ(府中) 【東京】武藏國北多摩郡の町。郡中第一の市街。甲州街道の一驛なり。郡役所警察署郵便局等あり。【五九】

は、此地内にタケイ社と稱するもの此なりといふ。【廣島】備前國鹿島郡の町。福山町(深安郡)と莊原町比邊郡との間に在り。蘆田川東北の岸に沿ひ、交通の要路に當る。東西七町半、南北一町半。郡役所警察署郵便局税務署等あり。廣島市を距る二八里。福山町を距る五里。二七町尾道市へ六里。一八町。上下町(甲斐郡)へ五里。二〇町。此地はもと蘆田川に在りしが、水野氏所領の時河流を變じ、人家を今の地に移せりといふ。又當時府中の名を忘れ、命じて府川と改めしめしが、土俗は尙近年まで府中市と呼べり。府川の名は今國府村に存す。産物に煙草、味噌あり。【徳島】阿波國名東郡。國分村を見よ。【香川】讃岐國綾歌郡の村。丸龜街道に當り、古の國府の遺址なり。もと河内といふ。古の甲知郷の遺跡なり。延喜式云、讃岐上中國管十一郡。行程上十二日。下六日。海路十二日。木丸御所址は宇鼓ヶ岡に在り。崇徳上皇林田の御所より此に移り給ひ、六年にして終に崩す。志度寺にて崩すともいふ。黒木の御殿なるより木ノ丸殿と稱せり。小川侍従入道運如此行在を訪ひ奉りしに見參叶はざりしかば、「朝倉や木の丸殿に入りながら、君に知られて歸る悲しき」此歌一説に、「思ひさや木の丸殿を尋ね來て、君に逢て歸るべし」とし、と御返り事に「朝倉や、た、徒に歸す

フチウ

フチウ

古武藏の國府を置きし地にして、當時は東北地方より京鎌倉に至る要衝に當り、殷賑なりしが、後、江戸の起るに及び、形勢全く一變したり。然れども此邊風指の市街たるを失はず。毎月一七日市を立て、生絲、繭等を賣買す。東京より八里一五町八王子へ三里。三町。國分寺停車場を距る南三〇町。此地は中世以來、兵馬の地となりし所なり。正慶二年五月新田義貞、北條高時征討として出陣。久米川に陣し、分配河原に於て數日合戦あり。北條勢終に敗走す。建武二年五月三浦介入道清久等鎌倉へ赴かんとして、澁川義季、小山秀朝等と會戦し、官軍敗北し、秀朝等府中に自害す。永徳五年六月鎌倉管領氏綱小山義政を退治の爲め府中高安寺に陣す。永享十年八月足利氏上杉憲實退治の爲め一色時長を上州へ派遣し、持氏は府中に進發す。九月憲實上州自井城より發し、分配河原に着し、持氏征討の命を被る。持氏の兵變心逃走するもの多く、一色直實も一戦に打破られ、高安寺へ逃げ歸る。翌年持氏遂に高安寺にて自殺す。康正元年正月足利成氏亦府中に進發し、高安寺に陣を取る。上杉氏斯と聞き、分配河原に押寄せたりしに、成氏急に攻めければ、上杉勢破れ、大將憲實自殺し、房顯亦重創を負ひ、夜潮にて自殺す。康正三年上杉朝興、北條氏康と府中玉川の邊に陣し、合戦あり。永祿四年上杉景虎小田原へ進發せしが、計重相違し、上州への歸途府中六

にも、釣するあまの音をのみぞ鳴く、山神社は宇北谷に在りしが、北谷の天神といふ。もと城山の頂に在りしが、中古兵火に罹りし故、暫く印籠といふ地に移せるより、印籠大明神の稱あり。延喜式讃岐二十四社の大神にして、讃岐國遺の祖神。藤原を記るといふ。城山、長者の遺跡は城山の山上に大石疊及石窟等あり。土俗之を城山長者の址といふ。讃岐管領の曾孫藤原王に多富利別眞玉の二子あり。室を城山の北邊に構へて壯麗なり。と、綾氏の譜に記す。全讀史云、讃岐管領王は倭武王の第五子。城山の東麓川の邊に居り、治をなす。後世因て其地を府中といふ。【八三】

フヂウ(藤生) 【山口】周防國玖珂郡瀬村に在る鐵道山陽線の車驛。岩國驛より四哩四一鎮。

フチウ(カワ) 安藝國安藝郡に在る川。水源、美奈々山山の北麓。南流して、温品府中の二村を過ぎ、海田灣に入る。一に砂川といふ。

フチウ(シウシ) 府中城址。【愛媛】伊豫國越智郡根井村。國分村を見よ。【大分】豊後國大分郡。豊府村を見よ。

フチエ(酒江) 【東京】武藏國舊足立郡の領名。大略今の南足立郡全體を籠めたり。近年特に奥州街道六月、竹塚の邊を酒江村と名けたり。又其東に東酒江村あり。

フチエ(藤江) 【愛知】尾張國知多郡に在りし村。明治三十九年東浦村に入る。

フチウ

フチウ

所明神へ參詣せしが、北條勢の爲に輻重を奪はれしかば、府中に逗留し、民家より徴發して歸國す。斯く屢戦場となりしかば、舊蹟多くは壊滅せり。大國魂神社は今官幣小社なり。大國魂神を祀る。もと六所明神といひ、小野小川、氷川、杉山、金繼、秩父の六神を祭るといへど、蓋し國府の總社にして、國內の諸社を合祀せるものなるべし。元和年間東照宮日光へ遷座の時、此に逗留ありしに因み、此所にも東照宮を分祀せり。今の社殿は寛文七年の再建なり。毎年五月五日夜祭事あり。六社の搦燈祭といふ。高安寺はもと市川山見性寺といへるを、足利尊氏改稱し、心悟を開祖とすといふ。其後兵亂の問題鎌倉殿の陣所となり、終に廢絶せるを慶長年中徳光禪師再興す。稱名寺は時宗にして、近世寺領三十石。もと大道寺と呼べり。妙光院は新義眞言宗にして、近世寺領十五石ありたり。【京都】丹後國與謝郡の村。天ノ橋立の北に接す。古の國府の地にして、中世府中庄といへり。龍神社は大字大垣に在り。國幣中社に列す。此社眞非原に接せるを以て、後世眞非原の豐受大神宮を配祀し、終に本末を轉じて、今本殿に豐受皇太神を齋き、龍神を別殿とす。成合寺は村の北、世谷山に在り。慶長年中僧賢長再興し、眞言宗を奉じ、橋立觀音と稱す。西國第二十八番の札所にして、府中より北へ十六町。眞室の句に、「十六や成相坂を下り月、境内天ノ橋立を下敷し、與謝

【廣島】備後國沼津郡の村。合七六、町。舊東海道路五十三次の一驛にして、今郡内の首邑とす。岡部驛より一里二町。島田驛へ二里一五町。郡役所警察署區裁判所郵便局等あり。藤枝停車場は驛南中里なる前島に在り。藤枝の宿驛たる事は東鑑に、岡部、藤枝、島田と記せるにて、其由来古きを見る。承久の頃、藤枝經東へ下るとて、藤枝にて、春を待つ。歎きは誰もあるもの、同じ枯葉の藤枝の里」と詠める事、明日香井集に出でたり。又俳人芭蕉の句に、「駿河路や花橋も茶の匂ひ」。鬼岩寺は宇鬼岩寺に在り。初級山と號し、僧行基の開基と傳へ、手刻の觀音を木尊とす。寺中に眞言若くは鬼岩と稱する巨岩あり。權横八間許。永享四年足利義教富士御覽の下の時、此寺に一泊せし事あり。蓮生寺は熊谷直實入道蓮生の創建と傳へ、今大谷派本願寺に屬す。【合七六】

フチオ(藤尾) 【滋賀】近江國大津市の一部。道分の北一〇町の各間に在り。東北に長良山あり。山路一〇町にして、三井寺に至る。【宮城】磐城國伊具郡の村。入白川。【廣島】備後國廣品郡の村。神谷川の水源にして、郡の東北隅に在り。往古は有名の金山ありて、繁華なる市街なりしが、寛正年中霖雨の爲め山崩れ、續坑埋塞して死する者一萬餘人。次で明年火を失し、市街全く焦土となり、人民離散して廢坑となれりといふ。【合七六】

フチエ

フチカ 【群馬】上野國多野郡藤原野郡の町、烏川・神流川の間に在りて、信濃別街道に當る一市街なり。郡役所警察署中學校郵便局等あり。前橋を距る五里二四町。新町停車場より一里半。生絲及瓦の産地として知らる。藤岡城址は永享年中足利持氏生害の時、城主有田大舍人定景謀を以て永壽王(成氏)を遷れしむ。因て成氏後、鎌倉の主となるに及び、權勢を得、其男定基に至り武藏八幡山に移り、兵を夏目と改むといふ。其後は上杉氏の臣、菅田幸貫之に居り、後北條氏の有となり。天正十八年菅田幸正信州小諸より復歸、三萬石を領し、慶長五年滅ぶといふ。一説、天正十八年菅田の將依田康國に松平氏を興へ、修理大夫に任じ、五萬石、寛永二年修理大夫章昌卒し子無く家絶え、城廢すといふ。●【栃木】下野國下都賀郡の町。渡良瀬川と赤麻沼との間に介在せる一小市街なり。附近より多く菅笠を産す。佐野町の東南約二里。郵便局あり。藤岡城址は初め平將門之を築くといへど、其事詳ならず。寛仁二年足利治部大夫成行之を興し、中泉城と稱し、佐貫太郎重光を置けり。後富士伊勢守房行移り居り、藤岡氏を稱せしが、其裔清房に至り北條氏に滅され城亦廢墟となる。藤岡神社はもと六所大明神と稱し、附近の鎮守なり。●【愛知】三河國西加茂郡の村。明治三十九年藤岡村、村及富貴下村の一部を合せて新置。●【青森】陸奥國上北郡の村。合三三三。

フチカ 【愛知】尾張國海西郡八輪村の大字。極めて良質の百合を産し、古來各地方に輸出す。
フチカ 【三重】伊勢國安濃郡藤村の大字。津市の南に在りて、其海濱を藤方浦又阿漕浦と呼ぶ。夫木集に、伊勢の海の浦かぜ返て藤方や、安濃のしほかま雪ふりにけるし等あり。昔は神宮に納むる鹽を製し焼出御厨の稱ありしといふ。中世北畠氏の一族に居り、藤方御所と呼べり。
フチカ 【兵庫】但馬國出石郡寶母村の大字。奥中・口の三に分たる。中山の北東に在りて、丹後への道路に當る。延喜式比連神社あり。今、山姥船荷といふ。●【徳島】加能能命を祀る。
フチカ 【三河】三河國西加茂郡に在りし村。明治三十九年藤岡村に入る。●【山口】周防國玖珂郡の村。岩國町の西に當り、錦川岩國川に跨る。大字。關戸より數帳の良品を出す。
フチカ 【藤原】藤原東海道五十三次の一驛にして、岡崎の東南約二里の山中に在り。鐵道開通以來旅客の通行少きより、村民多くは農業に従事す。郵便局あり。慶應の覽富十郎に此地にて、誰れか住む郡のたつみしかばあらで、此は東路の宇治川の里」とよみしは藤川を開きかみしならんといふ。●【靜岡】駿河國志太郡東川根村の大字。大井川の東岸に在り。此地に小

長谷といふ城址あり。小長谷氏は土岐氏の一族とす。其古墳と覺しきもの存す。
フチカ 【近江】近江國飯田郡春照村の大字。關ノ藤川の源なる一村にして、地形全く美濃國に屬す。伊吹山の麓なり。建保百首に、奥のあらしきそふ伊吹の山さくら、花をもらすな關の藤川。●【福島】岩代國大沼郡の村。合三三三。●【鹿兒島】薩摩國薩摩郡上東郷村の大字。其西北嶺を藤川岳といふ。上宮岳に連る。菅原天神の社あり。文化年中島津齊宣重修せしむ。其園内に有名な古梅あり。其枝廣四段餘に及び、花は淡紅なり。
フチカ 【關ノ藤川】關ノ藤川を見よ。
フチカ 【山梨】甲斐國東山梨郡松里村の字。高橋山放光寺あり。眞言宗新義談林七寺の一にして、鎌倉大双紙に安田義定梶原の讒により、法光寺に憤死せる事を記すは是なりといふ。是より北三〇町下榎木といふ地に龍山庵あり。夢窓國師の舊居の址なりといふ。●【秋田】羽後國仙北郡の村。合三三三。
フチカ 【藤原】藤原北城址。【大分】豐後國大野郡中村の北に在る城址。戸次氏の城址なり。天正年中鑑連の時家を其子鑑連に譲り筑前國に移りしが、幾もなく鎮連大友氏と共に滅ぶ。
フチカ 【埼玉】武藏國入間郡三芳村の大字。川越街道に當る。東京より約七里。
フチカ 【福島】岩代國河沼郡日

橋村の字。何時の頃にか藤倉三郎左衛門盛義此に住すといふ。難波池皆嶋塚とて、俗に鬼一法眼の女皆嶋姫が、牛若の跡を慕ひ來りて、其及び難きを聞き、投身して死せる蹟といふものあり。●【秋田】羽後國南秋田郡旭川村の字。秋田市水道の泉源地にして、沈瀧池堰堤等あり。市より高きこと二〇尺市を距ること二里餘。
フチカ 【數知郡】遠江國に在りし郡。數智又は數地に作り、和名抄は淵と註し、經田・赤坂・泉島・柴江・小文・雄踏此二郷重出。竹田・尾間(海間の誤といふ)和治濱松の一〇郷及驛家に分つ。其境域は、西に濱名湖、東は鹿玉川、北は三方原に至りしが如し。後世湖西なる濱名郡の地(白須賀附近の他)悉く本郡に入り、且つ鹿玉川以東の地をも合せ、大略濱名湖を包圍したり。明治二十九年廢郡。西濱松・東濱松の二村は引佐郡に、濱松舞坂・新居の三町及曳馬・三方原・天神町・白鷺・淺場・新津・藤原・吉津・新所・知波田・入出・和地・吉野・北庄・内南庄・内村・雄踏・神久呂・入野・伊佐見・塚塚の二一村は濱名郡に入る。
フチカ 【藤原】關ノ藤川を見よ。
フチカ 【秋田】羽後國山本郡の村。北秋田郡と陸奥國とに接せる山村にして、淡水陸奥國界より發し米代川に入るを藤原川といふ。此を湖り陸奥の弘前に出づる道あり。國界を釣瓶落崎と呼ぶ。村の首邑を藤原と呼び郵便局あり。太良

山村内に在り。合三三三。
フチカ 【兵庫】丹波國多紀郡大宰村の大字。八箇尾山の奥に在りて、白藤城址あり。明徳の頃新田義治信濃より徙り築きて之に居る。子孫姓を中馬と改む。義里に至り明智光秀に従ふて山崎に戦死し城亦廢す。●【君が世に逢ふかありて紫のくも立渡る藤坂の山】夫木集。
フチカ 【青森】陸奥國上北郡の村。合三三三。
フチカ 【香川】讃岐國小豆郡の村。小豆島の西南に在り。瀧瀬を以て土庄町と稱す。居民商業に従事するもの多し。富岡神社は字富岡に在り。應神天皇を祀り、郡内五社の一とす。社は山嶺に在り、海を隔て、五劍山・尾島山・志度浦・津田松原を望み、風光頗る佳なり。寶生院は字北山に在り。眞言宗にして、天平年間僧行基の草創といふ。堂宇莊嚴郡内第一の巨刹といふ。本尊は地藏菩薩寺に多く古書畫を藏す。合三三三。
フチカ 【青森】陸奥國南津輕郡の村。黒石川の岸に沿ひ、大字藤崎は秋田街道の一驛とす。城址あり。鎌倉北條氏の時、安藤氏の居りし所に在り。後、阿部教季の弟藤崎伊勢守之に居り、弘治年中南部氏の領となり。天正以來津輕氏に歸せり。郵便局あり。●【秋田】羽後國飽海郡西遊佐村の大字。秋田・酒田街道の一驛なり。酒田より二里一八町。郵便局あり。●【熊本】肥後國熊本市の西部の字。藤崎八幡宮ありしを以て宮内とも

いふ。明治九年城下の士族大野殿平等時政に快らず所爲らち、上下夷秋の風を學び神州の正氣將に汲びんとすと同志を糾合して神風黨と稱し、十月二十三日藤崎八幡宮境内に會し、夜半俄に鑼響を發す。高島中佐以下死するもの六十四人。種田司令長官安國縣令等其私邸に殺さる。翌日鎮壓兵撃て鐵平等を殺す。餘黨數日にして平らぐ。
フチカ 【宮城】陸奥國栗原郡の村。合三三三。●【嚴手】陸奥國江刺郡の村。合三三三。
フチカ 【神奈川】相模國高座郡の町。もと鎌倉・高座二郡に跨り、境川其中央を貫流して之を分ち、鎌倉郡なるは藤澤大宮町といひ、高座郡なるは藤澤大坂町と稱し、此二部を合せて藤澤宿と稱せしが、明治四十一年之を合し、且つ鶴沼・明治二村を併せて藤澤町と改む。古來東海道の名驛たり。戸塚驛より二里半。塚驛へ三里一七町。東京日本橋より一三三三。●【藤原】東海道の停車場を置く。新橋驛より三三三三。●【鎌倉】鎌倉に連る電氣鐵道あり。●【天國】郡役所・警察署郵便局等あり。清浄光寺は俗に遊行寺といふ。時宗の總本山にして、其開山を時宗四世吞海和尚とし、正中二年俊野五郎景平の建立といふ。本堂總門共に宏壯なりしが、近年焼失し、今は假建の堂宇あり。俗に此寺に小栗満重及照天の事蹟を傳ふ。満重は上州小栗の城主なり。足利の討

手を受け、城を落して三河に至らんとし、此地の横山大膳の家に宿し、害に遭はんとせしを披露天座に在りて之を救ひ脱せしむ。満重當山の住職の庇護により終に四上し後歸りて横山等を誅し、照天を迎へたりといふ。今寺中に小栗堂あり。満重照天の遺物といふものを傳ふ。●【埼玉】武藏國入間郡の村。合三三三。●【埼玉】武藏國大里郡の村。合三三三。●【茨城】常陸國新治郡の村。土浦町の北に當る。舊地名にして、小田氏世々に居り、其城址今に存す。●【長野】信濃國上伊那郡の村。合三三三。●【嚴手】陸奥國東磐井郡の村。もと八澤郷と呼びしが、相州藤澤の遊行上人此に藤勢寺といへるを建てしより、今の名に改むといふ。北上川の谷より陸前本吉郡小泉に出づる途に當る。郵便局あり。合三三三。
フチカ 【藤原】●【愛知】尾張國西春日井郡に在りし村。初め小木村に入り、明治三十三年更に五條村に合す。●【青森】陸奥國上北郡藤坂村の大字。奥州街道の一驛なり。●【山形】羽前國東田川郡の村。郡の首邑なれども、繁華は西田川郡の鶴岡町に暮はれて、越後街道の一驛たるに過ぎず。郡役所・警察署農學校郵便局等あり。山形市の西北二五里二六町。合三三三。●【福井】越前國吉田郡の地名。福井市の北郊にして、もと庄名なり。今、東藤島・中藤島・西藤島の三村となる。太平記に載せたる藤島城此に在り。●【福井】

越前國吉田郡東藤島村の大字。福井市の東北とす。眞言宗起龍寺あり。明徳年間頼圓の創建。後、其子如蓮と不和を生じ、近世東西兩派に分屬し二寺併立す。
フチカ 【茨城】下總國北相馬郡相馬町の大字。陸前濱街道の一驛にして、龍ヶ崎町へ一里三三町。鐵道常磐線の停車場あり。東京上野驛より二九哩三九鎮郵便局あり。●【青森】陸奥國中津輕郡の村。弘前市を距る四十餘町。岩木川の岸なり。津輕藩祖爲信の廟あり。結構雅致を極む。合三三三。
フチカ 【和歌山】紀伊國海草郡内海村の字。南は藤白峠といひ、一八町にして加茂村橋本に至る。坂路は北に和歌浦を望み、熊野街道第一の佳景といふ。此地は足利氏の頃守護職の館居を置かれし地なり。源義經の臣鈴木三郎・龜井六郎は此地の人にして、今に其裔と稱する者あり。併其人角其家を訪ふて、炭かまやすいき龜井か軒の松、藤代のみさかをかよと白妙の、我衣手はわれにけるかよ(萬葉集)「藤しろのみさかをかよと見渡せば、霞もやらの吹上の濱」續後撰集。僧正行意「藤しろのみさかの松の木の間より、夕日に見ゆる淡路島山」(新千載集。前大納言公隆)「遺上に若一王子祠あり。祠背の平曠の地を御所芝といふ。華山・白河二上皇駐蹕の所とす。山腹に巨勢金岡郷津松あり。宿雲滿地凍。難披。林外鳴鶴曉氣遲。雪霽十州浮島嶼。

フチシ

月明馬踏崎崎清香梅園行宮址寒色松園輝華輝俯仰幾回尋故事天風度嶺白參差津田香殿

フチシロサンミヤク(藤白山脈) 紀伊國海草郡の南部に在る山脈舊海部郡草草二郡の界を成す山の南を加茂谷といふ藤白峠は舊熊野街道の阪路なりしが今は其麓を回りにて磯津村に出づる新道あり

フチシロミネ(藤代峰) 紀伊國伊都郡富貴村の東山大和國吉野郡十津川郷大之川に連る古丹生神社の鎮座せし所といふ今此社天野村に在り

フチタ(藤田) 【埼玉】武蔵國児玉郡の村合三三三 【埼玉】武蔵國大里郡寄居町の大字荒川に臨み秩父口を扼す正龍寺は鉢形城主藤田康邦及其養子北條氏邦の菩提寺にして其遺物數多を藏す寺前を築ヶ鼻といふ荒川の北此所に至り瀧流し風景甚佳なり藤田氏の城址は隣村末野に在り 【福島】岩代國伊達郡の村陸羽街道の一小站にして鐵道東北本線の車驛あり桑折驛より二哩六鎮郵便局あり合三三三 【和歌山】紀伊國日高郡の村日高川の西岸に沿へる名邑なり大字藤井はもと紡績を以て名あり京都に送るに本座稱して賞美せられ日高名産の一なりしが今は全く和歌山に廢せられしが如し合三三三

フチタニ(藤谷) 【山口】周防國玖珂郡に在りし村明治三十九年造町村を合三三三上村となる

フチマ(藤間) 【埼玉】武蔵國北埼玉郡に在りし村明治二十四年太田村に入る

フチマキ(藤巻) 【新潟】越後國中頸城郡春日村の大字春日山の東とす天正六年上杉氏内訌の時武田勝頼三郎景虎の援兵として出陣せる所なり北條勢來らざるを以て大出雲原に引返す

フチマタ(藤太) 【山梨】甲斐國東八代郡に在りし村明治三十六年圭林五成寺尾三村と合し境川村となる

フチミ(藤水) 【三重】伊勢國安濃郡の村合三三三

フチモリカワ(藤森川) 美作國眞庭郡に在る川高田川(朝日川)の支流なり

フチヤマ(藤智山) 豊前國京郡に在る山内之尾山又等覺寺山といふ箱田村の西に當たる山中等覺寺千坊の廢址あり等覺寺は天平年中惠空上人開基上宮は白山地現下宮は天形星王を本尊とす天曆七年谷坊覺心修驗法を學び其徒多くして千餘坊となる永和より應永五年に至り千三百餘騎にて軍をなし箱田湖にて沙に溺れて打負け滅びたり善住僧正來て舊に復せしが天正年中大友の兵火に燒け慶長年中細川忠興再興す其奥院を生龍大権現寶窟といふ窟は東に向ひ高四間横八間入口より上の日に抜出るまで百三十間窟中に釋迦

フチマ

フチタ

フチタニカワ(藤谷川) 阿波國三好郡に在る川吉野川の支流なり流程一三三三

フチツカ(藤塚) 【石川】加賀國石川郡美川町の古名

フチツケン(藤津郡) 【佐賀】肥前國十四郡の一四境北は杵島郡西は東彼杵郡南は北高來郡に接し東は有明海に臨む東西七里南北八里一八町面積一八方里五九行政上南鹿島北鹿島能古見八木木古枝七浦多良大浦五町田久間鹽田西嶺野東嶺野吉田の一四村に分ち郡役所を南鹿島村に置く合三三三六〇七〇九 地勢 本郡は多良岳東北面の地にして山岳郡内に連互し東北隅鹿島附近一帶の地僅に平夷なり山岳は淨土岳郡の中央に在り殊に多良岳の山脈は東彼杵北高來二郡の界に互り京岳國見岳前岳帆柱岩等の目あり河川は鹽田川稍大なり温泉は有名なる嶺野温泉あり道路は長崎街道杵島郡武雄より來り郡の西北隅を横きりて東彼杵郡彼杵に出づるを國道とし別に杵島郡龍王より來り筑紫海に沿ふて高來郡に通ずる縣道あり農産物は米一〇萬石(五萬石)大豆小豆粟甘藷(一萬圓)蘿蔔西瓜檳榔椰子製茶繭林産物一二萬圓漁獲物一八萬圓工産物は陶磁器(二二萬圓)和紙麥粉清酒(五四萬圓)寶珠等あり 藤津は和名杵布知豆と註し能美鹽田二郡を統す中世藤津註し稱

フチヤマ(藤山) 【北海】天鹽國留萌郡留萌町に屬する北海道鐵道留萌線の車驛深川驛より二四哩六四鎮幌糠驛より三哩三三鎮附近に藤山農場山本牧場等あり 【山口】長門國厚狭郡の村合三三三

フチヤマトウケ(藤山嶺) 【北海】渡島國龜田郡に在る山山直道に國道に迫り七飯の平野を挟みて上磯郡の鏡山と對す

フチワラ(藤原) 【群馬】上野國利根郡水上村の大字利根川の水源地なり戰國の頃北條氏の屬城ありしが天文二十三年上杉謙信之を抜くとす 【栃木】下野國鹽谷郡の村鬼怒川の一支源男鹿川の谷に在り温泉湧出す合三三三六 【奈良】大和國高市郡鴨公村高殿の舊稱持統文武二帝皇居のありし所 【三重】伊勢國多氣郡下御絲村の大字古藤原御園と呼べり北藤原に古齋宮の御齋を製せりといふ烟草と稱する地あり 【大分】豊後國速見郡の村日出町の東に接す右大臣藤原國人の祠あり國人豊後守たりし時教化大に行はる百姓其德を慕ひ生祠を造りて奉祀せるものといふ

フチワラタケ(藤原岳) 伊勢國員辨郡近江國愛知郡に跨る山標高三七六九尺其麓より銅鑛及鉛鑛を出す此山の南を通ずる山路を治田越といふ

フツ(布津) 【長崎】肥前國南高來郡の村

フチト

造寺氏の侵略以來佐賀藩に隸せり

フチト(藤戸) 【岡山】備前國兒島郡の村古の藤戸渡(其條を見よ)の址にして今小流を存し兒島灣の水備中の大川に通ず村は此に跨り北岸を天城といふ下津井街道に當る郵便局あり合三三三六

フチトノウタシ(藤戸渡) 昔備前國兒島灣の西水島灘に通じたる水道後世埋没して今田圃となり藤戸村といふ然れども是より西備中の大川に至るまで一條の小流あり舊時の遺形を存す元暦元年平氏は祐盛有盛等を將とし粒江に陣す源氏は範頼を將とし備中國日岡山に在りしが舟なくして渡るを得ず佐々木盛綱竊に土民を嚮導し淺瀬を探知し騎渡して先登をなし平氏の軍を敗る事入口に險矣菅茶山の詩に「戰場全入壘田中江沙猶餘一線通底是先登渡馬處南村北卷練秋風」

フチトミ(藤島) 【熊本】肥後國鹿野郡の村合三三三

フチナ(淵名) 【群馬】上野國佐波郡佐佐郡采女村の地名上下二大字に分る和名抄淵名郷の遺稱なり藤原秀郷三代兼光の孫此に居り淵名大夫兼行と呼ぶといふ大國神社は延喜式内の古社にして一に五姫大明神と呼ぶ里人はゴノ宮と呼ぶ祭神は詳ならず

フチナミ(藤浪) 【愛知】尾張國海東郡に在りし村明治三十九年佐藤村に入る

フチナミ(藤島) 【和歌山】紀伊國有田郡

フツカイチ(二日市) 【福岡】筑前國筑紫郡の町有名なる武蔵温泉(其條を見よ)の所在地にして大分街道の驛次をなし福岡市を距る四里九町警察署郵便局及鐵道九州線の停車場あり原田驛前二驛の間とす二日市の名は往時毎月二日に市立して交易せるより起りしといふ高橋紹運の首塚は町の北東なる丘上に在り長二間二尺横七尺合三三三

フツキヨウサン(佛經山) 出雲國鹽川郡の東に在る山大原郡に接す古の所謂神名火四山の一にして山中に曾俊能夜神社韓國伊太氏神社あり

フツニウ(佛向) 【神奈川】武蔵國橋本町矢崎村の大字もと佛向に作りフツニウと訓みしなり佛向の寄進田なりしならんといふ

フツサ(佛生) 【東京】武蔵國西多摩郡の村多摩川の岸にして羽村の東南に接し鐵道青梅線の停車場あり合三三三

フツシ(佛子) 【埼玉】武蔵國入間郡元加治村の大字豊岡町に接す入間川の崖より蛇龜石といふ化石を出す周三寸より八尺に至るものあり

フツシカワ(布津川) 【北海】日高國三石郡に在る川水源樺木岩岳南流して静内郡界を成し音江村に至り海に入る

フツシヨウサン(佛生山) 【香川】讃岐國香川郡の町一に百相といふ郡内第一の名邑にして高松市を距る南二里一五

フツカ

フチネ

の村湯淺町の北にして熊野街道に當る大字下津野は連歌師宗祇法師の誕生地なり合三三三七

フチネ(藤根) 【慶手】陸中國和賀郡の村合三三三六

フチノ(藤野) 【愛知】三河國碧海郡に在りし村明治三十九年櫻井村に合す 【岡山】備前國和氣郡の村日笠川に沿ふ川の西岸に櫻樹數千株あり俗に藤野櫻林といひ又芳嵐園と稱す春時土民行樂の地なり猿日神社は天目命猿田彦命應神天皇を合祀す境内清雅なり此地に經塚といふ古墳あり古倉光三郎を妹尾太郎が夜討にしたり藤野寺は此所なりといふ何時の頃よりか寺は廢して島となる七本堂と呼ぶ塚は倉光三郎の墓なりと稱す又寶相寺境内に和氣清瀧古墳といふものあり倉光の墓と混ぜるにや合三三三

フチノハラ(藤原) 大和國高市郡飛鳥村大原の別稱

フチノベ(淵野邊) 【神奈川】相模國高座郡大野村の大字境川を隔て武蔵國南多摩郡木曾と對す厚木より關戸に至る街道に當る此地は足利直義の臣下たりし淵邊伊賀守義博の居りし所と傳へ其宅址殘る

フチノモリ(藤森) 【京都】山城國紀伊郡深草村の地名村の南部伏見町に近き邊をいふ藤森神社あり祭神及創立年代を詳にせず藤森を改めたる所に軍神

町琴平道及阿波街道に當り警察署及郵便局あり素懸を産す町名は佛生山と呼ぶ丘陵あるに因る法然寺は佛生山上に在り舊高松侯松平氏代々の菩提所に於て建永年間圓光大師法然讚岐調居中の舊社那珂郡子松郷に在りしを寛文八年松平頼重此地に移し三十三門二十餘宇の堂塔を建て大師自作の彌陀佛及眞像を安置し淨土四ヶ本山に準じ住職は紫衣の勅許を得たり堂宇莊嚴今尙舊觀を損せず丘上に法然の分骨塔及藩主累代の墳墓あり寺藏の陸信忠筆十王像圓鶴洲筆親音功徳圖晴川筆源氏物語繪屏風の三點今國寶となる合三三三

フツシヨウジ(佛生寺) 【富山】越中國水見郡の村西福波郡に接する山村なり三代實錄に載せたる御田神社あり古は社地廣大にして歴朝の崇厚かりしが建久年中佛徒其地を掠め金雞山佛生寺といへる寺院を建てしが元弘年中兵燹に罹り天文年中飯久保城主狩野實久之を再興せしが天正年中燒失せり今の社殿は明治二十一年の造營といふ合三三三

フツセ(樺太) 遠瀨を見よ

フツセコ(湖) 遠瀨湖を見よ

フツチヨウサン(佛頂山) 常陸國西茨城郡下野國芳賀郡に跨る山海抜一八七尺其南隅を佛光山北隅を佛照山といふ山の東方半腹以下松杉檜の大木繁茂し其麓に笠間時朝の建立せる楞嚴寺あり ●筑前國筑紫郡御笠村に在る山

フツシ

フツツ

糟屋郡に界す。龍門山の別峯なり。其東北の峯を八葉といふ。

フツツ(富津) 【千葉】上総國君津郡の町。六百五十九。次條をも見よ。

フツツサキ(富津岬) 上総國君津郡より東京灣に斗出せる低嘴。斜に相模の走水と相對し、其間僅に三里東京灣の要害なるを以て岬端に海堡あり。此岬附近は潮流の衝に當るを以て、砂嘴常に變移し、且つ沿邊の水深も亦一定せず。明治六年八年十二年の數回測量に、水深一尋乃至五尋の所は半尋、又一〇尋以上の所は二尋乃至五、六尋の差を生ぜりといふ。浮標は海堡の西に近く、水深六尋の所に設置す。紅色鐵道にして、木樨龍球を載き、水面上高十五呎、是より十二天鼻は北々西、嶺島は南西四、觀音崎は南東に當る。岬脚に富津町あり。

フツツ(古渡) 【茨城】常陸國那珂郡の地名。小野川の霞浦に歸せんとする兩岸に跨り、南なるは舊河内郡に屬し、村名となり、北なるは舊信太郡嶋崎村の大字なり。一に古川に作り、香取文書には福戸津と見えたり。土浦、銚子間の要路に當る。舊河内郡の方なる古渡に城址あり。慶長八年徳川氏山岡景友を封じ、十五年丹羽長重之に代はる。元和八年陸奥棚倉に移封、廢墟となる。 【茨城】常陸國那珂郡の村。六百六十六。

フツツ(拂戸) 【秋田】羽後國南秋田郡の村。六百六十七。

フツト

フツト(風渡野) 【埼玉】武藏國北足立郡の村。六百五十五。

フツナイ(富津内) 【秋田】羽後國南秋田郡の村。六百五十六。

フツミ(布都美) 【岡山】備前國赤磐郡の村。もと石上といへり。布都之魂神社あり。を以て近年改稱す。此社ほもと節靈神社といひ、社傳に據れば、崇神天皇の時大和國山邊郡より此地に移し、後廢絶せしを、寛文十年國主池田綱政再建せりといふ。素戔嗚尊が蛇を斬りし靈劍(十拳劍)を祭ると稱す。但し大和にも石上神社あり同じく十拳劍を祀る。此社との關係詳ならず。大和より移せるにや。又は此社の劍を大和に移せるにや。六百五十七。

フテイリ(武定里) 【臺灣】嘉義縣港寮管下の區。臺南市の北なる海岸に沿ひ、鄭氏の時より開けたり。清の時内外の二里に分てり。

フデオカ(筆岡) 【香川】讃岐國仲多度郡の村。筆山の東麓なり。式内の古社靈氣神社あり。中古廢絶せしが、天明年中丸龜侯命じて再興すといふ。或説に琴平山の金毘羅神社ならんともいふ。六百五十八。

フデステヤマ(筆捨山) 伊勢國に在る山。鈴鹿郡關町より西北三十町。字一ノ瀬より國道右折し、十五六町にして至る。奇岩怪石起伏し、老松之を點綴し、八十瀬川(鈴鹿川上流)其下を流れ、風景甚だ佳なり。俗に狩野古法眼此勝景を寫し、意に適はずとて筆を投ぜしといふ。當處出雲の

フツナイ

詩に、「千仞嶂崖誰得攀。古松倒挂怪岩間。眞王苦心不能畫。投筆名高塞筆山。」

フツナイ(普天間) 【沖繩】琉球國中頭郡宜野灣村の字。鍾乳洞ありて、洞中に普天間權現を祀る。此神は海上を保護すとて、舟子の那覇に至る者必ず參詣する事、讃岐の琴平神社の如し。那覇を距る四里。其街道に松並木ありて、風景頗る佳なり。

フツ(布土) 【愛知】尾張國知多郡に在りし村。明治三十九年河和町に合す。

フツイカワ(太井川) 【江戸川】を見よ。

フツウ(不動) 【巖手】陸奥國紫波郡の村。六百五十九。

フツウオカ(不動岡) 【埼玉】武藏國北埼玉郡の村。大字不動は加須町の西に接し、栗橋停車場より約三里。有名なる不動堂あり。本尊は智證大師の作にして、もと京都紫雲殿に在りしが、偶不動島(利根川)と此所を流れし頃、に漂着せしものと傳へ、俗に此所冬時雪積ることなく、又鐵治住まざるなど種々の傳説あり。六百六十。

フツウガタケ(不動ヶ岳) 相模國津久井足柄上三郡に跨る山。海拔四八二二尺。

フツウタキ(不動瀧) 大和國吉野郡下北山村に在る瀧。高五七丈、幅六尺。下流前鬼川に入る。 ●加賀國石川郡龜米町の東南根尾に在る瀧。高二〇丈、幅二間。下流手取川に入る。 ●能登國鹿島郡三尾山に在る瀧。高約一〇〇尺。下流熊野川と合し、長曾川に入る。

フツウドウ(不動堂) 【宮城】陸奥國遠田郡の村。六百六十一。

フツウ

那の村。六百三十三。

フツウホウ(武東堡) 【臺灣】臺中廳管下の地名。但し皮仔寮庄、赤水庄、弓鞋庄、松柏坑庄、頂新厝庄、麻下庄、施厝坪庄は南投廳管下なり。

フツウヤマ(不動山) 越後國中頸城四頭城二郡に跨る山。所謂火打火山群の一峯にして、圓錐形を成し、高四九五七尺。粗質の輝石富士岩より成る。山中に俱利伽羅不動を祭る。 ●肥前國藤津郡の西方に在る山。東彼許郡に互る。山麓諸村に産する茶其類甚だ多し。世人之を嬉野茶と稱す。 ●丹波國水上郡、幸世村を見よ。

フツウヤマ(龍崎山) 越後國岩船郡に在る山。又武動山に作る。羽前街道の山路にして、鹽野町より此山を踰え海府浦に出で、鼠ヶ岡に懸る。古來有名なる難所にて、雪中には往來全く絶ゆ。山頂に、矢吹神社あり。式内漆山神社なりといふ。社背に洞穴あり、其上に數十仞の絶壁峙つ。

フツウヤマ、シヨウシ(不動山城址) 【群馬】上野國勢多郡、八崎を見よ。

フツカマベツカワ(一川) 【北海】石狩國雨龍郡に在る川。水源、天驥石狩二國界の山中、雨龍川に入る。流程一〇里一町。

フツコロジマ(櫻島) 【神奈川】鎌倉時代に於ける相模國の驛名。今高座郡鶴ヶ嶺村邊とす。大字の今宿といふも其名殘なるべしといふ。相模川の渡津に當る。鎌倉氏の時は大庭平太淡能之に居り、家號を櫻島と呼べりといふ。今、鶴ヶ嶺八幡宮あり。

フト

フト(柳島) 【北海】北見國常呂郡の村。常呂川の中流に沿ふ。常呂市街を距る四里。アイヌ語フトイナ、フトイは川尻に鮭の産卵場ある川の義なり。六百二。

フトミ(大海) 【千葉】安房國安房郡の村。六百三。

フトミダニ(太美谷) 越中國四瀨郡の南方、飛騨加賀二國に介在せる山谷。長五里に及び、其絶峯を大山山といふ。白山の餘脈なり。山中に不動瀧あり。即ち、小矢部川の水源とす。山中今、東太美、西太美、太美山の三村に分たる。

フトミヤマ(太美山) 【富山】越中國四瀨郡の村。六百三十五。

フトロ(太槽) 【北海】後志國太槽郡の村。文政年中和入初めて來住し、明治の初津輕、南部、秋田地方の移住あり。三十九年太槽、古槽本、其瑞石、嶋瀨四村を合せて一村とす。境域太槽郡全體を占め、農産物約一〇萬圓。大豆、蕎麥、玉蜀黍等。水産物は鱈、柔魚、王餘魚等あり。又同名の鑛地あり。久遠へ七里。六百三十七。

フトロカワ(太槽川) 【北海】後志國太槽郡に在る川。水源、太槽岳。西北流して太槽村に至り、日本海に入る。河口より上流五里カネサワといふ地にアイヌの壘址散在す。

フトロクン(太槽郡) 【北海】後志國十七郡の一。四境、北は瀨棚郡、東は虻田郡、南は檜山郡、西は檜山郡に接す。面積、六百三十八。

フトナ

フトナ(舟浮) 【沖繩】琉球國八重山郡西表島の西岸に在る港。北緯二四度二〇分、東經一二三度四三分に位し、琉球三真港の一にして、中山(琉球)五港の一と稱せらる。三方山岳圍繞し、北に内離、外離の二島あり。風濤を防ぎ、海内水深く大船を泊するに足る。同縣の調査に據れば、淀泊所の深千一八丈、滿潮一丈八尺ありといふ。

フナオカ(船岡) 【宮城】陸奥國柴田郡の村。大字船岡は白石川の南岸に沿ひ、仙臺領の時柴田藏人の居りし所なり。城址あり。

フナオカ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百三十九。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十一。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十二。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十三。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十四。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十五。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十六。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十七。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十八。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十九。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百五十。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百五十一。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百五十二。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百五十三。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百五十四。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百五十五。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百五十六。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百五十七。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百五十八。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百五十九。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百六十。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百六十一。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百六十二。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百六十三。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百六十四。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百六十五。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百六十六。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百六十七。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百六十八。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百六十九。

フトロ

フトロ(舟浮) 【沖繩】琉球國八重山郡西表島の西岸に在る港。北緯二四度二〇分、東經一二三度四三分に位し、琉球三真港の一にして、中山(琉球)五港の一と稱せらる。三方山岳圍繞し、北に内離、外離の二島あり。風濤を防ぎ、海内水深く大船を泊するに足る。同縣の調査に據れば、淀泊所の深千一八丈、滿潮一丈八尺ありといふ。

フナオカ(船岡) 【宮城】陸奥國柴田郡の村。大字船岡は白石川の南岸に沿ひ、仙臺領の時柴田藏人の居りし所なり。城址あり。

フナオカ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百三十九。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十一。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十二。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十三。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十四。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十五。

フナウ

フナウ(舟浮) 【沖繩】琉球國八重山郡西表島の西岸に在る港。北緯二四度二〇分、東經一二三度四三分に位し、琉球三真港の一にして、中山(琉球)五港の一と稱せらる。三方山岳圍繞し、北に内離、外離の二島あり。風濤を防ぎ、海内水深く大船を泊するに足る。同縣の調査に據れば、淀泊所の深千一八丈、滿潮一丈八尺ありといふ。

フナオカ(船岡) 【宮城】陸奥國柴田郡の村。大字船岡は白石川の南岸に沿ひ、仙臺領の時柴田藏人の居りし所なり。城址あり。

フナオカ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百三十九。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十一。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十二。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十三。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十四。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十五。

フナオ

フナオ(舟浮) 【沖繩】琉球國八重山郡西表島の西岸に在る港。北緯二四度二〇分、東經一二三度四三分に位し、琉球三真港の一にして、中山(琉球)五港の一と稱せらる。三方山岳圍繞し、北に内離、外離の二島あり。風濤を防ぎ、海内水深く大船を泊するに足る。同縣の調査に據れば、淀泊所の深千一八丈、滿潮一丈八尺ありといふ。

フナオカ(船岡) 【宮城】陸奥國柴田郡の村。大字船岡は白石川の南岸に沿ひ、仙臺領の時柴田藏人の居りし所なり。城址あり。

フナオカ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百三十九。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十一。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十二。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十三。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十四。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十五。

フナオ

フナオ(舟浮) 【沖繩】琉球國八重山郡西表島の西岸に在る港。北緯二四度二〇分、東經一二三度四三分に位し、琉球三真港の一にして、中山(琉球)五港の一と稱せらる。三方山岳圍繞し、北に内離、外離の二島あり。風濤を防ぎ、海内水深く大船を泊するに足る。同縣の調査に據れば、淀泊所の深千一八丈、滿潮一丈八尺ありといふ。

フナオカ(船岡) 【宮城】陸奥國柴田郡の村。大字船岡は白石川の南岸に沿ひ、仙臺領の時柴田藏人の居りし所なり。城址あり。

フナオカ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百三十九。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十一。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十二。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十三。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十四。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十五。

フナオ

フナオ(舟浮) 【沖繩】琉球國八重山郡西表島の西岸に在る港。北緯二四度二〇分、東經一二三度四三分に位し、琉球三真港の一にして、中山(琉球)五港の一と稱せらる。三方山岳圍繞し、北に内離、外離の二島あり。風濤を防ぎ、海内水深く大船を泊するに足る。同縣の調査に據れば、淀泊所の深千一八丈、滿潮一丈八尺ありといふ。

フナオカ(船岡) 【宮城】陸奥國柴田郡の村。大字船岡は白石川の南岸に沿ひ、仙臺領の時柴田藏人の居りし所なり。城址あり。

フナオカ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百三十九。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十一。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十二。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十三。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十四。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十五。

フナオ

フナオ(舟浮) 【沖繩】琉球國八重山郡西表島の西岸に在る港。北緯二四度二〇分、東經一二三度四三分に位し、琉球三真港の一にして、中山(琉球)五港の一と稱せらる。三方山岳圍繞し、北に内離、外離の二島あり。風濤を防ぎ、海内水深く大船を泊するに足る。同縣の調査に據れば、淀泊所の深千一八丈、滿潮一丈八尺ありといふ。

フナオカ(船岡) 【宮城】陸奥國柴田郡の村。大字船岡は白石川の南岸に沿ひ、仙臺領の時柴田藏人の居りし所なり。城址あり。

フナオカ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百三十九。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十一。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十二。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十三。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十四。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十五。

フナオ

フナオ(舟浮) 【沖繩】琉球國八重山郡西表島の西岸に在る港。北緯二四度二〇分、東經一二三度四三分に位し、琉球三真港の一にして、中山(琉球)五港の一と稱せらる。三方山岳圍繞し、北に内離、外離の二島あり。風濤を防ぎ、海内水深く大船を泊するに足る。同縣の調査に據れば、淀泊所の深千一八丈、滿潮一丈八尺ありといふ。

フナオカ(船岡) 【宮城】陸奥國柴田郡の村。大字船岡は白石川の南岸に沿ひ、仙臺領の時柴田藏人の居りし所なり。城址あり。

フナオカ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百三十九。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十一。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十二。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十三。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十四。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十五。

フナオ

フナオ(舟浮) 【沖繩】琉球國八重山郡西表島の西岸に在る港。北緯二四度二〇分、東經一二三度四三分に位し、琉球三真港の一にして、中山(琉球)五港の一と稱せらる。三方山岳圍繞し、北に内離、外離の二島あり。風濤を防ぎ、海内水深く大船を泊するに足る。同縣の調査に據れば、淀泊所の深千一八丈、滿潮一丈八尺ありといふ。

フナオカ(船岡) 【宮城】陸奥國柴田郡の村。大字船岡は白石川の南岸に沿ひ、仙臺領の時柴田藏人の居りし所なり。城址あり。

フナオカ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百三十九。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十一。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十二。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十三。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十四。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十五。

フナオ

フナオ(舟浮) 【沖繩】琉球國八重山郡西表島の西岸に在る港。北緯二四度二〇分、東經一二三度四三分に位し、琉球三真港の一にして、中山(琉球)五港の一と稱せらる。三方山岳圍繞し、北に内離、外離の二島あり。風濤を防ぎ、海内水深く大船を泊するに足る。同縣の調査に據れば、淀泊所の深千一八丈、滿潮一丈八尺ありといふ。

フナオカ(船岡) 【宮城】陸奥國柴田郡の村。大字船岡は白石川の南岸に沿ひ、仙臺領の時柴田藏人の居りし所なり。城址あり。

フナオカ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百三十九。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十一。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十二。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十三。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十四。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十五。

フナオ

フナオ(舟浮) 【沖繩】琉球國八重山郡西表島の西岸に在る港。北緯二四度二〇分、東經一二三度四三分に位し、琉球三真港の一にして、中山(琉球)五港の一と稱せらる。三方山岳圍繞し、北に内離、外離の二島あり。風濤を防ぎ、海内水深く大船を泊するに足る。同縣の調査に據れば、淀泊所の深千一八丈、滿潮一丈八尺ありといふ。

フナオカ(船岡) 【宮城】陸奥國柴田郡の村。大字船岡は白石川の南岸に沿ひ、仙臺領の時柴田藏人の居りし所なり。城址あり。

フナオカ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百三十九。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十一。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十二。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十三。

フナカタ(船形) 【千葉】安房國安房郡の村。六百四十四。

相接せる小市街にして、慶應年中平岡道弘之に封ぜられ、砦を置きたり。居民多く漁業に従事す。近年海水浴場を設く。夏時節人の來遊多し。船形觀音堂は海邊の山腹に在り。俗に飛騨匠が模一枚を以て蟻岩に釣固せるものと傳ふ。結構奇巧。悉く朱丹を以て塗る。其木尊は僧行基が石面に彫刻せるものといふ。寺を大福寺と呼ぶ。六百四十四。

フナカタ(船方) 【千葉】下總國印旛郡公津村の大字。印旛湖の北に在り。城址あり。天正年中船形越前守胤信此に居りしといふ。建廢不詳。又印旛國造伊都許利命の墓といふものあり。

フナカタ(舟形) 【山形】羽前國最上郡の村。大字。舟形は國道後羽根嶺の北なる一小站とす。鐵道陸羽西線の停車場あり。新庄驛より五哩。一路此より分れ、小國川を溯り陸前國に向ふ。國界中山峠まで九里。又越後に向ふ。鶴岡町に出で、街道を分つ。郵便局あり。六百四十四。

フナカタ(舟方) 三河國渥美郡各川村の一丘。戰國の頃城あり。今川氏の將多米又三郎之を守り、月田氏の爲に攻落さるといふ。船形山普門寺と呼ぶ古刹あり。

フナカタ(舟形) 陸前羽前二國に跨る休火山。高さ五六一〇尺甚だしく、浸蝕せられ、火山の形態十分ならず。其頂上には東に向て弧状を成せる山背ありて、其内側は急斜せる峭壁を成し、東方に山腹あり。舊火山口は、噴煙を吐く。

るを示し壁面には二三の熔岩流集塊岩及灰層の累積を認むべく、弧状の山背内には火口底たる稍廣き平地あり。草木茂生す。風頭山下に鏡池と稱する一小湖あり。湖邊に御升、淨徳の祠あり。山雲を記れるなり。東方より望めば山頂に平坦にして、其兩方少しく反り、漁舟形を呈せるより此名ありといふ。登路は其東南定義温泉場より通ずるのみ。大日本地誌。

フナカワミナト(船川港) 【秋田】羽後國南秋田郡の町。男鹿半島の南に在り。國內第一の良港にして、西は本山、眞山、北は寒風山に遮られ、東南に向て開き、冬期船舶の土崎、能代に入る。能代はざる時避泊する所なれば、頗る殷賑なり。郵便局あり。町の東、泉臺山に砲臺あり。明治二年佐竹義典の築く所といふ。六百五十二。

フナキ(船木) 【千葉】下總國海上郡の舊郷名。千葉氏の一族海上行旅此に居り、船木を稱せり。今村名となる。【三重】伊勢國度會郡瀧原村の大字。宮川を隔てて多氣郡と對し、相武田藩政の時此

に沿ひ、鐵道九州線の羽大塚停車場の東兩三〇町とす。含鐵炭酸冷泉にして、火熱を加へて浴用に供す。客舎數軒、商賣數十戸あり。附近風景よく、浴客甚だ多し。

に番所を置き、木材薪炭の運送、舟筏の上下を監視せりといふ。此村の上下數里の間に兩岸相迫り、水流急に、景色絶佳なり。【滋賀】近江國高島郡本庄村の字。琵琶湖の西岸安曇川の末なる堆洲の地なり。其端を船木崎といふ。湖上二里に白石島と呼ぶ岩嶼あり。更に一里にして、大上郡の多景島に至る。大江匡房の歌に、「川島や舟木のばまの磯千鳥、おのれの名をも年とたのまん」今、船木の西に大字川島あり。【岐阜】美濃國本巢郡の村。北方町の西南一里に在り。舊庄名とす。大字十七條に船木氏の城址あり。土岐頼貞の子頼胤此に居り、船木氏を稱せりといふ。此附近には十四條より十九條に至る六條の地名あり。古代田積の計算に用ひし條里の遺稱といふ。六百五十三。

フナキ(船木) 【兵庫】播磨國赤穂郡の村。備前國境、船坂峠の東、中國街道に當る。もと安室庄ともいへり。六百五十三。

フナサカトウケ(船坂峠) 播磨國赤穂郡有年驛より備前國和氣郡三石に至る山路中國街道の要害なり。鐵道山陽線六百間の隧道を穿ち通ず。明治二十二年六月起工、二十四年一月成る。工費二十四萬圓。天正記に後醍醐天皇隱岐に遷幸の時、見島長及高德此に待ち奉りしに、山陰道に赴き給ふと聞き、杉坂に至れば車駕既に四幡に入り、高德等の謀空くなりければ、夜に入り御館に入り、天、莫空、勾踐の句を書せる事を記す。風はやみ、白波をよそ人は、ふな坂山と見るぞあやうき。天木集。

フナツ(船津) 【兵庫】播磨國神崎郡の村。合元三。【三重】紀伊國北牟婁郡の村。郡の中央に在り。大河内川の沿岸なり。古の相賀ノ莊の一部なり。村の北に船津山あり。即ち大室原山の支峰にして、山陰を大杉谷といひ、伊勢の宮川の源なり。大字上里に古關所ありしといふ。寛永雜記云、此關所は相模三浦の平六兵衛の子孫此地に據せられ、後功あり、朝廷より熊野道者一人につき、島目五錢づいと命ぜらる。豐太閤の時朝鮮征伐に赴き、其後に關所廢すと同書又云、織田信長熊野を征討の時、日置大膳を大將として、天正三年上里村に討入、里ノ前大坪島居ノ時、原口等にて合戦ありと、合元三。【山梨】甲斐國南都留郡の村。川口湖の東南隅に臨み、駿河東路に當り。吉田山中の諸驛に通ず。河口驛の南とす。郵便局あり。徳川時代此所に番所を置きたり。六百五十六。

フナキ(船城) 【兵庫】丹波國水上郡の村。和名抄船城郷の地に於て、柏原町の北に當る。延喜式權經神社は大字長見に在り。俗に船八幡といふ。蓋し多紀郡多々奴比神社と同體ならんといふ。山王權現の社は大字歌道谷に在り。享保年中麻彦流行の時、主上より祈禱仰付られ御平癒あり。享保十五年西湖八景巻物御掛物等御寄進あり。六百五十三。

フナキ(舟着) 【愛知】三河國八名郡の村。明治三十九年乘本、日吉二村を合せ稱す。六百五十六。

フナツキ(船附) 【岐阜】美濃國養老郡登郷村の大字。牧田川、杭瀬川の會流する所に於て、西美濃より桑名熱田ノ舟楫上下の便甚だ多し。郵便局あり。船附神社あり。

フナツキ(船附) 【岐阜】美濃國養老郡登郷村の大字。牧田川、杭瀬川の會流する所に於て、西美濃より桑名熱田ノ舟楫上下の便甚だ多し。郵便局あり。船附神社あり。

頸の西側の地、由海岸に僅に半里、其間に湖沼あり。【長崎】對馬國下縣郡の村。明治四十一年大船越外九村を合せし稱す。合元三。【新潟】越後國西蒲原郡に在りし村。明治廿四年岩室村に入る。【三重】志摩國志摩郡の村。合元三。【嚴手】陸前國下閉伊郡の村。合元三。【秋田】羽後國南秋田郡の町。明治廿八年町制を施く。男鹿半島の東南隅にして、八郎潟口なる一狭水を隔て、天正村と相對し、其間に架するを八龍橋といふ。長二八〇間。合元七。【島根】隱岐國の地名。西ノ島の地峽にして、其間僅に二町。島前海と外海とを隔つ。内海の岸より船を負ふて外海に出で、終日釣流し、又負ふて内海に歸るより此名ありといふ。【廣島】安藝國安藝郡の村。合元三。【福岡】筑後國浮羽郡の村。合元三。【福岡】筑前國糸島郡小富士村の大字。半島形を成し、洲を以て本地に續く。往時は此地の漁人風浪ある毎に此洲を踏みて、其船を或は南海に、或は北海に引き行けるより此名起るといふ。

フナコシウシ(舟越浦) 【愛媛】伊豫國南宇和郡西外海村の大字。港口濶七哩。響入二潭。一の險峻なく、能く諸風を拒ぎ、港内到處所投錨すべし。郵便局あり。

フナコシヤマ(船越山) 播磨國赤穂郡美作國美田郡に跨る山。山上に彌塔寺あり。フナコヤコウセン(船小屋鐘泉) 【福岡】筑後國八女郡下妻村に在る鐘泉。矢部川

フナツキ(船附) 【岐阜】美濃國養老郡登郷村の大字。牧田川、杭瀬川の會流する所に於て、西美濃より桑名熱田ノ舟楫上下の便甚だ多し。郵便局あり。船附神社あり。

り。往古此邊は海濱にて、社地の字を濱子ノ宮といひ、鳥居のありし所を濱見ノ鳥居と呼び、其他船繋キ石と呼べる二個の大石等其遺跡を證するも、此は船附といへる名によりて附合せるもの、如し。

フナツキ(船着) 【和歌山】紀伊國日高郡の村。日高川の右岸に沿ひ、郵便局あり。日高川の舟楫は此地を限りとし、此より上流は瀬舟と稱する輕舟を通ずるのみ。大字高津尾川に炭酸泉を出す。白濁泉。

フナツキヤマ(舟着山) 三河國八名郡舟着村に在る山。豊川の左岸に峙つ。海拔一四〇九尺。秩父古生層より成る。

フナツシマ(船津島) 【鹿児島】薩摩國薩摩郡。京泊を見よ。

フナト(船月) 【京都】山城國紀伊郡伏見町京橋一帯の古名。船月御所(伏見殿の一)のありし地なり。又古は泊舟の地にして遊女等ありし小繁華の地とす。●【和歌山】紀伊國那賀郡小倉村に在る紀伊鐵道の車驛。●【徳島】阿波國麻植郡川田村に在る徳島鐵道の車驛。徳島より二哩三九〇。

フナト(舟渡) 【山形】羽前國四置郡郡北小國村の大字。越後荒川の上流なる谷間に在り。郵便局あり。

フナトカワ(船月川) 伊勢國上浮穴郡に在る川。一に浮穴川といふ。水源浮穴村。東宇和郡横林村に至り、流川に入る。流程七里三町。

フナトマリ(船泊) 【北海】北見國禮文郡(即ち禮文島の村。船泊。神崎の二部落より成る。港内水深くして、碇泊に宜しく、附近漁場の本場なり。八町三三三)。

フナハザマ(船道) 【宮城】陸前國柴田郡槻木村の大字。陸羽街道大河原槻木の間に宿なり。東鑑に文治五年八月十一日島山重忠國衡の首を頼朝の實験に供し、和田義盛と功を争ひしとある所なり。大光院と呼ぶ天安二年開基の古刹あり。

フナバシ(船橋) 【大阪】河内國南河内郡道明寺村の大字。大和川石川會流の地に於て、萬葉集の河内大橋ありし所ならんといふ。又志紀郡孝子衣縫氏の女惠我川に梁を架すとあるも、此所ならんとの説あり。今、新大和川に橋を架して、柏原村に通ず。●【大阪】河内國北河内郡樟葉村の大字。楠葉の南に在り。舟橋川あり。甘南備山より發し、淀川に入る。●【千葉】下總國東葛飾郡の町。北總の一名邑にして、東京灣に臨み、鐵道開通以前は千葉及成田に至る一要驛なりしかば、商店旅舎相接し、今も繁昌の地なり。殊に干鰯・魚船等海産物の輸出あり。又鹽田六三町歩ありて、鹽二萬石の産あり。其製造實業盛に行はる。市中は五日市九日市海神の三區より成り、警察分署郵便局及總武鐵道の車驛あり。本所驛より一哩三九〇。千葉驛へ一哩二六〇。銚子驛へ六〇哩。三六鎮市中に娼戶多し。此地にて娼を八兵衛と呼ぶこと人のよく知る所なり。●【宮城】北津波郡に在りて、俗に船橋大神

宮といふ。日本武尊東征の時伊勢神社を祀れるものと傳へ、有名な古社なり。社は小丘上に在り。境内眺望よし。其他茂侶神社阿彌波神社慈雲寺淨勝寺等あり。合二五〇。

フナバシ(舟橋) 【福井】越前國吉田郡中藤島村の字。九頭龍川畔にして、北陸本道此に懸る。もと柴田勝家の創設せし舟橋あり。小舟を運る事四十八、以て人馬を通せしが、今は木橋に代へたり。●【富山】越前國中野郡の村。合三三三。

フナハシカワ(舟橋川) 河内國北河内郡樟葉村に在る川。水源、水室村の甘南備山。流程約二里にして、淀川に入る。

フナハラ(船原) 【静岡】伊豆國田方郡中野村の地。今、上下二大字に分る。上船原に温泉あり。鹽類泉にして、温度一〇九度。皮膚病梅毒に効ありといふ。

フナビキ(船引) 【福島】磐城國田村郡片曾根村の大字。三春、常葉兩町の間に在り。郵便局あり。

フナヒキシヨウ(船曳庄) 【兵庫】播磨國佐用郡三日月村邊の冠稱。風土記に中川里引船山とあるもの亦此地とす。

フナホ(船穂) 【千葉】下總國印旛郡の村。合三三三。

フナボリ(船堀) 【東京】武藏國南葛飾郡の村。合三三三。

フナボリカワ(船堀川) 武藏國南葛飾郡に在る川。中川と江戸川とを連絡せしむる渠にして、慶長年間開鑿といふ。流程約一里正保國圖に載せたり。此流の北岸を船堀村といふ。

フナミ(舟見) 【富山】越前國中野郡の町。北陸本街道の一驛にして、泊町より二里七町三日市町より三里八町。郵便局あり。旅人は平日多く下街道(泊入善三日市)を通過するを以て、此地往來多からざれども、黒部川出水の時皆途を此に取る。合三三三。

フナミ(船見岳) 加賀國江沼郡の東偏に在る山。一に鞍掛山といふ。高二三〇〇尺。其麓に瀧懸る。溪水は集りて、動橋川に入る。

フナヤマ(船山) 甲斐國北巨摩郡葦崎町の西南に在る山。形狀船を覆したるに似たり。天文年中武田信玄が諏訪小笠原兩氏の兵を破りし所とす。山上に姫宮の祠あり。

フナヤマシヨウシ(舟山城址) 【岡山】備前國御津郡。牧石村を見よ。

フニウ(不入) 【千葉】上總國市原郡高瀧村の大字。

フニウ(船生) 【栃木】下野國鹽谷郡の村。矢板町より日光に至る要路に當り、大字船生に郵便局あり。矢板より四里。今市へ三里。合三三三。

フニウサン(船尾山) 上野國群馬郡桃井村に在る山。一に不入に作る。標名山の東部なる一峯にして、海拔八二二。全山火山岩より成り。九十九谷ありと稱す。往時は鬼神なりとて人登ることなし。中腹に水

潭あり。坂東三十三番の札所なり。寺より二〇町にして船尾瀧あり。直下二〇丈。

フニドウ(不入道) 【福岡】筑前國筑紫郡南畑村の大字。檀風土記云、不入道村は、昔脊振山盛なりし時は、守護不入の地にありしといふ。此所より上總へて守護不入なりし故名付けしならむ。或は其しるしに堂を立置けるにや、然らば道の字は堂となすべしと。

フナガハナヤマ(船鼻山) 岩代國南會津。大沼二郡の界に在る山。海拔三三〇〇尺。南會津郡高野より登ること約一里。形狀覆舟の如し。山北に船鼻峠とて大沼郡大蘆に至る山路あり。

フネシマ(舟島) 【茨城】常陸國稻敷郡の村。合三三三。

フネノウエセン 【船上山を見よ】。

フネノオ(船之尾) 【宮崎】日向國西臼杵郡七折村の字。延岡三田井間の街道に當たり。郵便局あり。一に新町と呼ぶ。

フネノカワ(舟川) 大和國吉野郡に在る小原川の一名。

フネノクラ(船峠) 【富山】越前國中野郡の村。山地。平地の別る。所に於て、もと船倉郷と呼びし地なり。峠は倉藏に通じ、新川郡所々の地名に使用す。船倉城址は一に月川城址と呼ぶ。三面深懸。天險の地を占む。元龜二年飛騨の白屋秋貞來侵し、此城に據り、福澤今泉の諸城を陥れしが、後、上杉謙信の降す所となる。佐々成政守護となるに及び、之に従ひ、此城及岩

本城を守りしが、後、村田健助助の爲に飛騨に逐はる。合三三三。

フノ(布野) 【廣島】備後國雙三郡の村。三次町の北に在りて、雲州街道に當り。二里餘に亘る。山谷を占め、大字上布野及横谷に郵便局あり。是より横谷峠を踰れば出雲の國とす。上布野驛より赤名驛まで四里八町。延喜式知夜夜比賣神社あり。天鈿女命を祭る。此社は舊三次郡の總鎮守にて、もと姫ヶ岳に在りしといふ。合三三三。

フナサミ(交換) 【栃木】下野國上都賀郡落合村の大字。日光舊幣幣使街道の一宿なりしが、今、衰へたり。郵便局及日光鐵道の停車場あり。字都宮より一哩六六六。

フナシノツサキ(岬) 【北海】北見國の岬。釧路郡遠音別村より北五里。硫黄山の餘脈海中に突出せる一岬角なり。ホンコワパツといふ川あり。硫黄山より出づ。川口の北なる岩石中より温泉湧出す。

フベ(布部) 【島根】出雲國能登郡の村。飯梨川の上流に沿へる山村にして、郵便局あり。廣瀬町を距る南三里。もと富部又は比部に作る。元龜元年山中幸盛等尼子氏の兵此にて毛利氏の兵と戦ひ、大に破れ、横道兵庫等戦死し、幸盛等僅に身を以て免る。合三三三。

フベ(封戸) 【大分】豊前國宇佐郡の村。合三三三。

フマ(府馬) 【千葉】下總國香取郡の村。大字。府馬は小見川町より九十九里濱に出づる要路に當り、一小站を成す。郵便局あり。

り。城址あり。昔府馬左衛門此に居るといふ。千葉大系圖云、國分朝風の孫時常賦馬ノ越前五郎と稱し、松澤(庄)總領と呼ぶと、合三三三。

フミ(文) 【茨城】下總國北相馬郡の村。合二七七。

フミツキ(文月) 【北海】渡島國龜田郡大野村の大字。大野驛の南の地なり。

フミキカワ(書卷川) 秋枕名寄に在る下總の名所。北相馬郡養蠶川文間村にて利根川に入り、一に文間川と呼ぶ。後世文間の庄名は文卷を訛り傳へしならんといふ。

フモト(富本) 【山形】羽前國北村山郡の村。合三三三。

フモト(肥) 【佐賀】肥前國三養基郡の村。合三三三。

フモト(府本) 【熊本】肥後國玉名郡の村。三池街道に當り、其宿驛を府本と呼ぶ。郵便局あり。高瀬町より二里二町。筑後國界へ三三町。合三三三。

フモトカワ(龍川) 薩摩國川邊郡に在る川。水源、母岳白岳の間。萬瀬川の一流とす。

フユキサワ(冬木澤) 【福島】岩代國河沼郡堂島村の字。此地に八葉寺とて空也上人の遺跡あり。

フユシマ(冬島) 【北海】日高國樺皮郡樺皮村の大字。有名な横似山道の西口とす。アイヌ名フユシマ。石門の義なり。

フヨウユ(芙蓉湖) 信濃國野尻湖の一名。

ブラゴスロートンチエスコエ 【樺太】小原の舊稱。

フラスイカワ(下川) 【北海】石狩國空知川上流の一支流。沿岸は廣くして農牧に適し、今、上富良野下富良野南富良野の三村あり。流程一三一七町。

フラノ(富良野) 【北海】石狩國空知郡富良野を見よ。

フラリモイ(婦羅理) 【北海】根室國花咲郡の村。小舟を擁し、灣口にフラリモイ崎出づ。崎より一里にイツモシリ島あり。合三三三。

フリ(布里) 【愛知】三河國南設楽郡に在りし村。明治三十九年風來寺村に合す。

フリクサ(振草) 【愛知】三河國北設楽郡の村。合三三三。

ブリジニエイ 【樺太】道分の舊稱。

フリドカワ(振戸川) 【樺太】數香支廳管内に在る川。振戸山の南側に出で、南流してツンドラ(卑濕の地)に出で、多來加湖に注ぐ。舟楫の便なし。

フリドヤマ(振戸山) 【樺太】數香支廳管内に在る山。東北山脈の一高峰にして、岩骨兀たり。其北麓は深谷を成せる。ムイヤ川の上流にして、附近は古生層岩より成り。ムイヤ河床には砂金あり。

フルイチ(古市) 【大阪】河内國南河内郡古市郡の村。此地は南北朝の後高山氏高屋城に在りて號令せるより、河内の首府となりしが、天正年中高山氏滅び、後大に衰微せり。されど今尙人家稠密。市街を

フルイ

成す高屋城址は大字古市の南に在り字を古屋敷といひ土俗八幡山と稱す。國主高山氏二百年間居住せる所なり。應永年間高山義深大和河内の守護となり此に繁く。子基國州中の和田、隅屋、甲斐、莊等を招降し楠氏を破りて此地に治せり。基國の孫持國、其子政長、義就相争ひ、其子孫互に攻略を事とせしが、政長の孫植長終に本州を復せり、再傳して高政に至り、三好長慶と戦ひ城陥り、出亡す。後、織田氏の援を得て此地に歸り、本州の半に封ぜらる。天正元年遊佐信教亂をなす。織田氏の兵入て之を平ぐ、高政出亡す。三年三好康長入道本願寺を授け此に據りしが、後、織田氏に降り、城遂に墟となる。安閑天皇陵は高屋ノ岡に在り。一堆の丘阜にして、小澤其周圍を遮り、丘上樹木茂生す。古市高屋城と稱す。白鳥、陸は輕羅に在り。日本武尊の假葬にして、輕羅の地名は假葬の訛なりといふ。今伊波宮を建つ。四琳寺は始め古市寺と號す。是れ本邦寺院の初にして、蘇我稻目の創立、向原寺是なり。應永癸に福り、今は一小堂を存するのみなれども、多く古文書を藏し、南河内名寺の一なり。合三三三。【大阪】攝津國東成郡の村。合三三三。【兵庫】丹波國多紀郡の村。此村及今田村は藤山町の南西に當り、攝津國有馬郡播磨郡多可郡間に斗入す。もと酒井庄と稱せり。申世土着の郷士を酒井黨と呼び、足利氏の時細川管領に屬し、本州の名族たり。今阪越鐵道の

フルイ

車驛あり。其驛を古市といふ。延寶元年の再興なれども、古米商賣交易の地なれば古市の名あり。波賀野新田と相連りて市街を成す。攝津及播磨に出るの要驛にして、昔時は追入、福住を合せ、郡の三驛と稱せり。郵便局あり。尾上城址は油井に在り。天正の頃酒井重貞の居る所なり。重貞は佐渡守と稱し、波多野氏に仕へ、頗る驍名あり。高仙寺は大字矢代に在り。天台宗にして、大化年中法道仙人の開基に係り、本尊は十一面觀音とす。往時は二十五坊あり、宏大ななりしが、其後兵亂の爲め盡く焼失し、天正十七年豊臣秀吉之を再興す。後に高仙寺山あり、頂上に大磐石あり、高三丈、幅四丈、法道上人修法の蹟と云傳ふ。山中眺望に富み、文保寺龍造寺と合せて丹波の三山といふ。【奈良】大和國添上郡東里村の大字。古の八島郷の首里なり。元和五年藤室氏陣屋を此に築き、領村を管せり。明治四年廢せらる。此地に穴大神社あり。合三三三。【三重】伊勢國宇治田市の町名。内外兩宮の間なる小繁華の地なり。妓樓酒樓最も多し。伊勢音頭とて數十の舞妓を繞りて踊るは此地の奇觀なり。昔此地の醫師孫福齋なるもの、妓阿細の事より數人を刃傷せしを伊勢音頭懸懸疑及題し、院本に作意せり。【大分】豐後國東國東郡武藏町の舊稱。

フルイ

フルイチケン(古市郡) 【大阪】河内國に在り。郡東は大和國南は舊石川郡、西は舊丹南郡北は舊志紀安宿郡の二郡に接し、丘陵多く、石川其中央を北流し、東西一里一五町、南北一里一四町、面積一方里四二にして、古市、駒ヶ谷、西浦の三村ありしが、明治二十九年豊後南河内郡の一部となる。

フルエ

フルエダ(古市郡) 【千葉】上總國市原郡菊間村の大字。僅に國境を隔て、下總國千葉郡に古市場あり。蓋しも一村なり。因て之を區別し、上總の分を俗に高島と呼ぶ。往古千葉氏の臣高島恒重陣屋を構へ之に居りし所なり。【島根】石見國那賀郡の村。合三三三。

フルカ

フルカ(古市郡) 【大阪】河内國に在り。郡東は大和國南は舊石川郡、西は舊丹南郡北は舊志紀安宿郡の二郡に接し、丘陵多く、石川其中央を北流し、東西一里一五町、南北一里一四町、面積一方里四二にして、古市、駒ヶ谷、西浦の三村ありしが、明治二十九年豊後南河内郡の一部となる。

フルカ

フルカワ(古市郡) 【大阪】河内國に在り。郡東は大和國南は舊石川郡、西は舊丹南郡北は舊志紀安宿郡の二郡に接し、丘陵多く、石川其中央を北流し、東西一里一五町、南北一里一四町、面積一方里四二にして、古市、駒ヶ谷、西浦の三村ありしが、明治二十九年豊後南河内郡の一部となる。

フルコ

フルコウ(古市郡) 【大阪】河内國に在り。郡東は大和國南は舊石川郡、西は舊丹南郡北は舊志紀安宿郡の二郡に接し、丘陵多く、石川其中央を北流し、東西一里一五町、南北一里一四町、面積一方里四二にして、古市、駒ヶ谷、西浦の三村ありしが、明治二十九年豊後南河内郡の一部となる。

フルタ

フルタカ(古市郡) 【大阪】河内國に在り。郡東は大和國南は舊石川郡、西は舊丹南郡北は舊志紀安宿郡の二郡に接し、丘陵多く、石川其中央を北流し、東西一里一五町、南北一里一四町、面積一方里四二にして、古市、駒ヶ谷、西浦の三村ありしが、明治二十九年豊後南河内郡の一部となる。

ヘビタ

【宮城】陸前國牡鹿郡の村。石巻町の西北なる街道に當る。...

【秋田】羽後國南秋田郡旭川村の字。秋田市の東郊とす。...

【兵庫】播磨國加古郡の村。尾上の東に隣る海村なり。...

【高知】土佐國高岡郡の村。仁淀川の南岸にして、...

【北海】後志國函館郡の西端。岬端に大黒島あり。...

【神奈川】相模國横須賀市の地名。市の西偏、今、停車場のある所とす。...

【廣島】安藝國佐伯郡の村。廿日市町の西に接す。...

【青森】陸奥國三戸郡の村。上北郡に接せる小村にして、...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

ヘフレ

【北海】石狩國上川郡に在る。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

ヘライ

【青森】陸奥國三戸郡の村。上北郡に接せる小村にして、...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

ヘルリ

【高知】土佐國高岡郡の村。高岡町須崎町間の一村にして、...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

【山梨】甲斐國北巨摩郡の地名。郡の北偏八ヶ岳の南麓一帯の稱なり。...

ヘンケ

ヘン

ホアカ

ホイタ

一四〇一

ペンケリヤウシ 【神太】西里郡の舊稱。...

ペンテンサキ 【北海】渡島國函館半島の北端。...

ペンテンシマ 【北海】渡島國松前郡松前港の西端に在る島。...

ペンケカツヤマ 【山】 【北海】天鹽國天鹽郡の南部に在る山。...

ホイロ

原村の大字、中山七里の中央なる一小驛にして、郵便局あり。此地峻坂の下に在り、坂上は暗壁時立し、其間一小徑を通じ、下呂驛に至る。

ホイロヤマ(保色山) 紀伊國南牟婁郡の中央に在る山。

ホウオウサン(鳳凰山) 【臺灣】斗六街の東約一〇里に在る山。新高山脈の一派なり。濁水溪の南に至りて盡きんとする所に峙つ。海拔五四六二尺。

ホウオウサン(法皇山) 伊豫國に在る山。宇摩郡の西隅にして、別子銅山の北に連る。高六二七〇尺。

ホウオウサン(鳳凰山) 甲斐國北巨摩中巨摩二郡の界に跨る山。駒ヶ嶽の東南に連り、海拔八八七尺。其東面を御座石山といひ、西は能呂川を隔て、白根山と相對す。東南に地蔵岳、觀音岳、藥師岳等あり、皆一脈の連山なり。各其名の小石佛を置く。鳳凰山頂に高さ數丈の岩あり、遠く望めば人形に似たり。頂邊は砂白く、奇石多し。山の表面に暮春の頃より雪の消殘りたる跡の形をなす所あり、之を農牛と呼ぶ。駒城村柳澤より登路約五里。

ホウオウジ(鳳凰寺) 【三重】伊賀國阿山郡山田村の大字。も同名の大刹ありしかど、今は唯斷礎の散在するのみ。寺邊に城内権現あり、弘文天皇を祀るといふ。

ホウオウサワ(法皇澤) 【青森】陸奥國上北郡の村。面積六

ホウオ

ボウオロトヌイサキ(一岬) 【樺太】東海岸北知床半島の東側に斗出せる岬。北知床岬より北方六里。此邊の岩石は砂石と頁岩とにして、第三紀層なり。

ボウオンジ(報恩寺) 【宮城】陸前國黒川郡落合村の大字。唐僧智覺開創の報恩寺。あるより地名となる。此寺黒川氏の香華院なり。

ボウオンジヤマ(法皇山) 越前國大野郡の北に峙つ山。經ヶ岳と相連ぶ。白山ヶ嶽の一峯にして、高四〇一三尺の消火山なり。其麓を平泉寺村といふ。有名な平泉寺の址あり。

ボウカイイン(法界院) 【岡山】備前國御津郡御野村に屬する中國鐵道の一車驛。岡山驛より二哩。

ボウカカツコウサン(寶加勝礦山) 土佐國安藝郡畑山に在る銅山。安藝町を距る北六里餘。伊尾木川と安藝川との間に蟠まる分水嶺を降る事八町。直下六百五十尺に及ぶ噴崖の底に在り。明治十八年舊坑を再興す。其製鍊所は伊尾木川の支流、仙谷の溪側に在り。坑外に露出せる岩盤は秩父系の輝綠凝灰岩ラヤオラヤ板岩等と交へ、礦床は層向西に連り、主に北面に急斜し、大小不定の礦塊に配列す。礦塊は多少球狀を成し、母岩には油石と稱して暗綠色の蛇紋岩及之に類せるものと、其粘土質に變體したるものとを産し、地層の激烈なる變動を蒙りたる事を謂ふ。礦石は緻密にして、濃黄色を帯び

ホウカ

外觀にも含銅分の多きを表す。製銅の歩留りは平均生礦の六、七乃至七歩とす。明治四十一年、鑛區二〇萬坪なれども製出額は千圓内外に過ぎず。

ボウカサワ(坊澤) 【秋田】羽後國北秋田郡の村。鷹ノ巣町の西に接し、米代川に臨む。要害の地なれば、戦國頃は淺利家の臣長崎尾張の居城ありたり。天文十九年秋田氏の爲に陥らる。神明社に應永二十三年の銘ある鑛口を藏す。八三〇。

ボウカシヨ(彭佳嶼) 【臺灣】鼻頭角燈臺より北東約三二哩。北緯二五度三三分。東經一二度五分半に在る圓頂島。西洋人はアナンツール島と呼ぶ(水路誌)。周圍約二里に近く、高五四〇尺。島勢南北に伸び、高峻なる山嘴を成す。其南嘴に空洞あり、洞底究むべからず。島の東面は甚だ險く、西面は東面よりも險ならずして高き石瀝なり。瀝上一小村あれども無住なり。島の南西角附近に一礁あり、島の四周一哩以内は水深二〇尋乃至四五尋にして、西側は稍淺し、島質は噴火殘燒の石質の如く、黑色を帯びたる岩石にして、周圍皆陡崖なり。北東壁は絶壁にして、高數十丈。樹木繁茂し、青木桑葦等あり。此島二十年前は住民ありたりといふ(地學雜誌)。

ボウカワ(芳川) 【静岡】遠江國濱名郡の村。八五三。

ボウカワ(芳川) 遠江國濱名郡に在る川。水源、橋田村。馬込川と合して大津に注

ホウキ

外観にも含銅分の多きを表す。製銅の歩留りは平均生礦の六、七乃至七歩とす。明治四十一年、鑛區二〇萬坪なれども製出額は千圓内外に過ぎず。

ボウキ(法吉) 【島根】出雲國八束郡の村。鹿野川の口なる山陰道の驛次にして、山陰鐵道の車驛あり。郵便局あり。加蓋港を距る二里半。吉岡村を距る一里半。又鳥取驛より七哩二四鐘。此地もと母木に作り寶永二年鹿野町の人民を移して驛亭とせり。大崎城址あり。田公高橋此に據り、毛利氏の爲に上方勢を拒み、鳥取藩城の後を去りしが、天正十年毛利氏の先鋒杉原元盛の爲に陥られ、民部等四百六十人戦死す。八二六。

ボウキカワ(帶川) 下野國に在る川。水源、鹽谷郡高原山中。那須野の西偏を流れ、那須郡佐良士に至り、那珂川に合す。流程一四里。鹽泉温泉場は此川の上流谷間に在り。

ボウキダ(方木田) 【福島】岩代國信夫郡吉井田村の大字。

ボウキネ(帯根) 【栃木】下野國鹽谷郡の村。八四三。

ボウキネヤマ(帯根山) 下野國鹽谷郡の東部、那珂川の西岸に在る山。那須曠原の四障を成す。

ボウキノクニ(伯耆國) 【鳥取】山陰道の中部に在る國。四境、東は因幡國、西は出雲國、南は美作、備中、備後、三國に接し、北は日本海に面す。東西二二里二町、

南北二里三町。面積二二、三万六千六百六十六坪。東伯西伯、自野の三郡とす。全國鳥取縣所管とす。戶數一六六五五(三三三三)。

山より東北に派せる一支脈は稍高峻にして、岩倉山、城山等の高峯あり。此中國山系の主脈より分れて、國の西部及東境地方の山地をなすものは高臺狀を成して漸次に低下す。其西部に在るものは伯耆出雲備後の界なる三國山より分れ北走し、出雲の境を成す。其主なる山岳は和田山(三六四三尺)、船通山(四〇〇〇尺)、鎌倉山(二五六一尺)等なり。此山脈より東に出づる支脈は日野川の支流コバラ川、印賀川等の流域に亘り、海拔一六五〇尺内外の高原地を作る。然れども印賀川の北は再び急峻なる三、四の連嶺となり、鎌倉山(二、三〇三尺)、八金山(一、三三三三尺)等を起す。而して日野川上流の左右に互れる山地は主として花崗岩より成り、唯所々に中生層の露出を見る。國の東境なる山嶽は略南北に走り、概ね花崗岩流紋岩及富士岩より成り、美徳山(三八二二尺)、尼子山(三八八七尺)、鉢伏山(一八〇八尺)等あり。滑石峠(二四七二尺)、川上峠(二〇五三尺)の山路此を過ぐ。別子國の中央より少しく北に偏せる地を東北に走れる一帯の火山脈あり。國の西境には新山(九二四尺)、鎌倉山(一一〇二尺)の二小火山を起し、國の中央に至り、大山船上山の二火山及蛭山を隆起し、東境に美徳山(三八二二尺)及鉢伏山を生ぜり。

平野 國内山岳多く、平野は僅に大山火山の西麓、米子附近及東麓地方、吉野附近に在るに過ぎず。而して、米子附近の平野は日野川が作る沖積平野と、火山の裾野及夜見瀆の砂嘴と相合して成り、土地概して肥沃なれども、所々荒野あり。倉吉附近の平野は天神川沿岸、海岸平野及大山火山西麓の相合せるものにて、天神川及由良川の灌溉に係る。概ね肥沃なれども、西部には所々荒野あり。

水系 河流は皆北流して日本海に注ぐ。其大なるもの二あり。一は天神川といひ、東伯郡の幹流なり。流程八里。一は日野川といひ、日野郡の水を集め、西伯郡を貫流して海に入る。流程二〇里。其他種川、加勢川、阿波川、阿波川、佐用川等あれども皆小流なり。瀑布の大なるものを千丈瀧といひ、船上山に在り。其他八人、牧の二瀧あり。湖沼の大なるを東郷池とす。周圍二里餘。

出入極めて少なく、砂濱若くは臺地を以て海に臨む。而して淀江町の西には夜見瀆の砂嘴長く西北に斗出し、島根半島の尖端と共に美保灣を擁す。沿岸中瀨と稱すべきは唯美保灣あるのみ。

温泉 温泉は三朝湯、東伯郡三朝村、山田湯(同郡上郷村)、湯湖湯、同郡矢野村あり。温泉 南に山を貫ひ、北は海に面せるを以て寒暑共に甚だしく、明治四十一年境に於て極寒零下三度五、酷暑三三度四平均氣温二月三度九、八月二五度九、二年平均一三度九なり。又日本海沿岸地方の例として冬季は陰鬱の日多く、十二月より翌年三月までは毎月通例二十日以上は

ホウキ

國の南境には中國山脈連互して東北東に走り、日本海斜面と瀬戸内海斜面との分水嶺を成す。最西端は伯耆出雲備後の界なる三國山にして、東して道後山(四四五五尺)を起し、伯耆備後備中の界なる三國山(四一一五尺)となり、是より次第に東北に赴き、高畑山、谷田峠(二一七尺)、君山等あり。君山以東は伯耆美作の境にして、本吹山(三五七二尺)、岩穴山(四五八一尺)、毛無山(四三四〇尺)、金ヶ谷山、朝鍋山、三平山(三六七〇尺)等の高峯連り、是より東方中國山脈の主軸は暫く美作國に移り、伯耆境には蛭山群山蟠風す。然れども蛭山の東に至り、再び國境に顯はれ、半甲山(二五〇八尺)、津黒山(三九二四尺)、大杉山(三八〇八尺)、入形山(三五〇七尺)を起し、以て伯耆美作因幡の界なる三國ヶ山に至る。而して半甲

ホウキ

山より東北に派せる一支脈は稍高峻にして、岩倉山、城山等の高峯あり。此中國山系の主脈より分れて、國の西部及東境地方の山地をなすものは高臺狀を成して漸次に低下す。其西部に在るものは伯耆出雲備後の界なる三國山より分れ北走し、出雲の境を成す。其主なる山岳は和田山(三六四三尺)、船通山(四〇〇〇尺)、鎌倉山(二五六一尺)等なり。此山脈より東に出づる支脈は日野川の支流コバラ川、印賀川等の流域に亘り、海拔一六五〇尺内外の高原地を作る。然れども印賀川の北は再び急峻なる三、四の連嶺となり、鎌倉山(二、三〇三尺)、八金山(一、三三三三尺)等を起す。而して日野川上流の左右に互れる山地は主として花崗岩より成り、唯所々に中生層の露出を見る。國の東境なる山嶽は略南北に走り、概ね花崗岩流紋岩及富士岩より成り、美徳山(三八二二尺)、尼子山(三八八七尺)、鉢伏山(一八〇八尺)等あり。滑石峠(二四七二尺)、川上峠(二〇五三尺)の山路此を過ぐ。別子國の中央より少しく北に偏せる地を東北に走れる一帯の火山脈あり。國の西境には新山(九二四尺)、鎌倉山(一一〇二尺)の二小火山を起し、國の中央に至り、大山船上山の二火山及蛭山を隆起し、東境に美徳山(三八二二尺)及鉢伏山を生ぜり。

ホウキ

平野 國内山岳多く、平野は僅に大山火山の西麓、米子附近及東麓地方、吉野附近に在るに過ぎず。而して、米子附近の平野は日野川が作る沖積平野と、火山の裾野及夜見瀆の砂嘴と相合して成り、土地概して肥沃なれども、所々荒野あり。倉吉附近の平野は天神川沿岸、海岸平野及大山火山西麓の相合せるものにて、天神川及由良川の灌溉に係る。概ね肥沃なれども、西部には所々荒野あり。

ホウキ

出入極めて少なく、砂濱若くは臺地を以て海に臨む。而して淀江町の西には夜見瀆の砂嘴長く西北に斗出し、島根半島の尖端と共に美保灣を擁す。沿岸中瀨と稱すべきは唯美保灣あるのみ。

温泉 温泉は三朝湯、東伯郡三朝村、山田湯(同郡上郷村)、湯湖湯、同郡矢野村あり。温泉 南に山を貫ひ、北は海に面せるを以て寒暑共に甚だしく、明治四十一年境に於て極寒零下三度五、酷暑三三度四平均氣温二月三度九、八月二五度九、二年平均一三度九なり。又日本海沿岸地方の例として冬季は陰鬱の日多く、十二月より翌年三月までは毎月通例二十日以上は

雨雪なり。霜は十一月初旬より翌年四月下旬、雪は十二月中旬に初まり翌年三月中旬に終る。

農業 農産物は米(三二萬石)、東伯郡約二〇萬石を占む。麥(二萬石)、大豆、甘藷、四七九萬貫、馬鈴薯、芋、蘿蔔、實楠(一〇萬貫)、西伯郡(六萬貫)、葉煙草(六萬五千貫)、日野郡(一〇八萬圓)、林産物(二五萬圓)、礦産物(六萬圓)、日野郡、水産物は鯛、文魚、鱈等の漁獲物一萬九萬圓、水産製造物七萬圓、工産物は織物(蠶絲二、三三萬圓)、金物、農具、漆器、瓦等とし、名物には東伯郡の菅笠、美徳山、東郷、倉吉稻、船、上無名、赤崎焼、鯛、八橋、赤崎下市、木棉、淀江干鰯、御來屋干鰯、境の鱈及赤貝、日野郡の坂亭、紫石英、白石英等。

交通 國中山岳多きを以て、北部海岸の外は交通不便なり。陸路は山陰道、因幡國より來り、泊長瀬、由良、八橋、赤崎下市、御來屋、淀江、米子を経て出雲國に入る。別子津山街道あり、米子より日野川に沿ひ、溝口、江尾、根原、板井原の諸驛を経て美作國に入る。又長瀬驛より國道に分れ、倉吉關金を経て美作に入る。久世街道(美作街道ともいふ)あり。其他廣島街道(淀江驛より溝口二部、黒坂、霞多里を経て備後に入る)、備後街道(米子より法勝寺驛を経て霞驛に連る)、玉島街道(根原驛より黒坂驛を経て備中國に入る)あり。鐵道は山陰西線、西は出雲、東は因幡に通

ホウシ

の祠あり俗に彦山の母神といふ拜殿に寶珠石あり周五圍高四尺許苔蘚深く之を覆ふ境内凡て岩山にて風景奇絶恰も唐畫の山水を見るが如しといふ

ホウシヨバナ(寶珠花) 【埼玉】武蔵國北葛飾(舊下總國)葛飾郡の村江戸川の西岸に縁り結城街道に當り大字寶珠花は其一小站とす水陸の便に富む郵便局あり杉戸町へ一里半附近に桃林あり近年村民其實を砂糖漬とし諸方に販賣す

ホウシユヤマ(寶珠山) 越後國北蒲原郡安田村の東に時つ山又寶珠山に作る菱ヶ岳五ツ森五頭山に連り東蒲原郡界を成す花崗岩より成り胎内港石門等の奇蹟あり

ホウシヨウ(方城) 【福岡】豊前國田川郡の村八幡宮 【滋賀】近江國阪田郡の村八幡宮 【兵庫】但馬國出石郡(銀治屋)を見よ

ホウシヨウシ(法成寺) 【廣島】備後國深安郡の村八幡宮 【豊前國】豊前國田川郡方城外二村に互る炭礦金田停車場一町あり明治四十一年礦區一五三・二二三坪使用礦夫九二九人女工二五九人産出額九八二〇〇佛備價格四六萬六千圓木邦礦業一頁

ホウシ

ホウシヨウツ(放生津) 【富山】越中國射水郡新湊町の舊稱中古八幡宮領となり其放生會を行はれしより其名起るといふ古の所謂奈古浦其條を見よ放生津城址は天文十四年長尾爲景兵を發し先づ高山種長を新川郡松倉城に攻め之を陥れ長尾に此城を攻む會徳大寺大納言實通京師の亂を避けて城中に在りて害に遭ふ永祿六年爲景の子謙信來り攻む神保長職権名泰種江波五郎等迎へ戦ひ大に敗れ謙信五郎等の首を梅檀野に擧し父爲景の讐を報す文祿年間には前田氏其臣山崎長鏡をして之を守らしめたり元弘年間越中の守護名越時有出羽越後の官軍京都へ攻上るを支へんとて越中二塚に陣したるに六波羅已に攻落されしと聞き放生津なる味方の軍兵却て守護の陣に逆襲すと聞えしが婦幼を海中に沈め上下七十九人二塚城中に自殺す事は太平記に詳なり

ホウシヨウツカタ(放生津邊) 越中國射水郡の海邊に在る潟湖東西一里南北一〇町周圍一里二町北は狭少なる沙丘によりて海水と隔たる足洗湖の下流及下條川を容れ其水は西に決し新湊町に至り内川となり海に通ず湖中鰻鱺黒鯛鮎等を生ず一名海龍湖と呼ぶ古の奈吳江なりといふみなと風寒く吹くらし奈吳の江に妻よびかはし田嶋さばになく(萬葉集)湖中に鰻魚あり

ホウシヨウツ(放生津) 越中國射水郡の海邊に在る潟湖東西一里南北一〇町周圍一里二町北は狭少なる沙丘によりて海水と隔たる足洗湖の下流及下條川を容れ其水は西に決し新湊町に至り内川となり海に通ず湖中鰻鱺黒鯛鮎等を生ず一名海龍湖と呼ぶ古の奈吳江なりといふみなと風寒く吹くらし奈吳の江に妻よびかはし田嶋さばになく(萬葉集)湖中に鰻魚あり

ホウシヨウツカタ(放生津邊) 越中國射水郡の海邊に在る潟湖東西一里南北一〇町周圍一里二町北は狭少なる沙丘によりて海水と隔たる足洗湖の下流及下條川を容れ其水は西に決し新湊町に至り内川となり海に通ず湖中鰻鱺黒鯛鮎等を生ず一名海龍湖と呼ぶ古の奈吳江なりといふみなと風寒く吹くらし奈吳の江に妻よびかはし田嶋さばになく(萬葉集)湖中に鰻魚あり

ホウシ

關懸管下の一區東港の南に於ける海村なり今の茅苧葉庄の成れる時茅草を以て屋を構へしより出でし名といふ

ホウシロ(保城) 【兵庫】播磨國飾磨郡水上村の大字伊賀國の噺代に作るものと同名なり

ホウセシマ(坊勢島) 家島群島を見よ

ホウセン(寶泉) 【群馬】上野國新田郡の村岩松直國の子左馬助滿國此に隱居す其法名を寶泉といふより後人寶泉野と呼び城塞ありて永祿の頃由良ノ出城といへり近年立てて村名とす

ホウセンノワタシ(房川渡) 奥州街道利根川の渡津武蔵國栗橋驛下總國中田驛間とす栗橋の常葉寺は俗に法華坊といふ其前に在れば坊前ノ渡といひしを何時の頃よりか今の字に改むといふ

ホウソウタキ(彭祖瀧) 備後國御調郡八幡村大字本庄に在る瀧落石川の源にして高六丈五尺幅四間

ホウソノ(祝園) 【京都】山城國相樂郡の村古の祝園郷の一部なり梓森に祝園神社あり延喜式内の古社にして木津川畔に在り武藏安彦を祀れるならんといふ

ホウソノモリ(梓森) 山城國相樂郡祝園村の名所祝園神社あり泉河行き米の舟は漕過て梓森に秋ややすらふ(定家)船とめぬ人はあらしな泉川梓森にもみらしぬれば(家宗)等古歌に詠みて名高し或は祝園村大字西村の山下の森なり

ホウヂヨウ(北條) 【兵庫】播磨國加西郡の町郡の中央少しく西に偏し姫路市より丹波に至る街道の一驛にして山間の一部會なり市街は東一〇町南北四町郡役所警察署郵便局等あり姫路市を距る約五里神戸市を距る約一六里三木町(美藪郡)より五里三〇町住吉神社は神社にして表筒男命・中筒男命・底筒男命・神功皇后を合祀し養老元年の草創といふ即ち酒見大明神にして住吉の別宮なり其供僧坊を酒見寺と稱し近世寺領六十石を有せり

ホウヂヨウ(北條) 【兵庫】播磨國加西郡の町郡の中央少しく西に偏し姫路市より丹波に至る街道の一驛にして山間の一部會なり市街は東一〇町南北四町郡役所警察署郵便局等あり姫路市を距る約五里神戸市を距る約一六里三木町(美藪郡)より五里三〇町住吉神社は神社にして表筒男命・中筒男命・底筒男命・神功皇后を合祀し養老元年の草創といふ即ち酒見大明神にして住吉の別宮なり其供僧坊を酒見寺と稱し近世寺領六十石を有せり

ホウヂヨウ(北條) 【兵庫】播磨國加西郡の町郡の中央少しく西に偏し姫路市より丹波に至る街道の一驛にして山間の一部會なり市街は東一〇町南北四町郡役所警察署郵便局等あり姫路市を距る約五里神戸市を距る約一六里三木町(美藪郡)より五里三〇町住吉神社は神社にして表筒男命・中筒男命・底筒男命・神功皇后を合祀し養老元年の草創といふ即ち酒見大明神にして住吉の別宮なり其供僧坊を酒見寺と稱し近世寺領六十石を有せり

ホウタ

ホウタ(芳田) 【兵庫】播磨國加西郡の村

ホウタ(遺田) 【兵庫】播磨國美藪郡別所村の大字風土記に記せる祝田社のありし地といふ東鑑の東遺田庄は此ならんといふ

ホウタ(方田) 【千葉】下總國香取郡常磐村の大字

ホウタ(祝田) 【静岡】遠江國引佐郡中川村の字往古は方田に作り伊勢神宮御領のありし所なり

ホウタク(龍託郡) 【熊本】肥後國十

遊する者多し八百六六 (英城) 常陸國筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の八子時家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

遊する者多し八百六六 (英城) 常陸國筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

遊する者多し八百六六 (英城) 常陸國筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

遊する者多し八百六六 (英城) 常陸國筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

遊する者多し八百六六 (英城) 常陸國筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

遊する者多し八百六六 (英城) 常陸國筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウチ

ホウチ(常陸國) 筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウチ(常陸國) 筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウチ(常陸國) 筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウチ(常陸國) 筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウチ(常陸國) 筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウチ(常陸國) 筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウチ(常陸國) 筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウチ(常陸國) 筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウチ(常陸國) 筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウチ(常陸國) 筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウチ(常陸國) 筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウタ

り其縣玉名郡に在り熊野岳三ノ岳を起し海岸に聳立す此山阿蘇温泉の中央に當る火山にして明治二十二年熊本地震の原因全く之に在りといふ河川は白川菊池郡より來り郡の中央を貫流して有明海に入る又郡の南界には緑川あり此二川の下流に夾まれたる地は皆此川の沖積せる第四紀新層にして極めて豊饒の田園を作り生産額の多き國內第一とす猶年々海に向て土砂を堆積しつゝあり彼の川尻町の地は其の名の如くもと緑川の日なりしが今は海濱を距る殆ど三里に在り城山八分字力合・藤富中・緑鏡塘内田・白石濱田中島・中原・沖新・島口並立海路・奥古閑川口・走瀧の諸村は全く此沖積地に在りて四五百年來の新墾地なり菊池郡に接せる所は彼の合志原に連れる洪積層の臺地にして土地瘠せ生産額多からず金峯山附近なる芳野白濱船津河内松尾池上島崎は皆火山岩より成り農作に適せず海岸は概ね斥鹵にして唯金峯山麓のみ小岬灣出入の貨物にして水運に依れるものは坪井川なる高橋小島の地に依る其港は川口の百貫なれども遠淺にして大船を泊すべからず道路は熊本より起り四通八達し鐵道は郡を南北に貫き熊本市を経て八代に達す上熊本熊本川尻の三驛を置く農産物は米(一七萬石)麥(二三萬石)大豆(二萬石)小豆(八萬石)蕎麥(一〇萬石)等なり

ホウタ

ホウタツ(寶達山) 能登越中二國に跨る山高二〇八六尺中央の一峯を寶達御前と呼び山頂に手速比咩神社あり四周土垣を繞らせり山の東面に足見瀧あり兩條注下し終に合して子浦川に入る足見瀧は小なれども旱天に潤る事なし俗に蛇池と稱す山中にも金礦ありて天正十二年より凡そ四十年間盛りに採掘し當時年々大判三千五百枚を超えたりといふ後着手するものあれども皆中廢す近年盛に石灰石鑛石を掘り石灰の産額毎年四十萬俵を越ゆと云山中亦葛及藥草を産す

ホウチ

ホウチ(坊中) 【熊本】肥後國阿蘇郡黒川村を見よ

ホウチ

遊する者多し八百六六 (英城) 常陸國筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウチ

遊する者多し八百六六 (英城) 常陸國筑波郡の町筑波山の南一里に在る市街にして警察分署郵便局等あり谷田部町より四里二六町土浦町より四里一〇町北條城址は小田知家の築く所にして子孫世々此に居り北條氏を稱せしか永祿年中小田氏太田三樂の爲に滅ばされし時北條氏亦滅ぶ多氣城址あり平維幹始めて之を築き子孫之に在り五世の孫大儀義幹小田知家の爲に源頼朝に讒せられ終に滅び廢城となる

ホウチ

る船路の難所とす。名所なり。三才園會等に風早鳴門と記す。我故に妹なげくらん風早の浦の沖邊に霧たなびけり(萬葉集)風早の鳴門の浦の船よりとまり定めぬ我身なりけり(後堀川百首)合三三

ホウチヨウイケ(北條池) 讃岐國綾歌郡瀧宮村の東北に在る池。周圍一里三五町。餘水綾歌川に入る。

ホウツ(保津) 【京都】丹波國南桑田郡の村。龜岡町の東一里。愛宕山下に在り。南北桑田船井三郡の水此地に集り。山峽を経て山城國葛野川に入る。保津川といふ。合三三

ホウツカワ(保津川) 山城國に在る大堰川上流の稱。丹波國保津村と山城國嵯峨との間に在り。奇岩怪石流域に起伏して急流激湍をなし。瀨あり。瀨あり。奇景百出。浪花隈。觀瀾時。猿。鹿。鷹。野。鳥。石。門。關。鳥。船。渡。等。の。勝。あり。是。等。の。勝。を。覽。ん。に。は。陸。行。丹。波。國。南。桑。田。郡。篠。村。字。山。本。に。至。り。乘。船。す。る。か。或。は。渡。月。橋。より。舟。に。て。溯。り。落。合。邊。に。て。纜。を。解。き。下。る。時。は。舟。行。く。事。矢。の。如。く。壯。快。を。極。む。舟。夫。は。一。竿。を。携。へ。軸。先。に。立。ち。巧。に。岩。石。を。避。け。て。舟。を。下。す。初。夏。新。緑。の。候。を。最。も。妙。と。す。蓋。し。兩。岸。の。躑。躑。花。咲。き。亂。れ。碧。流。に。映。じ。て。美。觀。を。極。む。れ。ば。な。り。

ホウテン(法典) 【千葉】下總國東葛飾郡の村。合三三

ホウテン(寶殿) 【兵庫】播磨國印南郡阿

ホウト

彌陀村に在る鐵道山陽線の車庫。附近に有名な石寶殿あり。より此名あり。加古川驛より二哩。龍山とも見よ。

ボウトウタキ(方等瀨) 下野國日光山中宮祠登路嶺の西北谷に懸る瀨。高八、九丈。幅二、三間。般若瀨と相並ぶ。

ボウトコヤマ(防床山) 出雲國能義郡の南部に在る山。高二八、一〇尺。

ボウナイ(保内) 【新潟】越後國岩船郡の西南隅。北浦原郡に接せる諸村の舊總名。今保内。金屋の二村に分る。荒川の南。船内川の東とす。●【新潟】越後國南浦原郡に在りし村。明治三十四年大崎村に入る。

ボウソツ(坊津) 【鹿児島】薩摩國川邊郡の西南方村に屬する港。古來有名の港にして。上古は本邦三津(筑前の博多、伊勢の阿波津)の一なり。唐船多く出入せるを以て唐津とも呼べり。慶長年中長崎を以て外人來朝の地と定めしを以て。繁華は彼に移りたれども。良港なるを以て。今に船船の出入多し。港は専ら泊浦と稱す。大隅佐多郡より北四二〇哩。間。唯一の良港にして。船が。大隅海峽の近傍に於て。大風の微候を認めたる時の避泊地とす。港口には北角より南東に横延せる巖あり。りて能く各方より激浪を障る。枕崎を距る二里五町。近海。鯨の。漁。獲。多し。坊津浦は坊岬の一小灣にして。安全なる錨地にあらす。又近傍の海岸には。双銀石。鶴。龜。洞。鐘。乳。石。等。の。奇。石。怪。岩。列。り。風。景。の。美。なる。事。繪。の。如。し。

ホウノ

ホウノミサキ(坊岬) 薩摩國の西南角。險崖を成し。高四〇〇尺乃至五〇〇尺の山峯あり。岬の西方には。屢激瀨あり。

ホウビ(滬尾) 【臺灣】「滬尾街」を見よ。

ホウフ(豊府) 【大分】豊後國大分郡に在りし村。明治四十年大分町。今市の一部となる。大分市街の南郊にして。往古國府のありし地なり。今。古國府と稱す。鎌倉幕府の初大友能直を以て。豊後の守護とす。るに及び。居館を此所に置き。府中城と呼び。子孫相承せり。南北朝の時。大友氏時足利氏に屬し。豊肥後の菊池氏と戦ふ。天文末年。大友義興。菊池氏を滅し。肥後を併せ。大内氏の滅亡に乘じ。兵を豊前筑前の間に出し。終に之を略取し。後。筑後を取り。肥前の龍造寺氏を降し。提封六國に跨る。其子義統に至り。封内豪族。復た其命を奉ぜず。天正十四年。島津氏來侵し。府内陥り。義統出奔す。豊臣氏九州を平定するに及び。義統の封を復す。朝鮮の役。明兵に破られ。怯懦の罪を以て。除封せられ。大友氏。建久七年。入部以來。二十一世。三百九十八年にして。滅ぶ。慶長五年。關ヶ原役。義統放國に歸り。兵を擧げ。西軍に應ぜしが。黒田氏の來攻に會ひ。復た敗績す。今此地に縣立中學校あり。眞言宗の名刹寶戒寺あり。神龜四年。聖武天皇の建立といふ。徳治二年。國主大友真宗之を再興し。四方に大門を開き。境内に入坊を置き。南部四大寺の。幸。尊。律師。を。迎。へ。中。興。の。祖。と。す。今。の。堂。宇。は。寛。永。十。八。年。日。根。野。吉。明。の。重。修。と。い。ふ。

ホウフ

ホウフ(防府) 周防國佐波郡の町。明治三十五年。三田尻村と佐波村と合併の新稱。三田尻港の北に接す。往古國府のありし地にして。國衛の名。今。大字。東。佐。波。令。に。存す。市街の地を宮市といふ。松崎天神あるを以てなり。社に菅原道真を祭る。社頭の繁盛。太宰府神社に亞ぎ。境内眺望絶佳。今公園地となる。宮市は大内氏繁昌して。山口在城の頃は。城下の市場と定められし所なり。今。郵便局あり。眞言宗國分寺は。東。佐。波。令。に。在。り。毛。利。氏。の。時。重。修。し。今。に。堂。宇。簡。然。たり。大内氏以下の文書を多く藏す。八三、元二、三、田尻とも見よ。

【文籍】防府案内(矢部忠直撰)。

ホウフクジトウケ(保福寺) 信濃國東筑摩小縣二郡の界に在る山路。松本。上田間の通路なり。天文二十二年。武田勢此より進軍して。深志(今の松本)の小笠原氏を攻めたり。往時は。此邊より。鎧を多く出だせりといふ。

ホウベンサン(鳳凰山) 周防國吉敷郡と長門國阿武郡との界に在る山。一方便山に作る。山口町の西北に時つ。東西二峰あり。高各二四四二尺。西風關の南の低地を横斷する山路を大坪といふ。

ホウマンカワ(寶滿川) 筑前國に在る川。荻城川。得川ともいふ。水源。寶滿岳。南流して。筑後國三井郡に入り。筑後川に注ぐ。流程。七里。瀧。灘。水。運。の。利。大。なり。

ホウマンサン(寶滿山) 瀧。灘。山。を見よ。

ホウマンサン(寶滿山) 瀧。灘。山。を見よ。

雲國八東郡。出雲郡。村に屬する瀧山。出雲郡。より。二十餘町を隔つ。慶應元年の發見にして。松江藩主松平氏。移住し。明治六年。鎮山寮の所轄に歸し。今は民業となる。明治四十一年。鎮區四〇、六七九四坪。使用。夫。三。九。五。人。女。工。九。一。人。採。鑛。高。三。二。八。六。〇。九。九。貫。製。品。銅。四。五。八。六。八。六。斤。價。格。一。四。萬。五。千。圓。本。邦。鐵。業。一。斑。

ホウミ(法美) 【鳥取】因幡國岩美郡に在りし村。明治四十年。字。傍。野。村。に入る。

ホウミ(法美) 【鳥取】因幡國に在りし郡。東は。但。馬。國。舊。二。方。郡。西。は。鳥。取。市。及。舊。邑。美。郡。南。は。舊。八。東。郡。北。は。舊。岩。井。郡。に。接。し。面積。五。方。里。三。を。有。し。稻。粟。國。府。御。陵。法。美。登。儀。上。船。大。茅。面。影。津。ノ。井。の。九。村。あり。が。明。治。二。十。九。年。廢。郡。岩。井。邑。美。二。郡。と。合。して。岩。美。郡。と。なる。法。美。一。に。法。味。に。作。り。古。國。府。の。所。在。地。なり。本。郡。と。巨。瀨。郡。近。世。岩。井。郡。と。境。界。の。移。動。和。名。抄。郷。名。錯。亂。の。事。國。郡。考。に。詳。なり。和。名。抄。波。不。美。と。註。し。大。茅。津。井。船。羽。服。部。の。四。郷。に。分。て。り。

ホウミヨウ(保明) 【新潟】越後國南浦原郡に在りし村。明治廿四年。田。上。村。に入る。

ホウメ(法目) 【千葉】上總國長生(舊長柄郡)帆丘町の大字。

ホウメ(奉免) 【千葉】上總國市原郡明治村の大字。成務天皇の時。國造大鹿の男小鹿。開墾して。芳芽といひしが。治承四年。源賴朝。此。を。過。ぎ。奉。免。郷。と。名。く。とい。ふ。

ホウライ(寶來) 【奈良】大和國生駒郡伏

見。村。の。大字。垂。仁。天皇。の。御。陵。蓬。萊。山。と。呼。ぶ。云。安。康。天皇。御。陵。西。蓬。萊。山。と。呼。ぶ。あり。ホウライ(風來) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の村。合三三

ホウライシ(風來寺) 【愛知】三河國南樂郡の村。合三三

ホウライシ(風來寺) 【愛知】三河國南樂郡の村。合三三

ホウライシ(風來寺) 【愛知】三河國南樂郡の村。合三三

ホウライシ(風來寺) 【愛知】三河國南樂郡の村。合三三

ホウライシ(風來寺) 【愛知】三河國南樂郡の村。合三三

ホウライシ(風來寺) 【愛知】三河國南樂郡の村。合三三

ホウライシ(風來寺) 【愛知】三河國南樂郡の村。合三三

ホウライシ(風來寺) 【愛知】三河國南樂郡の村。合三三

ホウライシ(風來寺) 【愛知】三河國南樂郡の村。合三三

ホウミ

ホウラ

ホウリ

ホウリ

ホウリ

物を蔵む。稀世の珍品あり。法隆寺東院は別に一區域を成す。聖德太子の斑鳩宮址なり。夢殿は一に上宮玉院といふ。八角形にして、高三丈九尺、方九間二尺、創立のまゝといふ。聖德太子在世の日常に入定ありし淨殿なり。中院の金堂、大塔中門と同じく特別保護を加へらる。殿前に禮堂、舍利殿、繪殿あり。本尊は正觀音立像、俗に夢違佛といふ。繪殿内に五間の障子に太子繪傳を描く。佛堂は夢殿の背後に在り、古佛像多し。就中木造四天王最も著る。中宮寺は斑鳩御所と稱し、尼宮門跡の一にして、皇族女僧入寺あるを例とせり。寺藏天壽國曼陀羅圖は今國寶に列せらる。

ホウリケイ(房裡溪) 【臺灣】臺灣本島西部の北に在る川。水源、シルヴィア山の西溪西流して鯉魚潭を過ぎ、數多の細流に分れて海に入る。其北西して房裏庄より海に入るものを房裡溪と稱し、南西して大安港に注ぐものは大安溪と稱す。其河礫は主に白色の硬き砂岩或は礫岩、帶黄色の緻密なる珪岩、黒き粘板岩等にして、砂岩最も多し。又砂礫にして含鐵水に浸されたと覺しく、一種黄色の外皮を有するものあり。蓋し上流に温泉又は含鐵泉の湧出するものあるべし。

ホウレ

一里二〇町。地生蕃界に近く、此より中央山脈を横ぎり、東海岸なる巴望衛に通ずる道路あり。其間一〇里餘。往時は卑南地方の蕃人來りて、交易をなせりといふ。明治二十八年臺灣攻撃の時、我第二師團司令部及第三旅團の上陸せし所なり。清政府の時此所に巡檢所あり。今、阿緬廳支廳稅關管視察署、警察署、郵便局等あり。台三六號。

ホウロクヤマ(炮烙山) 三河國東加茂郡の南部に在る山。六所山の北に時つ。海拔二二五四尺。花崗岩より成る。
ホエレンカン 【臺灣】花蓮港を見よ。
ボカガタケ(母岳) 薩摩國川邊郡知覽村の東北に在る山。
ホカナイ(保加内) 【樺太】數香支廳管内多來加灣沿岸の村落舊名ホカナイ。
ホカハナレシマ(外離島) 琉球國八重山郡舟浮港の口に在る島。周圍約一里。西表島より石垣島に通ずる海底電線を通ず。
ボカリタケ(母狩岳) 羽前國東田川西田川の郡界に時つ山。所謂西部山脈の一峯なり。

ホクカ

ホクカイシヨ(北海道) 【臺灣】白砂嶼の一名。
ホクカイドウ(北海道) 日本帝國の東北に在る島地。本島及四十餘の島嶼より成り、東は太平洋、西は日本海、南は津輕海峡を隔て、陸奥國に對し、北はオホツク海に面し、一水を含みて樺太を望み、其極北千島國占守島はクリル海峡を隔て、露領カムサツカ半島に對す。全道東經一三九度一三度一五六度三四分、北緯四一度二一分一五〇度五六分。但し本島は東經一三九度三五分一四五度四九分、北緯四一度三三分一四五度三一分。全道面積六一三五方里。四、渡島、後志、石狩、天鹽、北見、釧路、日高、十勝、釧路、根室千島の一國に分ち、更に之を三區八八郡とし、北海道廳を置きて之を統ぶ。縣七、支庁四、市四、町三三、村四一。明治四十一年中來住者八〇五七八人。富山宮城青森新潟秋田石川諸縣人最も多し。又アイヌは戸數四三三二人。人口一、八〇一七にして、近年少しく繁殖の傾ありといふ。其最も多く住居する地は日高廳振興路十勝とす。

地勢 北海道本島は地形並に地質上之を東西二部に分つを得べし。即ち石狩驛より苫小牧驛に至る原野を分界とし、其東部は面積遙に西部に數倍し、日高千島東北帯の三山脈横はりて、其間に廣大なる原野を作り、石狩、天鹽、十勝、釧路の四大川之を灌漑す。西部は山地狭小山地多

ホクカ

く、後志山塊、渡島山脈、千軒山脈等あれども、概して高峻ならず。但し火山及温泉多し。後志、利別の二川あり。又噴火灣と呼ぶ一大灣あり。
山系 日高山脈は日高國樺皮驛より十勝岳に向ひ、哈ど南北に走り、其最も高き所六五〇〇尺あり。日高國其西側を成し、山背は急に十勝の平原に向つて傾斜す。其構造は兩側相等しく、中軸は古生層にして、花崗岩中央の山背に沿ふて噴出し、最外側は第三紀層より成り、中に白堊系中生層の露出を見る。此山脈に屬する地を日高山地と稱す。千島山脈は知床岬より夕張岳に向つて東西に走り、オプタテシケ諸山、石狩岳、雄阿寒、阿寒、トサノボリ、羅牛等の噴火山あり、其最高所はオプタテシケのメダブカサシベ岳(七五〇〇尺)とす。主として火山岩より成り、所々に蒸氣及瓦斯を噴出し、時々噴灰するものあり。又山上硫黄を堆積するもの(アトサノボリ)あり。其間湖水多し、温泉所々に湧出す。即ち千島諸島と連絡せる一大火山溝とす。東北山脈は石狩岳より西北に走りて、宗谷岬に達し、天鹽北見を界し、高き約二千尺。此山脈は構造頗る複雑にして、其方向地層の走向に従はず。蓋し陥没に因て天鹽川を生じたるに因り、出來せるものならんといふ。西部は火山岩多し、殊に札幌長萬部間に火山岩の大塊あり。之を後志山塊と呼ぶ。岩雄登、有珠、樽前、惠庭の火山皆之に屬す。

湖沼 本道に近く暖寒二流あり。暖流は本州の西岸に沿ひて來り、一部は津輕海峡を東に流れ、一部は西及北海岸に沿ふて東に向ひ、知床岬に至りて消ゆ之を對島海流といふ。寒流は千島海流にして、一に親潮といひ、本島の東海岸を洗ひ、本州の犬吠岬に達し、一部は西に向ひて南海岸に流る。此千島海流は早春夥しき流水を送り、樺皮驛以北の航行を危險ならしむ。別にオホツク海より宗谷海峽に入るリマン潮流あり、黒龍江の寒流に合し、日本海の西北岸に沿ひ、朝鮮海峽に向て南走す。是れ亦流水を送りて、宗谷近海の航路を閉づることあり。千島列島本島の東海岸に夏季海霧頻りに發生す。是れ沿岸に千島寒流あり、沖合に溫暖なる黒潮あり、暖流に生ぜる水蒸氣の寒潮に接し、收縮せるものに外ならず。

ホクカ

生最高所は後志山塊、千軒山脈に於て、六四〇〇尺に達し、山塊の一部は西北に延びて、積丹半島を成す。渡島山脈は惠山岬より後志國水重岬に至る。概ね火山岩より成り、惠山、駒ヶ嶽の火山此中に在り。其最高點道樂部岳は高約四千尺あり。千軒山脈は白神岬に起り、東北に走りて、略直角を成して渡島山脈に會し、其間に彎形を作り、此所に函館の良港あり。千島列島は皆火山島にして、五十以上の火山ありといへど、樺提、國後、色丹、三島の他は詳ならず。

ホクカ

流約五里間小汽船を通ず。西部は地勢狹窄なれども、後志川(三六里一八町)利別川(二六里二〇町)あり。其他十五里以上のものは後志の余市川、天鹽の留萌川、小平葉川、遠別川、北見の湧別川、頓別川、網走川、猿拂川、斜里川、釧路の鶴川、厚賀川、湧別川、日高の沙流川、遠道川、十勝の歴舟川、釧路のシヨロ川、根室の四別川、風連川、樺津川とす。此内余市川の他は皆東部に在り、是等諸川陽春雪融くる時、屢洪水を起し、河流の位置も變ずる事あり。蓋し流下せる大木河中に横はり、流水を遮り、風曲を起し、爲に流を緩ならしめ、沿岸に大なる沼澤を作るに因る。

ホクカ

湖沼 周圍一里以上のもの六十に及ぶ。其最大なるは北見の猿瀧湖周圍二〇里にして、釧路の釧路湖(二里)、根室の風連湖十餘里、北見の網走湖(二里)、釧路の洞爺湖九里六町、支笏湖(九里三二町)之に次ぐ。其他三里以上のもの二十餘あり。此内猿瀧湖能取、風連、湧洞等は海岸湖(海岸の沙丘に支へられて生じたる湖水)にして、支笏湖、洞爺湖、阿寒、摩周の諸湖は火山湖なり。駒ヶ嶽に傍へる大沼、草菜沼は火山破裂の時噴出物の河道を遮りて生ぜるなり。

ホクカ

地質 本道の地質を構成する岩石は八種にして、最も廣大の面積を占むるものを第三紀層とし、東部、東北方の東半、東部、西北方の沿岸大部、南方に於ては日高山脈及千島山脈の一部の外全く此層より成るのみならず、日本第一の長流にして、下

山直江津間の連絡路に成らんとす又直江津より新潟に通ずる北越線越中の伏木より起りて越中西部を縦走する中越線及官設線の津端驛に接して能登の七尾に達する七尾線の三條あり。

北陸道の名は文武天皇七道觀察使を置かれし時起り、其以前は高志道と呼ぶ。單に高志(今の越後)に至るの沿道の謂なり。蓋し高志は我東北蝦夷一部の種名にして、當時北越地方は其占領する所となり、王化未だ及せず。孝徳天皇に至り初めて停足船の二種を置きて夷地との境界を定められたり。初め若狭越前、越中、越後、佐渡の五國あり。但し當時の越後は遠く今の羽前、羽後の地をも籠め、越中は今の越後の西半を包有し、越前は今の加賀、能登をも合せたり。大寶二年越中の四郡を越後に合せ、和銅五年越後の北邊を割きて出羽國を置き、養老二年之を東山道に屬せしめ、又越前より能登を分立せしむ。弘仁十四年越前二郡を割き加賀國を置き、天平十三年之を越中に合せ天平寶字元年復た之を分立し、是に於て初めて七國の境界定まり、爾來沿襲して今日に至る。

ボクウスコエ 【樺太】黒川の字。ボコガタケ(鉾ヶ嶽) 越後國西頸城郡早川谷と能生谷との中間に在る山。形状不規則なる圓錐形の塊状火山にして、二峯より成り、北を鉾ヶ岳、南を権現山といふ。下地に「其」を以て呼ぶ。此山中

腹に至るまで第三紀の累層より成るも之より上は角閃富士岩より成り、山勢甚だ急峻なり。ホコサイノガタケ(鉾尖岳) 紀伊國日高郡と大和國吉野郡とに跨る山。ホコシヤキ(帆越岬) 後志國久遠郡の岬。奥尻島の嶺岬と相對す。其間五里、晴朝の日岬より奥尻の諸山を望むべし。ホコタ(鉾田) 【茨城】常陸國鹿島郡の町。北浦の北涯に在る一市街にして、郡役所、警察署、郵便局等あり。水戸、銚子間の要路に當り、北浦、霞浦航行の汽船の最終着點なるを以て貨物の集散あり。磯濱町より五里六町、玉造町より三里二六町、水戸市より八里一九町。此地は天正年中鹿島治時の旗本下田山正の居りし所と傳へ、其館址あり。白三三三。

ホコタテ(鉾立) 【岡山】備前國兒島郡の村。米崎の南に當る海村にして、山頂に高三丈餘の巨石あり。海上より遠く望見すべし。番田の立石といふ。海岸には鉾島、冠岩、帽子岩等あり。白三三三。ホコタテヤマ(鉾立山) 筑前國糟屋郡篠栗村に屬する山。ホコツキ(鉾衝) 【福島】岩代國岩瀬郡の村。縣社神宮社あり。古來郡の惣社にして、日本武尊が東征の時エビラの杵を建てし古蹟と傳ふ。近年は専ら鹿島神社と呼び藤原鎌足をも祀る。須賀川町より三里一〇町。白三三三。

ホコノトウヤマ(鉾塔山) 豐後國大分連見二郡に跨る山高二八八〇尺。山麓は大曠野を成し、面積一六二〇町あり。鉾塔野と呼ぶ。ホコモチサントウ(鉾持邊) 信濃國上伊那郡三峯川の北岸に添へる危道。高遠より坂ノ下(伊那町)に出づる道路に當る。長四十三間幅二間。ホサカ(樺坂) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の村。茅ヶ嶽の裾野の南端にして、古の樺坂の御牧の一部なり。土地高く、水利悪しきを以て、享保三年代官山口政後山を穿つ事七百間、淺尾堰の水を引きて灌漑に便にす。後碑を建て、其功を勅す。白三三三。ホサカ(保坂) 【滋賀】近江國高島郡三谷村の大字。西近江より若狭に出づる山徑に當り、其四嶺を三坂嶺といふ。今津驛より二里。是より若州小濱まで七里。郵便局あり。

ホサカトウゲ(帆坂峠) 播磨國赤穂郡赤穂町より備前國和氣郡三石に通ふ山路。ホシアイ(星合) 【三重】伊勢國一志郡鶴村の大字。星合社とて、機織姫を祀れる社あり。歌枕寄詞にも、伊勢の海名にあらはれて波枕かはしやすらん星合の濱。ホシイ(星) 【福岡】筑前國田川郡金川村に在る鐵道九州線の一驛。ホシカ(星鹿) 【長崎】肥前國北松浦郡の村。白三三三。

ホシガイケ(星ヶ池) 攝津國大阪市南區今宮神社裏門の北に在り。池今田といふ。ホシミヤ(星宮) 【埼玉】武藏國北埼玉郡の村。白三三三。ホシモリノイヅミ(星森泉) 【奈良】大和國生駒郡北條村大字。南田原を見よ。ホシヤ(星谷) 【茨城】常陸國眞壁郡古里村の地。今上下二大字に分る。ホセイリ(保西里) 【臺灣】臺南廳管下の西里と稱し、更に大字を省きて保西里といふ。ホソイリ(細入) 【富山】越中國婦負郡の村。白三三三。

ホソエ(細江) 【岐阜】飛騨國吉城郡の村。萬葉集に詠める大和國の飛騨ノ細江と同名の因みにて、此にも設け、今之を村名とす。姉小路家累代此に居り、應永十八年足利氏の將新波高員等の爲に滅ぼさる。といふ。歌塚といふものあり。姉小路基綱同濟瀧の歌を刻み、墓碑に代へたるものといふ。白三三三。

ホシカ(星神山) 備前國御津吉備郡の境に在る山。ホシカミヤマ(星神山) 備前國御津吉備郡の境に在る山。ホシカミヤマ(星神山) 備前國御津吉備郡の境に在る山。

ホシカ(星神山) 備前國御津吉備郡の境に在る山。ホシカミヤマ(星神山) 備前國御津吉備郡の境に在る山。ホシカミヤマ(星神山) 備前國御津吉備郡の境に在る山。

ホシカ(星神山) 備前國御津吉備郡の境に在る山。ホシカミヤマ(星神山) 備前國御津吉備郡の境に在る山。ホシカミヤマ(星神山) 備前國御津吉備郡の境に在る山。

ホシカワ(星河) 【埼玉】武藏國北埼玉郡の村。白三三三。

ホシカワ(星河) 【埼玉】武藏國北埼玉郡の村。白三三三。

ホシカワ(星河) 【埼玉】武藏國北埼玉郡の村。白三三三。

ホシカワ(星河) 【埼玉】武藏國北埼玉郡の村。白三三三。

ホシカワ(星河) 【埼玉】武藏國北埼玉郡の村。白三三三。

ホシカワ(星河) 【埼玉】武藏國北埼玉郡の村。白三三三。

ホシカワ(星河) 【埼玉】武藏國北埼玉郡の村。白三三三。

ホソカ

ノ橋観音石車瀧支武岳連理滝安谷水
槽清水等あり、四時風光に富み、景勝の地
なり。細川神社は大字吉田の慈園寺山に
在り。今、毘沙門天と稱し、久安寺の奥院
とす。延喜式内の古社にして、村の鎮守た
り。木部は古來植木を以て名あり、其業
天文の頃より起り、大坂の盛なるに従ひ、
其需要漸く多く、其術愈進む。蓋し久安寺
川邊一種の細砂あり、極めて園藝に適し、
挿條、挿種、接木、盆栽等皆不可なるなし。
承應二年大内裏炎上、左右の櫻、櫻桃、櫻
しが、明暦元年此地の者を召され、其橋に
接木あり、延寶天和の頃は益園樹の盆栽
を愛玩する者多きを以て、輸出益多く、一
年大約五、六萬荷、郷中の營業者三百戸に
及べり。維新後一時衰へしと雖も、近年復
た漸く盛にして、海外に輸出するに至る。
合三〇「遠望別村藤屋、千金誰解買名
花、私田盡把牡丹種、不是尋常百姓家」(藤
井竹外)

ホソカワ(細川) 【兵庫】播磨國美祿郡の
村。藤原愷高の生地なり。主色を豊地と
す。郵便局あり。是より西北は草野野と稱
する荒野なり。合三三〇。【奈良】大和國
高市郡高市村の大字。上居の上方にして、
多武峯に接す。天武紀の白鳳五年南淵山
及細川山に勸新を採る事を禁すとある
ものはなり。【愛知】三河國八名郡に
在りし村。明治三十九年七郷村に入る。
【愛知】三河國額田郡に在りし村。明治
三十九年岩津村に入る。岡崎市街の北、

ホソク

里なり。足利氏の支流細川氏の居りし所
にして、其古城あり。戦國頃は松平乗元
居る。乗元は泰親の次男にして、大給家の
祖とす。【鳥取】因幡國岩美郡服部村
の大字。駒鹿山下に在り。此地にもと細川
梅と稱する名木あり。大和木草附録日本
名物記等に載せ、其名海内に知られたり。
今は枯れて、周圍五尺許の切株のみ残る。
其花は八重にして白く、五色の飛人あり
て、慶長の頃までは花の大き一寸五分あ
りしと言傳ふ。
ホソクテ(細久手) 【岐阜】美濃國土岐郡
日吉村の字。慶長年中(寛永年中ともい
ふ)設けられたる中山道の新驛にして、御
嵩驛より三里大湫驛より一里半とす。今
は其南に新道を通じ、此邊は廢道となれ
り。郵便局あり。
ホソクテ(細倉山) 【陸前國栗
原郡栗澤村に屬する嶺山。もと仙臺藩の
頃より盛に鉛を出だし、其名高かりしが、
今は産出甚だ少く、近年採掘を中止せり。
ホソシマ(細島) 【宮崎】日向國東臼杵郡
の町。富高村の東一里なる海村にして、日
向三真港の第一と稱せらる。宮崎町を距
る一七里一九町。警察署郵便局等あり。
港は其口東北に向ひ、東西一七町、南北五
町。水深く波穏にして、神戸・大阪より鹿
兒島沖繩等に往復する汽船毎日出入し、
交通極めて便なり。大阪へ三五五哩、鹿兒
島へ一五四哩。輸出は九〇萬圓、輸入は
五萬圓。輸出の主なるものは椎茸一八萬

ホダイカワ(保田川) 安房國の西北に在る
川。水源、横根峠の南麓。西流して、鋸山の
麓を過ぎ、保田町に至り、東京灣に入る。
ホタタコ(保田窪) 【熊本】肥後國飽託郡
廣畑村の大字。寛永十一年開墾といふ。白
川の南岸に沿ひ、熊本市の東南に當る。明
治十年の役官坂兩軍激戦ありし地なり。
ホタテ(帆立) 【千葉】上總國長生郡本納
町の舊稱。
ホタニカワ(穂谷川) 河内國北河内郡に
在る川。牧野村の細流にして、舟橋川、天
之川の間に在り。水源、水室村大字穂谷。
淀川に入る。流程三里。
ホタル(種足) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の
村。合三三五。
ホタンコウキンザン(牡丹坑金山) 【臺灣】
ホタンシヤ(牡丹社) 【臺灣】南部恒春街
の東北山中に在る部落名。元來蕃族の名
にして、マイワン種に屬し、最も悍勇を以
て知られ、外國難破船の上陸者を誘ひ、之
を慘殺せる事屢なり。清の咸豐十年には
普國船、同治六年には米國船等此害を受
け、明治四年には我琉球の難破船を屠り
しかば、七年我軍之を征服せしにより、爾
後稍殺伐の風減せりといふ。東城我軍の
上陸點より東北二里に石門あり、峭壁左
右より迫り、一卒之に當れば萬夫之を
過ぐる事能はざる要害なり。牡丹社と
は支那人の云ふ所にして、生番人はシン
ホヤンといふ。其祖先はもと加來芝

ホソシ

圓、米一〇萬圓、生絲一二萬圓、輸入品は
木綿絲二三萬圓、砂糖一六萬圓を主とし、
其他は煙草、燒酎等あり。合四四四。
ホソシマ(細島) 備後國御調郡に屬する
島。岩子島の西に在り。三原、布都、兩海峡
の中間とす。大小二島あり。大細島は長十
餘町、其狀鯨の浮ぶに似たるを以て鯨島
の稱あり。又毎年十二月より鯨魚必ず此
島に來る。俗に年頭鯨と呼ぶといふ。
ホソタ(細田) 【宮崎】日向國南那珂郡の
村。合三三〇。
ホソタニカワ(細谷川) 【吉備ノ中山】を
見よ。
ホソノ(細野) 【京都】丹波國北桑田郡の
村。合三三〇。【群馬】上野國碓氷郡の村。
合三三三。【三重】伊勢國安濃郡安濃村
大字安濃の字。中世長野黨細野氏の居り
し所なり。永祿年中織田氏に降り、後滅ぶ。
【和歌山】紀伊國那賀郡の村。合三三三。
【宮崎】日向國四諸縣郡小林村の大字。
景行天皇の遺蹟夷守の地なりといふ。霧
島神社あり。官幣大社霧島神社の攝社
にて、瓊々杵尊、木花開耶姬命、彦火々出
見尊、鸕鷀草葺不合尊、玉依姬命を合祀す。
ホソミ(細見) 【京都】丹波國天田郡の村。
合三三三。
ホソメ(細目) 【岐阜】美濃國加茂郡八百
津町の舊稱。
ホソヤ(細谷) 【群馬】上野國新田郡澤野
村の大字。新田又太郎政氏の子彌太郎氏
國居り。細谷氏を稱せり。高山正之に此

社の方より來りしが、此社復た分れて、牡
丹社、女仍等の舊社をなせりといふ。言
語は固有のマイワン語を用ひ、支那語に
通する者極く稀なり。其風俗は明治七年
頃と大差なく、頭髪は一種の辮髪を用ひ、
裸體にして、僅に腰間緋色の四角巾を着
け、他行の際は半體衣を着す。女は頭髪を
左右に分け、餘りを頸に巻き付け、衣服は
多く支那人の古衣を用ひ、家屋は泥土を
日乾とし、之を壁の如く積重ねて、四邊を
造り、屋根は茅を以て葺けり。常食は里
芋、甘藷にして、上流者は粟を用ひ、米は
甚だ稀なり。一日三食を常制とし、食物は
朝晩の二度に調理し、晝飯は朝の殘物を
用ひ、間食には芭蕉實、山生蜜柑、じゃば
ら、檳榔子其他煙草を喫す。酋長の家に
は入口に首級數箇を併列しあり。蕃人の
携ふる刀には鞘室に入頭を彫刻し、入頭
を斬るに従つて其數を加へ、多數なるを
以て名譽とす。風俗の項地學雜誌、鳥居
龍藏探検談に據る。
ホソカワ(保津川) 【保津川】を見よ。
ホソケ(法華) 【三重】伊賀國阿山郡花之
木村の大字。古法華寺(即ち國分尼寺)の
ありし所とす。
ホソケサン(法華山) 播磨國加西四南節
慶三郡界に在る山。八峯あり、之を蓮華の
八葉に擬す。姫路より此山を経て多可郡
に赴く道路あり。山腹に一乗寺あり。西國
廿六番の札所とす。●周防國玖珂郡の
北部に在る山。高三五九七尺。

ホソロ

地の産なり。【愛知】三河國渥美郡に
在りし村。明治三十九年二川町に入る。
ホソロギ(細呂木) 【福井】越前國坂井郡
の村。北海入江の東支に沿ひ、金津町より
吉崎に至る要路とす。鐵道は稍其東を通
じ、坪江村牛ノ谷に細呂木停車場を置く。
金津驛より二哩一三鎖。上杉謙信天正三
年織田氏と兵を構へ、此地に來りて、誅め
る。野伏する鎧の袖も櫛の端も皆白妙
の今朝の初雪。合三三六。
ホダ(保田) 【千葉】安房國安房舊平郡の
町。國の西北隅にして、鋸山の南麓なる一
溪を占め、其首邑を本郷といふ。和名抄穂
田郷の本郷の謂なるべし。西に東京灣の
一港を擁し、館山東京間往復汽船の寄航
するあり。外房州地方よりの物産此を經
て東京に至るを以て、稍賑なり。鋸山に登
る者は此よりする可とす。郵便局あり。
此邊多く枇杷を産す。合三三六。
ホダイサン(菩提山) 大和國添上郡五ヶ
谷村に在る山。山中松杉樹多し。正曆寺
あり。●美濃國海津郡に在る山。養老山
脈の一峯とす。昔山中に寺ありて、荒廢せ
るを、承應年中小笠原氏(高須城主)再興
し、寒窓寺と呼びしが、元祿年中中川義行
(尾張六藩高須城主)別に舊址を修めて、行
基寺といひ、行基作彌陀の石像を安置す。
往時は毎年四月朔日より八日まで菩提
詣と稱し、參詣者多く、頗る賑へりといふ。
ホダイジ(菩提寺) 【菩提寺城址】 【岡山】
美作國勝田郡豐野村を見よ。

ホツケ(法華) 日向國東諸縣郡の
西北なる峻嶺。矢野嶺、御岳等相連り、
其脈北に延びて、米真山中の南嶺を成す。
山頂に藥師堂あり。法華岳山と稱し、元正
天皇の養老年中草創といふ。往昔和泉式
部惡疾を患ひ、此如來に祈願し、水復せる
事を傳ふれども、此は京の因幡堂藥師の
縁起を撰擬せるなりといふ。
ホツケチツク(樺太) 法華山の舊稱。
ホツケツトウケ(法華津峠) 伊豫國東宇
和北宇和二郡の境に在る山。大洲宇和島
間の要路にして、登り約三里餘。其西麓を
法華津浦(今、玉津村に屬す)といふ。其左
右各小岬を成す。西を大地岬南を大良鼻
といふ。山上に法華津城址あり。四圍寺氏
十五將の一法華津延子其子前延の居り
し所なり。法華津氏は永長・立間・來村の
諸郷にて四千石餘を領し、清原姓にて清
家と稱し、俗に法華津殿といへり。
ホツケヤマ(法華山) 【樺太】數支支脚管
内に在る山。舊稱ホツケツク。
ホツサカヤマ(堀坂山) 伊勢國飯南二志
二郡の交界に跨る山。松坂町の西に峙つ。
高二五三四尺。
ホツシヨウジ(法勝寺) 【鳥取】伯耆國西
伯郡の村。備後街道に當り、其驛を法勝寺
といふ。郵便局あり。米子町より二里二六
町。置驛(六里二六町)經久寺あり。尼子
經久之菩提寺なり。八幡宮及神宮寺あり。
法勝寺は神宮寺の別號にして、後轉じて
村名となれりといふ。合三三六。

ホダイタキ(菩提山) 山城國野野郡中川
村に在る峻嶺。峯の山中、中河谷の路傍
に懸る。高四丈八尺、幅六尺。
ホタカ(種高) 【長野】信濃國下高井郡の
村。合三三三。【長野】信濃國南安曇郡の
舊庄名。又保高に作る。今、東穂高西穂高、
南穂高、北穂高の諸村に分る。烏川、穂高
川、高瀬川の三川に合する所にして、所謂
松本平の中央なり。東穂高は糸魚川街道
の一市街にして、此所に種高神社あり。安
曇氏の祖神を祀る。俗に此神を物草太郎
なりとす。

ホタカカワ(種高川) 信濃國南安曇郡に
在る川。水源、有明山、初め乳川といふ。芦
間川、麻風川を合せて中房川となり、烏川
と會して種高川の稱あり。東南流して、犀
川に入る。霖雨ある毎に河水汎溢し、上流
より巨岩を下し、雨後沿岸の景色一變す
といふ。
ホタカヤマ(種高山) 飛騨・信濃の交界に
在る山。所謂飛騨山脈の一峯にして、海拔
一、二五〇尺。高峻にして、山上僅松繁
茂す。其東麓は梓川に向て傾斜し、北は有
名なる槍ヶ岳に連る。
ホタカヤマ(武尊山) 上野國利根郡の北
部に峙つ山。海拔六六九尺。其脈會津の
諸山に連る。一に保鷹に作り、山上に武尊
神社あり。日本武尊を祀る。此社もとは今
の沼田城のありし地に在りしといふ。參
詣する者少く、種に登山する者あれば三
年を出ずして死すと俗に言傳ふ。

ホダイカワ(保田川) 安房國の西北に在る
川。水源、横根峠の南麓。西流して、鋸山の
麓を過ぎ、保田町に至り、東京灣に入る。
ホタタコ(保田窪) 【熊本】肥後國飽託郡
廣畑村の大字。寛永十一年開墾といふ。白
川の南岸に沿ひ、熊本市の東南に當る。明
治十年の役官坂兩軍激戦ありし地なり。
ホタテ(帆立) 【千葉】上總國長生郡本納
町の舊稱。
ホタニカワ(穂谷川) 河内國北河内郡に
在る川。牧野村の細流にして、舟橋川、天
之川の間に在り。水源、水室村大字穂谷。
淀川に入る。流程三里。
ホタル(種足) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の
村。合三三五。
ホタンコウキンザン(牡丹坑金山) 【臺灣】
ホタンシヤ(牡丹社) 【臺灣】南部恒春街
の東北山中に在る部落名。元來蕃族の名
にして、マイワン種に屬し、最も悍勇を以
て知られ、外國難破船の上陸者を誘ひ、之
を慘殺せる事屢なり。清の咸豐十年には
普國船、同治六年には米國船等此害を受
け、明治四年には我琉球の難破船を屠り
しかば、七年我軍之を征服せしにより、爾
後稍殺伐の風減せりといふ。東城我軍の
上陸點より東北二里に石門あり、峭壁左
右より迫り、一卒之に當れば萬夫之を
過ぐる事能はざる要害なり。牡丹社と
は支那人の云ふ所にして、生番人はシン
ホヤンといふ。其祖先はもと加來芝

社の方より來りしが、此社復た分れて、牡
丹社、女仍等の舊社をなせりといふ。言
語は固有のマイワン語を用ひ、支那語に
通する者極く稀なり。其風俗は明治七年
頃と大差なく、頭髪は一種の辮髪を用ひ、
裸體にして、僅に腰間緋色の四角巾を着
け、他行の際は半體衣を着す。女は頭髪を
左右に分け、餘りを頸に巻き付け、衣服は
多く支那人の古衣を用ひ、家屋は泥土を
日乾とし、之を壁の如く積重ねて、四邊を
造り、屋根は茅を以て葺けり。常食は里
芋、甘藷にして、上流者は粟を用ひ、米は
甚だ稀なり。一日三食を常制とし、食物は
朝晩の二度に調理し、晝飯は朝の殘物を
用ひ、間食には芭蕉實、山生蜜柑、じゃば
ら、檳榔子其他煙草を喫す。酋長の家に
は入口に首級數箇を併列しあり。蕃人の
携ふる刀には鞘室に入頭を彫刻し、入頭
を斬るに従つて其數を加へ、多數なるを
以て名譽とす。風俗の項地學雜誌、鳥居
龍藏探検談に據る。
ホソカワ(保津川) 【保津川】を見よ。
ホソケ(法華) 【三重】伊賀國阿山郡花之
木村の大字。古法華寺(即ち國分尼寺)の
ありし所とす。
ホソケサン(法華山) 播磨國加西四南節
慶三郡界に在る山。八峯あり、之を蓮華の
八葉に擬す。姫路より此山を経て多可郡
に赴く道路あり。山腹に一乗寺あり。西國
廿六番の札所とす。●周防國玖珂郡の
北部に在る山。高三五九七尺。

ホツケ(法華) 日向國東諸縣郡の
西北なる峻嶺。矢野嶺、御岳等相連り、
其脈北に延びて、米真山中の南嶺を成す。
山頂に藥師堂あり。法華岳山と稱し、元正
天皇の養老年中草創といふ。往昔和泉式
部惡疾を患ひ、此如來に祈願し、水復せる
事を傳ふれども、此は京の因幡堂藥師の
縁起を撰擬せるなりといふ。
ホツケチツク(樺太) 法華山の舊稱。
ホツケツトウケ(法華津峠) 伊豫國東宇
和北宇和二郡の境に在る山。大洲宇和島
間の要路にして、登り約三里餘。其西麓を
法華津浦(今、玉津村に屬す)といふ。其左
右各小岬を成す。西を大地岬南を大良鼻
といふ。山上に法華津城址あり。四圍寺氏
十五將の一法華津延子其子前延の居り
し所なり。法華津氏は永長・立間・來村の
諸郷にて四千石餘を領し、清原姓にて清
家と稱し、俗に法華津殿といへり。
ホツケヤマ(法華山) 【樺太】數支支脚管
内に在る山。舊稱ホツケツク。
ホツサカヤマ(堀坂山) 伊勢國飯南二志
二郡の交界に跨る山。松坂町の西に峙つ。
高二五三四尺。
ホツシヨウジ(法勝寺) 【鳥取】伯耆國西
伯郡の村。備後街道に當り、其驛を法勝寺
といふ。郵便局あり。米子町より二里二六
町。置驛(六里二六町)經久寺あり。尼子
經久之菩提寺なり。八幡宮及神宮寺あり。
法勝寺は神宮寺の別號にして、後轉じて
村名となれりといふ。合三三六。

ホツケ(法華) 日向國東諸縣郡の
西北なる峻嶺。矢野嶺、御岳等相連り、
其脈北に延びて、米真山中の南嶺を成す。
山頂に藥師堂あり。法華岳山と稱し、元正
天皇の養老年中草創といふ。往昔和泉式
部惡疾を患ひ、此如來に祈願し、水復せる
事を傳ふれども、此は京の因幡堂藥師の
縁起を撰擬せるなりといふ。
ホツケチツク(樺太) 法華山の舊稱。
ホツケツトウケ(法華津峠) 伊豫國東宇
和北宇和二郡の境に在る山。大洲宇和島
間の要路にして、登り約三里餘。其西麓を
法華津浦(今、玉津村に屬す)といふ。其左
右各小岬を成す。西を大地岬南を大良鼻
といふ。山上に法華津城址あり。四圍寺氏
十五將の一法華津延子其子前延の居り
し所なり。法華津氏は永長・立間・來村の
諸郷にて四千石餘を領し、清原姓にて清
家と稱し、俗に法華津殿といへり。
ホツケヤマ(法華山) 【樺太】數支支脚管
内に在る山。舊稱ホツケツク。
ホツサカヤマ(堀坂山) 伊勢國飯南二志
二郡の交界に跨る山。松坂町の西に峙つ。
高二五三四尺。
ホツシヨウジ(法勝寺) 【鳥取】伯耆國西
伯郡の村。備後街道に當り、其驛を法勝寺
といふ。郵便局あり。米子町より二里二六
町。置驛(六里二六町)經久寺あり。尼子
經久之菩提寺なり。八幡宮及神宮寺あり。
法勝寺は神宮寺の別號にして、後轉じて
村名となれりといふ。合三三六。

ホダイ

ホタカ

ホソカ

ホツケ

ホツシ

ホツシヨウジカワ(法勝寺川) 伯耆國四伯郡に在る川。一に尻焼川といふ。水源上長田村大木屋山。北流して法勝寺村を過ぎ、小松谷川を合せ、車尾村の南に至り、日野川に入る。流程四里。

ホツシシタケ(發心岳) 筑後國三井郡草野町の南嶺。箕尾山(屏風山)連峰の一なり。草野氏の城址あり。

ホツスールスイドウ(水道) 【北海】千島國得撫新二島の間の稱。

ホツセ(注末) 【新潟】越後國刈羽郡に在りし村。明治三十四年上小國村に入る。

ホツチ(發知) 【群馬】上野國利根郡の舊地名。池田村の内にして、加葉山の南麓なる一豁谷を占めたり。鎌倉大草紙に、上野一豁の内に發知上地五郎等の名見え、沼田系圖に、沼田景繼の子發知三郎景宗あり。何れも此に居りしと見ゆ。

ホツチ(發地) 【長野】信濃國北佐久郡西長倉村の大字。中山道追分驛の南一里なる山村なり。此より東南に出で、上州に踰ゆるを發地峠と見ゆ。峠は海拔三二六四尺。

ホツボシヨウシ(母坪城址) 【兵庫】丹波國氷上郡「新井」村を見よ。

ホツミ(糠積) 【栃木】下野國下都賀郡の村。合志三。 【愛知】三河國東加茂郡に在りし村。明治廿九年東加茂郡に併合。其餘は松平村に合す。 ●(山梨)甲斐國南巨摩郡の村。明治廿五年東加茂郡の村。小字高下の二組を割きて設置す。合志三。

ホツミ

ホツミ(岐阜) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホテイ(布袋) 【愛知】尾張國丹羽郡の町。郡の中央なる一市街にして、名古屋の北四里。一ノ宮驛の東一里半。郡役所警察署稅務署郵便局等あり。合志三。

ホテイシ(布袋驛) 【臺灣】嘉義廳管下大坵田西堡に屬する地。明治二十八年臺灣占領の時、我南進軍の上陸せる所なり。其澳口は北々西に向ひ、東西九町、南北三〇町。水深千潮六尺、滿潮一二尺あり。但し信風強吹する時は波浪強く、小舟も近き難しといふ。布袋嘴は澳口を距る一裡に在り。沿岸牡蠣多く、又鹽田にあり。專賣局支局、稅關監視署及郵便出張所の設置あり。

ボルトバゴトウ(一島) 【臺灣】「紅頭嶼」を見よ。

ホトウリ(保東里) 【臺灣】臺南廳管下の里。もと保大里の一部にして、後保大東里と稱し、更に大字を省き保東里といふ。

ホトカヤ(保土ヶ谷) 【神奈川】武藏國橘樹郡の町。又稱ヶ谷に作る。東海道第四驛にして、今、鐵道停車場を置く。神奈川へ一里三町戸塚へ二里一六町又横濱驛へ二里三八町戸塚驛へ五里四六町郵便局あり。此地昔は程ヶ谷新町、程ヶ谷と稱す。一里一町と稱す。一里一町と稱す。

ホトウリ(保東里) 【臺灣】臺南廳管下の里。もと保大里の一部にして、後保大東里と稱し、更に大字を省き保東里といふ。

ホトカヤ(保土ヶ谷) 【神奈川】武藏國橘樹郡の町。又稱ヶ谷に作る。東海道第四驛にして、今、鐵道停車場を置く。神奈川へ一里三町戸塚へ二里一六町又横濱驛へ二里三八町戸塚驛へ五里四六町郵便局あり。此地昔は程ヶ谷新町、程ヶ谷と稱す。一里一町と稱す。一里一町と稱す。

ホバタ(母畑) 【福島】磐城國石川郡の村。合志三。

ホバタ(保原) 【福島】岩代國伊達郡の町。中村街道の一市街にして、桑折町より一里一四町。警察分署郵便局等あり。毎月五十の日に以て市を開き、蠶絲其他日用品の交易をなす。頗る殷賑なり。合志三。

ホベツ(穂別) 【北海】膽振國勇拂郡の村。穂別川の谷なり。山中石炭を産す。合志三。

ホベツカワ(穂別川) 【北海】膽振國勇拂郡に在る。越川の支流。流程一三二町。其支流マツルベシユベに石油産地あり。

ホボ(保々) 【三重】伊勢國三重郡の村。合志三。

ホボ(保々) 【三重】伊勢國三重郡の村。合志三。

ホボ(保々) 【三重】伊勢國三重郡の村。合志三。

ホトケ

ホトケ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトケガエシヤマ(佛返山) 近江國に在る。山阪田郡の東偏にして、靈仙岳の北に在り。此邊山岳重疊し、谷間に樺樹、男鬼、善谷、莊嚴寺、佛生寺等の部落あり。居民採薪炭を業とす。

ホトケガモリヤマ(佛ヶ森山) 土佐國幡多郡の東部に在る山。

ホトケミサキ(佛岬) 伊豫國宇摩郡の西北角。余木岬の西方約九裡半に在り。此兩岬の間は一帯の砂濱にして、佛岬より西二裡は山脈岸際より起り、多くは險崖を成し、其西方に大島里あり。伊豫温故録云、此邊の總名を磯浦といふ。北方懸洋に面する海岸にして、荒磯利刃の如く、船近き難し。此岩石中に佛像に似たる大岩あり、因て佛岬と名く、此邊景色最も奇絶なり。

ホトケヤマ(佛山) 出雲國仁多郡の南部に在る山。高三七九〇尺。

ホトシマ(保戸島) 【岐阜】美濃國山縣郡の村。長良川北より東に、一里一町に津保川を入り、一里一町に流復す。

ホトシマ(保戸島) 【岐阜】美濃國山縣郡の村。長良川北より東に、一里一町に津保川を入り、一里一町に流復す。

ホトシマ(保戸島) 【岐阜】美濃國山縣郡の村。長良川北より東に、一里一町に津保川を入り、一里一町に流復す。

ホトシマ(保戸島) 【岐阜】美濃國山縣郡の村。長良川北より東に、一里一町に津保川を入り、一里一町に流復す。

ホトシマ(保戸島) 【岐阜】美濃國山縣郡の村。長良川北より東に、一里一町に津保川を入り、一里一町に流復す。

ホトシマ(保戸島) 【岐阜】美濃國山縣郡の村。長良川北より東に、一里一町に津保川を入り、一里一町に流復す。

ホトシマ(保戸島) 【岐阜】美濃國山縣郡の村。長良川北より東に、一里一町に津保川を入り、一里一町に流復す。

ホトシマ(保戸島) 【岐阜】美濃國山縣郡の村。長良川北より東に、一里一町に津保川を入り、一里一町に流復す。

ホトシマ(保戸島) 【岐阜】美濃國山縣郡の村。長良川北より東に、一里一町に津保川を入り、一里一町に流復す。

ホトシマ(保戸島) 【岐阜】美濃國山縣郡の村。長良川北より東に、一里一町に津保川を入り、一里一町に流復す。

ホトシ

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホトシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホナミ

ホナミ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホナシ

ホナシ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホナミ

ホナミ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホラケ

ホラケ(保土ヶ谷) 美濃國本巢郡の村。合志三。 ●(長野) 信濃國南佐久郡の村。合志三。 ●(福島) 岩代國安積郡の村。合志三。 ●(土佐) 土佐國「室戸岬」を以て見よ。

ホロエ

道を成す。河川には留川あり。驛路は東海岸街道。留川より来り、幌泉を經、別

ホロエンルン 【樺太】大崎の舊稱。
ホロオムナイ 【樺太】恩内の舊稱。

ホロケシサキ 【樺太】幌岸岬の舊稱。
ホロケナシ 【樺太】十勝國中川郡

ホロケシサキ 【樺太】幌岸岬の舊稱。
ホロケナシ 【樺太】十勝國中川郡

ホロコ

ホロコ(幌子) 【樺太】真岡支廳泊居出張所管内の村落。舊稱ホロコフ。又ビスホナイ。

ホロシリーヤマ(幌知山) 【北海】日高國新

ホロセサキ(梵論岬) 【北海】大隅國大島の北

ホロヌブリ(樺太) 樺太の舊稱。
ホロヌカ(樺太) 天鹽國留別郡留

ホロト

ホロトマリ(幌泊) 【樺太】真岡支廳真岡

ホロナイ(樺太) 保呂川の舊稱。

ホロナイカワ(樺太) 石狩國空知郡三

ホロナイカワ(樺太) 石狩國空知郡三

ホロナ

此淺瀬を過ぎる時は一四尺乃至二〇尺

ホロベツツク(幌別郡) 【北海】膽振國八

ホロベツツク(幌別郡) 【北海】膽振國八

ホロベツツク(幌別郡) 【北海】膽振國八

ホロナ

ホロナイボ(樺太) 洞内の舊稱。

ホロナイヤマ(幌内山) 【北海】後志國磯

ホロニ(幌似) 【北海】後志國岩内郡前田

ホロニタチベ(カワ) 【北海】石狩國

ホロヌ

ホロヌブリ(樺太) 樺太の舊稱。

ホロヌカ(樺太) 天鹽國留別郡留

ホロハヤマ(保呂羽山) 羽後國平鹿郡由利

ホロハヤマ(保呂羽山) 羽後國平鹿郡由利

ホロノ

ホロベツツク(幌別川) 【北海】膽振國幌

ホロベツツク(幌別川) 【北海】膽振國幌

ホロベツツク(幌別川) 【北海】膽振國幌

ホロベツツク(幌別川) 【北海】膽振國幌

ホロノ

ホロベツツク(幌別川) 【北海】膽振國幌

ホロベツツク(幌別川) 【北海】膽振國幌

ホロベツツク(幌別川) 【北海】膽振國幌

ホロベツツク(幌別川) 【北海】膽振國幌

「東京市」日本橋区を見よ。
ホンコタン(本古丹) 【樺太】真岡支廳真岡出張所管内の村落。舊稱ホンコタン。ホンコタンウトル 【樺太】小輪取の舊稱。ホンコン 【樺太】「樺港庄」を見よ。
ホンサカカイドウ(本坂街道) 三河國に在る縣道。御油驛より東海道に分れ、東北に入り八名郡嵩山を経て遠江國三ヶ日に至る。

ホンサカトウゲ(本坂嶺) 三河遠江の境なる山路。姫街道に當る。三州御油豊橋より嵩山を経て氣賀に出づれば、荒井渡を越くるを得るに、古來往來多し。嶺の東を本坂といふ。西濱名村の内なり。嶺上よりは三河の豊川帯の如く、瀆名の湖鏡に似て眺望絶佳なり。
ホンサン 【香山】を見よ。
ホンサン(本山) 羽後國男鹿半島に在る山。高二五四尺。全山第三紀層より成る。山中に本山神社又は赤神々社あり。俗に漢武帝を祭ると稱し、蘇武々濡等を附會す。今は天津彦火瓊杵命を神體とす。山頂に藥師堂あり。眺望雄大なり。山頂を務腰と呼び、是に風呂敷(雲)被ふときは雨降るとの諺あり。山中に魔王と呼ぶ鳥あり。高野山の佛法僧の類ならんといふ。
ホンサンジ(本山寺山) 攝津國三島郡神峯山の一名。
ホンシウ(本州) 日本帝國の最大島。東經一三〇度四分一、西經一四二度四分、北緯一四度四分一、南緯三十三度三分。北に津輕

海峽を隔て、北海道に對し、西南は瀬戸内海及門司海峽を隔て、四國・九州に面す。周圍一九五二方里八八八、面積一、四四九二方里二。屬島の數一五五。此面積七八方里九一。大別して畿内及東海、東山北陸、山陰、山陽の五道とし、更に之を五十六國に分ち、三府二十五縣を置きて之を管轄す。
ホンシウタケ(梵字岳) 羽後國仙北郡刈和田町の東二里に在る山。山頂に巨石あり、梵字を以て「漆萬杯古金千兩」と刻す。弘法大師の手に成れりといふ。
ホンシマ(本島) 【香川】讃岐國仲多度郡の村。合三三三。
ホンシマ(本島) 【鹽飽諸島】を見よ。
ホンシマ(本島) 【東京】武藏國北多摩郡西布村の大字。府中町の西に接し、所謂府中本宿の義なり。此地の小野宮は延喜式の古社なるが、武家執政の頃六所宮を尊敬ありて、當社衰微に及び、終に六所社に配祀せらるるといへり。
ホンシヨ(本所) 【東京】武藏國「東京市」を見よ。
ホンシヨウ(本庄) 【滋賀】近江國愛知郡葉枝見村の大字。建武年中本莊滿家足利尊氏に仕へ、子孫相續て此に居り、後、六角氏に仕ふ。【岐阜】美濃國稻葉郡の村。合二五五。
【秋田】羽後國由利郡の町。子吉川口に在り。酒田街道に當り、郡の首邑なり。東西八町南北五町。市坊三〇。郡役所警察署區裁判所役務署小島出張所

修め累代の聖域とせり。合三三三。【熊本】肥後國鹿託郡の村。白川の長六町長二橋を以て熊本市に通ず。合三三三。
ホンシヨウ(本城) 【新潟】越後國南蒲原郡に在りし村。明治三十四年本城寺村に入る。【千葉】下總國海上郡西鏡子町の大字。古文書多く本庄に作る。中世三崎の庄司の居りし所なり。本城知ラズとて、人の獵に入るを禁ぜり地あり。千葉常春の居りし所と傳ふ。【愛知】三河國四加茂郡に在りし村。明治三十九年小原村に入る。【長野】信濃國東筑摩郡の村。合三三三。【宮崎】日向國南那珂郡の村。合三三三。
ホンシヨウカワ(本庄川) 美作國眞庭郡に在る川。一に見月川といふ。水濂、鐵山の山中。見月川、本庄を経て東流し、禾津に至り高田川に入る。流程三里。日向國に在る綾川下流の稱。
ホンシヨウジ(本成寺) 【新潟】越後國南蒲原郡の村。鐵道北越線三條驛の四八町を隔つ。日蓮宗勝劣派の總本山本成寺の在る所とす。此寺は永仁五年日印上人の創立にして、光明天皇以來の祈願所といふ。徳川幕府朱印三百石を給せり。末寺二百の内國內に在るもの三十二寺。本堂は明治二十六年焼失したれば、三十二年再建せり。其費用十九萬圓、廣さ十五間四方。合七三三。
ホンシヨウホウ(本城堡) 【臺灣】宜蘭廳管下の一堡。嘉慶年中清人占領し五圍を

中學校、郡立圖書館、由利郡農事試験場、郵便局等あり。秋田市より一〇里一八町。物産は鯛、鱈、蟹、鰯、鱒、物、桑、酒、奈良漬、羊糞、諸越等あり。郡内貨物の集散は一に此地に依る。本莊城址は鶴舞城又は尾崎城と呼ばれ、慶長十五年最上義光の臣橋岡滿茂の築く所なり。最上氏除封の後、元和八年(一六九二)に九年六郷兵庫頭政業二萬石を以て常陸府中より移封傳へて明治維新に至る。城址には今、本莊神社あり。舊藩祖を祀る。永泉寺は曹洞宗の大刹にして、六郷家の菩提所なり。伽藍は近年焼失せり。合三三三。
【福井】越前國坂井郡の村。金津町の西に接す。往古南都興福寺の春日社にして、今も大字中番に春日神社あり。附近十郷に分祠ありしを以て春日十社神と呼ぶ。合三三三。
【岡山】備前國兒島郡の村。半島の西海岸に在り。海上に瀧地島、水島等あり。所謂水島灘是なり。大字通生に八幡宮あり。兒島の一名祀にして、舊社額十五石。其供僧坊を神宮寺といへり。合三三三。
【岡山】備前國和氣郡の村。合三三三。
【宮崎】日向國東諸縣郡の村。高岡村と一嶺を隔て、綾川の沿岸に在り。西諸縣郡須木山中の市場にして、一小市街を成し、稍繁華なり。郵便局あり。此地方古墳甚だ多く、本莊四十八塚の稱あり。其制多くは前方、後圓にして、間々圓形のものあり。開化天皇より用明天皇頃のものならんといふ。額納神社は神日木餘余命命、稻飯命、玉依姫命を祀る。景

設けたる所なれば、五圍三結堡と稱し、宜岡城の在る所なれば、後の名に改む。
ホンソア 【嵐山街】を見よ。
ホンソウドウ(本宗道) 【茨城】下總國結城郡宗道村の大字。村の首邑なり。
ホンソエダ(本添田) 【茨城】下總國結城郡添田村の外一村に跨る。炭礦。添田停車場へ一三町半小倉市へ北二里。明治四十一年、鐵道三二、二九四七坪、使用積夫三三二人、女工二二一人。産額六一、四一八佛噸。價格二二萬八千圓。(本邦礦業一斑)
ホンダ(譽田) 【兵庫】播磨國揖保郡の村。林田川の兩岸に跨る。古の廣山(弘山)にも作る。郷の地なり。西岸に八幡宮(阿宗八幡といふ)あるを以て村名とす。太平記に小山田高家が此に青夢を刈りし事を記す。合三三三。
【茨城】常陸國久慈郡の村。合三三三。
【茨城】常陸國久慈郡の村。合三三三。
ホンダ(本田) 【新潟】越後國北蒲原郡の村。合三三三。
【埼玉】武藏國大里郡本島村の大字。富山と相接す。富山氏の郡黨本田次郎近常の住せし所といふ。教念寺は時宗の古刹にして、多く古文書を蔵す。
ホンダ(本多) 【奈良】大和國生駒郡の村。合三三三。
ホンタルベツ 【北海】千島國國後郡泊村の字。文化八年露人ゴロウインを擒にせし所なり。
ホンヂ(本地) 【廣島】安藝國山縣郡の村。

行天皇十二年草創の古社といふ。合三三三。
ホンシヨウ(本庄) 【京都】丹後國與謝郡の村。郡の西北端にして、外洋に面し、遙に越前國を望む。宮津町を距る約八里。字「真神」は大字濱に在り。延喜式の字「真神」にして、土人傳へて能野宮又浦島太郎の祠といふ。城址あり。天正の頃山内將監の據りし所といふ。將監後、細川忠興に降る。合三三三。
【京都】丹波國船井郡下和知村の大字。關部を去る六里。西は何鹿郡山家に至る三里。郵便局あり。
【兵庫】攝津國武庫郡の村。合三三三。
【兵庫】攝津國有馬郡の村。合三三三。
【埼玉】武藏國兒玉郡の町。郡の首邑にして、中山道の驛路に當り。秩父又は伊勢崎地方への行旅常此に依る。商業繁盛。殊に蠶絲を以て著る。郡役所警察署郵便局及鐵道高崎線の停車場あり。上野驛より一哩二〇〇。又兒玉町へ二里。大宮町へ九里。本庄はもと若菜莊の本莊の謂なりと云ふ。中世兒玉黨の一派此に居り。庄氏を呼び、後、本庄氏を稱し、子孫此に居れり。徳川氏東遷の時小笠原信嶺に本莊城一萬石を賜はる。慶長十七年其子佐之の時下總國古河へ移封。廢墟となる。町の鎮守を金龍明神といふ。社の附近に小倉山あり。往時重工小倉氏の別荘なりしといふ。林泉幽邃眺望亦佳なり。合三三三。
【滋賀】近江國高島郡の村。合三三三。
【山形】羽前國南村山の村。合三三三。
【鳥取】因幡國岩美郡の村。國の東

郡の東南隅に在り。和名抄品地郡の遺稱とす。可部峠を以て安佐郡と分ち、新水に北流して吉田川に入る。石見街道の驛次にして、郵便局あり。可部驛より五里一八町。合三三三。
ホンヂ(品治郡) 【廣島】備後國に在りし郡。東は善安郡、善深津の二郡、西は舊廣田郡、南は沼隈郡、北の一端神石郡に連り、面積二方里九三。宜山坊寺江良倉光中島、萬能倉、近田、手新市、網引、服部の一一村ありしが、明治三十一年廢郡。廣田郡と合して廣品郡となる。本郡は上古の品治國の一部とす。品治は古事記に、垂仁天皇の皇子本牟知別命の爲に品選部を置くとあるに出で、其後國名に轉ぜるものにて、後の廣田世羅甲奴の諸郡を總括せるもの、如し。品治郡は和名抄保牟知と註し、品治狩道神田服織佐我石茂石成の誤の六郷及驛家に分つ。但し佐我石成の二郷は後安那郡に入れり。
ホンチヨウ(本町) 【東京】武藏國東京市日本橋區の北部にして、常盤橋より淺草橋に至る大路に當り、所謂奥羽地方に出づる街道なれば、府下に於て最も早く開けたる所といふ。今四町に分る。東京市日本橋區をも見よ。
ホンヂヨウ(本條) 【新潟】越後國北蒲原郡に在りし村。明治廿四年中條町に入る。
ホンヅ(本津川) 【讃岐】國香川郡に在る川。水源、由佐村香西を経て海に入る。流程四里二一町。

北に位し、山陰道に當り、岩本川浦生川の谷間に在り。岩井ノ庄の本庄の義なりといふ。道宿城址は大字新井に在り。三上兵庫の居城なり。兵庫は山名祐豐の弟にして、幼にして僧となり、東陽關主といへり。天文の頃還俗せしめて城主となせしに、永祿の頃武田高信の謀反に與みし、終に永祿七年山名豊次爲に滅ばされ、城亦廢す。合三三三。
【鳥根】出雲國八東郡の村。中ノ海に臨み、美保園街道に當り、其驛を本庄町といふ。郵便局あり。松江を距る東北二里。久良禰神社は大字新庄に在り。延喜式内の古社にして、今稻倉大明神といふ。此邊の地は古の關見にして、今新庄に標見の名存す。合三三三。
【岡山】安藝國安藝郡の村。合三三三。
【廣島】備後國深安郡の村。合三三三。
【徳島】阿波國勝浦郡多喜村の大字。舊名を櫻庭といひ、櫻間能道の居りし城址あり。文治二年源義經の爲に陥らる。丈六寺は瑞麟山といひ、藩政の頃寺領二百石を給せらる。永正年中釋金岳の開基。三好氏は采地十五貫を與へたりといふ。一丈六尺の觀音像あり。因て寺名とす。
【佐賀】肥前國佐賀郡の村。佐賀市の南郊とす。鍋島氏の祖清久軍功あり。其子清房に龍造寺家兼より本庄八十町を給はる。即ち鍋島氏の興れる基の地とす。清房の創始せる高傳寺ありしが、勝茂藩主となるに及び、大に之を

ホンシ

ホンシ

ホンシ

マオキ

路大泊へ二五澤、北名好へ二八澤、マオキイラ(真萩平)【新潟】越後國東頸城郡に在りし村、明治三十四年葦里村に入る。

マカド(馬門)【栃木】下野國芳賀郡中川村の大字、那珂川の一支出、逆川此に至り高二丈五尺、幅十五間九尺の飛泉となる。

マカネ

と原町との間なる海濱とす。其沙濱を千本松原(其條を見よ)と呼び、古來の名所とす。尻無川とて此松原に至り河道を失ふ小流あり。

マカベ(眞壁)【群馬】上野國勢多郡北橋村の大字、戦國の頃神谷三河守が居りし壘址あり。此地にて利根川の水を分て灌漑に供す之を桃木壘といふ。

マカハ

多く、又金鐵鑄物生絲漆土器を産す。警察分署郵便局等あり。此地は古來の在りし所なり。

マカベ(眞加部)【岡山】美作國勝田郡勝田村の大字、因幡に出づる御路の一驛なり。岡山を距る二〇里四町。

マカミ

地を隔て、花崗岩より成る筑波諸山連亘す。臺地は茶桑に宜しく、沖積地は米に適し、其他山地よりは花崗岩を出す湖沼には大寶沼砂沼あり。

マキ(馬木)【山根】出雲國仁多郡の村、備後國に接せる山村にして、阿蘇山北麓の山谷を占む郵便局あり。

マカユ

濱名村の大字、此所に眞言宗隆興寺(眞堂堂)といふ古刹あり。近世寺領七十石、マカユ(眞賀湯)【岡山】美作國眞庭郡、八幡村を見よ。

マカワ

マカワ(眞壁)【群馬】上野國勢多郡北橋村の大字、戦國の頃神谷三河守が居りし壘址あり。此地にて利根川の水を分て灌漑に供す之を桃木壘といふ。

マキ

マキ(馬木)【山根】出雲國仁多郡の村、備後國に接せる山村にして、阿蘇山北麓の山谷を占む郵便局あり。

マキ

マキ(馬木)【山根】出雲國仁多郡の村、備後國に接せる山村にして、阿蘇山北麓の山谷を占む郵便局あり。

廣義各半里許、四箇の城門を設け、市街は其中に在り。天后宮は媽祖宮ともいひ、地名の起る程の古社にして、天上聖母を祀る。渡海の守護神として崇敬厚し、側に關帝廟及觀音宮あり。千人塚は東門外に在り。明治二十八年我上陸軍の死者千人を埋めし所とす。港は澎湖港の支港にして、其南東部に在り。灣入二港四分一。港内は石花糖の爲め大に制限せらるゝ。中央なる二箇の干出岩を除き、其幅六艘あり。水深七尋乃至八尋にして、吃水大なる船舶に適し、臺灣諸港中最も安全なり。明治四十一年に於て、船の出港一〇六二隻、三三、七四三噸、入港一〇五三隻、三三、六五八噸にして、外國貿易輸出額三、四七三三圓、輸入額三、四二九四圓なり。輸出品の主なるものは支米、白胡椒、落花生豆切乾薯、豚落花生豆油槽にして、輸入は麥粉、大豆、米、鐵鍋、石油、桐油、支那棉布、木材、瓦、包帯、陶磁器、襪、紙、線香等なり。其他内地間の輸出一、二、五四一圓、輸入二、七九〇三圓あり。氣象は一年間約九ヶ月は北乃至東の風のみにして、就中北東と北東北の間より吹くもの最も多し。霧は二月より五月の間に起り、四月最多なれども、對岸の支那に比すれば少し。交通は臺灣本島とは毎週一回若くは二回定期汽船の發着あり。清國南部とは總べて支那形船に依り、其最も頻繁なるは厦門にして、泉州、汕頭、深澤之

マキオ(横尾) 【三重】伊勢國鈴鹿郡に在りし村。明治四十一年龜山町に合す。マキガミ(横ヶ峰) 丹波國多紀郡城南村の中央に横はる山。昔時山上に極樂寺の大伽藍あり。堂宇一千故に千軒坊の稱ありしが、元暦年間源義經夜三草山に出づる時火を此に放ち、明を取りしといふ。マキカワ(牧川) 【愛媛】尾張國中島郡に在りし村。明治三十九年祖父江町に合す。マキカワ(牧川) 美濃國に在る板取川の一名。●丹波國に在る川。水源、天田郡の西陸、上流を板生川といふ。佐々木川と合して音無瀬川に入る。マキクチ(牧口) 【大分】豊後國大野郡の村。緒方川の大野川に合する所にして、其首邑を砂田といふ。郵便局あり。白濁。マキノヤ(横小屋山) 阿波國海部郡川上村の北嶺。木頭谷の南に聳え、土佐國に跨る。高四八二〇尺。山谷幽深、其材に富み、杉最も多し。藩政の頃は官舎を設け、守卒を置けり。マキサト(牧野) 【長野】信濃國更級郡の村。八百三十三。牧野島を見よ。マキシマ(横島) 【京都】山城國久世郡、横島村を見よ。マキシマ(牧島) 【佐賀】肥前國西松浦郡の村。四百三十一。マキシマ(牧島) 肥前國北高来郡戸石村の海上五町に在る島。網場灣の東側とす。周圍二里三〇町。島の東側に深七尺乃至九尺の小船港あり。此島の東は千々石灘

にして南は天草灘なり。●肥後國天草群島の一天草上島の南に横はる。周圍六里九町。今御所浦村に屬す。マキシムキナレーチカ 【樺太】鉢古内の舊稱。マキセキユコウ(牧石油坑) 【新潟】越後國東頸城郡牧村中頸城郡池村に互る石油坑。北西四里にして高田町に達す。二坑あり。一は日本石油會社の經營に係る。明治四十一年、鐵道一三、八八二八坪使用。鐵夫二一三人、女工二五人。原油產出二、七九五石。製油產出高、揮發油一六一四石、燈油九〇〇三石、輕油五三七一石、ピッチ三、五一一七石。價格合計一三六萬四千圓。他は實田石油會社の經營に係る。明治四十一年、鐵道三、五〇、三六八〇坪、使用。鐵夫一六〇人、原油產出二、七五八二石、價格一八萬二千圓。本邦礦業一斑。マキノ(牧園) 【鹿児島】大隅國始良郡の村。近年まで踊郡と稱せり。霧島山の西麓にして、九州鐵道鹿兒島線の車庫及郵便局あり。鹿兒島驛より二八哩二四鎖。其首邑を宿窪田といふ。濱之市、横川二驛の間とす。九州種馬牧場の設あり。又温泉甚だ多し。安樂温泉は大宇宿窪田に在り。炭酸泉にして、温度二九度。鹽浸温泉も同所に在り。炭酸泉にして二泉眼あり。一は温度二二〇度、一は二二八度。中ノ湯、下ノ湯といふ。浴客頗る多し。平湯温泉も同

所に在り。鹽類泉、温度二九度。炭酸泉一三七度の二泉あり。安樂川の谿頭に出づ。硫黄谷温泉は大宇中津川に在り。韓國岳(霧島山の一峰の西麓とす。三泉眼あり。共に温度一四〇度。硫黄泉にして、其性猛烈にて、虛弱の人には適せざれども、谷中數戸の浴舎客舎あり。榮之尾温泉は硫黄谷を距る八町許高岳を距て、溪谷に在り。硫黄泉にして、温度一六七度。明礬温泉は硫黄谷より三町許奥に在り。四泉あり。温度三〇度乃至一五〇度。湯ノ湯温泉は鹽類泉にして、温度一〇八度。和氣清瀆湯居の時常に浴せしといふ。瀧ノ下温泉ともいふ。硫黄湯は硫黄泉にして、温度一七四度。海拔二七〇〇尺の高所に出づ。明治十四年までは毒泉なりとて、土地の人近づかざりしが、一編者之に浴して効ありしより、浴するに至れり。硫黄谷を距る半里許。其他栗川(鹽類泉、一五二度)、横瀧(鹽類泉、一三八度)、瀧之木(酸性泉、一三二度)、湯瀧(鹽類泉、一四〇度)、壺瀧(鹽類泉、一三二度)、折橋湯(炭酸泉、一一一度)、鉢投(鹽類泉、一三九度、坂路にして不便なれども浴客多し)、關平(鹽類泉、一二七度)、浴客多し、手洗單純泉、一二六度以上。三泉大字三體堂に在り。等あり。合五五。マキタ(牧田) 【千葉】安房國安房郡健田村の大字。町町を距る事二七町とす。旭ヶ岡といへる丘上に、下立松、原神社あり。神武天皇の時、美努射命が其祖天日彥命を祭れる古社にして、源賴朝安房に流寓

せし時新願せる事ありて、鎌倉幕府を開くに及び、大般若經等を奉納せりといふ。神裔齋部氏世々神官となれりと傳ふ。●【岐阜】美濃國養老郡の村。南宮山の南麓なる名邑にして、郵便局あり。中山道の關ヶ原驛より此地に出で、伊勢に向ふものを牧田街道といふ。又關ヶ原川竹之尻川、多良川此地に會し、牧田川となり、末は揖斐川に入る。關ヶ原の役西軍潰走す。島津義弘大に其卑怯を怒り、奮戦して筒井福島の諸軍を破り、終に此地に至る。東軍追撃甚だ急なり。薩軍苦戦、島津豊久長壽院盛淳等此に死し、義弘等數人僅に身を以て遁る。今、牧田の路傍に薩摩塚と稱する五輪塔多く存す。白濁。マキタ(カワ) (牧田川) 美濃國養老郡に在る川。上流を多良川といふ。水源、時山村の山中。牧田村に至り、藤川及竹之尻川を合せ、牧田川と稱あり。高田町の北を過ぎ、杭瀬川と會して、揖斐川に入る。流程七里。マキタ(二) (牧谷) 【岐阜】美濃國武儀郡の地名。板取川の沿岸なり。奥を板取村中を洞戸村、口を上牧、下牧の二村とす。居民多く抄紙に従事し、世に美濃紙と稱するもの多く此地より出づ。●【鳥取】因幡國若美郡の村。合六。マキタ(ニ) (横谷川) 備中國に在る川。水源、上房郡難足山の東麓。南流して、高梁川に入る。流程五里八町。河岸に豪溪の奇勝あり。

マキトウケ(横峠) 美作國眞庭郡上徳山より伯耆國日野郡助澤米澤村に通ずる山路。マキナト(牧港) 【沖繩】琉球國中頭郡浦添村の字。其港は伊那武瀨を隔て、那覇港の北に隣り、港口は殆ど那覇港の倭口と東西に相並ぶ。同名の川あり、港首に注ぐ。相傳ふ、此地は源爲朝が琉球を去る時、歸帆を掲げし所にして、別後其妻此附近の洞穴に住して、其歸來を待ちしより、御待港と云へるが傳説せるなりと。マキノ(牧野) 【大阪】河内國北河内郡の村。古の交野原の一部にして、桓天天皇の御獵地なり。今大字に禁野の名存す。合四。●【神奈川】相模國津久井郡の村。合三三三。●【千葉】下總國香取郡香四村の大字。觀福寺は寛平年中僧尊海の建立する所にして、其墓現存す。亦樺取魚産の墓あり。什寶には千葉國分諸氏の文書多くあり。●【奈良】大和國宇智郡の村。横野城址は大字上之村に在り。南北朝の頃横野氏の居城といふ。一尾瀬神社は大字北山に在り。水分神と稱す。延喜式に列す。蓮華寺は大字大澤に在り。境内多く古瓦を出す。享保年中に掘出したる天正十一年楊貴氏の墓志は頗る珍奇のものといふ。白濁。●【愛知】三河國寶飯郡豊川町の大字。戦國の頃東三河の名家牧野氏の居りし所なり。後、牛窪吉田に築城して移る。●【滋賀】近江國高島郡西庄村の大字。若狭國三方郡に通ずる山徑

に當る。此地に善積齋の墓あり。大にして小山の如し。一説猶古代のものなるべし。●【富山】越中國射水郡の村。新湊町の南に接す。南北朝の時征東將軍宗良親王の居住ありし地にして、故郷の人に見せばや立山の、千年ふるて、雪の曙といふ歌、口傳へて、今村の北なる小丘に雪見岡の名を存す。合八七。マキノ(牧野) 伯耆國四伯郡大山村に在る原野。廣二五町、表二九町、面積八七三町の高原にして、水利なり。マキノ(横尾) 【京都】山城國葛野郡梅ヶ畑村の字。三尾高尾横尾梅尾の一にして、高尾の東北に當り、清瀧川其間を流る。四明寺あり。寺は建治年中自上人建立。爾後廢して神護寺に併せしを、慶長年中明忍上人再興す。後、將軍徳川家光の母桂昌院の喜捨を以て、講堂を再建す。今三尾中推して第一の伽藍とす。宗旨は眞言律兼學なり。マキノ(横尾山) 和泉國泉北郡河内國南河内郡に跨る山。峯層々として、山中四十八瀧三十六洞ありと稱す。卷尾神社あり。即ち卷尾寺の鎮守にして、施福寺本堂の南大壇に在り。施福寺は西國三十三所第四番の札所にして、卷尾寺觀音是なり。行滿上人開基。弘法大師も當山に在りて修行せりといふ。もと眞言宗なりしが、寛文以降天台宗を奉ず。本尊は彌勒佛左右に文殊菩薩手觀音を安置す。堂背に大師堂、不動堂、經藏等あり。西横

山村大字坪井より登り一里十四町、之を表道といひ、河内國龍畑より一里、之を裏道といふ。又西國第三番粉川寺より當寺に至るを檜原越といひ、難所の山路なり。マキノシマ(横島) 【京都】山城國久世郡の村。宇治町小倉村の北に在り。宇治川、巨椋池其二方を浸す。古は其南に宇治川支流あり、巨椋池に通じ、全く一洲を成せるを以て、横島の稱あり。今築堤して宇治町、向島村を連絡す。其長五十町。横堤と稱す。此地一に横ノ島ノ里と稱し、之を誅する和歌少からず。横島城址は田園中に在り。永正年中弘中兵部之に居る。元龜三年足利義昭繼田信長と隙あり。京師を出で之に據る。信長攻めて之を走らし、足利氏に代りて天下に號令せり。合三三。マキノシマ(牧野島) 【長野】信濃國更級郡牧野村の大字。岸川の岸にして、上水内郡の水内新町と水を隔て、相對す。永祿年中武田氏馬場信房をして、此地の城を守らしめたり。マキノシマ(牧島) 【福井】越前國吉田郡藤島村の大字。新田義貞戦死の地。三屋の南に接す。明治十四年藤島神社を此に建て、義貞を祀りしが、明治三十一年之を足羽山に移す。マキノ(タキ) (牧瀧) 伯耆國東伯郡竹田村大字牧村に在る瀧。高六丈、幅三尺。マキノ(ハラ) (牧原) 【山梨】甲斐國北巨摩郡武里村の字。信州街道に當り、壺ヶ原驛の南一里半を隔つ。和名抄真衣郷。延喜式

眞衣野牧の遺稱なり。

マキノハラ(牧野原) 遠江國橋原郡金谷町の西南なる高地。金谷藩又は布引原といひ、東西一里一四町、南北六里三四町、面積一萬五千町歩の曠野なりしが、維新後舊幕士相率ゐて拓殖に従事し、近年逐次開墾に就けり。水利悪しけれども茶樹の栽培に適す。鐵道東海道線は此に隧道を穿ちて日坂に至る。牧野原城址は原の北限に在り、初は諏訪ノ原城と呼べり。天正元年武田氏の將馬場美濃守信房の經營になり、武田氏以て南制の要害とし、甲州流軍學者は此城及小山、駿州の久能三枚橋を以て名城とせり。天正三年徳川氏の手を歸し、松平忠次をして守らしめたり。城址、天守臺等今尙存す。

マキノミヅ(馬城峯) 豊前國宇佐郡宇佐町の東南に峙つ山。大元山又は御許山と呼ぶ。山上に大元神社あり。祭神は宇佐神宮と同體にして、三個の巨石なり。一は高一丈五尺、廣一丈五尺にして、其二は之より小なり。昔は眞言宗の僧坊六區あり、後三區となりしが、明治初年長州の脱兵花山院卿の命と稱し、四日市に放火し、此山に據りしが、長兵追撃して之を破り、平野四郎等を四日市に梟す。此時一院六坊悉く焼失し、僅に其址を存す。

マキノヤマ(槇山) 【高知】土佐國香美郡の村。物部川の南支流槇山川に沿へる山村にして、東は一嶺を隔て、阿波の木頭谷と界し、東西五里、南北一里に亘る。其首邑を大槇といふ、郵便局あり。此地谷深く、水激くして橋梁を架すべからず。故に藤巻を結びて往來を通ず。所謂藤橋にして、岡内橋押谷橋等あり。長各十餘間、高三丈乃至五丈あり。バ台六八。

マキノコウ(馬加) 【千葉】下總國千葉郡幕張町の大字。千葉街道に當り、東京灣に面す。戦國の頃千葉氏の一族康胤此に城を居り、馬加陸奥守といひ、享保年中足利成氏に屬し、功を以て下總介に任ぜらる。千葉氏之より二派となる。

マクラン(馬群潭) 【樺太】敷香支廳元泊出張所管内樺太東海岸の一村。落、豊原名寄街道に當る。豊原より四〇里七町舊稱マクランコタン。

マクランカワ(馬群潭川) 【樺太】邦領樺太の中部に在る川。水源、樺太西山脈南流して幾多の支流を合せ、ベンケモアンの落合より東流して、イコピナイを合せ、海岸の山脈を衝破してオコツク海に注ぐ。其下流に於ける平地は稍廣大なれども、概ね濕地にして、海岸山脈の背後に延長す。イコピナイ支流は此平地に沿ひて北流し、本島の中央道路は此支流に沿ひて通ず。本流は水淺くして、舟行一日程に過ぎざれども、鱉の湖る數甚だ多し。

マクンベツ(幕別) 【北海】十勝國中川郡の村。郡の南部の總稱にして、南北一〇里、東西三里に亘る。大字幕別はサウベツ川の十勝川に會する所とす。百五七六。

マクローヤマ(眞栗山) 大隅國薩其郡蒲生村の西南に峙つ山。

マクワ(眞栗) 【岐阜】美濃國本巢郡の村。甜瓜の産地として、古來其名高く、終に他地方の甜瓜をも眞栗瓜と呼ぶに至れり。徳川時代には獻上品の一なりし。百五七。

マクワリ(馬加) 【千葉】下總國千葉郡幕張町の大字。千葉街道に當り、東京灣に面す。戦國の頃千葉氏の一族康胤此に城を居り、馬加陸奥守といひ、享保年中足利成氏に屬し、功を以て下總介に任ぜらる。千葉氏之より二派となる。

首邑を大槇といふ、郵便局あり。此地谷深く、水激くして橋梁を架すべからず。故に藤巻を結びて往來を通ず。所謂藤橋にして、岡内橋押谷橋等あり。長各十餘間、高三丈乃至五丈あり。バ台六八。

マキノハラ(槇山) 【新潟】越後國刈羽郡に在りし村。明治三十四年四中通村に入る。マキノリ(巻堀) 【巖手】陸中縣巖手郡の村。百三三。

マキノコウ(馬加) 【千葉】下總國千葉郡幕張町の大字。千葉街道に當り、東京灣に面す。戦國の頃千葉氏の一族康胤此に城を居り、馬加陸奥守といひ、享保年中足利成氏に屬し、功を以て下總介に任ぜらる。千葉氏之より二派となる。

マキノヤマ(槇山) 【高知】土佐國香美郡の村。物部川の南支流槇山川に沿へる山村にして、東は一嶺を隔て、阿波の木頭谷と界し、東西五里、南北一里に亘る。其首邑を大槇といふ、郵便局あり。此地谷深く、水激くして橋梁を架すべからず。故に藤巻を結びて往來を通ず。所謂藤橋にして、岡内橋押谷橋等あり。長各十餘間、高三丈乃至五丈あり。バ台六八。

マクラン(馬群潭) 【樺太】敷香支廳元泊出張所管内樺太東海岸の一村。落、豊原名寄街道に當る。豊原より四〇里七町舊稱マクランコタン。

マクランカワ(馬群潭川) 【樺太】邦領樺太の中部に在る川。水源、樺太西山脈南流して幾多の支流を合せ、ベンケモアンの落合より東流して、イコピナイを合せ、海岸の山脈を衝破してオコツク海に注ぐ。其下流に於ける平地は稍廣大なれども、概ね濕地にして、海岸山脈の背後に延長す。イコピナイ支流は此平地に沿ひて北流し、本島の中央道路は此支流に沿ひて通ず。本流は水淺くして、舟行一日程に過ぎざれども、鱉の湖る數甚だ多し。

マクンベツ(幕別) 【北海】十勝國中川郡の村。郡の南部の總稱にして、南北一〇里、東西三里に亘る。大字幕別はサウベツ川の十勝川に會する所とす。百五七六。

マクローヤマ(眞栗山) 大隅國薩其郡蒲生村の西南に峙つ山。

マクワ(眞栗) 【岐阜】美濃國本巢郡の村。甜瓜の産地として、古來其名高く、終に他地方の甜瓜をも眞栗瓜と呼ぶに至れり。徳川時代には獻上品の一なりし。百五七。

マクワリ(馬加) 【千葉】下總國千葉郡幕張町の大字。千葉街道に當り、東京灣に面す。戦國の頃千葉氏の一族康胤此に城を居り、馬加陸奥守といひ、享保年中足利成氏に屬し、功を以て下總介に任ぜらる。千葉氏之より二派となる。

マクラン(馬群潭) 【樺太】敷香支廳元泊出張所管内樺太東海岸の一村。落、豊原名寄街道に當る。豊原より四〇里七町舊稱マクランコタン。

マキモト(牧木) 【福島】岩代國岩瀬郡の村。百三三。

マキヤマ(牧山) 【岡山】備前國御津郡の村。百三三。

マキノコウ(馬加) 【千葉】下總國千葉郡幕張町の大字。千葉街道に當り、東京灣に面す。戦國の頃千葉氏の一族康胤此に城を居り、馬加陸奥守といひ、享保年中足利成氏に屬し、功を以て下總介に任ぜらる。千葉氏之より二派となる。

マキノヤマ(槇山) 【高知】土佐國香美郡の村。物部川の南支流槇山川に沿へる山村にして、東は一嶺を隔て、阿波の木頭谷と界し、東西五里、南北一里に亘る。其首邑を大槇といふ、郵便局あり。此地谷深く、水激くして橋梁を架すべからず。故に藤巻を結びて往來を通ず。所謂藤橋にして、岡内橋押谷橋等あり。長各十餘間、高三丈乃至五丈あり。バ台六八。

マクラン(馬群潭) 【樺太】敷香支廳元泊出張所管内樺太東海岸の一村。落、豊原名寄街道に當る。豊原より四〇里七町舊稱マクランコタン。

マクランカワ(馬群潭川) 【樺太】邦領樺太の中部に在る川。水源、樺太西山脈南流して幾多の支流を合せ、ベンケモアンの落合より東流して、イコピナイを合せ、海岸の山脈を衝破してオコツク海に注ぐ。其下流に於ける平地は稍廣大なれども、概ね濕地にして、海岸山脈の背後に延長す。イコピナイ支流は此平地に沿ひて北流し、本島の中央道路は此支流に沿ひて通ず。本流は水淺くして、舟行一日程に過ぎざれども、鱉の湖る數甚だ多し。

マクンベツ(幕別) 【北海】十勝國中川郡の村。郡の南部の總稱にして、南北一〇里、東西三里に亘る。大字幕別はサウベツ川の十勝川に會する所とす。百五七六。

マクローヤマ(眞栗山) 大隅國薩其郡蒲生村の西南に峙つ山。

マクワ(眞栗) 【岐阜】美濃國本巢郡の村。甜瓜の産地として、古來其名高く、終に他地方の甜瓜をも眞栗瓜と呼ぶに至れり。徳川時代には獻上品の一なりし。百五七。

マクワリ(馬加) 【千葉】下總國千葉郡幕張町の大字。千葉街道に當り、東京灣に面す。戦國の頃千葉氏の一族康胤此に城を居り、馬加陸奥守といひ、享保年中足利成氏に屬し、功を以て下總介に任ぜらる。千葉氏之より二派となる。

マクラン(馬群潭) 【樺太】敷香支廳元泊出張所管内樺太東海岸の一村。落、豊原名寄街道に當る。豊原より四〇里七町舊稱マクランコタン。

總武鐵道の幕張停車場あり、本所驛より一六哩五三鎮。百五七。馬加をも見よ。

マクヤマ(幕山) 【兵庫】播磨國佐用郡の村。百三三。

マキノコウ(馬加) 【千葉】下總國千葉郡幕張町の大字。千葉街道に當り、東京灣に面す。戦國の頃千葉氏の一族康胤此に城を居り、馬加陸奥守といひ、享保年中足利成氏に屬し、功を以て下總介に任ぜらる。千葉氏之より二派となる。

マキノヤマ(槇山) 【高知】土佐國香美郡の村。物部川の南支流槇山川に沿へる山村にして、東は一嶺を隔て、阿波の木頭谷と界し、東西五里、南北一里に亘る。其首邑を大槇といふ、郵便局あり。此地谷深く、水激くして橋梁を架すべからず。故に藤巻を結びて往來を通ず。所謂藤橋にして、岡内橋押谷橋等あり。長各十餘間、高三丈乃至五丈あり。バ台六八。

マクラン(馬群潭) 【樺太】敷香支廳元泊出張所管内樺太東海岸の一村。落、豊原名寄街道に當る。豊原より四〇里七町舊稱マクランコタン。

マクランカワ(馬群潭川) 【樺太】邦領樺太の中部に在る川。水源、樺太西山脈南流して幾多の支流を合せ、ベンケモアンの落合より東流して、イコピナイを合せ、海岸の山脈を衝破してオコツク海に注ぐ。其下流に於ける平地は稍廣大なれども、概ね濕地にして、海岸山脈の背後に延長す。イコピナイ支流は此平地に沿ひて北流し、本島の中央道路は此支流に沿ひて通ず。本流は水淺くして、舟行一日程に過ぎざれども、鱉の湖る數甚だ多し。

マクンベツ(幕別) 【北海】十勝國中川郡の村。郡の南部の總稱にして、南北一〇里、東西三里に亘る。大字幕別はサウベツ川の十勝川に會する所とす。百五七六。

マクローヤマ(眞栗山) 大隅國薩其郡蒲生村の西南に峙つ山。

マクワ(眞栗) 【岐阜】美濃國本巢郡の村。甜瓜の産地として、古來其名高く、終に他地方の甜瓜をも眞栗瓜と呼ぶに至れり。徳川時代には獻上品の一なりし。百五七。

マクワリ(馬加) 【千葉】下總國千葉郡幕張町の大字。千葉街道に當り、東京灣に面す。戦國の頃千葉氏の一族康胤此に城を居り、馬加陸奥守といひ、享保年中足利成氏に屬し、功を以て下總介に任ぜらる。千葉氏之より二派となる。

マクラン(馬群潭) 【樺太】敷香支廳元泊出張所管内樺太東海岸の一村。落、豊原名寄街道に當る。豊原より四〇里七町舊稱マクランコタン。

眞析と記せるに同じといふ。後世眞幸院と呼び、吉田馬關加久藤飯野小川の五郷を總稱せり。其郡司は火爾降命の後裔にして、日下部氏を冒せしが、後北原氏之に代る。島津氏之を伊集院に移し、義弘自ら出て、飯野に居り、日向肥後の敵に備へたり。果して元龜三年伊東義祐來襲す。義弘逆襲して木崎原の大捷を得たり。眞幸の鎮守を高幸神社といふ。もと六所権現と稱せり。大字昌明寺に炭酸温泉あり。温度百〇二度。浴舎客舎の設あり。白濁六六。

マサキウラ(眞崎浦) 常陸國那珂郡に在る海岸湖。村松村に属するを以て村松沼ともいひ、周圍一里四町。風景佳なり。宗祇家集に「淋しさはいとまさきの海の波かへる昔の跡のあはれき」。

マサキカワ(眞幸川) 日向國西諸縣郡に在る川。水源、狗留孫岳。西流して薩摩國始良郡を経て伊佐郡に入り、牛山川と合し、薩摩郡の中央を流る。即ち川内川の源流なり。

マサキハナ(正木鼻) 因幡國氣高郡末恒村大字内海より日本海に出でたる岬角。古事記に所謂氣多前なりといふ。

マサキヤマ(正木山) 備中國吉備郡秦村に在る山。高梁川の右岸に峙つ。延喜式麻佐岐神社あり。磐石二顆を神體とすといふ。正木山まさきのかつらもみぢし、時雨もときを違へさりけり(天木集)。マサコ(眞砂) 【島根】石見國美濃郡の村。

益田川一支源の山谷を占め、大字波田に郵便局あり。白濁六六。【和歌山】紀伊國西牟婁郡栗川村の大字。古眞砂莊司治次なるもの、居りし所と稱し、其女清姫妾執の事を傳ふ。

マサゴタニノエノミササキ(磯沙溪上陸) 【奈良】大和國高市郡白檀村大字。磯沙溪名子谷に在る陸。懿德天皇の御陵なり。

マサトマリ(政治) 【北海】後志國壽都郡の村。辨慶岬の西南陸なり。アイヌ名ママトマリ。北海を渡ぐの意なり。昔はアイヌ多く住めりといふ。白濁六六。

マサナカ(正中) 【福島】岩代國河沼郡の村。白濁六六。

マサノリ(正則) 【愛知】尾張國海東郡に在りし村。明治三十九年美和村に入る。津島町の東北にして、中島郡に接す。福島正則は此村大字二ツ寺の出なれば村名とすといふ。

マシイ(増井) 【茨城】常陸國茨城郡小松村の大字。益井又は升井に作る。村内に井あり、大旱にも涸るゝ事なきより出でし名といふ。享和二年水戸家都奉行の治所を此所に置き、治下を増井組と呼べり。

マシウコ(摩周湖) 【北海】釧路國に在る湖。川上郡の根室境に近き所に在り。周圍六里九町。形状法馬の如く、四面連峰を以て圍まれ、湖心碧澄、神威岳其東岸に峙つ。湖中一立岩あり、神岩といふ。湖水は地下を潜流して、四別川に通ずと稱す。

マシキ(眞敷) 【千葉】下總國香取郡の古分ち、當時は遙に西部に擴張せしもの、如し。後郡境甚だ紛亂し、益頭地多志太郡に入る。明治二十九年廢郡。其地を擧げて志太郡に合す。益津は古訓キヅにして古紀の燒遺景行紀の燒津皆此を指せるなり。蓋し其名は日本武尊が醜夷を燒討せられし故事に起る。然れども和名抄の時既に之をマシツと訓めば、轉訛せること頗る古し。一説或は火燒の事を忌みて改めしにあらざるや。

マシツメ(猿爪) 【岐阜】美濃國惠那郡陶村の大字。葉葉の甚だ盛なる地にして、所謂美濃茶碗の本場とす。郵便局あり。

マシノ(眞志野) 【長野】信濃國諏訪郡湖南村の舊稱。中世眞志野氏居る。諏訪有賀の二氏と共に諏訪明神の後裔なりと傳ふ。又舊宮あり。諏訪神の子草奈井比賣を祭るといふ。

マシハヤシ(増林) 【埼玉】武藏國南埼玉郡の村。古利根川の會流する所に在り。古利根の水此にて一派を分ち、西の葛水用水に至る。堤上より望むときは恰も逆流するが如し。逆川の稱あり。白濁三六。

マシマ(眞島) 【長野】信濃國更級郡の村。厚平曲二川の合する所に在り。古利尊皇寺あり。尊皇親王菩提の爲に建てし所と傳へ、其傍の飯綱社に親王の遺體を葬れるなりといふ。親王は後醍醐天皇の皇子にして、越前金崎城にて薨じ給ふ事確なれば、此は何かの附會なるべし。白濁三三。

マシマ(馬島) 【愛知】尾張國海東郡大治村の大字。有名な明眼院あり。此寺藥師如來を安置し、眼病に靈現ありとて、祈願者多し。寺内に療養院あり。寛永九年後水尾天皇第三皇女眼疾を患ひ給ひし時、住僧藥劑を獻り治癒あり。又明和二年桃園院二宮も治し給ひしかば、勅願所となり。舊藩主より寺領を附せられたり。當時十八坊ありしが、今僅に一坊を存す。後園の林泉は頗る著名なり。

マシマ(眞島) 【岡山】美作國に在りし郡。東北は舊大庭郡西は伯耆國日野郡備中國阿賀郡南は舊久米北條郡及備前國高津郡に接し、勝山落合の二町及川四川南天津瀬田河下舟船津上田鹿田・美原・關川・月田・井原・富山・美甘・新庄・茅部・二川・八幡・一宮の一十九村ありしが、明治三十二年廢郡。大庭郡と合して眞庭郡となる。和名抄眞島と註し、眞島垂水鹿田・大井・栗原・美甘・健部・月田・井原・高田の一〇郷に分てり。

マシモ(眞下) 【埼玉】武藏國兒玉郡共和村の地名。上下二大字に分る。中世兒玉黨の一派眞下氏の居りし所とす。

マシキ(眞敷) 【熊本】肥後國中部の舊郡名。今、上下の二郡に分たる。緑川本支流の流域にして、其東部は山岳重疊し、矢部、砥用二郷の地は八代郡の五箇庄。日向國の高千穂と相接し、全く別境を成す。益城は和名抄眞島と註し、當麻子按、加四宅部、富神麻部、益城坂本の八郷に分つ。而して當麻以下四郷は今上益城の地にして、富神以下四郷は下益城郡に當るが如し。後世託麻郡津守上島の二郷上益城郡に入り、宇土郡松橋、八代郡豊橋、河江の諸邑下益城郡に入る。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。不働白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

マシケ(増毛) 【北海】天鹽國増毛郡の町。北海道西海岸に於て小樽に亞げる要地なり。一三三三、合二四七七。市街は街衢整正、商戸櫛比、商業頗る活潑なり。増毛支那醫院等あり。港は市街の東端に在り。東西一二町。南北七町。水深二尋乃至四尋。港口北に向ひ北方の風浪を避るものなく、秋冬は船舶の碇泊に便ならざれども、晚春後には概ね平穩にして、且つ沿岸の水産物概ね此地に輻湊するを以て、船舶の出入多し。輸入品は米及諸糧を主とす。燈臺あり。不動白色。晴光遠九裡。此地札幌あり。

ふじて越ゆる事を得べし。此山道は岩壁雄冬の外の昔山間を通じ、熊笹其他の雜草道を狭み、降雨融雪の時は道路溼流の如く通行極めて困難なり。雄冬山道とも見よ。

マシケヤマ(増毛山) 【北海】天鹽國増毛郡に在る巒巒別岳の一名。

マシコ(益子) 【栃木】下野國芳賀郡の町。眞岡町の東方に在る一市街なり。郵便局あり。此地陶器の産を以て知らる。益子城址は康平年中益子權守正隆の築く所といふ。益子氏は紀古佐美の後なり。累世字都宮氏の旗下に屬し、職名あり。芳賀氏(清原姓)と併稱して、紀清兩黨と呼ばれしが、天正十七年家宗の時、反を謀り、字都宮氏の爲に滅ばされ、城廢す。西明寺は坂東二十番の札所にして、本尊十一面觀世音。地藏院は字都宮朝綱入道寂心開創。世々字都宮氏の菩提所なり。徳川氏の時寺領五十石。同家の墓所は大字大羽の東南入ノ坪といへる所に在り。白濁五九。

マシコ(増戸) 【東京】武藏國西多摩郡の村。白濁五九。

マシタ(味舌) 【大阪】攝津國三島郡の村。白濁五九。

マシタ(益田) 【益田郡】益田郡を見よ。

マシツタン(益津郡) 【静岡】駿河國に在りし郡。大略高神山の南瀬戸川の下流なる小區域を占めたり。和名抄は益頭に作り末志豆と註し、西刀澤會朝夷、波入田物部益頭、高橋、小河、新居の一〇郷に

分ち、當時は遙に西部に擴張せしもの、如し。後郡境甚だ紛亂し、益頭地多志太郡に入る。明治二十九年廢郡。其地を擧げて志太郡に合す。益津は古訓キヅにして古紀の燒遺景行紀の燒津皆此を指せるなり。蓋し其名は日本武尊が醜夷を燒討せられし故事に起る。然れども和名抄の時既に之をマシツと訓めば、轉訛せること頗る古し。一説或は火燒の事を忌みて改めしにあらざるや。

マシツメ(猿爪) 【岐阜】美濃國惠那郡陶村の大字。葉葉の甚だ盛なる地にして、所謂美濃茶碗の本場とす。郵便局あり。

マシノ(眞志野) 【長野】信濃國諏訪郡湖南村の舊稱。中世眞志野氏居る。諏訪有賀の二氏と共に諏訪明神の後裔なりと傳ふ。又舊宮あり。諏訪神の子草奈井比賣を祭るといふ。

マシハヤシ(増林) 【埼玉】武藏國南埼玉郡の村。古利根川の會流する所に在り。古利根の水此にて一派を分ち、西の葛水用水に至る。堤上より望むときは恰も逆流するが如し。逆川の稱あり。白濁三六。

マシマ(眞島) 【長野】信濃國更級郡の村。厚平曲二川の合する所に在り。古利尊皇寺あり。尊皇親王菩提の爲に建てし所と傳へ、其傍の飯綱社に親王の遺體を葬れるなりといふ。親王は後醍醐天皇の皇子にして、越前金崎城にて薨じ給ふ事確なれば、此は何かの附會なるべし。白濁三三。

あり。
マスカヤマシヨウシ (升形山城址) 【岡山】美作國岡田郡田邑村に在る城址。福田勝昌此に據りて毛利氏に屬せり。天正の頃宇喜多直家大兵を以て之を攻め、終に抜く能はず。後、兩氏和するに及び、此城終に宇喜多氏に歸せり。
マスケ (眞菅) 【奈良】大和國高市郡の村。主邑を曾我といふ。萬葉集「眞菅よし宗我の河原」と詠めるに、近年立て、村名とす。六百六十四。
マスカワ (鷹澤) 【巖手】陸中國上閉伊郡の村。六百二十九。
マスタ (増田) 【新潟】越後國刈羽郡に在りし村。明治三十四年上小國村に入る。
マスタ (愛知) 尾張國中島郡大里村の大字。豊臣家に仕へし増田長盛は此地の人ともいふ。益田とも見よ。
マスタ (山梨) 甲斐國東八代郡の村。六百四。【宮城】陸前國名取郡の町。陸前街道の一驛にして、鐵道東北本線の車驛あり。仙臺へ六哩半。警察分署郵便局あり。衣笠松は町の菊池庭内に在り。聖駕東巡の節越せ給ひし時名を賜はりし名松なり。侍従高崎正風の歌「たけくまもあねはもかけや譲らんわが夫君の衣笠の松」六百五十五。
マスタ (秋田) 羽後國平鹿郡の町。陸羽街道を東に距る一里餘。稻庭街道手倉街道、淺舞街道の集點に當り、且つ生絲葉煙草の産地なれば旅客の往來、貨物の集散甚だ盛なり。警察分署郵便局あり。増田城址は戰國の頃土肥次郎道近之に居り、後岩城隆貞の居城なりしといふ。的山的又眞人山に作る。清原武則の舊城址なりといふ。金山松樹にして、奇岩其間に起伏し山下に皆瀨川流れ、風景甚だ佳なりといふ。月山神社は小笠原信濃守の居城址に建て、土肥道近甚だ之を尊崇せりと傳ふ。六百五十七。
マスタ (萬須田) 【愛知】尾張國海東郡に在りし村。明治三十九年富田村に入る。
マスタ (益田) 【滋賀】近江國東淺井郡竹生村の大字。和名抄益田郷の遺稱とす。豊臣八奉行の一人増田長盛は此地の人といふ。増田とも見よ。
マスタ (島根) 石見國美濃郡の町。山陰道の驛次にして、街道は是より内地に入り、津和野を経て山口に達す。東西八町南北九町。郡役所警察署區裁判所郵便局等あり。濱田町より一〇里一八町松江市より四里とす。城址は市街の東南、七尾の古城山に在り。天文年間益田藤兼の據りし所なり。益田氏は三隅、福屋氏の一族にして、石州の名族なり。弘治二年藤兼毛利氏に降り、其子孫終に毛利氏の年寄となり。萬福寺は字春日に在り。時宗にして、文中三年益田兼見創建僧伽の開基といふ。寺背に雪舟和尚終焉の大尊あり。今、妙壽寺に屬す。墓石尙存す。六百五十八。
マスタ (益田) 磐城國相馬郡小高町の西に時つ山。山上に益田家神社あり。延喜式内行方八社の一なり。四月八日の祭禮に神樂舞幸の時、祈願の者山上より馬にて馳下るを常とす。其時人馬往來深谷に轉り、落つれども傷く事なしといふ。是を足谷下シの神事と稱す。近年養蠶家の信奉するもの多し。
マスタ (益田川) 石見國美濃郡に在る川。水源、都茂村の山中、西北流して吉田村に至り、高津川と相並びて日本海に入る。流程六里二二町。
マスタ (益田郡) 【岐阜】飛騨國三郡の一。最南部に位す。四境北は吉城郡東は信濃國西筑摩郡、南は美濃國惠那郡加茂、武儀の三郡、西は美濃國郡上郡と界す。東西一里二町、南北一里三三〇町、面積一五六方里一七行政上、萩原小坂の二町及下原、中原、上原、川西、馬瀬、下原、竹原、朝日、高根の九村に分ち、郡役所を萩原町に置く。面積三六、八三二、六五、地勢、郡内飛騨山脈と其支脈及赤谷山脈との間に包まれ、山岳重疊して殆ど平地を見ず。唯益田川沿岸の少所々僅小の耕地を存し、益田街道と信州街道との經由する所なれば、郡内の名邑概ね此に在り。下呂村以南益田街道は益田川に沿ふ。所謂中山七里にして、風景極めて佳なり。居民概ね養蠶を營む。益田川上流の民は、男子は薪材を伐り、或は運搬に従事し、女子は麻粉を製し、之を賣りて鹽及茶に代ふといふ。高根村は多く馬を産す。産物は米二萬七千石、麥一萬石、林産物、木材、薪炭、竹材、七萬圓、蠶絲一萬圓等とす。益田は和名抄萬之田と註し、益田、秋秀の

址。中世神保氏代々の居城にして、天文七年長尾爲景米攻め、城主神保長守五箇山に墜れし事あり。後、神保長守に據る。十四年長尾爲景復た越中を侵略し、將に此城に迫らんとす。真衝乃ち椎名泰種、江波五郎等と構野に隔界を設け、爲景を誘殺す。天正六年終に上杉謙信の陷る所となり。神保春信之に死す。後、佐々木の領となり。神保氏張等此に居りしが、幾くもなくして前田氏に歸し、寛永十五年廢せらる。
マスタ (益和) 【愛知】尾張國海東郡に在りし村。明治三十九年神守村に合す。
マセ (眞瀨) 【茨城】常陸國筑波郡の村。六百三十二。
マセ (馬瀬) 飛騨國益田郡の村。飛騨川の一支流馬瀬川の谷に沿ひ、東西一里南北七里に亘り、美濃の郡上谷と一嶺を以て相隔つ。郵便局あり。六百六十一。
マセ (開瀬) 【新潟】越後國四浦原郡の村。彌彦山の西なる海濱とす。此地に銅坑あり。一年製鍊高八、七八二〇斤(前書)に及ぶ。六百六十四。
マセカワ (馬瀬川) 飛騨國益田郡に在る川。飛騨川の一分支なり。水源、大野郡大原南流す。其谷は美濃國郡上谷と一嶺を以て相隔つ。
マセグチ (樋口) 【新潟】越後國西頸城郡能生谷村の大字。権現嶽の麓なり。此地畷所に天然瓦斯逸出。村民之を利用して燃料に供す。嘗て十餘の試井を掘りて、石油の採掘を試みしも、地水の湧き甚だしく、好結果なかりしといふ。
マセトウザン (間瀬銅山) 越後國西浦原郡の西端に在る銅山。三島郡界の彌彦山北西麓にして、交通極めて便なり。元禄元年初めて採掘し、文政末年より天保に亘り、一年の出銅約二萬五千貫に達せりといふ。地質は第三紀層と、是を貫き噴流したる火山岩との二にして、火山岩は青色の集塊岩及粒狀安山岩なり。鑛脈は火山岩に胚胎せられ、鑛種は黄鐵鑛、銅鑛、雜ふる黄銅鑛にして、閃亜鉛鑛、錳鐵鑛等を伴隨す。鑛石の歩止りは一割七八分より二割に當り、一ヶ年十萬斤内外精銅の製出あり。
マソウハントウ (馬瀬半島) 【臺灣】臺灣の北角なる富貴角を距る南東八里に在る半島。基隆港の西北三里に斗出し、其北西角は顯著なる沙紅石(凝沙石)の山にして、高二八八尺。其北西面は懸崖峭壁割立す。此半島の西に深入灣あり。馬瀬灣といふ。其中央に一嶼あり。又半島の南東に横徑三哩の灣あり。基隆港口は此灣の南東更に二哩とす。
マタキ (眞瀨) 【巖手】陸中國西磐井郡の村。六百五十七。
マタクマ (全隈) 【茨城】常陸國東茨城郡山根村の大字。一に又熊に作る。和名抄那珂郡全隈郷の本郷とす。
マタノ (又野) 【神奈川】相模國津久井郡の村。六百三十二。
マタノ (俣野) 【神奈川】相模國鎌倉郡の村。増川を隔て、高座郡西俣野村と相對す。此兩地は鎌倉氏の時大庭氏の一族俣野氏の居りし所とす。六百三十五。
マダラオサン (斑尾山) 信濃國上水内郡野尻湖芙蓉湖の東に時つ消火山。關田山脈の西端に在りて、海拔五〇六六尺。山形不完全なる圓錐形を成し、北東南の三方は漸次に傾きて第三紀層の丘陵を覆ひ、西方は傾斜稍急にして二條の大豁谷山頂より起り、其中間に一山脊を夾む。此山脊は延びて湖畔に盡き、兩外側は小丘となりて湖の周圍を擁す。此により地學者は説をなして云、此山嘗て一大破裂をなし、其西部を破壊し、碎片の大塊は山下に累積せり、小なるものは遠く飛散して湖邊の小丘を造り、其中央に生ぜし水窟は即ち野尻湖なりと。此山を構造する岩石は其露出甚だしく、唯中央山脊の部分に於て之を見るを得べし。主として細粒淡灰色の輝石富土岩及飯綱山に特異なる富士岩より成る。其他は多く褐色塩基を以て覆はれ、時に其下部に角礫凝灰岩の分解せるものあり。斑尾山の北方に袴岳、東南に舟竹山といふ圓錐形の小丘あり、共に寄生火山なりといふ。(山崎直方、地質調査報文に據る)。
マダラシマ (馬渡島) 肥前國東松浦郡名古屋村の海上八里一六町に在る島。周圍三里二五町。漁業採蠶の利多し。島の最高峯は高七九五尺。其頂平圓。二山肩により二郷を載す。近世は専らマスタと号す。
マスタ (沙田郡) 【廣島】安藝國、豐田郡に見よ。
マスタノイケ (益田池) 弘仁十四年勅旨ありて大和國高市郡久米の南、櫛隈の間に造れる池。弘法大師其功を記して碑文を勒す。後世地廢し、碑も又亡ぶ。今久米寺の邊、花出山の際に僅に其址残り、其西の池尻の地は此池の口なりしといふ。
マスタツカ (麻塚) 【愛知】三河國碧海郡に在りし村。明治三十九年上郷村に入る。
マスタミ (益宮) 【愛知】三河國西加茂郡に在りし村。明治三十九年高橋村に入る。
マスタミ (増宮) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の村。六百三六。
マスタホ (増穂) 【千葉】上總國山武郡の村。六百五十九。
マスタ (山梨) 甲斐國南巨摩郡の村。六百五十七。
マスタ (増田) 【千葉】安房國安房郡平郡瀧田村の大字。安房の西海岸より舊朝夷郡丸山川の谷に出づる山間とす。僻偏の地にして、他村との交通少く、人民樸直なり。他村のものは増田の馬鹿といふて嘲ると。房總志料に記す。村高二三三石ありと。
マスタ (眞瀨田) 【愛知】尾張國中島郡の舊庄名。眞瀨田にも作る。今、一ノ宮町及妙興寺村邊とす。一ノ宮に眞瀨田神社あり。
マスタ (マシヨウシ) (増山城址) 【富山】越中國東礪波郡檜原野村大字増山に在る城

マチダ

マチダ(町田) 【東京】武蔵國南多摩郡の村相模國高座郡に接する地にして八王子保土谷道の間に在り其首邑を原町田といひ毎月七日に市をなし近郷の人集まるを以て宿驛の状をなす郵便局あり八三六六

マチナト(牧港) 【牧港】を見よ。
マチノ(町野) 【石川】能登國鳳至郡の村合三三三
マチノカワ(町野川) 能登國鳳至郡に在る川水源、柳田村大字富目東流して柳田に至り上町野川を合せて時國に至り海に入る流程九里上流を岩瀬川又大野川と呼ぶ

マチミ

マチミ(町見) 【愛媛】伊豫國西宇和郡の村八三三三
マチヤ(町屋) 【茨城】常陸國久慈郡河内村の大字水戸柳倉道に當り一小站を成す郵便局あり太田町の北約一里

マチヤカワ(町屋川) 伊勢國に在る員辨川下流の稱
マチヤマクチ(町山口) 【熊本】肥後國天草郡本渡町の舊稱
マツアイ(松合) 【熊本】肥後國宇土郡の村宇土半島の南部にして八代海に臨む宇土三角間の街道に沿ひ其驛を松合といひ郵便局あり大字大見に宇土爲光の墓あり爲光は菊池氏の庶流なり文龜元年反逆を謀り限府城を襲ひ能運を走らし終に限府に居りて自ら肥後守護と稱す三年能運の臣義兵を擧げ高瀬に戦ふ爲光敗績し宇土に走り終に此所に誅せらる八三三三

マツイ

マツイ(松浦) 【新潟】越後國北蒲原郡の村八三三三
マツイワ(松岩) 【宮城】陸前國本吉郡の村八三三三
マツウメ(松梅) 【佐賀】肥前國佐賀郡の村八三三三

マツウラ(松浦) 【長崎】佐賀郡の村八三三三
マツウラ(松浦) 【佐賀】肥前國佐賀郡の村八三三三
マツウラ(松浦) 【佐賀】肥前國佐賀郡の村八三三三

マツカ

マツカ(松江) 【東京】武蔵國南葛飾郡の村八三三三
マツカ(松江) 【東京】武蔵國南葛飾郡の村八三三三

マツカ(松江) 【東京】武蔵國南葛飾郡の村八三三三
マツカ(松江) 【東京】武蔵國南葛飾郡の村八三三三

マツカ

マツカ(松江) 【東京】武蔵國南葛飾郡の村八三三三
マツカ(松江) 【東京】武蔵國南葛飾郡の村八三三三

マツカ

マツカ(松江) 【東京】武蔵國南葛飾郡の村八三三三
マツカ(松江) 【東京】武蔵國南葛飾郡の村八三三三

マツカ

マツカ(松江) 【東京】武蔵國南葛飾郡の村八三三三
マツカ(松江) 【東京】武蔵國南葛飾郡の村八三三三

マツカ

マツカ(松江) 【東京】武蔵國南葛飾郡の村八三三三
マツカ(松江) 【東京】武蔵國南葛飾郡の村八三三三

マツサキ(松前) 【愛媛】伊豫國伊豫郡の村。マツサキとも呼ぶ。古書に眞崎又は正木に作る。松山市の西南二里半の海濱に在り。宇和街道の一市街にして、伊豫鐵道の停車場あり。居民多くは漁業を業とす。松前城址は天正十五年加藤嘉明松前六萬石を賜はり此に城く。關ヶ原役嘉明東軍に應じ、其將領十成を以て留守せしむ。西軍毛利氏の將村上掃部來り向ふ。十成伴り應じ、俄に掃部の陣を襲ひ之を斬り、終に毛利氏の軍を卻く。嘉明功を以て十四萬石を加封せらる。乃ち更に温泉郡勝山に城き、之に移り、松前廢墟となる。金蓮寺は後堀河院寛喜三年の草創にして、僧明海上人の開基といふ。本尊は藥師如來なり。玉生八幡は金蓮寺とも別當たりし大社にして、莊内六十三町に其社領たりしといふ。合六六六。

マツシマ(松島) 【長崎】肥前國四波野郡の村。合六六六。松島とも見ゆ。【山梨】甲斐國中巨摩郡の村。荒川の岸に在り。甲府の北口より葦崎に通ずる道に當る大邑にして、富商豪農多し。合三三三。【長野】信濃國上伊那郡中箕輪村の字。天龍川の右岸なる一小市街にして、郵便局あり。戦國の際伊奈侍の一家松島氏の居りし所なり。元禄十五年太田氏(駿河守資真の後五千石の陣屋を置きしが、寶曆七年廢止)。【宮城】陸前國宮城郡の村。合六六六。松島とも見ゆ。【青森】陸奥國北津輕郡の村。合六六六。【岡山】備中國都窪郡庄村の大字。菅茶山路上所見の詩に、田浦浮舟大似津、女兒換得幾艘輕、尾裝稗稻首裝飾、自在東西南北行。【徳島】阿波國板野郡の村。合三三三。

マツシマ(松島) 【長崎】肥前國四波野郡の村。合六六六。松島とも見ゆ。【山梨】甲斐國中巨摩郡の村。荒川の岸に在り。甲府の北口より葦崎に通ずる道に當る大邑にして、富商豪農多し。合三三三。【長野】信濃國上伊那郡中箕輪村の字。天龍川の右岸なる一小市街にして、郵便局あり。戦國の際伊奈侍の一家松島氏の居りし所なり。元禄十五年太田氏(駿河守資真の後五千石の陣屋を置きしが、寶曆七年廢止)。【宮城】陸前國宮城郡の村。合六六六。松島とも見ゆ。【青森】陸奥國北津輕郡の村。合六六六。【岡山】備中國都窪郡庄村の大字。菅茶山路上所見の詩に、田浦浮舟大似津、女兒換得幾艘輕、尾裝稗稻首裝飾、自在東西南北行。【徳島】阿波國板野郡の村。合三三三。

マツサキ(松前) 【愛媛】伊豫國伊豫郡の村。マツサキとも呼ぶ。古書に眞崎又は正木に作る。松山市の西南二里半の海濱に在り。宇和街道の一市街にして、伊豫鐵道の停車場あり。居民多くは漁業を業とす。松前城址は天正十五年加藤嘉明松前六萬石を賜はり此に城く。關ヶ原役嘉明東軍に應じ、其將領十成を以て留守せしむ。西軍毛利氏の將村上掃部來り向ふ。十成伴り應じ、俄に掃部の陣を襲ひ之を斬り、終に毛利氏の軍を卻く。嘉明功を以て十四萬石を加封せらる。乃ち更に温泉郡勝山に城き、之に移り、松前廢墟となる。金蓮寺は後堀河院寛喜三年の草創にして、僧明海上人の開基といふ。本尊は藥師如來なり。玉生八幡は金蓮寺とも別當たりし大社にして、莊内六十三町に其社領たりしといふ。合六六六。

マツサキ(松前) 【愛媛】伊豫國伊豫郡の村。マツサキとも呼ぶ。古書に眞崎又は正木に作る。松山市の西南二里半の海濱に在り。宇和街道の一市街にして、伊豫鐵道の停車場あり。居民多くは漁業を業とす。松前城址は天正十五年加藤嘉明松前六萬石を賜はり此に城く。關ヶ原役嘉明東軍に應じ、其將領十成を以て留守せしむ。西軍毛利氏の將村上掃部來り向ふ。十成伴り應じ、俄に掃部の陣を襲ひ之を斬り、終に毛利氏の軍を卻く。嘉明功を以て十四萬石を加封せらる。乃ち更に温泉郡勝山に城き、之に移り、松前廢墟となる。金蓮寺は後堀河院寛喜三年の草創にして、僧明海上人の開基といふ。本尊は藥師如來なり。玉生八幡は金蓮寺とも別當たりし大社にして、莊内六十三町に其社領たりしといふ。合六六六。

マツサキ(松前) 【愛媛】伊豫國伊豫郡の村。マツサキとも呼ぶ。古書に眞崎又は正木に作る。松山市の西南二里半の海濱に在り。宇和街道の一市街にして、伊豫鐵道の停車場あり。居民多くは漁業を業とす。松前城址は天正十五年加藤嘉明松前六萬石を賜はり此に城く。關ヶ原役嘉明東軍に應じ、其將領十成を以て留守せしむ。西軍毛利氏の將村上掃部來り向ふ。十成伴り應じ、俄に掃部の陣を襲ひ之を斬り、終に毛利氏の軍を卻く。嘉明功を以て十四萬石を加封せらる。乃ち更に温泉郡勝山に城き、之に移り、松前廢墟となる。金蓮寺は後堀河院寛喜三年の草創にして、僧明海上人の開基といふ。本尊は藥師如來なり。玉生八幡は金蓮寺とも別當たりし大社にして、莊内六十三町に其社領たりしといふ。合六六六。

マツサキ(松前) 【愛媛】伊豫國伊豫郡の村。マツサキとも呼ぶ。古書に眞崎又は正木に作る。松山市の西南二里半の海濱に在り。宇和街道の一市街にして、伊豫鐵道の停車場あり。居民多くは漁業を業とす。松前城址は天正十五年加藤嘉明松前六萬石を賜はり此に城く。關ヶ原役嘉明東軍に應じ、其將領十成を以て留守せしむ。西軍毛利氏の將村上掃部來り向ふ。十成伴り應じ、俄に掃部の陣を襲ひ之を斬り、終に毛利氏の軍を卻く。嘉明功を以て十四萬石を加封せらる。乃ち更に温泉郡勝山に城き、之に移り、松前廢墟となる。金蓮寺は後堀河院寛喜三年の草創にして、僧明海上人の開基といふ。本尊は藥師如來なり。玉生八幡は金蓮寺とも別當たりし大社にして、莊内六十三町に其社領たりしといふ。合六六六。

マツサキ(松前) 【愛媛】伊豫國伊豫郡の村。マツサキとも呼ぶ。古書に眞崎又は正木に作る。松山市の西南二里半の海濱に在り。宇和街道の一市街にして、伊豫鐵道の停車場あり。居民多くは漁業を業とす。松前城址は天正十五年加藤嘉明松前六萬石を賜はり此に城く。關ヶ原役嘉明東軍に應じ、其將領十成を以て留守せしむ。西軍毛利氏の將村上掃部來り向ふ。十成伴り應じ、俄に掃部の陣を襲ひ之を斬り、終に毛利氏の軍を卻く。嘉明功を以て十四萬石を加封せらる。乃ち更に温泉郡勝山に城き、之に移り、松前廢墟となる。金蓮寺は後堀河院寛喜三年の草創にして、僧明海上人の開基といふ。本尊は藥師如來なり。玉生八幡は金蓮寺とも別當たりし大社にして、莊内六十三町に其社領たりしといふ。合六六六。

マツシロ(松代) 【長野】信濃國埴科郡の町。川中島を隔て、長野市と相對せる一市街にして、舊眞田氏十萬石の城下たり。廢藩後漸く衰へ、殊に鐵道車馬を屋代町に置きしより益振はず。但し近年養蠶製絲の業に勉め、又蠶及蠶を産するに至れり。屋代驛へ二里、長野へ二里半、町立農工商學校、郵便局あり。松代城址はもと貝津(海津)にも作る城といひ、又川中島城の稱あり。世に武田氏の軍師山本晴行の築く所と傳へ、甲州流軍學者が築城の模範とせしものなり。武田上杉二氏が川中島を争ふに當り常に要害とせし所とす。天正十年上杉景勝之を奪ひ、上倉純長をして守らしめ、後、上條義春を置けり。慶長四年森忠政(森長一)の弟川中島十二萬石を賜はり、此城に入り、此頃より松代と呼ぶ。慶長八年徳川忠輝の有となり、其敗死の後は松平忠昌酒井忠勝を経て、元和八年眞田伊豆守信幸上田より移り、封十三萬石後、上州沼田三萬石を族信澄に分ち、本宗十萬石世襲して明治維新に至る。白鳥神社は町の南に在り。もと日本武尊を祀りしが、文化年中藩主修めて其祖を配祀す。社殿莊麗なり。其丘を舞鶴山といふ。長國寺は藩主眞田氏の菩提所に於て、當國曹洞宗の總本山なり。舊寺領百石。合六六六。

マツシロ(松代) 【長野】信濃國埴科郡の町。川中島を隔て、長野市と相對せる一市街にして、舊眞田氏十萬石の城下たり。廢藩後漸く衰へ、殊に鐵道車馬を屋代町に置きしより益振はず。但し近年養蠶製絲の業に勉め、又蠶及蠶を産するに至れり。屋代驛へ二里、長野へ二里半、町立農工商學校、郵便局あり。松代城址はもと貝津(海津)にも作る城といひ、又川中島城の稱あり。世に武田氏の軍師山本晴行の築く所と傳へ、甲州流軍學者が築城の模範とせしものなり。武田上杉二氏が川中島を争ふに當り常に要害とせし所とす。天正十年上杉景勝之を奪ひ、上倉純長をして守らしめ、後、上條義春を置けり。慶長四年森忠政(森長一)の弟川中島十二萬石を賜はり、此城に入り、此頃より松代と呼ぶ。慶長八年徳川忠輝の有となり、其敗死の後は松平忠昌酒井忠勝を経て、元和八年眞田伊豆守信幸上田より移り、封十三萬石後、上州沼田三萬石を族信澄に分ち、本宗十萬石世襲して明治維新に至る。白鳥神社は町の南に在り。もと日本武尊を祀りしが、文化年中藩主修めて其祖を配祀す。社殿莊麗なり。其丘を舞鶴山といふ。長國寺は藩主眞田氏の菩提所に於て、當國曹洞宗の總本山なり。舊寺領百石。合六六六。

マツシロ(松代) 【長野】信濃國埴科郡の町。川中島を隔て、長野市と相對せる一市街にして、舊眞田氏十萬石の城下たり。廢藩後漸く衰へ、殊に鐵道車馬を屋代町に置きしより益振はず。但し近年養蠶製絲の業に勉め、又蠶及蠶を産するに至れり。屋代驛へ二里、長野へ二里半、町立農工商學校、郵便局あり。松代城址はもと貝津(海津)にも作る城といひ、又川中島城の稱あり。世に武田氏の軍師山本晴行の築く所と傳へ、甲州流軍學者が築城の模範とせしものなり。武田上杉二氏が川中島を争ふに當り常に要害とせし所とす。天正十年上杉景勝之を奪ひ、上倉純長をして守らしめ、後、上條義春を置けり。慶長四年森忠政(森長一)の弟川中島十二萬石を賜はり、此城に入り、此頃より松代と呼ぶ。慶長八年徳川忠輝の有となり、其敗死の後は松平忠昌酒井忠勝を経て、元和八年眞田伊豆守信幸上田より移り、封十三萬石後、上州沼田三萬石を族信澄に分ち、本宗十萬石世襲して明治維新に至る。白鳥神社は町の南に在り。もと日本武尊を祀りしが、文化年中藩主修めて其祖を配祀す。社殿莊麗なり。其丘を舞鶴山といふ。長國寺は藩主眞田氏の菩提所に於て、當國曹洞宗の總本山なり。舊寺領百石。合六六六。

マツシロ(松代) 【長野】信濃國埴科郡の町。川中島を隔て、長野市と相對せる一市街にして、舊眞田氏十萬石の城下たり。廢藩後漸く衰へ、殊に鐵道車馬を屋代町に置きしより益振はず。但し近年養蠶製絲の業に勉め、又蠶及蠶を産するに至れり。屋代驛へ二里、長野へ二里半、町立農工商學校、郵便局あり。松代城址はもと貝津(海津)にも作る城といひ、又川中島城の稱あり。世に武田氏の軍師山本晴行の築く所と傳へ、甲州流軍學者が築城の模範とせしものなり。武田上杉二氏が川中島を争ふに當り常に要害とせし所とす。天正十年上杉景勝之を奪ひ、上倉純長をして守らしめ、後、上條義春を置けり。慶長四年森忠政(森長一)の弟川中島十二萬石を賜はり、此城に入り、此頃より松代と呼ぶ。慶長八年徳川忠輝の有となり、其敗死の後は松平忠昌酒井忠勝を経て、元和八年眞田伊豆守信幸上田より移り、封十三萬石後、上州沼田三萬石を族信澄に分ち、本宗十萬石世襲して明治維新に至る。白鳥神社は町の南に在り。もと日本武尊を祀りしが、文化年中藩主修めて其祖を配祀す。社殿莊麗なり。其丘を舞鶴山といふ。長國寺は藩主眞田氏の菩提所に於て、當國曹洞宗の總本山なり。舊寺領百石。合六六六。

へ五哩六六鎮。郡役所、警察署、郵便局等あり。六六三。居民概ね工商を業とし、染木綿、菜種油及蠶繭等を出す。又あんな餅を此地の名物とす。松任城址は富樫氏の族林貞光の二男、松任龍光以下代々之に居りしが、其後一向宗賊徒の將鋪木常專以下三代之に據れり。天正五年上杉謙信の陥る所となり、後若林半人入之に居りしを、八年佐久間盛政の奪ふ所となり、十一年前田利長四萬石を以て之に居りしが、十三年越中守山城に移り、十五年丹羽長重四萬石を以て之に代り、慶長二年小松に徙る。前田氏の有となるに及び、赤座吉家をして之に守らしめたり。若宮八幡は縣社に列す。康平七年源頼義鎌倉龜岡八幡を勧請せしものにて、爾來武門の歸依厚く、地方に名高き舊祠とす。金劔神社は縣社なり。古來近郷の産土神にして、富樫氏以降國守の尊崇淺からず。本誓寺は東派眞宗に屬し、釋圓眞の開基といふ。聖興寺も同宗なり。明應三年僧明源の開基にして、初め徳光寺といへり。有名な千代女の墓あり。

斥圃の海岸なりしが、萬治三年木庄重政初て拓築の工事を起し、寛文二年鹽田成り、七年松永の稱を立てしに、數年ならずして富庶の大邑となる。今も製鹽業甚た盛なり。六四三。

【文籍】松永村得能正通書

マツナカワン(松永灣) 備後國沼隈郡の西部に在る灣向島其口に横はり、二口を開く。南は月崎瀬戸、西は即ち尾道瀬戸なり。灣内水淺く、高潮の時小船を通ずるのみ。灣頭に鹽田又は新墾地多し。又灣の東部に松永町あり、鹽業の盛なる地とす。

マツナミ(松波) 【石川】能登國珠洲郡に在りし村。明治四十年木郡村に合す。能登内海路の一驛にして、東北に向ひ海に面す。文明六年國主高山義統の三男義智三千貫を以て封ぜられし所に、子孫天正五年まで居りしが、上杉氏の爲に滅ぼさる。眞宗松岡寺あり。

マツネ(松根) 【山形】羽前國東田川郡東村の大字。鶴岡山形間の街道に當る。

マツネチセネ(松根) 【北海】石狩國石狩郡の二郡に跨る山。高三三三七尺。

祠あり。合三雲、松尾神社は大字上山田に在り。松尾山に倚る。上古より鎮座する所にして、聖武天皇の時始て大社に列せらる。一條天皇駕親謁あり。是松尾行幸の始なり。又源賴朝社頭に謁し、願文を捧げ、黄金百兩、神馬十疋を獻せし事あり。明治維新の際官幣大社に列せらる。祭神は大山咋神及市杵島姫神にして、古來靈現著しとて、世人畏敬し、靈猛神といふ。延暦年中京都守護神となし、爾來早潦災疫には必ず奉幣使を遣はさる。特に造酒の神と稱し、酒造家の尊崇大方ならず。正殿、拜殿、電殿、所神、殿等境内に列し、攝社末社亦多く、山上山下に散在し、洛西第一の大社なり。山上を別雷峯と云ひ、正殿の西北十町を隔つ。今、山嶺上に在る巨岩は祭神の始て降臨せし所なりといふ。衣笠山の東麓を下山田といひ、舊稱を葉室といふ。地蔵院は大字下山田に在り。俗に谷ノ地蔵と稱す。もと衣笠内府(家)川の山莊の地なるを以て衣笠山と號せり。細川頼之の再興に成りしが、應仁の兵火に罹り、今僅に其遺址を見る。細川頼之の墓あり。西芳寺は大字下山田に在り。天平年中行基開創四十九寺の一にして、西方寺と稱せり。後空海在住し、高岳親王落飾の後當寺に在り。又北條時頼巡錫の日假當寺といふ名刺たりしが、後荒廢せるを、曆應年中夢窓國師之れを再興し、西芳寺と改む。林泉は洛西の一名園にして、關中湘南軒、潭北軒等あり。淨住寺に

興聖菩薩の中興にして、元弘年中兵燹に罹り、廢絶する事二百數十年、元祿年間鐵牛禪師之を再建せり。本尊は如意輪觀世音。眞如寺は貞觀年中藤原眞經母の爲に其別墅を寺となしたるものにして、元弘年中兵火に罹り、久しく荒廢せしが、萬治年中日通上人之を再建し、日蓮宗となれり。本尊は慈覺大師作の觀世音なり。月讀社は大字松室に在り。松尾七社の一にして、顯宗天皇の時鎮座す。上古は桂川の水邊に在りしが、齊衡三年今の地に移る。仁壽三年痘瘡大に流行せし時、神託あり、靈現著しかりしより、後、痘瘡の流行する毎に此社に祈るもの多しといふ。【大阪】和泉國泉北郡の地名。一谷を成す。今、北松尾、南松尾の二村となる。松尾寺は南松尾村に在り。阿彌陀山と號し、天台宗なり。役小角の開基といふ。往古は朝廷の勅願寺なりしが、後世敗績し、慶長七年豐臣秀頼之を再興す。堂宇は石燈の上に在り。如意輪觀音を安置す。本堂の右に不動堂、左に善女龍王祠あり。一觀に當寺は平家壽水の敷に、一族の首を埋めし所にして、俗にカマヤ堂といふとあり。

マツノオ(松野尾) 【新潟】越後國四浦原郡の村。合二九三。

マツノオテラ(松尾寺) 【滋賀】近江國愛知郡秦川村の大字。高取山の麓にして、松尾寺あり。此寺一に金剛輪寺と稱し、天平九年僧行基開基と傳ふ。本堂方七間三重塔、樓門、鐘樓等あり。尙往古大刹の觀を

マツノオ(松尾山) 豐前國築上郡の南嶺。山國川の北に峙ち、倉川村、友枝村等其麓に在り。山中に醫王寺あり。大化元年能行上人の開基にして、彦山に屬せり。

マツノキ(松之木) 【岐阜】美濃國海津郡吉里村の大字。高須町を距る東一里。慶長の初徳永壽昌二萬石を食みて、此地に在りしが、嗣々原役東軍に應じ、高須城を攻取り功あり。後、高須城主となる。

マツノヤマ(松之山) 【新潟】越後國東頸城郡の村。郡の東部。海川上游なり。松之山は舊稱名にして、俗に松山六十六村と唱へ、今、本村及浦田、奴奈川、松代山平の五村となる。謡曲に松山鏡あり。之をマツヤマと訓みしを以て、往々之の字を略して唱ふ。松之山温泉は大字湯本に在り。鹽類泉にして、溫度一三〇度。其地四面山峰屏立し、絶景なるを以て浴客常に絶えず。合七三六。

【文籍】松ノ山温泉案内齋藤亮司書

マツバ(松葉) 【愛知】尾張國愛知郡に在りし村。明治三十九年常磐村に入る。

マツバカワ(松葉川) 【高知】土佐國高岡郡の村。合二八七。

マツバセ(松橋) 【熊本】肥後國下益城郡の町。郡の西隅に在る一都會にして、宇土郡と接す。熊本、鹿兒島間の國道に當り、前に海を控へ、鹿兒島米ノ津等に汽船の便あり。又鐵道九州線の車驛ありて、海陸

交通の便を占め、大草商船の輻湊する所とす。郡役所、警察署、郵便局等あり。熊本を距る七里一町。松橋神社神備舟乘、星斗滿天夜氣凝、寒臥舟腹如凍塊。天明製鐵天草島、島民半以魚代稻、炊飯魚香味好。南望海波閃虹、噴影起伏如浮電。說是薩州黑浪門、自松橋上舟、賴山陽。明治十年の役薩軍に據り、官軍の連絡を絶つ。四月一日官軍二隊に分れ、一は松橋の正面國道より襲ひ、一は退潮に乗じ、後面より突入す。賊腹背敵を受け、拒げ能はずして潰走す。合七三六。

マツバヤシ(松林) 【神奈川】相模國高座郡に在りし村。明治四十一年茅ヶ崎町の一部分となる。

マツバラ(松原) 【京都】山城國葛野郡衣笠村の大字。もと香隆寺の地なり。小松原ともいふ。等持院の東北に接す。眞如寺は臨濟宗にして、禪家尼院の第三に班す。近代後水尾上皇之を再興し、皇女月鏡尼公の住所となし給へり。【大阪】河内國中河内(舊丹北郡)の村。近世松原莊といへり。南北朝の頃松原城あり。今其址詳ならず。阿保親王、在原行平、業平の父の居館址は大字阿保に在り。今、親王池あり。來日皇子の墳は大字西大塚に在り。皇子は新羅を征し、病みて筑紫に薨す。土師ノ連猪手をして、河内地生山の岡に葬らしむと古史に在るもの是なり。反正天皇の皇居丹比樂、宮址は大字上田に在り。今の廣庭神社の地是なり。合四二六。

【大阪】河内國中河内郡、田村の大字。校岡の西に接し、大阪玉造口に至る捷路あり。往時は大和川の支流玉串川此にて一支を分ち、北流して草香江深野池に入り、慶長十九年片桐且元大阪城を去り、護送し來れる七隊長と此地に訣別し、茨木に赴けり。【長崎】肥前國東彼杵郡の村。大村灣の北岸に在りて、郵便局及鐵道車驛あり。大村驛より四哩六六鎮。彼杵驛へ五哩四一鎮。合九三六。【茨城】常陸國多賀郡の町。郡の首邑にして、陸前濱街道に當り。西に山を負ひ、東は外洋に面す。水戸を距る約一三哩。郡役所、警察署、郵便局等あり。鐵道常磐線高萩驛あり。合四三七。【滋賀】近江國犬上郡の村。合二二二。【秋田】羽後國南秋田郡旭川村の字。秋田市より北一里半を隔つ。補陀寺とて、曹洞宗の名刹あり。正平年中秋田城介守季の創建。第二世住職無等真雄知尙は藤原藤房朝なりと傳へ、其眞及及自筆の碧巖錄等を藏す。末寺一百五十餘を有せり。此地の柿に無核のものあり。松原柿とて賞美せらる。【福井】越前國敦賀郡の村。敦賀灣の西側を成せる半島地東面一帶をいふ。大字原に淨土宗、西福寺あり。應安元年僧良如開基。歴代の勅願所にして、西福の號は後光嚴天皇の賜はる所といふ。合四四五。【鳥取】延喜式に記せる伯耆國の驛名。今、東伯郡下北條村大字松神が、又は中北條村の天神川の渡口ならんといふ。【岡山】備中國川

上郡の村。合三三三。【和歌山】紀伊國日高郡の村。合三三七。【香川】讃岐國大川郡の村。海川の東に沿へる地にして、其東に鹽田あり。良好の食鹽を出す。合三三三。

マツバラ(松原湖) 信濃國北佐久郡北牧村に屬する湖。曲川の西岸に近し。バケ岳立科山の間なる裾野に在り。猪名湖ともいふ。大湖、尾長湖の二區に分れ、風景絶佳なり。大湖の東北に諏訪明神あり。武田信玄の崇敬せし神にして、其別當を神光寺といへり。近世社領三十石。

マツバラヤマ(松原山) 備中國川上郡大賀村に在る山。大竹川の南岸に聳え、翠色滴るが如し。古來備中の勝區と稱せらる。常磐なる松原山の深みどり、深くぞ頼む君が千歳を(村上天皇)村雨の中ばはれ行く雲霧に、秋の日清き松原の山(伏見院)軒かき松原山の秋風に夕暮清く月出にけり(同上)。

マツヒサ(松久) 【埼玉】武藏國児玉郡の村。松久は舊那珂郡の庄名にして、近世は那珂全部の總稱にも用ひられたりき。合三七九。

マツブシ(松伏) 【埼玉】武藏國北葛飾郡の舊領名。一に八郷と呼び、幸手領と二合半領との間なる十八村を總べたり。今、松伏領村の大字に松伏の名存す。

マツブシヨウ(松伏領) 【埼玉】武藏國北葛飾郡の村。大字松伏は越ヶ谷驛より常陸下總二國への往還に當り、古利根川に臨み、一小市街を成す。郵便局あり。合

マニサン(摩尼山) 攝津國に在る再度山の古名。因幡國岩美郡中之郷村大字堂寺に屬する山。鳥取市の東北五〇町に在り。帝釋山とも呼ぶ。山中に摩尼寺あり。天台宗にして帝釋天を安置す。仁明天皇承和年中慈覺大師開基と稱す。天正八年豊臣秀吉の兵火に罹り悉く焼失し、近代に至り再建すといふ。仁王門より十三町を登れば奥の院及立岩あり。岩の下に地藏尊あり。此所を才ノ河原といふ。帝釋天示現の舊蹟とぞ。毎年舊曆六月廿六日より會式あり。參籠者多し。●摩岐國周吉郡に在る大満寺山の一名。●淡路國津名郡生穂村の西北に峙つ山。山中に高瀧寺あり。寶珠山と號し。もと圓明寺といふ。海濱より十八町の奥に在り。本尊は藥師如來とす。

マニワケン(眞庭郡) 【岡山】美作國五郡の一。四境、東は吉田久米の二郡、西は伯耆國日野郡備中國阿曾郡南は備前國御津郡備中國上房郡、北は伯耆國東伯郡に接す。東西七里一三町、南北一五里一八町。周圍四六里七町。面積五三万八八九。行政上、勝山・落合・久世の三町及富原川上・美甘・新庄・八束・二川・木山・中和・河内・津田・美川・湯原川・東美和の一四村に分ち、郡役所を勝山町に置く。●二五三六五。●三三。地勢、本郡は國の西端に位し、郡内山岳重疊して北部は殊に險峻を極め、高田川の沿岸勝山久世の邊僅に平地あり。山岳は伯耆國境に延山、三平山、岩穴

山・本吹山、備中の境に在る山。京見山・飛山あり。備前の境に在る龍王山とす。郡の中央には星山・三阪山・向山・雨乞山等あり。河流の大なるものを高田川といふ。郡の殆ど中央を南流し、神代川・備中川・目木川等を集め、備前・美作二國の境に入る。道路は山陰街道・吉田郡より來り、久世・勝山・美甘・新庄の諸驛を経て伯耆國に入る。別に久世町より分れ高田川に沿ひ、釘貫・小川・下長田の諸村を経て伯耆國湯ノ關に通ずるものあり。農産物は米八萬石・麥四萬石・大豆甘藷・菘菜・芋・栗・桑(八萬圓)・林産物一七萬圓、土産物は蠶絲(二三萬圓)・清酒・醬油等とす。本郡は明治三十三年大庭・眞島二郡を合併せるものなり。

マヌイ(眞庭) 【樺太】豊原支廳榮濱出張所管内東海岸の一村落。豊原支廳街道に當り、西海岸に越ゆる要地なり。豊原より二九里三一町、西岸九春内へ七里、樺太頭地の要所なれば、舊時より哨所を置きたり。マノ(眞野) 【新潟】佐渡國佐渡郡の村。眞野の東に沿ふ。順徳天皇の遺蹟あるを以て其名著る。眞野宮は即ち天皇の御廟にして、國府川の口より南方二里に在り。舊眞野寺の御影堂を轉じて神祀となせるものなり。其御影は明治六年後鳥羽天皇水無瀧宮攝津國三島郡に遷し、今は御廟を留めて神體とす。御陵は宮の東南に在り。天皇の御火葬所なり。御骨

は京都大原法華堂陵に納められしかば、遺蹟久しく荒廢せしを、延寶七年佐渡奉行探出して修理を加へ、兆域を定むるといふ。天皇の行在所は今の堂ヶ平の地なりといふ。黒木の御所を構へ置き奉る。折節の御手遊に白菊の清げなるを取り、都忘れと名付け給ふ。今も其根絶えず。年々咲出づるとぞ、俳人丈雲句あり、「花に感あり今更何を忘れ草、但し國分寺にも、和泉村にも、御座所の事を傳へ、今孰れと定め難し。合三三三。●滋賀】近江國滋賀郡の村。琵琶湖の西岸にして、野洲川の吐口と相對す。眞野川と呼ぶ小流、西より來りて湖に注ぐ。中世眞野入江といふ名所ありて、「うづらなく眞野の入江の濱風、尾花なみよる秋の夕暮、からさきや長等の山にあらねども、さいなみよる眞野の秋風」等あり。今は其址埋れて田となれり。合三三三。●福島】磐城國相馬郡の村。古の眞野入江のありし地に於て、陸奥の眞野の入江の片葉蘆あはせて見れば伊勢の濱」といふ古歌により、片葉蘆を生ずといふ。眞野明神・山王祠・八幡宮等あり。八幡宮には孕婦多く祈る。合三三三。

マノカワ(眞野川) 磐城國相馬郡に在る川。水源、長草山東流して鹿島町を過ぎ、外洋に入る。流程八里餘。マノセカワ(萬瀬川) 薩摩國日置郡に在る川。水源、伊作村の山中。川邊郡に入りて清水を合せて、西流して復た日置郡に入り

り、吹上濱より海に注ぐ。流程八里八町。下流一里舟楫を通ず。マノノイケ(眞野池) 攝津國、神戸市を以て見よ。マノノウラ(眞野浦) 攝津國神戸市林田村の内、駒ヶ林・河津川口の間に和田八景の一にして、風光絶佳。淀、鵜橋あり。マノノハマ(眞野濱) 豊前國築上郡椎田町の海濱。豊國のまの濱邊のまなこ地の、たいにもあれば何か歌かん。井蛙集。マノボリ(馬登) 【千葉】上總國君津藩周准郡周南村の大字。マノワン(眞野灣) 佐渡島西岸なる一大灣。一に二見灣といふ。北に蘆ヶ鼻、南に田切須崎斗出し、其口を扼す灣は南西に而し、灣入約四里、潮約三厘半。水深は中央二〇尋内外にして、水底沙殻多し。其端地は二見村の東面細沙底の所とす。水深五六尋。但し南風又は西風強き時は安全ならず。亦灣内所々に險岩暗礁あり。灣頭には新町河原田町・澤根町あり。瀨川灣の東に於て注入す。マハシ(馬橋) 【千葉】下總國東葛飾郡の村。合三三三。マバル(馬原) 【大分】豊後國日田郡の村。合三三三。マヒルサンミヤク(眞畫山脈) 陸中羽後

の界を成して、南北に走れる脊梁山脈の一部。栗駒火山と駒ヶ岳火山との間をいふ。主として第三紀層の砂岩泥板岩及凝灰岩より成り、所々に火山岩及花崗岩の

露出あり。山勢險峻。大深澤山(西一四五尺・三ノ森山三八五四尺・眞畫岳三三三九尺)和賀嶽四七六五尺等の高峯あり。其間に大深澤峰(二九二一尺)・白木峰(一四五尺)・仙岩峰(二二一八尺)等ありて之を横斷す。明治二十九年八月三十一日に起りたる陸羽大地震の中心は、此地方に在りて、山脈の東西に於て略南北に走れる川舟斷層及千屋斷層の生ぜしに因るものなりといふ。マビロ(眞廣) 【北海】釧路國厚岸郡厚岸町の内、厚岸灣の北口なる漁村アイヌ名マツビロ。風俗の義なり。マブイ(摩文仁) 【沖繩】琉球國島尻郡の村。古マブニと訓あり。小度摩文仁・波平・伊原米須の五字より成る。那覇より米須まで五里八町。合三三三。マブチ(馬淵) 【滋賀】近江國蒲生郡の村。鏡山の東北にして、中山道之に懸る。中世佐々木氏の一族馬淵氏此に居る。佐々木四天王の一なり。大字馬淵に木村重成の遺蹟を傳ふ。重成此にて生るとも、重成の室此地に來り一子を生み、後自殺すといふ。合三三三。マブネ(眞舟) 【千葉】上總國君津郡の村。合三三三。マベシユナイ 【北海】天鹽國中川郡中川村御料農地の一小驛。モノナイ驛を距る四里一七町。此附近は明治三十六年貸附を開始し、今農民多し。マベチカワ(馬淵川) 陸奥國三戸郡に在

る川。水源、陸奥國九戸郡の南界なる國界峠附近。古生層地に深谷を作りて、西北流し、陸奥國二月郡の第三紀層地に入り、浪打峠の西方を繞り、淨法寺川を合せて、北流して三戸郡に入り、三戸町の北にて東北に轉じ、其兩岸に多少の第四紀層平地を作り、名久井岳の北を過ぎ、八月町の北に至り、外洋に入る。流程約二五里。下流九里の間二十石船を通ずる事を得。此川は北上川と共に北上山脈の西縁を劃し、各南北に流れ、一大地流線を示す。マホリ(馬堀) 【新潟】越後國西蒲原郡に在りし村。明治三十四年漆山村に合す。ママ(眞間) 【千葉】下總國東葛飾郡市川町の大字。市街の北に當る。弘法寺と呼ぶ日蓮宗の大刹あり。丘陵の半腹に位し、數十級の石燈を登りて達す。仁王門・中門・本堂・常樂堂・祖師堂・釋迦堂等あり。もと眞言宗にして、弘法大師の遺蹟なりしが、建長年中邑主富木氏日蓮に歸依し、改宗すといふ。今日蓮宗六門家の一なり。境内楓樹多く、秋季來賞する者少からず。眞間橋は弘法寺下細流に架せる小橋にして、和歌の名所なり。橋に近く、手兒奈ノ祠といふものあり。萬葉集に山邊赤人の歌、「かつしかの眞間の入江に打なひく、玉藻かりけん手兒奈しそ思ふ」。又新勅撰集に、慈圓法師「かつしかや昔のまの繼橋を、わすれず渡る春霞かな」。●ママ(眞々) 【愛知】尾張國東春日井郡に在りし村。明治三十九年小牧町に合す。又

間々に作り、小牧山の傍なる平野なり。木津川水の灌漑の爲に開けし地といふ。ママモチ(織子餅) 【岐阜】美濃國山縣郡岩野田村大字岩崎の地名。鳥羽川に沿へる一巨岩に、形状餅に似たる突起あるより此稱あり。燈火の名所とす。ママシタ(場下) 【神奈川】相模國足柄上郡福澤村の大字。怒田の高屋の下に在るより名くといふ。土俗屋をママと呼ぶ。マの語は由來古く、萬葉集の相模國歌に見ゆ。ママタ(間々田) 【栃木】下野國下都賀郡の村。大字間々田は奥州街道の一驛にて、鐵道奥羽線の車驛あり。東京上野驛より四三哩三二鐵、車驛より乙女川まで人車鐵道を通じ、是より舟利あり。合三三三。ママン(間々濱) 豊前國下毛郡和田村大字田尻の海濱。古來世に知られたる名所なれども、今は左まで賞するに足らず。萬葉集に、「衣手のまわかの浦のまなこ地の、間なし時なしわかこふらくは、」豊國の間々の濱邊の眞砂地の、まなほにしあらばなにかなげかん。又同書に「天平八年新羅に派遣の使者佐邊海上にて難風に遇ひ、豊前下毛郡分間濱に着し、其難難を追憶して詠める歌八首を載す。其分間は万間を詠りたるなりといふ。「大君のみ、とかしこみ大船の、ゆきのまに、〜やとりするかも。」マミアナ(狸穴) 【東京】武藏國・東京市麻布區を見よ。●茨城】常陸國筑波郡

板橋村の大字。一に狸穴に作る。マミハラ(馬見原) 【熊本】肥後國阿蘇郡の町。日向國に接せる山間の大驛にして、馬見原川に沿ふ。其水東流して日向に入り、延岡・高千穂等と往來の便を興へ、商旅の往來繁く、豪商多し。郵便局あり。熊本を距る一五里。宮地町を距る八里。宮崎縣界へ僅に二一町。合三三三。マミヤ(馬宮) 【埼玉】武藏國北足立郡の村。合三三三。マミヤ(間宮) 【静岡】伊豆國田方郡南村の大字。大場停車場の南に接す。古、馬宮庄と呼べり。間宮八幡宮は往古頗る大社なりしと傳ふ。マミヤカイキョウ(間宮海峡) 韃靼海峡の最狹部の稱。日露戦役の際、海軍地探検家間宮林藏の名を取りて名く。マムロ(馬室) 【埼玉】武藏國北足立郡の村。合三三三。マムロカワ(眞室川) 【山形】羽前國最上郡の村。合三三三。マメサク(大豆谷) 【千葉】上總國山武藩山邊郡東金町の大字。マメシマ(大豆島) 【長野】信濃國上水内郡の村。合三三三。マメタ(豆田) 【大分】豊後國日田郡に在りし町。明治三十四年隈町と合して日田町と改稱す。廣瀬淡路の産地なり。永山城址あり。慶長六年小川光氏二萬石を以て此地に封せられ、月隈山に城き、元和二年石川忠總六萬石を以て此に代る。寛永十

年忠徳下總佐倉に移封の後には幕府領となり代官を置き宇佐郡龍王七萬石を兼治せしむ世に日田代官と呼ぶ天和二年松平直矩此に封ぜられ大に城地を修む將に成らんとして羽州山形に移され再び代官を置き明治維新に至れり

堂あり富國順禮二十七番の札所なり。マヤシモ(馬屋下) 【岡山】備前國御津郡の村合三三三。マヤノ(夕) 【三重】伊勢國飯南郡花岡村の大字。紀州藩の老臣三浦長門守が築を置きし所なり。

坂にして國內に於ける濱海道第一の難路なり山中より寒水石を出す。マランガウ(馬蘭劫) 【馬蘭劫】を見よ。マリコ(丸子) 【東京神奈川】武蔵國横樹郡の舊庄名。多摩川の兩岸に跨り今上丸子は中原村中丸子は御幸村下丸子は荏原原矢口村に属す。戦國頃は城あり。豊島勘解由左衛門太田道灌に攻められ平塚の城を没落して此に籠りし事鎌倉大草紙に見ゆ。文明十八年道灌准后此を過ぎて誅める。東路のまりこの里に行かざり足もやすめすいそぐ暮かな

を守るといへり。【長野】信濃國小縣郡の村依田川の東岸に沿ひ長久保より上田に至る街道に當る郵便局警察分署あり上田を距る四里戦國頃は此所に城あり。丸子氏居り。武田氏に属す。天正十三年徳川勢真田氏の一族海野三郎右衛門を此城に攻めて克たす。白雲色。マリコカワ(丸子川) 相模國に在る酒匂川の古名。瀬子川園子川等に作る。●信濃國に在る依田川の一。マリコカワ(瀬子川) 羽後國仙北郡に在る川。水濁。眞直。若林野を過ぎ大曲町に至り御物川に合す。流程七里一八町。マリフ(麻里布) 【山口】周防國玖珂郡の村安藝國に接せる海村にして岩國町の東北に在り柱島之に属す。新港と稱する小港あり。廣島へ海路一六哩上開へ二五哩新港郵便局あり。白雲色。マリフ(麻里布) 【山口】周防國熊毛郡の村合三三三。マリフウラ(麻里布浦) 萬葉集に「まがらぬき舟し行かすは見えと飽かぬ。麻里布の浦に宿りせましを」といふ。か家路近くありせば見れとあかぬ。麻里布のうらを見せましものな」と等詠める。地。周防國玖珂郡麻里布村室木ノ浦なりといふ。マリヤ(眞里谷) 【千葉】上總國君津郡の東北偏の地名。香信山の西麓とす。今馬來田村の大字となる。城址あり。康正年中武田信長の築く所なり。信長は甲斐の國守武田信綱の次子なり。本城及巖南二城

を築き子孫此に居る事七世なりといふ。眞如寺は曹洞宗の一大寺にして寛正五年城主武田信興の祈願。正慶禪師の開基といふ。其隆盛。壯大國內に稀なりしが。明治元年徳川幕府の脱土来り。終に火災に罹り復た舊觀なし。舊寺領三十三。マル(丸) 【千葉】安房國安房郡舊朝夷郡の村丸山川の上流なる一豁谷を占めたり。和名抄滿祿郷の地にして古事記の丸高王。日本紀の椀子。皆此所の事なり。又萬葉集に安房朝夷郡上丁丸子連大歳あり。後略して萬呂といふ。保元年中丸ノ太郎あり。源義朝に従ふ。治承四年源賴朝の安房に入るや丸信俊之に従ひ功を以て朝夷郡を領し子孫世襲し遂に郡名を改めて丸郡といふに至る。嘉吉年中安西氏の滅ぼす所となる。其城址は丸本郷に在り。同所の安樂寺は即ち丸氏累世の香華院なり。白雲色。マルオカ(丸岡) 【福井】越前國坂井郡の町。郡の東部に在り。北陸本道此に懸る。有馬氏五萬石の舊城下にして東西六町南北一町。物産に白木綿素麩あり。福井市より三里一三町。三國町へ三里一五町とす。丸岡城址は町の北に在り。霞城と呼び天正三年柴田勝豐の築く所といふ。天正十三年青木忠元四萬六千石を以て此地に封ぜられ關ヶ原役西軍に黨し。除封。結城秀康入國の時老臣今村氏定を置く。氏定後罪を得。本多成重此に代り。四萬石を食す。元禄八年除封。有馬永純五萬

石を以て越後國糸魚川より移封世襲して明治維新に至る。縣社。國神社は俗に神明社と呼ぶ。椀子王三國公の祖。大連皇子即ち繼體天皇外戚の祖を祀る。近年高向神社をも境内に移せり。白雲色。マルカプト(丸甲) 【愛知】尾張國中島郡に在り。村明治廿九年祖父江町に合す。マルカミ(丸神) 【武蔵】國秩父郡兩神村小森山の中に在る瀧。三段になり。降る。第一級は六間。第二級は七間。其下に深澤あり。第三級は高二十五六間。秩父山中第一の絶景と稱せらる。マルガメシ(丸龜市) 【香川】讃岐國の市。明治三十二年市制を施す。讃岐海岸の中央に位し。東は土器川を以て綾歌郡に西及南は仲多度郡に接し。北方一帯海に臨み。遙に備前の下津井と對す。市街は東西一町餘南北一二町餘にして三十箇町より成る。戸數六五三三。歩兵第十二聯隊兵營。警察署。高松地方裁判所支部。區裁判所。郵便局。稅務監督局。中學校。高等女學校。諸會社。銀行等あり。讃州第二の都會とす。此地は四國國道の起點に當り。中國。四國交通の連絡點なり。國道二條。一は東高松を経て阿波國に通じ。一は西南仲多度郡龍川村に至り分れて二となり。南するものは琴平を経て阿波國に入り。西するものは三豐郡を貫て伊豫國に通す。又市街の北を貫通して鐵道あり。西は多度津を経て琴平に至り。東は宇多津。坂出を経て高松に通す。市の北端に新

堀あり。昔は那珂湊と稱し。金毘羅參詣の要津なりしが。今は港内水浅く。大船の出入に便ならず。無敵艦。帆筆。海。天。春風。影映。港門。烟。隨。潮。去。隨。潮。來。多。長。鼻。山。香。客。船。那。珂。港。金。鐘。朝。風。の。ふ。く。に。ま。か。せて。百。船。の。な。かの。湊。を。さ。して。よ。り。來。る。【同】城址は市街の南。龜山といへる丘陵の上に築かれ。龜山城又は蓬萊城といへり。慶長年間生駒氏全國を領せる頃創築し。高松の支鎮とせしが。寛永十七年山崎家治五萬三千石を以て此城に封ぜられ。三世にして嗣嗣え。萬治元年京極高知之に代り。那珂郡の一部と多度三野豐田の三郡五萬石及播州網干の一萬石を領せり。今毀損すと雖も。聯隊區司令部を其内に置かれ。天主樓今に存して蒼松間に隱見す。舊郭内は僅に西部及南部に舊觀を存す。此地も今の米屋町を限り。其東は舊鶴足郡津野郷に屬し。以西は舊那珂郡津原郷に屬する一小村落なりしが。慶長二年生駒親正此所に開城して。宇多津の住民を移せし事あり。山崎家治入城以來商工の移り住むもの多く。遂に一都會となれり。明治四年丸龜縣廳を此所に置かれ。同年十一月廢せらる。支那寺は禪宗にして。京極家の菩提所なり。境内に民谷小太郎。俗に坊太郎の墓あり。法音寺は淨土宗にして。寺内に井上通子の墓あり。宗泉寺は法華宗にして。丸龜藩祖の墓あり。妙法寺は天台宗なり。蘇村管て此寺に寓せし事あり。其遺物多し。通常丸龜縣

村寺の名を以て知らる。此地より多度津へ一里一町高松へ七里八町。普通寺へ二里五町。琴平へ三里一八町。徳島へ二里一七町とす。物産は工産物四七萬圓を第一とし。扇子及團扇一六萬圓。漆。瓦。酒。醬。油。漁。獲。物。二。萬。圓。製。鹽。三。萬。圓。等あり。又輸出品一〇萬圓以上のものは扇子。團扇米にして輸入は肥料。石灰とす。マルク(丸郡) 【千葉】安房國舊朝夷郡の舊私稱。マルス(丸瀬) 【和歌山】紀伊國那賀郡の村合三三三。マルセヤマ(丸瀬山) 石見國邑智郡安藝國山縣郡に跨る山。マルノ(圓野) 【山梨】甲斐國北巨摩郡の村合三三三。マルノウチ(丸之内) 【東京】武蔵國東京市宮城の外東北なる一區。對瀨水を以て圍まれ。榎子橋。二ツ橋。神田橋。常盤橋。道三橋。龍之口。和田倉橋。大手門。平川門。竹橋を以て四方に通す。今。大手町。道三町。錢瓶町。元衛町。竹平町に分たる。文部省。内務省。大藏省。會計検査院。印刷局。專賣局。電話交換局等あり。東京市。麹町區をも見よ。マルシラ(丸柱) 【三重】伊賀國阿山郡の村。近江國信樂谷の山嶺にて。盛に陶器を製出す。伊賀焼又は丸柱焼と呼び。其製土疎にして堅く。軸青白にして斑なり。就中伽藍と稱する香盒は名器と稱せらる。又植山窯及アンドン焼といふものあり。

續業一症
【ミイカワ(見市川)】北海】渡島國志
郡に在る川、水源、冷水岳の北麓、南流し
て海に入る。

【山形】羽前國四村山郡
の村、合三三六。

【長崎】肥前國南松浦
郡の村、福江島(五島列島の内)の西北端
にして、一小澳を擁す。往時遺唐船の泊所
にして、美彌良久と呼べり。萬葉集に、自
肥前國松浦縣美彌良久時、發船直射對馬
と記し、其他風土記、續日本紀等に其名見
ゆ。蜻蛉日記に、「ありとだによそにても
見む名にし負は、吾にきかせよみら
くの島、郵便局あり、合三三六。

【熊本】肥後國鹿本郡、來
民町の大字、阿蘇文書に三牟田に作る。中
世御堂關白の後裔と稱する。御宇田氏の
居りし所とす。

【愛媛】伊豫國温泉郡の村、
四條街道川上郡の南に當り、白猪瀬唐崎
流あり、安國寺は大字則之内に在り、曆應
二年足利氏の祈願により、河野通盛の建
立にして、本尊藥師如來十二神將脇侍す。
大熊城址は大字則之内に在り。戒能伊賀
守通運之に據り、久萬山大除城主大野紀
伊守利直と合戦あり、合三三六。

【青森】陸奥國東津輕郡
の村、郡の西北端にして、龍飛岬の南東濱
に沿ふ。松前街道(青森より起る)の終點
なり。地味あり、津輕海峡中商館に亞ぐ最

好泊地といふ。此地は昔源義經が蝦夷に
渡りし時、馬を繋ぎしといふを以て名高
し。附近に義經寺といふ寺あり、合三三六。

【伊豫國北宇和郡】成
妙の村を見よ。

【長崎】肥前國東彼杵郡の
村、合三三六。

【廣島】備後國御調郡の
村、合三三六。

【愛媛】伊豫國北宇和郡の
村、宇和島の西南三里なる海岸に在り、郵
便局あり。其港は稍廣し、雖も僻地なれ
ば、假泊所に過ぎず。是より西に向ひ奇異
なる形状の半島地斗出、遊子、瀟瀟の二
村其上に在り、合三三六。

【大分】豐後國
四國東郡の村、合三三六。

【神奈川】相模國八
郡の一、四境北は鎌倉郡及武藏國久良岐
郡に接し、東南西の三面海に望む。東西
三里、南北六里、面積七方里二三、行政上、
浦賀、三崎の二町及浦郷、久里濱、衣笠、葉
山、山田、北下浦、南下浦、初瀬、武山中、西浦、
長井の一村に分ち、郡役所を横須賀市
に置く。合三三六。

【地勢】本郡は
武相の國界より南に斗出せる半島にして
て、東安房國と相對して、東京灣と相離
とを分つ。郡内山脈起伏して平地極めて
少なく、土地は凝灰岩及火山砂岩より成
り、多くは疎鬆にして耕作に適せず。唯海
岸は岬灣の出入極めて多く、到る所泊舟
地あり。其最も有名なるを横須賀、浦賀及
三崎とす。沿岸は亦漁獲物多く、日々東京
にて需用する魚類の一部は實に此地の

註し、養老河後、養老、養老、養老の五郡に
分ちり。明治二十九年北邊なる朝明郡を
廢し、本郡に合す。

【三重】東海道の西端に在り、
南海道の東端に跨り、近畿地方の東南部
を成す。西、四境北は滋賀縣、西は奈良
縣及京都府の一部、西南は和歌山縣、東
南は海、東、東經一三五度五〇分、一三六
度五九分、北緯三三度四五分、三五度一
五分、東西二七里二八町、南北四〇里二五
町、面積三六二方里二六、行政上、津、四日
市、宇治山田の三市及桑名、員辨、三重、鈴
鹿、河藝、安濃、一志、飯南、多氣、度會、以
上伊勢國、阿山、名賀(以上伊賀國)、志摩
(志摩國)、南半、北半、妻以上紀伊國)の一
五郡に分ち、縣廳を津市に置く、合三三六。

【地勢】西に山を以、其支脈分れて縣の
中部に於ける諸山となり、東方に赴くに
從ひ、次第に陵夷して平原となる。此平
原は伊勢海の西岸に沿ひ、南北に長く
延び、北端は尾濃平野に盡く。田園よく
開け、津桑名四日市等縣下主要の都邑
多く、此所に在り。河流は概ね東行して
伊勢海に注ぐ。伊賀は四境山嶽に圍ま
れたる一盆地にして、其水西走して京都
府に入る。地味農耕に適す。志摩は縣の
東南に斗出、海岸出入多く、島嶼亦多
し。漁業の利に富む。縣の西南、北半、妻郡
は所謂熊野山林の一部にして、其材に
富み、且つ漁利多し。水流は概ね南下し

て熊野浦に入る。山岳、山脈の主なるも
の四、養老山脈、鈴鹿山脈、笠置山脈、紀伊
山脈といふ。養老山脈は美濃國關ヶ原の
南に起り、縣の北隅より東南に走りて岐
阜縣界を成し、主として古生層より成り、
其最高所は萬山(一八〇〇尺)を起し、漸
く低下して町屋川の岸に盡く。鈴鹿山脈
は美濃の東、近江の南に起り、近江伊賀
大和伊勢の境に於て東北より西南に連
り、伊勢海、琵琶湖、大阪灣の分水界を成
し、其南端は紀伊山脈に連る。其主要なる
ものは伊勢、美濃、近江の交界に、三國嶽
(二五〇〇尺)高帽子岳(二九四七尺)あり。
其南に龍ヶ岳(三九〇一尺)鍋笠嶽(三三
〇〇尺)釋迦ヶ嶽(三六四七尺)千草嶽(二
五四八尺)御在所嶽(三八〇二尺)鎌ヶ嶽
(四一三八尺)仙ヶ岳(三六〇七尺)鶴足山
(三一〇五尺)等連り、近江の界を成し、是
より山勢漸く低下して、安樂嶽(二五九四
尺)を通じ、三見山(二二一〇尺)の西南麓
に鈴鹿嶽(二二二尺)あり。是即ち近世
東海道の要路を通ずる所なり。其西南に
は高島山、次で伊勢、近江伊賀の界なる
三國嶽(二六四〇尺)となり、加太嶽(一〇
四九尺)に下る。是れ上古東海道を通ずる
所なり。是より靈山寺山(二九〇一尺)錫
杖ヶ岳(二五三四尺)經ヶ岳(二八〇八尺)
を起し、山脈西南に向つて笠取山(二九
〇一尺)布引山(二七〇九尺)尼ヶ嶽(三二
九三尺)を起し、伊賀伊勢を劃し、是より
奈良縣界に移りて大洞山(三四七二尺)

能樂山(三三三〇尺)等の高山
となる。而して能樂山及三畝山より東
北に走る二支脈あり。就中三畝山の東に
は障子嶽(四二九〇尺)局嶽(三四四五尺)
の高山あり。此二支脈は雲出川、中村川、
櫛田川の分水嶺なり。笠置山脈は伊賀と
山城、近江の境を成し、最高も約二千尺
内外なり。飯道山(二四〇六尺)徑ヶ嶽
(二七〇九尺)高島山(二三三〇尺)等あ
り。紀伊山脈は大和の國境に池木屋山、白
倉山、國見山、大蓋ヶ原山(五五六一尺)の
高峯あり。池木屋山より山脈東北東に延
びて古ヶ丸山、大熊山等千乃至千三百尺
に隆起し、櫛田川宮川の間に互る。宮川
の南は山の趨勢一定せず。高も三三〇〇
尺を超ゆるものなく、率妻郡に于り泊山
(二八二五尺)藏光山(二七二三尺)一族山
(三二二五尺)妙見山(二五六七尺)大蛇峰
(二四七二尺)保色山(三二六〇尺)鳥越山
(三二二五尺)等ありて、伊勢紀伊の界に
桑ノ木嶽(二二九九尺)檜原嶽(二二四五
尺)高坂嶽(八七五尺)あり。檜原嶽の東北
は龍登山(二六四〇尺)總門山(二九七〇
尺)其東に富山(二六四〇尺)白岩峯(二八
三一尺)其南に東宮山(二九八〇尺)等を
起し終に志摩の境上に神路山(九九〇尺)
朝熊山(一九八〇尺)等あり。河流、伊勢の
河流は概ね西方なる鈴鹿山脈、若くは西
南なる紀伊山脈に發し、西南より東北に
流れて伊勢海に注ぐ。但し北部の水は概
ね西北より東南に向ふ。其主なるもの町

年分立す。合三三六。

【三重】伊勢國三重
郡の村、合三三六。

【秋田】羽後國平鹿郡
の村、合三三六。

【大分】豐後國西東郡
の村、合三三六。

【大分】豐後國大野郡
の村、合三三六。

【兵庫】但馬國城崎郡の村、和
名抄三三六。郡の一部にして、城崎川の東岸
に在り、丹後國に接す。久比神社は大字
下ノ宮に在り、延喜式の古社にして、垂仁
天皇の時鳥取郡の祖湯河坂が嶋を獲
し古蹟なりといふ、合三三六。

【長崎】肥前國南高來郡の村、
島原半島の東岸有明海に面す。龍造寺隆
信の戦死せる所なり。天正十二年隆信の
來侵を聞き、有馬純島原城を出で、森
嶽に陣す。島津家久兵を出して有馬氏を
援く。三月二十四日兩軍會戦、隆信有馬
島津の兩軍に夾撃せられ、退いて海岸を
保つ。有馬氏の將安留越中舟師を督して
銃丸を亂發す。薩摩の將川上左京隆信の
首を獲たり、合三三六。

【山梨】甲斐國中巨摩郡の村、
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

【伊勢國】在る内部川
合三三六。

南面す。上古久米若子(顯宗天皇の小子の號)坐せし所といひ、古歌許多あり。『はたすき久米の若子かいましける。三穂の石室は見れとあかひか』萬葉集。常磐なす石室は今もあられど住ける人ぞ常なかりける(同)。いにしへのみほの岩屋は苦むして、みれともあかすとこめつらなり(五社百首俊成)。按ずるに弘計主が、來目稚子と名を改め給ひ、其臣余那那使王が縮見石室にて死せしは播磨國の事とす。此を紀伊國にても斯く言傳へて詠めるにや、又皇子と此歌なる稚子は異人にや不審なり。白(五三三)ミオカワ(三尾川) 【和歌山】紀伊國東牟婁郡の村。古座川の一支源に沿ひ、西牟婁郡に接せる山村なり。今、ミトカワと詠る郵便局あり。白(五七七)

ミオケ(三桶) 【新潟】越後國刈羽郡上小國村の大字。古驛にして、見置にも作り、廻國雜記にも其名見ゆ。中魚沼郡より柏崎地方に出づる要路なり。

ミオサト(三尾里) 【滋賀】近江國高島郡安曇村の大字。字石橋に昔大力の女ありて、佐伯氏長相撲の節召されて、越前より上りし時苦しめられし事、古今著聞集に見ゆ。

ミオサキ(美保町) 【地蔵峠】を見よ。

ミオツシ(水尾衝石) 大阪市安治川口一ノ洲に在る浮標。和歌の名所なり。『みをつくし心盡して思ふかも、このまもるとな夢にしみゆる』讀人不知。『読めれ

は今はた同一難波なる、みをつくしてもあはんとそ思ふ(元良親王)。吹風にまかせることもみをつくし、まつとらすやさして來らん(壬生忠見)。

ミオノサキ(三尾崎) 近江國琵琶湖の西岸なる明神岬の古名。滋賀高島二郡の界にして、湖中に出づること一町二〇間。萬葉集に、おもひつゝ來れと來かれて水尾崎眞長の浦をまたかへり見つ。

ミオノセキ(美保關) 【島根】出雲國八東郡の村。松江市の東八里二五町。境港の東三津、地蔵島の内一津の海岸にして、古來有名の地なり。隱岐に渡るの要津にして、古は衛兵ありて往來を監視せるに、關の名あり。港は東西一五〇間。南北二三〇間。水深千四〇尺。港内廣からざれども、北海の航船風波を避けて寄泊するもの多し。但し陸路の便宜しからず、市街は東西七町、南北半町。郵便局警察分署あり。美保神社は市街の西北に在り。國幣中社にして、事代主命三津保姫命を祀る。歴朝の崇信深く、社殿亦壯麗なりしが、永祿年中尼子氏の兵燹に罹り、今尙舊觀に復するに至らず。水夫及商賈の尊信厚し。白(五三三)

ミオノマツバラ(三保松原) 駿河國安倍郡の東北偏より駿河灣に斗出せる一條の砂嘴。三保崎ともいふ。長約四〇町。幅一〇町より二〇町に及び、洲上老松森立し、恰も浮島の如し。古來有名の勝地にして、羽衣松、御禮神社等あり。洲上の人家

を三保村とす。清見湯磯山寺はくれそめて入日のこれる見穂の松原(風雅集。冬陸)。春風や三保の松原清見寺(鬼貫)。

ミオノヤ(三保谷) 【埼玉】武藏國比企郡の村。三保谷は舊郷名にして、今、八保村三保谷村に分れ、三保谷宿は八保村に屬す。古書に水尾ノ谷にも作る。源平戰爭の時悪七兵衛景清と勇を争ひし水尾谷四郎(二説十郎とす)の出でし所と傳へ、廣徳寺三保谷村大字表に在り。其墓といふものあり。白(五三三)

ミオモテ(三面) 【新潟】越後國岩船郡の村。羽前國と境を接せる山間に在り。村上町より十餘里の僻境に在り。道路は五里二〇町を距る岩崩より山徑となれども、交通は獨木船により三面川を上下す。山中の別天地なり。居民は農作、養蠶、狩獵を業とし、物産に生絲、麻、蕨、薪、獸皮、砂金等年額一千五百圓あり。小学校ありて生徒十六名を收容す。常食は粟黍飯にして、下民は粟干菜切米を混じたるカレー飯といふを食す。米飯を上等と稱す。古來決して他部落と結婚することなし。近年此地に來りて、血族結婚の結果を調査せるものありしが、急性傳染病、難産、結核、啞盲、目疳等を見す。唯他地方の者入來りて、毒を傳へ、一時流行を來せる事ありといふ。此村は平家壇ノ浦没落の翌年平頼盛の子池三位過盛が二名の從者と共、避難せるより起り、子孫性を小池と改め、代々大炊の助と稱せりと

ふ。一説約五七十年前秩父平氏の末孫、色部氏の同族が移住せるに始まるともいふ。享保年中始めて人の知る所となりしと稱すれども、文祿年中古文書を藏するものあれば、以前より小泉本庄に屬せしもの如し。戊辰の役に全村焼失すといふ。白(五九二)

ミオモテカワ(三面川) 越後國岩船郡に在る川。水源、朝日岳、高根川、門前川(相川)を合せ、西流して、瀬波町に至り海に入る。流程約一〇里。此川鮭漁甚だ盛なり。安永年中内藤氏の臣青砥武平次海口より上流四十町の間、河流を南北の二道に分ち、其中間に淺瀬を作り、魚の通路とし、南岸の水路を修めて、孵化場とし、大に繁殖に意を用ひしかば、逐年盛大となり、近年漁獲毎秋四萬貫目以上るといふ。

ミオヤ(御祖) 【石川】能登國鹿島郡の村。白(五三三)

ミオヤマ(一尺八寸山) 豐後國日田郡の北部に在る山。雙前山下毛郡に跨る。

ミオウ(美保町) 出雲國地蔵峠と伯耆國御來屋峠との間に在る一大澤。河口北東に開き、濶約九里。其灣頭を弓ヶ濱(又見ヶ濱)とす。内水深一七尋以下にして、濱に近く尙四、五尋あり。底は一般に泥にして、岸に近づくと従ひ泥沙となり、又沙となる。此灣は偏東風は避け難けれども、偏北より西を廻り偏南に至る風はよく避くるを得。此沿海の良泊地とす。錨地は灣の北岸美保關の岸より以

西約一里半の間、距離一里以内、水深六、七尋乃至十二尋の所を可とす。灣の好標目を伯耆の大山とす。但し九月以後は山嶺多くは雲に蔽はる。

ミカ(三箇) 【茨城】常陸國東茨城郡堅倉村の大字。

ミカイ(三階) 【石川】能登國鹿島郡高階村の地名。今、東、西二大字に分る。延喜式内の藤原比古神社あり。

ミカキ(三ヶ木) 【神奈川】相模國津久井郡の村。白(六六)

ミカキヤマ(三垣山) 大和國高市郡雷岡の邊に在る山。柿本人丸詠鳴鹿歌あり。

ミカグラタケ(御神樂岳) 越後國東蒲原郡と岩代國大沼郡との境に在る山。海拔四〇二三尺。南に羅々嶽、北に赤安山、東に風穴山に連り、山勢雄大。岩代の只見川、越後の常浪川の分水嶺を成す。土俗往々山中に神樂の音を聞く事ありと稱す。

ミカゲ(御影) 【兵庫】攝津國武庫郡菟原郡の町。灘郡風指の大字にして、酒造家多し。住吉村の西南五町に在り、海に瀕す。海濱は即ち御影濱なり。正平六年足利尊氏・高師直が官軍石堂州房に破られし地とす。世にあらば又歸りこむ津の國の御影の松よ面かはりすな(續古今集基俊)。北方の山間より盛に花崗岩を切出す。其産出の盛大なるを以て、花崗岩の一名を御影石といふに承れり。御影の名はもと住吉社背の嶺をいひ、住吉神の垂跡所にして、御笠山の如く、神廟の陰翳をなす

ものを用ひたり。今此名廣く郡中石村俊出の山嶺に及びし古意を失ふ。白(五三三)

●山梨 甲斐國中巨摩郡の村。白(三六)

ミカゲヤマ(御影山) 山城國に在る御生山の一名。

ミカサ(御笠) 【福岡】筑前國筑紫郡の村。太宰府町の南なる山村にして、龍門山の南麓とす。往古太宰府より豐前國田川津に出づる驛路に當り、今大字阿志岐は即ち古の芦城郡の地なりといふ。谿水集りて芦城川となる。實瀧川の上流とす。白(三三六)

ミカサカワ(御笠川) 筑前國筑紫郡に在る川。水源、太宰府町の北谷(龍門山)の西麓。西南流して、染川又は思川といふ。五十餘町にして北折し、博多の東に至り海に入る。下流比嘉川又は石堂川の稱あり。流程六里三二町。

ミカサケン(御笠郡) 【福岡】筑前國に在りし郡。北は糟屋郡及舊席田郡。西は舊那珂郡。東は舊種波郡。南は舊那珂郡。南は筑後肥前との境に接し、大野水城山口筑紫二日市。御笠太宰府山家の八村ありしが、明治二十九年廢して筑紫郡に入る。本郡は國の南偏に在りて、四通八達の要地を占むるを以て、往古太宰府を置き九州の政を統べ、外國の警備に當らしめたり。御笠は和名抄美加佐と註し、大野御笠長岡次田の四郷を載す。御笠の名は神功皇后櫛日宮より松峽宮に遷り給ひし時風起りて御笠を吹き落せしより、其

地を御笠と呼びしに因るといふ。

ミカサノモリ(御笠社) 筑前國筑紫郡大野村に屬する古蹟。雄略道九州線の中野の東北に當り、大道より二町程隔てたる所に在り。昔は大木茂りしよしなれども、今僅に其名を存するのみ。神功皇后羽白熊鷹を平げ給はんとて、香椎宮より松峽宮有智山上に在りに移り玉ふ道にて、御笠を風の爲に吹落されしに、其笠此森にかかりしより御笠社と名くと言傳ふ。大野なる御笠の森のゆふたすき、かけてもしるし袖の時雨は(新千載集)。

「おもはぬを思ふといは、大野なる、三笠の杜の神の知らさむ」萬葉集。

ミカサヤマ(三笠山) 【北海】石狩國空知郡の村。市來知、幾春別、幌内三村の合稱にして、有名なる幌内炭山の在る所なり。白(五六六)

ミカサヤマ(三笠山) 大和國に在る春日山の一名。

ミカサヤマ(御笠山) 筑前國に在る龍門山の一名。

ミカシマ(三ヶ島) 【埼玉】武藏國入間郡の村。大字三ヶ島は狭山の岡の陰に居る。觀應三年新田・足利二氏の合戦に新田義興が足利勢を破りし所と傳ふ。一小流に沿ひて梅樹數株あり。太平記に人々梅花を以て服に挿むとあるは即ち是なりといふ。白(五三三)

ミカシラヤマ(三頭山) 阿波國美馬郡重清村に在る山。高二八八〇尺。山中、銀葉

山、清瀧の三祠、松原、深、威の二殿寺址あり。往々土中より佛像、佛器を出す。

ミカシラ(三ヶ尻) 【埼玉】武藏國大里郡の村。村内に狭山とて、隱を伏せて尻を見るが如き丘あり、因て古書に隠尻に作り、後瓶尻と書せし事もあり。白(五三三)

ミカシラ(三ヶ尻) 【千葉】上總國山武(舊山邊郡)源村の大字。

ミカシラ(瓶尻) 【群馬】上野國の古戰場。武田三代記に、弘治元年武田信玄笛吹峠を打越て、上州發向なる。北武藏西上野の諸將相集二萬餘人、長野信濃守を大将にて出向、瓶尻に陣を取。四月九日甲軍瓶尻に押懸る云々とある地なり。關東古戦録に、武田信玄入道一萬三千餘騎にて出馬。西上州瓶尻表に亂入とあり、斯く名高き戰場なれども、其地今詳ならず。碓氷郡安中邊かとも、横野村邊かともいふ。横野村邊は曠野なり。

ミカシラヌマ(三ヶ尻沼) 下總國東葛飾郡福田村に在る沼。周圍二〇町。面積三〇町歩。餘流は中利根川に入る。

ミカタ(三方) 【兵庫】但馬國城崎郡の村。古の氣多郡三方。樂前二郷の混じたる地にして、郡の南端、山間に在り。隆國寺は大字荒川に在り。禪宗の巨刹にして、弘安三年開基といふ。又同所に延喜式神門神社あり。土俗山王といふ。觀音寺は大字觀音寺に在り。寛仁元年瀧泉僧都行長阿闍梨の建立といふ。鶴峯城址は觀音寺背に在り。山名四天王の一人垣屋氏の居城